94

警視廳
事務官 大塚 要校閲

加除自在 社會保險法規輯覽

社會保險法規出版社藏版

C2
542
01

14.7
841

（別紙）
（甲號）

内務省社會局御中

東京市日本橋區坂本町四十番地
富士瓦斯紡績株式會社

拜啓左記ニ付何分ノ御指示相仰度此段得貴意申候

記

一、内務省告示第百三十六號御制定ニ係ル被保險者臺帳ニ關シ備考第三號ニ依レハ女子被保險者カードハ淡青色ト爲スヘシトアルモ此ノ色彩ヲ罹線竝ニ紙緣ニ表シ他ノカードト一見識別シ易キ程度ニテ可然哉

理由

(イ) 色紙ハ薄キモノ（普通使用程度）ハ同質ノ白紙ト同値ニ得ヘキモ本目的ニ應スル厚サトセンニハ値開キ著シク高價ニ亘ルコト

(ロ) 目的ノ色彩紙ハ地方ニ於テ得ルコト困難ナリ

(ハ) 記錄ニ當リ使用スルインクハ概ネブリウブラツクナルヲ以テ明瞭ヲ缺クコト

二、健康保險法施行規則別表樣式第十一號組合原簿乙部ハ名簿トシテ連記式ナルモ之ヲ單記ノカード式ト爲スモ差支ナキ哉

理由

當社ニテハ一箇工場一組合組織トナスモ組合員數ハ少キモ壹千名多キハ四千乃至八千名ニ達スルモノアリ殊ニ其ノ主要員タル女工手ニ至リテハ出入年內ニ相當ノ數ニ及フヘケレハ連記式名簿ハ取扱上ノ實際ニ當リテ甚タ困難ナリ

以上法ノ精神ヲ失ハサル限リ實務ノ點ニ御考慮ヲ賜リ敏活明快ニ事務運行出來候樣前述通リ御裁定相願申上候次第ニ候

（乙號）

保發第二三一號
大正十五年十一月二十四日

社會局保險部

富士瓦斯紡績株式會社御中

被保險者臺帳及組合原簿乙部ニ關スル件

御申出ニ係ル女子被保險者ノ被保險者臺帳「カード」ノ用紙ヲ淡青色ト爲サスシテ劃線及紙緣ノミヲ淡青色ト爲スノ件竝組合原簿乙部ヲ「カード」式トナスノ件ハ孰モ事情已ムヲ得サル場合ニ限リ便宜取扱可然ト認メラレ候尙組合原簿乙部ヲ「カード」式ト爲ス場合ニ於テハ「カード」ノ整理方法ヲ組合員ノ閱覽ニ不便ヲ來ササル樣爲スコトニ御留意相成度

●組合事務所ノ標札揭示方ノ件

（昭和二年二月五日保發第九〇號社會局保險部長通牒）

健康保險組合（但シ保險部大阪出張所分掌區域內ノ組合ヲ除ク）宛

健康保險組合ニ對スル書類送達其ノ他ノ場合ニ於テ必要有之候條組合ノ事務所タルコトヲ表示シタル標札即チ「何健康保險組合事務所」又ハ「何健康保險組合事務所」ノ如ク記載シタル標札ヲ事務所タル建物ニ揭示シ置カレ度

●認可申請書ニ添附スヘキ組合會議錄寫ニ關スル件

（昭和二年二月五日保發第一〇二號社會局保險部長通牒）

健康保險組合宛

健康保險組合ニ於テ社會局長官ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ事項カ組合會ノ議決ヲ經タルモノナルトキハ健康保險法施行規則第二十五條第一項ノ規定ニ依リ組合會ノ會議錄寫ヲ添附スヘキ儀ニ有之候處該會議錄寫ニハ認可ヲ受クヘキ事項ニ付會議シタル議案ヲ添附セラレ度尙該會議錄寫ハ認可ヲ受クヘキ事項ノ議決ニ關スル部分ノミノ寫ニテモ差支無之ト被認候但シ開會ノ日時及場所、議員ノ定數、出席シタル議員ノ氏名（又ハ數）ハ記載ヲ省略セサル樣致サレ度

●組合員ノ權利義務ニ關スル規定ニ關スル件

（昭和二年三月九日保發第二二一號社會局保險部長通牒）

健康保險組合宛

組合ニ於テ組合員ノ權利義務ニ關スル規定ヲ定メ又ハ改廢シタルトキハ健康保險法施行規則第四十三條ノ規定ニ依リ社會局長官ニ報告セラルヘキ儀ニ有之候處右報告書ニハ規定ノ名稱又ハ件名ヲ記載スルノ外設定又ハ改廢ノ年月日及規定文ヲ記載セラレ度尙右ノ規定文ハ改正ノ報告ニ在リテハ改正シタル事項ノ分（改正前ノ分ト改正後ノ分）ノミヲ記載セラルヘキ儀ニ有之追テ組合員ノ權利義務ニ關スル規定ハ左ノ類ノ規定ヲ指ス儀ニ有之

記

保險給付ノ手續ニ關スル規定（健康保險法施行規則第六十七條ノ規定ニ依リテ定メタル規定又ハ右施行規則ノ規定ニ依ル手續ノ細則）

保險醫及保險藥劑師ノ指定ニ關スル規定

議員選擧ノ執行ニ關スル規定

議員ノ旅費額及其ノ支給方法ニ關スル規定

組合會會議規則

理事及理事長ノ選擧方法ニ關スル規定

理事ノ旅費額及其ノ支給方法ニ關スル規定

準備金ノ管理方法ニ關スル規定

被保險者ノ保健施設ニ關スル規定

帳簿及書類ノ保存ニ關スル規定

●健康保險組合カ支拂ヲ受クル利子ニ對スル資本利子稅ニ關スル件

（昭和二年三月十日保發第二四一號社會局保險部長通牒）

健康保險組合宛

健康保險組合ニ對シテハ所得稅法第十七條所得稅法施行規則第十二條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セサルモノニ有之候ニ付テハ組合カ支拂ヲ受クル利子ニ對シテハ資本利子稅ヲ課セラレサルモノニ有之爲念

●認可申請書ニ添附スヘキ組合會議錄寫ノ附屬書類タル議案ニ關スル件

（昭和二年四月十日保發第四〇七號社會局保險部長通牒）

健康保險組合宛

健康保險法施行規則第二十五條第一項ノ規定ニ依リ認可申請書ニ添附スヘキ組合會ノ會議錄寫ニハ認可ヲ受クヘキ事項ニ付會議ニ付シタル議案ヲ添附セラレ度旨昭和二年二月五日附保發第一〇二號ヲ以テ通牒致置候處右ノ議案トアルハ議案ノ寫ヲ指シタル義ニ有之又豫算又ハ規定ノ類ニ關スル認可申請ニシテ議案ノ內容ト認可申請事項ノ內容ト同一ナルモノ（卽チ組合會ニ於テ原案通リ可決セシモノ）ニ在リテハ之カ議案ノ寫ヲ會議錄ノ寫ニ添附セサルモ妨ケ無之

●組合ノ事務ニ關シ注意スヘキ事項ニ關スル件

（昭和二年五月四日保發第四八七號保險部長通牒）

健康保險組合（但シ保險部大阪出張所分掌區域內ノ組合ヲ除ク）宛

過般當局係員ヲシテ健康保險組合ヲ實地視察セシメ候處事務ノ處理其ノ他ニ關シ遺憾ノ點尠カラス候處畢竟事務擔當者カ關係法令等ノ研究不充分ナルニ由ルモノト認メラレ候ニ就テハ今後事務擔當者ヲシテ關係法令及組合規約ヲ充分研究セシメラレ度又組合ニ於テハ當局ヨリノ通牒ヲ嚴守シ以テ事務ノ處理及事業ノ執行ニ遺漏ナキヲ期セラレ度尙組合ヲ通シ一般的ニ不備ト認メラルル左記事項ニ付テハ特ニ注意相成度

記

一、組合ノ事務所ノ建物ニハ組合ノ事務所タルコトヲ表示スル標札（相當大サノモノ）ヲ見易キ箇所ニ必ス揭クルコト

二、組合ニ於テ爲ス公示ハ必ス規約ノ規定ニ從フコト

三、被保險者數合計簿ハ必ス之ヲ整理スルコト

四、被保險者カ勞務ノ對價トシテ事業主ヨリ受クル食事ノ供給ノ如キハ其ノ全部ノ供給ヲ受クルト又ハ一部ノ供給（例ヘハ事業主ニ於テ食費ノ一部ヲ徵スル場合ノ如シ）ヲ受クルトヲ問ハス健康保險ニ所謂報酬ナルヲ以テ報酬日額ハ必ス之ヲ加ヘテ算定スルコト

五、報酬日額算定ノ時期ニ關シ規約ニ別段ノ規定ヲ設ケサル組合ニ在リテハ健康保險法施行令第四條第一項ニ依ラサルヘカラサルコト

六、保險醫及保險藥劑師ヲ指定シタルトキハ直ニ公示シテ組合員ニ周知セシムルコト

七、保險給付ノ請求ニ關スル手續ニ付健康保險法施行規則第六十七條ノ規定ニ依ル別段ノ定ヲ爲サスシテ同規則第四十五條乃至第六十二條ノ規定ト異ナル手續ヲ執ルハ違法ナルコト尙同規則第六十七條ノ規定ニ依ル別段ノ定ヲ爲シタルトキハ同規則第四十三條ノ規定ニ依リ社會局長官ニ報告シ且組合員ニ周知セシムルコト

八、保險料ノ納付ニ付テハ規約ニ別段ノ規定ナキ組合ニ在リテハ健康保險法施行令第百條ノ規定ニ依リ毎月分（一日ヨリ月末迄ノ分）ヲ納付セシメ又規約ニ別段ノ規定アル組合ニ在リテハ其ノ規定ノ期間ノ分（前月何日ヨリ其ノ月何日迄ノ分）ヲ納付セシムヘキモノナルニ付斯カル組合ニ在リテハ是等ノ期間ト異ナル期間ノ分ヲ納付セシムルカ如キハ違法ナルコト

九、事業主ニ於テ議員ノ選定又ハ解任ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク文書ヲ以テ之ヲ理事ニ通知スヘキモノナルコトヲ事業主ニ注意スヘキコト

十、組合會ノ會議ハ互選議員ノ出席及組合員ノ傍聽ニ好都合ナル時刻ニ於テ之ヲ開クコト

十一、組合會ノ會議錄ニハ規約ニ規定セル事項ヲ記載スルハ勿論記載事項中議事ノ要領ハ議案ノ說明質問討議及採決ノ模樣等ニ付其ノ要點ヲ記載スルコト

十二、理事ノ職務ハ全理事合議ノ上之ヲ執行スヘキコト但シ輕易ナル事務ノ執行ハ之ヲ特定ノ理事ニ包括シテ委任スルコトヲ得ルモ此ノ場合ニ於テハ全理事カ合議ノ上特定ノ理事ニ包括シテ委任シタルコトヲ證スル文書ヲ作成シ置クコト

十三、組合ノ會計ト組合ノ設立アル事業ノ會計トハ嚴ニ之ヲ區別シ混同スルカ如キコトナカラシムルコト

十四、豫算ノ費目流用ハ健康保險法施行令第四十五條第二項又ハ第三項ノ規定ニ違反セサル樣注意スルコト

十五、豫備費ハ規約ニ規定セル費途以外ノ費途ニ之ヲ充ツルコトヲ得サルコト

十六、保險料ノ調定ニ當リ事業主ノ調製シタル保險料控除計算書ヲ其ノ儘利用スルカ如キハ不穩當ナルノミナラス其ノ算出複雜ニシテ且不正確ニ陷リ易キヲ以テ斯ノ如キ方法ニ依ラス組合ニ於テ別ニ正確簡易ナル方法（例ヘハ標準報酬等級別ノ被保險者延人員數ニ保險料日額ヲ乘シテ算出スル方法）ニ依リ保險料ノ納額ヲ算出スルコト

十七、收入支出ノ證憑書類ハ事項別ニ分チ番號ヲ附スル等ノ方法ニ依リ常ニ之ヲ整理シ置クコト

十八、議員ノ選擧執行ニ關スル規定、理事及理事長ノ選擧ニ關スル規定、理事、議員及事務員ノ旅費ニ關スル規定、書類及帳簿ノ保存ニ關スル規定等ヲ未タ定メサル組合ニ在リテハ速ニ之ヲ定ムルコト尙組合員ノ權利義務ニ關スル規定ヲ定メ又ハ改廢シタルトキハ社會局長官ニ對スル報告及組合員ニ對スル周知ハ遲滯ナク之ヲ取運フコト

●規約變更認可申請ニ關スル件

（昭和二年七月二十二日保發第六六六號社會局保險部長通牒）

健康保險組合宛

規約變更認可申請書ニハ組合會會議錄寫ノ外ニ變更セムトスル理由ヲ記載シタル書面ヲ添附セラレ度尙規約ノ變更ニシテ各選擧區ヨリ選擧スヘキ議員ノ數ヲ變更スルモノ又ハ新ニ選擧區ノ制度ヲ設クルモノナルトキハ右ノ書類ノ外ニ各選擧區ニ於ケル被保險者ノ所屬概數ヲ記載シタル書面ヲ添附相成度

●組合ノ書類編纂及文書保存ニ關スル件

（昭和二年八月二十七日保發第七二八號社會局保險部長通牒）

健康保險組合宛

組合ニ於ケル書類ノ編纂及文書ノ保存ハ事務整理上甚重要ナル事項ニ有之候ニ付右ハ左記ニ依ラルル方適當ト認メラレ候

記

第一　書類ノ編纂

一　書類ハ處分ヲ完結シタル後其ノ完結シタル年ノ分ヲ翌年ニ於テ遲滯ナク之ヲ編纂スルコト但シ會計ニ關スル書類ハ其ノ完結シタル年度ノ分ヲ翌年度ニ於テ遲滯ナク之ヲ編纂スルコト

二　書類ノ編纂ハ大體別記書類編纂書目ノ標準ニ依ルコト

三　一事件ニシテ二以上ノ書目ニ涉ル書類ハ其ノ主ナル書目ノ部ニ編纂スルコト

四　編纂シタル書類ニハ索引ヲ附スルコト（索引ノ樣式ノ例別記ノ如シ）

第二　文書ノ保存

一　文書（書類及帳簿ヲ謂フ以下之ニ倣フ）ノ保存ニ關スル規定ハ別記文書ノ保存ニ關スル規定例ヲ參酌シ規定スルコト

二　保存期間ニ入リタル文書ハ文書臺帳ニ之ヲ登載スルコト（文書臺帳ノ樣式ノ例別記ノ如シ）

三　編纂シタル書類ノ表紙及帳簿ノ表紙ニ保存期間及文書臺帳ニ登載シタル番號ヲ記載スルコト

書類編纂書目ノ標準

編纂書目	注意
組合設立	認可ノ申請及指令ニ關スル書類
規約	原本ノ外變更認可ノ申認及指令、公示等ニ關スル書類
組合諸規定	組合ニ於テ定メタル規定、組合會ニ於テ定メタル會議規則、是等ノ規定ノ報告及公示等ニ關スル書類
例規通牒	通牒等ノ中例規ト爲ルヘキ書類
議員選定	選定又ハ解任ノ通知等ニ關スル書類
議員選舉	選舉執行公示、立會人ノ選任、選舉錄、當選告知等ニ關スル書類
議員就退職	就職及退職ノ公示、屆出等ニ關スル書類
組合會	招集、議案、決議書、表決委任、理事專決等ニ關スル書類
組合會會議錄	
理事選舉	選舉執行、當選告知等ニ關スル書類
理事長選舉	選舉執行、當選告知等ニ關スル書類
理事就退職	就職及退職ノ公示、屆出等ニ關スル書類
理事長就退職	就職及退職ノ公示、屆出等ニ關スル書類
職員身分進退	組合ノ事務員ノ進退等ニ關スル書類
收入支出豫算	原本ノ外認可ノ申請及指令等ニ關スル書類
收入支出決算	原本ノ外屆出等ニ關スル書類
保險料及其ノ他徵收金	調定、徵收等ニ關スル書類
收支證憑書	
豫算經理	一時借入金限度認可ノ申請及指令、費目流用、豫備費先當其ノ他豫算ノ經理ニ關スル書類
準備金	積立、使用、管理等ニ關スル書類
組合債	認可ノ申請及指令、借入、償還等ニ關スル書類
組合合併	認可ノ申請及指令、事務引繼等ニ關スル書類

組合分割	認可ノ申請及指令、事務引繼等ニ關スル書類
組合ノ設立ア ル事業ノ增減	認可ノ申請及指令、事務引繼等ニ關スル書類
被保險者資格取得	被保險者資格取得屆、被保險者ト爲リタルモノノ從前ノ經歷ニ關スル照會及回答等ニ關スル書類
被保險者資格喪失	被保險者資格喪失屆等ニ關スル書類
被保險者證	被保險者證ノ交付、返納、記號番號ノ通知（被保險者證ノ記號ヲ標準報酬決定ノ通知ニ併セテ爲シタルモノハ「被保險者標準報酬決定」ノ書目ニ編纂スルコト）等ニ關スル書類
被保險者標準報酬決定	屆出、決定通知等ニ關スル書類
任意繼續被保險者	健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タラムトスル申請等ニ關スル書類
事業主屆出	健康保險法施行規則第十一條、第十七條第一項、第十八條乃至第二十條ノ屆出等ニ關スル書類
被保險者屆出	健康保險法施行規則第二條、第十二條、第十七條第二項及第第二十一條ノ屆出等ニ關スル書類
醫療機關	被保險者ノ診療ニ關スル醫師會及齒科醫師會トノ契約、保險醫及保險藥劑師ノ指定等ニ關スル書類
療養給付	診療報告、病院收容、看護、移送、保險醫變更等ノ申請及承認等ニ關スル書類
療養費	申請及承認、屆出、決定等ニ關スル書類
傷病手當金	請求及決定等ニ關スル書類
埋葬料及埋葬費	請求及決定等ニ關スル書類
分娩費	請求及決定等ニ關スル書類
產院收容及助產手當	請求及決定等ニ關スル書類
出產手當金	請本及決定等ニ關スル書類

台本

保險料率	設立當初ノ保險料率及其ノ計算基礎ヲ記載シタル書面、保險料率變更認可ノ申請及指定等ニ關スル書類
被保險者保健施設	
事業報告類	原本ノ外兩示、屆出、報告等ニ關スル書類
健康保險審查會、訴願及訴訟	健康保險審查會ニ對スル答辯書、同會ノ決定書副本、訴願又ハ訴訟ノ提起等ニ關スル書類
雜件	以上ノ書目ニ屬セサル書類

備考

一　右分類ノ書目ハ之ヲ適宜分合シ例ヘハ雜件ノ如キハ之ヲ「庶務雜件」、「事業雜件」、「會計雜件」ノ如ク各別ニ編纂スルコトヲ得ヘク又前記ノ「議員選定」、「議員選舉」及「議員就退職」ノ書目ハ之ヲ「議員」ノ書目トシ、「理事選舉」、「理事長選舉」、「理事就退職」及「理事長就退職」ノ書目ハ之ヲ「理事及理事長」ノ書目トスルカ如ク合シテ編纂スルコトヲ得ヘシ

二　右分類（雜件以外）ニ該當サル書類ニシテ重要ナル書類ハ雜件ニ編纂シタル書類ノ索引ノ樣式例

索引

保健番號	主要關係者	件名	文書番號	處分完結年月日
一	社會局長官	何々報告	第何號	昭和何年何月何日
二	何某	何々ノ件	第何號	昭和何年何月何日

備考

「文書番號」欄ニ組合ニ於テ文書ヲ收受又ハ發送シタル際ニ附シタル番號ヲ記載スルコト

健康保險組合ノ文書ノ保存ニ關スル規定

例何健康保險組合文書保存規程

第一條　本組合ノ文書ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ保存ス但シ第三種ニ屬スル文書ニシテ輕易ナルモノハ理事ノ定ムル所ニ依リ保

存期間ヲ一年ト爲スコトヲ得

第一種　永年
第二種　十年
第三種　三年

前項ノ文書ノ種別ハ別表ニ依ル

第二條　一事件ノ文書ニシテ前條第一項ノ種別ノ二以上ニ渉ルモノハ保存期間ノ長キ種別ニ屬ス

第三條　保存期間ハ書類ノ處分ノ完結又ハ帳簿ノ使用ヲ終リタル年（會計ニ關スルモノハ年度）ノ翌年（會計ニ關スルモノハ翌年度）ヨリ之ヲ起算ス

第四條　保存期間滿了シタル文書ト雖仍繼續シテ保存スルノ必要アルモノハ理事ニ於テ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ之ヲ保存ス

（別表）

第一種

組合ノ設立ニ關スル書類
規約
組合ニ於テ定メタル規定
監督官廳ノ通牒等ニシテ例規ト爲ルヘキモノ
事業報告書
收入支出豫算
收入支出決算
財產目錄
組合會會議錄
保險料率ニ關スル書類
組合ノ合併ニ關スル書類
組合ノ分割ニ關スル書類
組合ノ設立アル事業ノ編入及削除ニ關スル書類
其ノ他理事ニ於テ永年保存ノ必要アリト認メタル書類及帳簿

第二種

醫療機關ニ關スル書類
保險給付ノ決定及執行ニ關スル書類
被保險者ノ保健施設ニ關スル書類
議入簿
歲出簿
現金出納簿
其ノ他會計ニ關スル帳簿
保險料及其ノ他ノ徵收金ノ調定ニ關スル書類
滯目流用、一時借入金其ノ他豫算ノ經理ニ關スル書類
收入支出ノ證憑ニ關スル書類
訴願及訴訟ニ關スル書類
健康保險審查會ニ關スル書類

其ノ他理事ニ於テ十年間保存ノ必要アリト認メタル書類及帳簿

第三種

第一種及第二種ニ屬セサル書類及帳簿

文書臺帳ノ樣式例

第一種ノ部

番號	簿冊名	冊數	摘要
一	何臺帳	一	
二	昭和何年何々	一	

第二種（第三種）ノ部

番號	簿冊名	冊數	保存期間	摘要
一	昭和何年何簿	二	自昭和何年至昭和來年	
二	昭和何年度何簿	一	自昭和何年至昭和何年	
三	市々	一	自昭和何年至昭和何年	

備考

第一種、第二種、第三種ノ別ニ依リ口座ヲ分チ又ハ別冊ト爲スコト

●診療組織整備ニ關スル件

（昭和二年十二月十六日保發第一〇五三號社會局保險部長通牒）

健康保險組合（但シ保險部大阪出張所分掌區域內ノ組合ヲ除ク）宛

健康保險組合ノ診療組織ニ關シテハ之カ完璧ヲ期スル爲曩ニ其ノ整備標準ヲ定メ及送付置候處右ニ關シ組合ノ診療所ニシテ其ノ內容甚タ不完全ナルモノ有之斯クテハ健康保險ノ趣旨ニ反スルノミナラス被保險者ノ診療上支障ヲ來スノ虞有之ニ付組合又ハ工場及事業場附屬診療所ヲ主トシテ利用スル場合ニ於ケル其ノ整備標準別紙ノ通リ相定メ候條之ニ依リ整備相成度

（別紙）

健康保險ノ被保險者診療ニ關スル健康保險組合ニ於ケル診療機關（病醫院）ノ標準

一、位置、構造及設備

1. 診療所（病醫院）ノ位置ハ各被保險者カ利用シ得ヘキ適當ナル距離ニ在ルコト
1. 建物ハ成ル可ク患者控室、診療室（診療處置室）、處置室、手術室（處置手術室）、調劑室等ヲ區別スルコト
3. 診療上入院ヲ必要トスル患者ヲ收容セムトスルモノハ適當數ノ病室ヲ設クルコト

4. 診療所（病室ヲ含ム）ハ採光、換氣、暖房ニ關スル適當ナル設備ヲナスコト

5. 診療所ニ於ケル診療用ノ機械器具其ノ他ノ設備ハ當該診療所ニ於テ主體トスル診療科目ニツキテハ其ノ地方ノ開業醫師カ有スル普通一般ノ程度以上トスルコト
內科ヲ主體トスル場合ニ在リテハ外科ノ設備ハ外傷ニ對スル應急ノ處置ヲ爲シ得ル程度以上ノコト
內外科以外ノ科目ニ就キテハ比較的多數ノ患者アル傷病ニ對シ診療上支障ナキ程度ノ設備ヲ爲スコト

6. 患者ヲ收容スル病室面積（床押入ヲ除キ）ハ各患者ニ對シ相當ノ廣サヲ有スヘキコト

二、診療所（病醫院）ノ管理

1. 診療所ニハ晝間必ス適當數ノ醫師及看護婦ヲ在勤セシムルコト

2. 患者ヲ病室ニ收容スル診療所ニハ夜間當直醫師及看護婦ヲ在勤セシムルコト

3. 前各項ノ場合ニ於テ看護婦ヲ在勤セシムルコト能ハサル事情アル地方ニ於ケル診療所ニ在リテハ之ニ代ルヘキ適當ナル者ヲ在勤セシムルコト

三、診療所以外ノ診療組織

1. 健康保險組合ニシテ其ノ被保險者ノ診療ヲ爲スニ適當ナル附屬ノ診療機關ヲ有セス又ハ工場若ハ事業場附屬ノ診療機關ヲ利用シ得サル場合ニ在リテハ被保險者ノ數及其ノ地域的分布狀態等ヲ參酌シ被保險者ノ利便ト相當數ノ醫師ニ就キ撰擇シ得ルノ自由ヲ與フル樣診療組織ヲナスコト

2. 一、二、ニ據ル診療組織ヲ有スルモノト雖其ノ診療所ノ設備ニテ診療シ能ハサル程度ノ傷病者アリタル場合ニ之ヲ適當ニ診療シ得ル樣豫メ手配ヲ講シ置クコト

●行政區劃變更等ノ場合ニ於ケル規約變更ニ關スル件

（昭和三年一月二十六日保發第五號社會局保險部長通牒）

健康保險組合宛

市町村ノ廢置分合、境界變更、大字名改稱、地番變更其ノ他行政區劃ノ變更アリタルカ爲組合ノ規約ニ規定スル組合事務所ノ所在地又ハ事業ノ所在地若ハ健康保險法第三十三條ノ規定ニ依リ一事業ト看做シタル作業ノ所在地ニ變更アリタル場合ニ於テハ規約中右ノ事項ハ當然變更セラレタルモノトシ特ニ規約變更ノ認可ヲ受クルノ必要無之故ニ右ノ事實アリタルトキハ理事ニ於テ遲滯ナク規約中關係事項ヲ更訂シ其ノ更訂シタル事項及理由ヲ社會局長官ニ屆出相成度依命及通牒候也

●行政區劃ノ變更等ニ伴ヒ規約ノ記載更訂ノ場合ニ於ケル公示ニ關スル件

（昭和三年三月十五日保發第一五三號社會局保險部長通牒）

健康保險組合宛

市町村ノ廢置分合、境界ノ變更、大字名改稱、地番變更其ノ他行政區劃ノ變更アリタルニ伴ヒ規約ニ規定スル組合事務所ノ所在地又ハ事業ノ所在地若ハ健康保險法第三十三條ノ規定ニ依リ一事業ト看做シタル作業ノ所在地ニ變更アリタル場合ニ於テハ規約中右ノ事項ヲ更訂シタルトキハ卽チ規約ノ變更アリタルモノナルヲ以テ理事ハ健康保險法施行令第十六條後段ノ規定ニ依リ遲滯ナク公示スヘキモノニ有之爲念

●健康保險組合ノ療養給付ニ關スル診療組織ノ件

（昭和三年三月十九日保發第一六四號社會局保險部長通牒）

市町村ノ廢置分合、境界ノ變更、大字名改稱、地番變更其ノ他ノ事情アル地方ニ於ケル公示ニ關シテハ從來ノ例ニ依リ取扱ハレ度候ニ付テハ誤解ノ向モ有之ト思料セラレ候條左記御了知相成度候也

記

一、健康保險組合ニ於ケル醫療給付ハ醫師會ト契約シテ之ヲ行フヲ固ヨリ差支無之

二、組合直屬又ハ工場、事業場附屬ノ醫療機關（齒科診療ヲ含ム）ノ設備アル向ハ專ラ其ノ設備ニ依リ醫療給付ヲ爲シ又ハ此等ノ設備ナキ組合ニ於テ豫メ醫師、齒科醫師中ニ付保險醫ヲ囑託シ醫療給付ヲ爲スモ差支無之

三、右ノ場合ニ於テ此等ノ設備ヲ利用シ得サル被保險者ニ對シテハ保險醫ニ非サル醫師又ハ齒科醫師ノ診療ヲ受ケシメ療養費ヲ支給スルノ方法ヲ採ルモ差支無之

追テ一、保險醫ヲ囑託スル場合ノ報酬ハ診療ノ一件毎ニ又ハ月手當、或ハ年手當何程ト定ムルモ差支無之

二、囑託醫ヲ依賴スル場合ニ於テ都市區醫師會等ノ名ニ於テ保險醫タルヘカラスト醫師ヲ强制スルカ如キモノアルニ於テハ之明カニ昭和二年八月二十二日日本醫師會長伺出同九月三日衞生局長回答（別紙寫參照）ノ道府縣醫師會及郡市區醫師會ノ決議ニ關スル件ニ該當シ不正ノモノト認メラルルモノナリ

台本

建康保險組合宛

曩ニ本件ニ關シ通牒致置候處其ノ整備標準ニ就テハ誤解ノ向モ有之ト思料セラレ候條左記御了知相成度候也

記

一、健康保險組合ニ於ケル醫療給付ハ醫師會ト契約シテ之ヲ行フヲ固ヨリ差支無之

二、組合直屬又ハ工場、事業場附屬ノ醫療機關（齒科診療ヲ含ム）ノ設備アル向ハ專ラ其ノ設備ニ依リ醫療給付ヲ爲シ又ハ此等ノ設備ナキ組合ニ於テ豫メ醫師、齒科醫師中ニ付保險醫ヲ囑託シ醫療給付ヲ爲スモ差支無之

三、右ノ場合ニ於テ此等ノ設備ヲ利用シ得サル被保險者ニ對シテハ保險醫ニ非サル醫師又ハ齒科醫師ノ診療ヲ受ケシメ療養費ヲ支給スルノ方法ヲ採ルモ差支無之

追テ一、保險醫ヲ囑託スル場合ノ報酬ハ診療ノ一件毎ニ又ハ月手當、或ハ年手當何程ト定ムルモ差支無之

二、囑託醫ヲ依賴スル場合ニ於テ都市區醫師會等ノ名ニ於テ保險醫タルヘカラスト醫師ヲ强制スルカ如キモノアルニ於テハ之明カニ昭和二年八月二十二日日本醫師會長伺出同九月三日衞生局長回答（別紙寫參照）ノ道府縣醫師會及郡市區醫師會ノ決議ニ關スル件ニ該當シ不正ノモノト認メラルルモノナリ

（參照）

（別紙）

日醫發第二四五號
昭和二年八月二十二日

日本醫師會長

內務省衛生局長殿

道府縣醫師會及郡市區醫師會ノ決議ニ關スル件

郡市區醫師會ノ會員タル開業醫師カ日本醫師會健康保險規程ノ定ムル所ニ依リ健康保險醫トシテ被保險者ノ診療ヲ擔當スルト否トハ全然本人ノ自由ニ屬シ假令決議ノ形式ヲ以テスルト雖モ現行法規上之ヲ强制スヘカラサル儀ト被信候ニモ不拘往々道府縣醫師會又ハ郡市區醫師會ニ於テ此ノ間ノ義理ヲ無視シ或ハ連袂辭退或ハ診療中止等ノ決議ニ出ツル者有之右ノ如キ決議ハ凡ソ醫師會ノ會員タルモノハ健康保險醫タルヘキ旨ノ決議ヲ爲シ得サルト同樣不法ノ決議ニシテ當然地方長官ヨリ取消命令ヲ發シ得ヘキ場合ニ該當スルモノト思料被致候カ貴局ノ御意見拜承致度此段及伺候也

衛醫第一〇四四號
昭和二年九月三日

日本醫師會長

內務省衛生局長殿

道府縣醫師會及郡市區醫師會ノ決議ニ關スル件

八月二十二日醫發第二四五號ヲ以テ本件御伺出相成候處道府縣醫師會又ハ郡市區醫師會ニ於テ郡市區醫師會ノ會員タル醫師ヲ健康保險ノ保險醫タルヘカラスト强制スル趣旨ノ決議ヲ爲スハ不法ニシテ從テ其ノ決議ハ地方長官ニ於テ之ヲ取消シ得ヘキ儀ト存候此段及回答候也

●健康保險組合ノ療養給付ニ關スル診療組織ノ件

（昭和三年四月十八日
保發第一六四號社會局保險部長通牒）

健康保險組合宛

標記ノ件ニ關シ客月十九日附保發第一六四號ヲ以テ及通牒置候處該通牒左記二ノ後段ニ於テ「此等ノ設備ナキ組合ニ於テ診メ醫師、齒科醫師中ニ付保險醫ヲ囑託シ醫療給付ヲ爲スモ差支無之」トアルニ依リ組合中往々ニシテ工場、事業場附屬ノ醫療機關ナキノ故ヲ以テ少數範圍ノ醫師ヲ囑託スルモ可ナリト解スル向モ有之趣ナルモ右通牒ハ組合ニ於ケル診療組織方法ヲ示シ且其ノ執レヲ採用スルカ組合ノ任意ナル旨ヲ示シタルモノニシテ一般ノ醫師又ハ齒科醫師トノ協調ヲ保チ得ルニモ不拘殊更診療ノ組織ヲ狹キ範圍ニ制限セントスルノ趣旨ニ非ス健康保險組合ニ於ケル診療組織ニ關シテハ客年十二月整備標準ヲ示シタル如ク被保險者ノ分布利便等ヲ參酌シ組合ノ財政上支障ヲ來ササル限リ可及的廣キ範圍ニ亙リ之ヲ整備セサルヘカラサルハ勿論ノ義ニ有之候條爲念及通知候

●組合員ノ權利義務ニ關スル規定報告方ノ件

（昭和三年十一月三十日
保發第七六八號社會局保險部長通牒）

健康保險組合宛

組合員ノ權利義務ニ關スル規定ニ付テハ昭和二年三月九日附保發第二二一號ヲ以テ通牒致置候處該報告ニハ爾今左記事項ヲ具セラレ度

記

報告書ノ具備事項

一、制定ノ場合又ハ全文改正ノ場合ニ在リテハ左ノ事項ヲ記載シタル書類二通ヲ別紙トシテ添附スルコト

イ　規定ノ名稱又ハ件名

ロ　制定又ハ改正年月日

ハ　規定文

二、一部改正ノ場合ニ在リテハ左ノ事項ヲ報告書ニ記載スルコト

イ　規定ノ名稱又ハ件名

ロ　改正年月日

ハ　改正前後ノ條項

尙改正條項多キトキハ別ニ改正後ノ全文ヲモ添附スルコト

三、廢止ノ場合ニ在リテハ左ノ事項ヲ報告書ニ記載スルコト

イ　規定ノ名稱又ハ件名

ロ　廢止年月日

●規約ニ基ク規定ノ制定方ニ關スル件

（昭和十三年十一月三十日
保發第七六九號社會局保險部長通牒）

健康保險組合（但シ保險部大阪出張所分掌區域內ノ組合ヲ除ク）宛

規約ニ基キ制定ヲ要スル左記規定ニシテ未タ制定ヲ爲ササル向往々有之ハ遺憾ニ付至急制定相成候樣致度

記

帳簿及書類ノ保存ニ關スル規定（規約例第六條參照）

組合會會議規則（規約例第二十條參照）

議員ノ旅費額及其ノ支給方法ニ關スル規定（規約例第三十一條

參照）

理事及理事長ノ選舉方法ニ關スル規定（規約例第三十五條參照）

理事ノ旅費額及其ノ支給方法ニ關スル規定（規約例第三十七條參照）

●健康保險組合臺帳整理方ノ件

（昭和四年十一月五日保發第七三一號社會局保險部長通牒）

健康保險署長宛

大正十五年十月內務省令第四十九號ニ依リ備置カルル健康保險組合臺帳（健康保險事務取扱規程樣式第五號）ノ記載事項中ニ異動アリタル場合ニハ夫々訂正シ整理ヲ期セラレツツアルコト存セラレ候ヘ共本臺帳ノ記載ハ法人ノ登記ニ代ルヘキ重要ナルモノナルヲ以テ之カ整理ニ關シテハ左記事項注意相成度爲念

記

一、本臺帳ハ貴署管內ニ從タル事務所ノミヲ有スル組合ニ付テハ之ヲ記載スルコト

二、「事務所所在地」欄ニハ主タル事務所及從タル事務所ノ全部（所在地カ貴署ノ管內タルト管外タルトヲ問ハス）ヲ記載スルコト

三、事務所一箇所ノミノ健康保險組合ニ在リテハ「事務所所在地」欄中ノ「主タル事務所」及「從タル事務所」ノ文字ヲ抹消シ欄內適宜ノ箇所ニ事務所所在地ヲ記載スルコト

四、「組合ノ設立ア ル事業ノ名稱及所在地 欄ニハ健康保險法第三十三條ノ規定ニ依リ內務大臣ニ於テ一事業ト看做シタル作業ノ場所ヲモ記載スルコト

五、健康保險組合ノ名稱、事務所ノ所在地竝組合ノ設立ア ル事業ノ名稱及所在地ノ變更ハ其ノ都度官報ヲ以テ告示セラルヘキニ付官報ノ登載事項ニ注意シ之カ告示アリタル場合ハ遲滯ナク臺帳ノ記載ヲ更訂スルコト健康保險法第三十三條ノ規定ニ依リ內務大臣ニ於テ一事務ト看做シタル作業ノ場所ノ變更ニ付テモ亦同シ

六、健康保險組合ノ設立モ官報ヲ以テ告示セラルヘキニ付官報ノ登載事項ニ注意シ之カ告示アリタル場合ハ遲滯ナク臺帳ニ記載スルコト健康保險組合ノ解散、分割及合併ニ付テモ亦同シ

七、組合ヨリ理事長ノ就職屆、退職屆又ハ死亡屆ノ提出ヲ受ケタルトキハ「理事長」欄ノ氏名及就職年月日又ハ退職年月日ヲ直ニ記載スルコト（昭和三年七月二十五日附保發第五五七號通牒參照）但シ貴署管內ニ從タル事務所ノミヲ有スル健康保險組合ニ付テハ貴署ニ於テ理事長ノ就職屆、退職屆又ハ死亡屆ノ提出ヲ受ケタルトキハ「理事長」欄ノ住所ハ貴署ニ於テ當該健康保險組合ニ直接照會シ回答ヲ得テ記載スルコト（昭和二年一月十五日附保發第三九號通牒及昭和三年七月二十五日附保發第五五七號通牒參照）從テ理事長ノ住所ノ變更ニ付テハ其ノ都度組合ヨリ通知ヲ受クル樣豫メ打合セ置ク方可然

（註「健康保險事務取扱規程樣式第五號」ハ「昭和六年二月二十七日內務省訓第二四一號健康保險事務取扱規程樣式第一號」ト同一ナリ）

●健康保險組合ノ從タル事務所ニ關スル件

（昭和五年九月十七日保發第四三號社會局保險部長通牒）

健康保險組合理事長宛

健康保險組合ノ從タル事務所ニ於ケル事務處理ノ狀況ハ從來甚タ區々ニシテ適正ヲ缺クモノ尠カラス依テ今後從タル事務所ニ於ケル事務ノ執行ニ關シテハ左記ニ依リ取扱ハレ度

追テ現ニ從タル事務所ヲ有スルモノニシテ其ノ內容本通牒ノ趣旨ニ反スルモノハ直チニ改ムル樣御措置相成度若シ已ムヲ得サル事由ノ爲直チニ改ムルコト困難ナル組合ニ在リテハ至急其ノ事由及實施ノ見込期日ヲ報告シ當局ノ指示ヲ受ケラレ度

記

一、從タル事務所ニハ必ス其ノ事務所ヲ擔當スヘキ理事一人以上ヲ配置スルコト

二、他ノ理事ハ豫メ前項ノ理事ニ對シ其ノ事務所ニ關スル事務ノ專決ヲ概括的ニ委任スルコト但シ其ノ事務ハ左ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得サルコト

(一)被保險者ノ資格得喪ニ關スル事項

(二)被保險者ノ標準報酬ニ關スル事項

(三)被保險者證ニ關スル事項

(四)保險給付ノ支給決定ニ關スル事項

(五)收入及支出ニ關スル事項

(六)保健施設ニ關スル事項

(七)其ノ他定例ニ屬スル事項又ハ輕易ナル事項

三、前項ニ依ル委任ノ事實及範圍ハ文書ヲ以テ之ヲ明瞭ニ爲シ置クコト

四、收入又ハ支出ノ決定ニ關スル事務ノ專決ヲ委任シタルトキハ豫メ必要ナル豫算（豫備費ヲ除ク）ヲ配付シ必ス其ノ豫算ニ基キ經理セシムルコト

五、現金ノ出納ニ關スル事務ノ專決ヲ委任シタルトキハ必要ナ

ル資金ヲ保有セシメ支拂上支障來タサシメサルコト

六、從タル事務所ニハ左ノ帳簿及書類ヲ備ヘシムルコト

(一)(二)(三) 組合員ノ權利義務ニ關スル規定
其ノ事務所ニ關係アル診療契約書(寫)
保險給付ノ支給決定ニ關スル事務ノ專決ヲ委任シタルトキハ其ノ事務所ニ關係アル被保險者臺帳

(四) 收入又ハ支出ノ決定ニ關スル事務ノ專決ヲ委任シタルトキハ歲入簿又ハ歲出簿ト同樣式ノ補助簿

(五) 現金出納ニ關スル事務ノ專決ヲ委任シタルトキハ現金出納簿

(六) 健康保險法施行令第四十二條ニ依リ組合事務所ニ備フヘキ組合規約、財產目錄、事業報告、組合原簿、組合會會議錄(寫)

七、從タル事務所ヨリ主タル事務所ニ對シ定期ニ報告ヲ要スル事項ニ付テハ豫メ其ノ內容及報告期日(收入及支出ニ付テハ每週一回以上)ヲ定メ置クコト

八、從タル事務所ニ於テ處理シタル事務ノ關係書類ハ總テ其ノ事務所ニ於テ保存セシムルコト

九、第二項ニ依リ從タル事務所ノ事務ヲ擔當スヘキ理事ニ對シ他ノ理事ヨリ其ノ事務所ニ關スル事務ノ專決ヲ委任シタルトキハ其ノ事務ノ範圍ヲ社會局長官ニ報告スルコト其ノ範圍ヲ變更シタルトキ亦同シ

●健康保險組合カ直接使用ノ目的ヲ以テ取得シタル不動產登錄稅ニ關スル件

(昭和六年十二月二十八日 藏發第二九六七號大藏次官回答)

發保第四三號
昭和六年九月十七日

社會局長官

大藏次官殿

健康保險法ノ規定ニ依リ設立セラレタル健康保險組合カ直接使用ノ目的ヲ以テ取得シタル不動產ニ關スル登記ハ登錄稅法第十九條第三號ニ該當スルモノト解セラレ候ヘ共一應御意見承知致度此段及照會候也

追テ大正十四年十二月二十三日附藏稅第二八三二號ヲ以テ健康保險組合ハ所得稅法施行規則第十二條第一號ニ該當スルモノトノ御回答ニ接シタル次第モ有之候條申添候

藏稅第二九六七號
昭和六年十二月二十八日

大藏次官　黑田英雄

社會局長官　丹羽七郎殿

●行整區劃變更等ノ場合ニ於ケル健康保險組合ノ事務所々在地等變更ニ關スル件

(昭和七年十一月五日 保發第八二八號社會局保險部長通牒)

廳府縣長官(東京府ヲ除ク)宛

市町村ノ廢置分合、境界變更、大字名改稱地番變更其ノ他行政區劃ノ變更アリタル爲健康保險組合ノ事務所々在地又ハ事業ノ所在地等ニ變更アリタル場合ハ從來官報ニ登載シ告示致居候處之ヲ廢シ當該組合ヨリ社會局長官ニ提出スヘキ屆書ヲ爾今貴廳ヲ經由セシムルコトニ通牒致置候條該屆書經由ノ際ニ於テ健康保險組合臺帳ヲ整理相成度尙貴廳管內ニ從タル事務所ノミヲ有スル健康保險組合ニ付テハ貴廳ニ於テ斯ル屆書ノ提出ヲ受クルコトナキヲ以テ其ノ都度當局ヨリ通知可致ニ付同樣御措置相成度此段及通牒候也

健康保險組合カ直接使用ノ目的ヲ以テ取得シタル不動產登錄稅ニ關スル件

九月十七日附發保第四三號ヲ以テ御照會相成候首題ノ件右ハ登錄稅法第十九條第三號ニ該當セサルモノト存シ候此段及回答候也

追而貴廳ヲ經由セスシテ旣ニ當局ニ提出アリタル前段屆書ノ本年十月一日以降ノ分ニ付テハ當局ヨリ通知可致ニ付爲念申添候

●健康保險組合ノ地方稅免除ニ關スル件

(昭和八年一月十八日 保發第二六號社會局保險部長通牒)

健康保險組合理事長宛

標記ノ件ニ關シ昭和七年七月六日附保發第五一九號ヲ以テ內務省地方局長ニ對シ別紙甲號ノ通照會致置候處同局長ヨリ別紙乙號ノ通回答有之候條此段及通知候也

甲　號

保發第五一九號
昭和七年七月六日

內務省地方局長殿

社會局保險部長

健康保險組合ノ地方稅免除ニ關スル件

健康保險組合ノ所有ニ係リ且直接其ノ用ニ供セラルル土地、家屋及其ノ他ノ物件竝ニ之等ノモノノ取得行爲ニ對シテハ地方稅ハ賦課セラレザルモノト被認候ヘ共一應貴局ノ御意見承知致度

此段及照會候也

乙　號

地局第八五號

昭和七年十二月二十八日

内務省地方局長

社會局保險部長殿

健康保險組合ノ地方稅免除ニ關スル件回答

本年七月六日保發第五一九號御照會標記ノ件家屋及物件ニ對スル課稅ニ付テハ御見込ノ通ト存スルモ土地及取得行爲ニ對シテハ之カ課稅ヲ禁止シタルモノト解シ難ク被存候

●健康保險組合ノ設立ア ル事務所屬ノ工場又ハ事業場カ新設等ノ爲增加シタル場合等ノ措置ニ關スル件

（昭和八年五月二十五日保發第三五九號社會局保險部長通牒）

健康保險組合理事長宛

健康保險組合ノ設立アル事業所屬ノ工場又ハ事業場カ新設買收等ノ爲增加シタル場合等ニ於テ往々其ノ被保險者ノ所屬保險者ニ關シ錯誤ヲ來シ爲ニ事務上煩瑣ヲ生シタル事例アルヲ以テ爾今篤ト御留意ノ上左ノ通御取扱方勵行セラレ度

一、事業全體ノ上ニ組合ノ設立アル場合ニ於テ新ニ增加シタル工場又ハ事業場ニ屬スル被保險者ヲ其ノ總組合ニ所屬セシムルハ格別ノ手續ヲ要セサルモ之ヲ政府管掌ニ屬セシメトスルトキハ規約變更ノ手續ヲ取ルヲ要ス（卽チ組合既設ノ事業ヲ特ニ一事業ト看做サルルコトヲ要ス）

二、規約ニ依リ一事業ト看做サレタルモノノ上ニ組合ノ設立アル場合ニ於テ同一企業ノ下ニ增加シタル工場又ハ事業場ニ屬スル被保險者ヲ其ノ總政府管掌ニ屬セシムルハ格別ノ手續ヲ要セサルモ之ヲ組合ニ所屬セシメムトスルトキハ事業編入ニ關スル規約變更ノ手續ヲ要ス

三、前各號何レノ場合ニ於テモ政府、組合何レニ屬セシメムトスルヤヲ明カニスル爲當該組合（第二號前段ノ場合ハ事業主ヨリ）別記事項ヲ增加セル工場等ノ所在地方廳經由ノ上豫メ當局ニ御報告相成度尙規約變更ノ手續中ノモノニ在リテハ其ノ旨附記セラレ度

記

一、工場又ハ事業場ノ名稱及所在地

二、新設買收等ノ豫定年月日

三、常時使用スル豫定人員

四、所屬被保險者ヲ政府管掌トスルヤ組合管掌トスルヤノ別

台本

第三項　保險事故

●診療方針ニ關スル件

（昭和三年十二月四日發保第九二號社會局保險部長通牒）

健康保險署長宛

健康保險法ニ基ク診療ニ關シ本年三月社會局長官ト日本醫師會長トノ間ニ締結セラレタル契約書第十五條ノ診療方針今回別紙ノ通相定メ候條了知相成度尙健康保險ノ保險事故タル疾病ノ範圍ニ關シテハ右方針第九及第十ニ記載スルモノノ中從來ト解釋ヲ異ニセルモノモ有之候得共爾今本方針ニ據リ取扱フヘキ儀ト承知相成度依命及通牒候

追テ右方針ヲ各保險醫ニ周知方ニ關シテハ本日社會局長官ヨリ日本醫師會長ニ申進致置候爲念

診療方針

保險醫ノ診療ハ必要ノ範圍竝ニ限度ニ於テ之ヲ行フヘク經濟的ニシテ而モ最モ適切ナルモノタルヲ要ス

第一、診斷上行フ各種ノ檢査

化學的定性檢査及顯微鏡的檢査ハ必要ニ應シテ行フモ細菌學的、血淸學的、化學的定量又ハ「レントゲン」檢査ハ診斷上特ニ必要アリト認ムル場合ニ於テノミ之ヲ行フコト

第二、往診

緊急ノ場合及重症ノ患者ニシテ必要アリト認ムル場合竝ニ患部ノ關係上必要アリト認ムル場合ハ往診ヲ爲スコト

第三、投藥

投藥ハ必要ノ程度ニ於テ之ヲ爲スコト

イ　內科的疾患ニ對スル投藥ハ慢性病タルト急性病タルトニ拘ラス必要ノ程度ニ於テ之ヲ爲シ一劑ヲ以テ足ルト認メラルル場合ニ數劑ヲ投與セサルト共ニ數劑ヲ必要ト認メラルル場合ニ一劑ニ之ノ制限セサルコト

ロ　內科的疾患以外ニ對スル內服藥ハ特ニ必要アリト認ムル場合ニ限リ投與スルコト

ハ　點眼藥ノ投與ハ特ニ必要アリト認ムル場合ノ外一病一種トスルコト

第四、注射

イ　注射ハ特ニ必要アリト認ムル場合ニ之ヲ行フコト皮下注射ヲ以テ足ル場合ハ靜脈注射ヲ行ハサルコト

ロ　黴毒ノ診斷確定シ「サルバルサン」ノ注射ヲ必要トスル場合ニハ特別ノ事由ナキ限リ普通一週一回ヲ標準トシテ用フルコト

第五、手術及處置

イ　外科的處置若ハ繃帶交換ハ必要ノ程度ニ止ムルコト

台本

ロ　小外傷ハ通常ノ場合ニ於テハ外用藥ノミ又ハ單ニ患部處置ノミヲ爲シ特ニ必要アリト認ムル場合ヲ除キテハ「マツサージ」其ノ他ノ理學的療法ヲ行ハサルコト

ハ　蓄膿症、鼻中隔灣曲症、肥厚性鼻炎、扁桃線肥大及子宮內膜炎ニ對スル手術ハ特ニ必要アリト認ムル場合ニ限リ之ヲ行フコト

ニ　洗眼及淋疾ニ對スル尿道洗滌ハ普通一日一回ヲ標準トスルコト

第六、理學的療法

理學的療法ハ特ニ必要アリト認ムル場合ニ之ヲ行フコト

第七、特殊療法

醫學上一般ニ其ノ價値ヲ認メラレサル特殊療法ハ之ヲ行ハサルコト

第八、視力檢查

疾病ノ診斷上行フ眼屈折檢查及視野檢查ハ保險給付ノ範圍內ナルモ單ニ眼鏡ヲ選定スル目的ヲ以テ爲ス視力檢查ハ之ヲ保險給付ノ範圍外トスルコト

第九、左記ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲ササルコト

一、雀斑、母斑、黑子、黑斑、面皰

二、近視眼、老視眼、遠視眼、斜視、亂視、先天性兎眼、色盲

三、白毛、多毛、無毛

四、吃音、難聽、酒皶鼻

五、多汗症、無汗症、異汗症、毛蝨、皮脂漏

六、不姙症、膣閉鎖症、子宮屈傾、子宮頸管狹窄症、子宮發育障害

七、就業上著シキ障害ヲ起ササル程度ノ善性腫瘍及鷄眼

八、先天性畸形

九、外科手術後ノ形態整形手術、隆鼻術、美容ヲ目的トスル瘢痕除去整形手術、文身除去手術其ノ他ノ美容手術

十、單ナル肩凝及腰痛

十一、老衰、陰萎

第十、左記ニ對シテハ醫師ニ於テ診斷ノ結果疾病ト認ムル程度ノモノニ對シテノミ療養ノ給付ヲ爲スヘキコト

一、貧血、常習性便祕、夜尿症

二、偏平足

三、包莖

四、火傷ニ因ル瘢痕痛及後天性兎眼

五、禿頭病、腋臭、顏面白癬、粉瘤、瘰癧、疣贅

六、月經不順、月經困難、無月經

七、惡阻、不完全流產及早產、前置胎盤、過強陣痛、陣痛微弱

第十一、入院

保險者ニ於テ被保險者ヲ病院ニ收容シテ療養ヲ爲スノ必要アリト認メタル場合ニハ之ヲ入院セシムルコト（健康保險法第四十三條同施行規則第五十六條ノ二參照）

●保險事故タル疾病ノ範圍ニ關スル件

（昭和四年二月二十七日保理第三六五號社會局保險部長回答）

岡山健康保險署長宛

四給第一九七號

昭和四年一月二十九日

岡山健康保險署長　岡崎讓

社會局保險部長　山口安憲殿

療養給付ノ範圍ニ關スル件

本縣醫師會保險部ヨリ左記寫ノ通標記ノ件ニ付照會有之候ニ就テハ曩ニ御通牒相成候診療方針中記載無之ヲ以テ給付ノ範圍ニ屬スヘキモノトモ解セラレ候ヘトモ聊疑義相生候條折返何分ノ御回示相仰度

左記

岡醫健發第三一號

昭和四年一月二十六日

岡山縣醫師會健康保險部

岡山健被保險署御中

拜啓左記ノ件ニ付キ疑義相生候ニ付キ乍御手數御教示被下度此段御依賴申上候

左記

一、不眠症（頓服一包ノミニテ全治スルカ如キ）ハ健康保險醫療給付ノ範圍內ニ屬スヘキモノニテ候哉

二、手足ノ「ヒビ」ハ療養ノ範圍內ニ屬スヘク候哉

三、社會局ヨリ先般御發表ニ相成候診療方針第九ニ於テ「黑斑ナル病名有之候カ右ハ如何ナル意味致シ居リ候哉

四、同上第九ニ於テ「面皰」ハ療養ノ給付ヲナササル旨明記有之候カ「痤瘡」ハ療養ノ範圍內ニ屬スヘク候哉

保理第三六五號

昭和四年二月二十七日

岡山健康保險署長殿

社會局保險部長

保險事故タル疾病ノ範圍ニ關スル件

昭和四年一月二十九日附四給第一九七號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件左記ノ通ニ有之

記

伺出ノ一、二及四ハ普通ノ場合ニ於テハ疾病ノ範圍ニ屬セサルモノトス伺出ノ三ハ黒痣ノコトナリ

●療養ノ範圍ニ關スル件

（昭和四年九月二十日　保規第六七號社會局保險部長回答）

沖縄縣知事宛

四沖給發第四五九號
昭和四年七月十七日

沖縄健康保險署長　久田友英

社會局保險部大阪出張所長事務取扱事務官小泉梧郎殿

療養ノ範圍ニ關スル件請訓

左記疾病ハ健康保險ノ療養ノ範圍ニ屬スルモノナリヤ否ニ關シ疑義有之候條至急何分ノ御回示相成度此段及請訓候

記

一、龜頭扁平贅肉

保規第六七號
昭和四年九月二十日

社會局保險長

沖縄縣知事殿

●流産ニ對スル療養給付ニ關スル件

（昭和四年十月二十五日　保規第一〇六號社會局保險部長回答）

日本醫師會健康保險部長宛

日醫庶發第一二九號
昭和四年十月十一日

日本醫師會健康保險部長　北島多一

社會局保險部長石原雅二郎殿

流産ニ對スル療養給付ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ別紙寫ノ通リ京都府醫師會ヨリ照會有之候ニ付テハ，聊カ疑義相生シ候條左記各項ニ就キ御所見相伺度此段得貴意候也

記

一、姙娠四箇月未滿ノ流産ノ場合ニ於テ出血多量ノタメ之カ診療ヲ爲シタル場合其ノ診療ハ療養ノ給付ノ範圍內ナリヤ

別紙

二、姙娠四箇月以上ノ早産ノ場合ニ於テ出血多量ノタメ之ヲ診療シタルトキハ其ノ診療ハ療養ノ給付ノ範圍內ナリヤ

三、姙娠中出血多量ノタメ之ヲ診療シタルトキハ其ノ診療ハ療養ノ給付ノ範圍內ナリヤ

別紙寫

京保庶第三一五號
昭和四年八月二十三日

京都府醫師會健康保險部長　中辻丹治

日本醫師會健康保險部長　北島多一殿

流産ニ對シ療養給付ニ關スル件

姙娠四箇月未滿若クハ姙娠四箇月以上ノ場合ニ於テ他ニ流産ヲ來スヘキ傷病存セサルモ出血多量ノタメ診療ヲ爲シタルトキハ其ノ報酬ハ被保險者ニ自辨セシムヘキモノカ又ハ療養給付ノ範圍內ニ屬スルモノカ聊疑義有之候間御指示ニ預リ度

保規第一〇六號
昭和四年十月二十五日

社會局保險部長

日本醫師會健康保險部長殿

流産ニ對スル療養給付ニ關スル件

昭和四年十月十一日附日醫庶發第一二九號ヲ以テ照會相成候標記ノ件右ハ左記ノ通ニ有之

記

一、出血多量ニシテ醫師ニ於テ疾病ト認ムル程度ノモノトセハ療養ノ給付ノ範圍內トス

二、一號同斷

三、一號同斷

●保險事故タル疾病ノ範圍ニ關スル件

（昭和五年六月十七日　保規第三三三號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官及健康保險組合理事長（但シ東京府德島縣兩知事ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ付德島縣知事ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）

（甲號）

五健給甲第五四六號
昭和五年五月二十九日

德島縣知事

社會局保險部長殿

保險事故タル疾病ノ範圍ニ關スル件

左記疾病ハ昭和三年十二月四日發保第九二號ノ二ヲ以テ御通牒相成候診療方針ニ關スル件ノ第十ニ該當スルモノト思料致候得共咽カ疑義有之候條至急何分ノ御回示相成度此段伺上候也

記

一、汗孔角化症
二、角性壞疽
三、毛孔性角化症
四、以上ノ外總テノ角化症

（乙號）

保規第三三三號
昭和五年六月十三日

社會局保險部長

德島縣知事殿

保險事故タル疾病ノ範圍ニ關スル件

昭和五年五月二十九日附五健給甲第五四六號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ診療方針第十ノ例ニ依リ取扱相成可然

●腋臭ニ對スル保險給付ニ關スル件

（昭和五年九月五日保規第四四五號社會局保險部長回答）

和歌山縣知事

健給第一六七二號
昭和五年八月一日

和歌山縣知事　友部泉藏

社會局保險部長　石原雅二郎殿

腋臭ニ關シテハ保險醫ニ於テ疾病ト認メタルモノハ保險給付ヲナスヘキ旨ノ診療方針ニ按シ候處當地保險醫ヨリ疾病ト認ムヘキ腋臭トハ如何ナル程度ナリヤ具體的症狀ヲ承リタキ旨伺出候ニ付テハ何分ノ御指示相煩度及伺候也

追テ當地保險醫ノ意見ニ依レハ腋臭ハ休業ノ要モ又分泌物ノ爲ニ皮膚ヲ侵サルル事モナク疾病ト認ムル能ハサルモ診療方針ニ從ヘハ保險給付ヲ爲シ得ル腋臭アリ其ノ給付ヲ爲シ得ル程度ハ臭氣ノ爲他人ノ就業ニ差支ヲ生スルカ如キモノカ或ハ他ニ標準トナルヘキモノアラハ其ノ標準承知致度旨申出タルモノニ有之爲念申添候

保規第四四五號

昭和五年九月五日

社會局保險部長

和歌山縣知事殿

腋臭ニ對スル保險給付ニ關スル件

昭和五年八月一日附健給第一六七二號ヲ以テ照會相成候標記ノ件右ハ各個々ノ場合ニ付醫師ノ認定ニ俟ツノ外ナシト被認候モ尚例示ノ如ク惡臭甚シク他人ノ就業ニ支障ヲ生スル事實明カニシテ醫療ヲ加フヘキ客觀的必要アルカ如キ場合ハ保險給付相成可然ト存候

●保險事故タル疾病ノ範圍ニ關スル件

（昭和五年十二月二十六日保規第五五四號社會局保險部長回答）

富山縣知事

健第九五六六號
昭和五年十一月十九日

富山縣知事　山中恒三

社會局保險部長　石原雅二郎殿

保險事故タル疾病ノ範圍ニ關スル件

左記ノ疾病ニテ區域外保險醫ニ診療方申請有之候處右ハ先天性ノモノトモ被存從テ保險事故タル疾病ノ範圍ニ屬セサルモノト解セラレ候ヘ共曩ニ御通牒相成候診療方針中ニ記載無之卿カ疑義相生シ候條折返シ何分ノ御指示相仰度候

記

海綿樣及單純性血管腫

保規第五五四號
昭和五年十二月二十六日

社會局保險部長

富山縣知事殿

保險事故タル療養ノ範圍ニ關スル件

昭和五年十一月十九日附健第九五六六號ヲ以テ照會相成候標記ノ件右ハ醫師ニ於テ疾病ト認ムル程度ノモノトセハ健康保險ノ保險事故タル疾病ノ範圍ニ屬スルモノニ有之

●齒科診療方針ニ關スル件

（昭和六年十一月四日發保第五四號社會局保險部長通牒）

改正　昭和八年九月發保第七〇號

縣府縣長官（東京府ヲ除ク）宛

政府管掌被保險者ニ對スル齒科診療方針今回日本齒科醫師會ト協議ノ上別紙ノ通相定メ候ニ付テハ爾今右ニ依リ御取扱相成度

依命及通牒候也

追テ左記事項ニ付テハ診療方針中ニ之ヲ定メス日本齒科醫師會ニ於テ其ノ趣旨ヲ實現セシムルコトニ關シ特ニ配慮致スコトニ相成居候條御了知被下度併セテ申添候

記

被保險者ノ訴ヘタル患部以外ノ診療ハ特ニ必要ナル場合ノ外之ヲ爲ササルコト

（別紙）

齒科診療方針

保險齒科醫ノ診療ハ必要ノ範圍竝ニ限度ニ於テ之ヲ行フヘク經濟的ニシテ而モ最モ適切ナルモノタルヲ要ス

第一、投藥

イ　投藥ハ特ニ必要アル場合ノ外之ヲ爲ササルコト

ロ　含嗽藥及罨法藥ハ特別ノ場合ノ外一日分二百「グラム」ヲ標準トシ一回ニ二日分ヲ越エテ投與セサルコト

ハ　拔齒後ノ場合ニ於ケル含嗽藥及罨法藥ノ投與ハ特別ノ場合ノ外四百「グラム」ヲ限度トスルコト

第二、注射

拔齒ノ際以外ノ注射ハ特ニ必要アリト認ムル場合ノ外之ヲ爲ササルコト

第三、手術及處置

イ　手術、處置若ハ綳帶交換ハ必要ノ程度ニ止ムルコト

ロ、齒槽膿漏ノ手術ハ一顎二回ヲ後處置ハ七回ヲ標準トスルコト

第四、治療、充塡

イ　齲齒ノ治療ニ於テ齒髓ノ處置ヲ爲ササルモノハ三回ヲ限度トスルコト

ロ　齒齦炎、口內炎、舌炎ノ治療ハ五回ヲ標準トスルコト

ハ　「ゴム」充塡ニ於テハ「グツタベルカ」ヲ使用スルコト

ニ　齒冠回復又ハ保存ノ見込ナキ齒牙ニ對シテハ充塡ヲ爲ササルコト

第五、補綴

イ　補綴及補綴ノ修理ハ齒牙ノ喪失又ハ齒冠ノ破壞カ業務上ノ事由ニ因ル場合ノ外咀嚼能率カ五〇%以下ニ低下シタリト認メラレタル場合ニ限リ之ヲ行フコト、五〇%以下トハ上下顎ヲ通シ齒牙（智齒ヲ除ク）ノ喪失又ハ齒冠ノ破壞（充塡ニ依リ齒冠回復シ難キ程度）カ七箇以上ニ及ヒタルモノヲ謂フ

ロ　智齒ノ補綴ハ之ヲ行ハサルコト

ハ　臼齒金冠ハ治療ノ結果充塡ニ依リ齒冠回復ノ見込ナキモノニシテ而モ其ノ裝著ニ依リテ始メテ五〇%以上ニ咀嚼能率ヲ回復シ得ル場合ニ限リ裝著スルコト

台本

ニ　陶齒冠繼續亦「ハ」ニ同シ

ホ　補綴ハ拔齒創ノ治癒シタル後ニ非サレハ之ヲ爲ササルコト

ヘ　義齒ハ一顎一床ヲ原則トスルコト

ト　鉤ハ一床二鉤ヲ原則トスルコト但シ智齒ニ鉤ヲ要スル場合ハ成ルヘク「ゴム」ヲ使用スルコト

チ　材料ハ左記ヲ標準トスルコト

1. 「ゴム」床義齒ニ於ケル陶齒ハ「アロイピン」附程度以上ノモノタルコト

2. 陶齒冠繼續ニ於テハ全陶齒冠ヲ使用スルコト但シ咬合ノ關係上前裝陶齒又ハ有釘陶齒ヲ使用シ得ルコト

3. 鉤ハウヰプラヲ使用スルコト但シ止ムヲ得ス金鉤ヲ使用スル場合ハ金位十八K以上ノモノヲ使用スルコト

4. 金冠ハ金位二十K以上厚徑三十番以上ノモノヲ使用スルコト

リ　補綴ヲ必要トスル場合口腔ノ狀態ニヨリ喪失若ハ破壞ニ因リ補綴ヲ要スルニ至リタル齒數ト同數ノ義齒ヲ裝著シ又ハ金冠ヲ爲スコト困難ナル場ハ技術上爲シ得ヘキ限度ニ於テ其ノ數ヲ減シテ之ヲ爲スコトヲ得ルコト

ヌ　補綴ノ保障期間滿了後咀嚼能率五〇%以下ニ低下シ再ヒ補綴ヲ爲シ又ハ修理ヲ加フル場合ハ成ルヘク左記ニ據ルコト

1. 使用ニ堪ユル鉤及陶齒ハ之ヲ再使用スルコト

2. 義齒ノ破損、不適合及陶齒ノ脫落等ニ對シテハ成ルヘク其ノ部分ノミノ修理ニ依リ目的ヲ達セシムル樣取計フコト

第六、特殊療法

醫學上一般ニ其ノ價値ヲ認メラレサル新藥（注射藥ヲ含ム）ノ使用其ノ他ノ特殊療法ハ之ヲ行ハサルコト

第七、左記診療ハ之ヲ爲ササルコト

イ　患齒ニ非サル過剩齒轉位齒ノ拔去（著シキ障害アルモノヲ除ク）

ロ　膿漏齒治療後ノ固定裝置

ハ　單ナル齒石除去

ニ　齒列矯正

附記（削除）

台本

●保險事故タル疾病ノ範圍ニ關スル件

（昭和七年一月三十日保規第四五號社會局保險部長回答）

大辻炭礦健康保險組合理事長宛

七發第六號
昭和七年一月十五日
大辻炭礦健康保險組合理事長　中村勝鹿
社會局保險部長殿

保險事故タル疾病ノ範圍ニ關スル件

女子ノ膣脫ノ如キハ健康保險ニ所謂疾病ノ範圍ニ屬セサルモノト認メラレ候モ聊疑義相生候條何分ノ御指示相仰度此段及御伺候也

保規第四五號
昭和七年一月三十日
社會局保險部長
大辻炭礦健康保險組合理事長殿

保險事故タル疾病ノ範圍ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ本月十五日附七發第六號ヲ以テ伺出相成候處左記ノ通ニ有之

記

一、疾病ノ範圍ニ屬スルモノトス

●腸チブス病原體保有者ト保險給付ニ關スル件

（昭和七年五月十四日　保規第一六二號社會局保險部長回答）
神奈川縣醫師會健康保險部長宛

神醫健發第四七七號
昭和七年五月五日
神奈川縣醫師會健康保險部長　石川弘哲
社會局保險部長山本理一殿

拜啓左記ノ件ニ付聊カ疑義相生シ候ニ付御示教相仰度此段及照會候也

腸チフス病原體保有者ト保險給付

傳染病豫防法施行規則第九條ニヨリ病原體消失シタルモノニシテ相當時日經過ノ後再ヒ菌ヲ證明（所謂保菌者）シタル場合ト雖何等臨床上室扶斯ノ症狀ヲ認メサルトキハ保險給付ノ限ニアラスト信スルモ爲念御伺申候

保規第一六二號
昭和七年五月十四日
社會局保險部長
神奈川縣醫師會健康保險部長殿

腸チフス病原體保有者ト保險給付ニ關スル件

吉本

昭和七年五月五日附神醫健發第四七七號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件ハ貴見ノ通ニ有之

●眼球震盪症ニ對スル保險給付ニ關スル件

（昭和八年五月十八日　保規第七〇號社會局保險部長回答）
福岡縣知事宛

保險給第一二〇五號
昭和二月二十八日
福岡縣知事
社會局保險部長

眼球震盪症ニ對スル保險給付ニ關スル件

昨秋被保險者ノ眼球震盪症檢査ヲ實施候結果一般ノ關心スル處トナリ之ニ對スル保險給付ヲ請求スルモノ相生シ候處右疾病ニ對シテハ現代醫學上轉業ノ外治療ノ方途ナキモノトセラレ居候次第ニ付之ニ對シ療養給付スルモ單ニ濫療トナルノミナラス療養給付ヲ爲ストセハ療養ノ爲勞務不能期間ニ對シ傷病手當金モ自然支給スルノ已ムナキニ至ルヘキヲ以テ右ハ健康保險ノ保險事故タル疾病ノ範圍ニ屬セサルモノトシテ取扱フヲ妥當ト思料セラレ候モ聊カ疑義有之候條何分ノ儀御回示相成度此段及伺候也

保規第七〇號
昭和八年五月十八日
福岡縣知事殿
社會局保險部長

眼球震盪症ニ對スル保險給付ニ關スル件

昭和八年二月二十八日附保險給第一二〇五號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件右ハ健康保險ノ保險事故タル疾病ノ範圍ニ屬スルモノニ有之

追テ眼球震盪症ハ轉業セサル限リ醫學上治療ノ方途ナキモノニ付テハ療養ノ給付ハ之ヲ爲スヲ要セサルモ眼球震盪症ニ因ル勞務不能期間ニ對シテハ傷病手當金ヲ支給相成可然

吉本

第四項　保険給付

第一目　傷病ニ關スル給付

第一節　療養ノ給付

●保険醫選定ノ承認ニ關スル件

（昭和二年一月十九日保理第八號社會局保険部長通牒）

健康保険署長（但シ宮崎健康保険署長ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ付宮崎健康保険署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ乙號ノ通回答致置候

（別紙）

（甲號）

宮崎健庶發第一三二號

昭和元年十二月三十日

宮崎健康保険署長

社會局保険部長殿

健康保険法施行令第七十七條ノ疑義ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ左記ノ通疑義有之候條至急何分ノ御指令相成度此段伺出候也

記

昭和元年十二月二十八日内務省令第一號政府ノ管掌スル健康保険ノ被保険者カ療養ノ給付ヲ受クルコトヲ得ヘキ醫師及齒科醫師竝藥劑師ニ關スル件

第三條「被保険者所轄健康保険署長ノ承認ヲ受ケ云々」トアルハ被保険者各自ニ事故發生ノ都度承認ヲ必要トスルヤ又ハ其工場ニ於ケル被保険者全部ヨリ豫メ承認ヲ受ケ置クモ差支ヘナキヤ

（乙號）

保理第八號

昭和二年一月十九日

社會局保険部長

宮崎健康保険署長宛

保険醫選定ノ承認ニ關スル件

舊臘三十日附宮崎庶發第一三二號ヲ以テ伺出ニ係ル昭和元年十二月内務省令第一號第三條ノ規定ニ依ル承認ノ件ハ被保険者ニ於テ承認ヲ受クル必要アル場合（假令ハ遠隔ノ地ニ旅行スル場合ノ如シ）ニ於テ其ノ都度承認ヲ與フルヲ本旨トスルモ被保険者カ右省令第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタル保険醫ヲ選定スルヨリモ寧ロ是等以外ノ保険醫ヲ選定スルヲ甚好都合トスル特殊ノ場合ニ於テハ被保険者ノ申請ニ基キ豫メ一般的

ニ承認ヲ與フルモ妨ケナキ儀ト被認候
追テ本件ハ健康保險法施行令第七十七條ノ事項トハ全然別問題ニ有之

●業務上ノ事由ニ因ル傷病ト然ラサル傷病トノ療養日數ニ關スル件

（昭和二年一月二十七日　牧保第三七號社會局保險部長通牒）

健康保險署長健康保險組合宛

標記ノ件ニ付日本醫師會長ヨリ照會ニ係ル別紙甲號ニ對シ乙號ノ通回答致置候

（別紙）

甲號

日醫發第一八五號
昭和二年一月十四日

日本醫師會長　男爵　北里柴三郎

社會局長官長岡隆一郎殿

健康保險法中疑義ノ件

健康保險法第四七條ノ規定ニ關シ左記ノ場合疑義相生シ候條何分ノ御回示相煩度此段及御照會候也

記

被保險者カ業務上ノ事由ニ因ル疾病ニ罹リ又ハ負傷ニヨリ療養ノ給付ヲ受ケ居ル期間中業務外ノ事由ニ因ル疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合ニ於テ受クル療養ノ給付ハ之ヲ各別ニ取扱ヒ各其ノ療養給付期間ヲ起算スヘキモノナリヤ又ハ後者ニシテ前者ノ療養給付期間中ノモノハ之ヲ前者ノ期間中ニ合算スヘキモノナリヤ否ヤ

乙號

牧保第三七號
昭和二年一月二十七日

社會局保險部長

日本醫師會長殿

業務上ノ事由ニ因ル傷病ト然ラサル傷病トノ療養日數ニ關スル件

昭和二年一月十四日附日醫發第一八五號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件ハ前段御見解ノ通ニ有之

●保險醫變更ノ承認ニ關スル件

（昭和二年二月二日　保醫第六〇號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合（但シ香川健康保險署長ヲ除ク）宛

寫本

標記ノ件ニ付香川健康保險署長ヨリノ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ乙號ノ通回答致置候

（別紙）

（甲號）

二發給第一五號
昭和二年一月二十一日

香川健康保險署長　細田正行

社會局保險部長殿

保險醫變更承認ノ件

健康保險法實施以來被保險者ヨリ保險醫變更承認ニ關シ多々要求有之之カ理由トスル所ハ何レモ同一疾病又ハ負傷ニ依ル被保險者ニシテ自己ノ撰定シタル保險醫ニ於テ僅カ一週間內外ノ診療ヲ受ケタル後經過良好ナラサル理由ヲ以テ保險醫變更診療ヲ受ケントスル義ニ有之之等承認シ差支ナキモノニ候哉健康保險法施行令第七十五條ニヨル保險者ノ承認ニ關スル程度承知致度候條至急何分ノ御敎示相煩度候

（乙號）

保醫第六〇號
昭和二年二月二日

社會局保險部長

香川健康保險署長殿

寫本

保險醫變更ノ承認ニ關スル件

昭和二年二月二十一日附二發給第一五號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件ハ單ニ傷病ノ診療ヲ受ケタル後ノ經過良好ナラサルノ理由ニ因ルモノニ付テハ從來ノ保險醫變更ノ承認ヲ與フルコトハ不可然儀ニ有之本件ハ大體左記ニ該當スル場合ニ於テ療養ノ給付ヲ受クル者カ從來ノ保險醫ニ就キ引續キ診療ヲ受クルコトヲ甚タ不都合トスル場合ニ限リ承認ヲ與フル樣取扱ハレ度

記

一、從來ノ保險醫カ其ノ診療所ヲ移轉シタル場合
二、從來ノ保險醫カ相當期間旅行スル場合
三、從來ノ保險醫死亡シタル場合又ハ相當期間疾病ニ罹リ若ハ負傷シタル場合
四、療養ノ給付ヲ受クル者カ其ノ住所ヲ變更シタル場合又ハ相當期間旅行スル場合
五、療養ノ給付ヲ受クル者ノ勤務先變更シタル場合
六、其ノ他特別ノ事由アル場合

●被保險者資格取得後被保險者證受領前ノ場合ニ於ケル療養ノ給付請求ニ關スル件

（昭和二年二月五日保發第一一六號社會局保險部長通牒）
健康保險署長及健康保險組合（但シ香川健康保險署長ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ付香川健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ乙號ノ通保險部大阪出張所長ヨリ回答致置候
（別紙）
（甲號）
一五發第四七號
大正十五年十二月六日
香川健康保險署長　細田正行
社會局保險部大阪出張所長守屋磨瑳夫殿

被保險者ニ關スル件

大正十六年一月一日以後ニ於テ新タニ被保險者ノ資格ヲ取得シタルトキハ五日間ノ屆出猶豫期間アルヲ以テ當署ヨリ被保險者ニ交附スヘキ被保險者證ヲ本人ニ手交スル迄ニハ相當期間ヲ要スルヲ以テ此ノ間ニ傷病ノ事故發生シタルトキハ工場主ノ被保險者證請求手續中ナル旨ヲ證明シ醫師ノ診斷ヲ受ケシムルモ差支ナキ義トハ思料セラルルモ爲念相伺候
規則第四十五條第二項ノ已ムヲ得サル事由云々ハ右ノ場合ヲモ含ムモノト解釋セラルルモノト思料セラレ候
（乙號）
大正十五年十二月十一日
社會局保險部大阪出張所長
香川健康保險署長殿

保險給付ニ關スル疑義ノ件

本月六日一五發第四六號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件左記ノ通回答候也

記

一、御意見ノ通

●被保險者カ診療ヲ受クル場合ニ於ケル車馬賃ニ關スル件

（昭和二年二月十五日保理第六〇六號社會局保險部長通牒）
健康保險署長及健康保險組合宛

標記ノ件ニ付王子健康保險組合ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ乙號ノ通回答致置候

台本

昭和二年一月二十七日
王子健康保險組合㊞
社會局保險部長殿

拜啓

被保險者保險醫ニ通院スル場合ノ車馬賃ニ關スル質疑ノ件

被保險者療養ヲ受クル爲メ保險醫ニ通院スルニ當リ車馬（又ハ電車）ニ依ル必要アリタルトキハコノ車馬（又ハ電車）賃ハ組合ニ於テ負擔致ス可キモノニ候ヤ、或ハ被保險者自ラ支辨致ス可キモノニ候ヤ特殊ノ傷病ニテ之カ專門醫相當遠距離ニアリ組合ニ於テ車馬ニ依ル必要アリト認メタル場合ハ之ヲ組合ヨリ支給スルカ妥當ナル可シトモ考ヘラレ候カ如何ノモノニ御座候ヤ又之ヲ支給スルトセハ療養給付費トシテ支出致ス可キモノニ候ヤ御多繁中恐縮乍ラ何分ノ御敎示ニ預リ度返信郵券封入御照會申上候
敬具
保理第六〇六號
昭和二年二月五日
社會局保險部長
王子健康保險組合御中

被保險者カ診療ヲ受クル場合ニ於ケル車馬賃ニ關スル件

台本

被保險者カ療養ノ給付ヲ受クル爲醫師又ハ齒科醫師ノ診療所ニ到ル場合ニ於テ傷病ノ爲步行甚シク困難ナルトキ其ノ他傷病ノ狀況ニ依ル人力車、自動車、擔架等ニ依リ移送スルノ必要アルカ爲保險者ニ於テ移送ノ給付ヲ爲シタル場合ニ於テハ之ニ要スル費用ハ當然保險者ニ於テ療養給付ノ費用中移送費用トシテ負擔スヘキモノナルモ然ラサル場合ニ於テ被保險者カ任意人力、自動車、電車等ニ乘シ診療所ニ到リ又ハ自宅ニ歸ル等ノ場合ノ如キハ之ニ要スル費用ハ當該被保險者ノ負擔ニ屬スル儀ニ有之

●看護ノ取扱ニ關スル件

（昭和二年三月十日保發第二五八號社會局保險部長通牒）
健康保險署長及健康保險組合宛

被保險者ニ對シ看護ノ給付ヲ爲ス場合ニ於テハ看護婦ヲ附スルコトニ取扱ハレ度但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ見習看護婦其ノ他ノ看護人（被保險者ノ家族ノ如キ者ヲモ含マス）ヲ附スルモ妨ケ無之

●健康保險組合解散後引續キ療養ヲ受クル者ノ取扱方ノ件

（昭和二年四月十五日
保理第一七四五號社會局保險部長通牒）

健康保險署長（但シ佐賀健康保險署長ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ付佐賀健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）

（甲號）

二庶第一八三號
昭和二年四月二日

佐賀健康保險署長　山上保吉

社會局保險部長殿

健康保險組合解散後引續キ療養ヲ受クル者ノ取扱方ノ件ニ付伺

當署管內杵島炭坑第二健康保險組合本年三月十五日ヲ以テ解散致シ候處引續キ右組合保險醫指定ノ第二坑病院（政府ノ保險醫ニアラサル者）ニテ治療ヲ受ケ又ハ入院中ノ者ニ係ル療養費用支辨ニ關シテハ本人ヨリ當署ニ對シ療養費トシテ請求シ其ノ支給ヲ受ケ本人ヨリ右病院ニ支拂フヘキ筋合ニ候ヤ又ハ右患者療養中ハ組合解散ト共ニ自然政府ノ保險醫ニ變更シタルモノト看做シ差支ナキヤ後段ノ通リトスルモ診療報酬ハ直接當署ニ請求セシムヘキヤ疑義相生シ候條至急何分ノ義御指示相仰度

（乙號）

保理第一七四五號
昭和二年四月十五日

社會局保險部長

佐賀健康保險署長殿

健康保險組合解散後引續キ療養ヲ受クル者ノ取扱方ノ件回答

昭和二年四月二日附二庶第一八三號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ健康保險組合解散ノ際被保險者ノ資格アリテ療養ノ給付ヲ受ケ居リシ者ニ付テハ勿論解散前既ニ被保險者ノ資格ヲ喪失シ健康保險法第五十五條ノ規定ニ依リ引續キ療養ノ給付ヲ受ケ居リシ者ニ對シテモ保險給付ハ政府ノ管掌スル被保險者ニ對スルト同一取扱ヲ爲スヘキモノニシテ本件ニ付テハ政府ノ保險醫ニ就キ療養ヲ受ケシメラレ度但シ疾病又ハ負傷ノ狀況ニ依リ醫師又ハ歯科醫師ヲ變更スルコト困難ナルモノニ付テハ健康保險法施行令第七十七條第一項第二號ノ承認ヲ與ヘ療養費ヲ支給相成可然

●看護ノ承認ニ關スル件

（昭和二年四月二十五日
保理第一八八號社會局保險部長通牒）

健康保險署長（但シ保險部大阪出張所分掌域內ノ署長ヲ除ク）宛

被保險者ニ對スル看護ノ承認ヲ與フル際ニ於テハ關係醫師會又ハ歯科醫師會ト協議ノ上看護ハ其ノ必要ニ應シ最少限度ノ期限ヲ附シテ承認ヲ與ヘ期限滿了後尙引續キ看護ノ必要アル向ニ對シテハ更ニ其ノ要否ヲ審査シ期限延長ノ承認ヲ與ヘラルル樣取扱相成度

●昭和元年內務省令第一號第二條又ハ第三條ノ保險醫ニ就キ療養ノ給付ヲ受クル場合ト病院收容看護、移送等ノ承認ニ關スル件

（昭和二年四月二十七日
保理第一九二二號社會局保險部長通牒）

健康保險署長（但シ愛知健康保險署長ヲ除ク）
健康保險組合日本醫師會及日本歯科醫師會宛

標記ノ件ニ付愛知健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（甲號）

二給發第五四二號
昭和二年四月十五日

愛知健康保險署長　桐本秀三

社會局保險部長殿

病院收容、看護、處置、手術其ノ他ノ治療、移送等ノ承認竝看護料、移送費支拂ニ關スル件

標記ノ件ニ付左記ノ場合ニ疑義相生シ事務處理上支障有之至急何分ノ御回示相煩度

左記

一、被保險者昭和元年十二月內務省令第一號第一條第三條ノ規定ニ依リ他ノ健康保險署長ノ指定シタル保險醫ノ診療ヲ受クルニ當リ病院收容、看護、移送、二十圓ヲ超ユル處置、手術其ノ他ノ治療ヲ爲スノ要アリト認ムル場合保險醫ハ其ノ診療所ヲ管轄スル健康保險署長（甲）ノ承認ヲ受クヘキモノナリヤ或ハ又其ノ被保險者ノ勤務スル工場所在地ヲ管轄スル健康保險署長（乙）ノ承認ヲ受クヘキモノナリヤ又此ノ場合看護料及移送費ノ何レノ保險醫ニ於テ支拂フヘキヤ

（此ノ場合承認ヲ爲スヘキ保險署ヲ前者（甲）ナリト解スレハ

實際上支障尠キモ後者(乙)ナリト解スルニ於テハ遠隔セル地ニ於テ療養給付ヲ受ケ入院其ノ他ノ要承認事故ノ發生シタル場合ニ於テ不便尠カラス又看護料、移送費ノ如キモ乙保險署ニ於テ支拂フヘキモノナリトセハ債主ハ遠隔セル保險署ニ請求ヲ要シ不便ナルノミナラス之ヲ支拂フ保險署(乙)ハ看護料其ノ他ニ關シ一々甲保險署ニ對シ照會セサルヘカラサルカ如キ手數アリ)

(乙號)

保理第一、九二二號

昭和二年四月二十七日

社會局保險部長

愛知健康保險署長殿

昭和元年內務省令第一號第一條又ハ第三條ノ保險醫ニ就キ療養ノ給付ヲ受クル場合ト病院收容、看護移送等ノ承認ニ關スル件

昭和二年四月十五日附二給發第五四二號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ健康保險法第十三條又ハ第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ其ノ使用セラルル工場又ハ事業場ノ所在地ヲ管轄スル健康保險署ノ署長ニ於テ健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ其ノ住所地ヲ管轄スル健康保險署ノ署長ニ於テ承認ヲ爲スヘキモノニ有之(健康保險法施行規則第一條參照)又看護又ハ移送ニ要スル經費モ右ノ健康保險署ニ於テ支拂ヲ掌ルモノニ有之

●醫師又ハ齒科醫師ノ往診車馬賃ニ關スル件

(昭和二年四月二十八日
保理第一八八九號社會局保險部長通牒)

健康保險署長及健康保險組合(但シ南海鐵道健康保險組合ヲ除ク)宛

健康保險ノ療養ノ給付ノ範圍ニハ醫師又ハ齒科醫師ノ往診車馬賃ヲ含マサル義ニ有之而シテ政府ノ管掌スル保險ニ在リテ政府ト日本醫師會トノ間ニ於テ締結シタル契約中「診療擔當者ハ診療所ヨリ片道半里以內ノ往診ノ場合ハ被保險者ニ車馬賃ヲ請求セサルモノトス」トノ規定(第二十五條)アルハ往診ノ車馬賃ハ元來被保險者カ負擔スヘキモノナルモ保險醫ハ診療所ヨリ片道半里以內ノ往診ノ場合ニ限リ之ヲ被保險者ニ請求セサル旨ヲ規定シタルニ過キサル義ニ有之

●住所ノ意義ニ關スル件

(昭和二年八月九日
保理第二九九一號社會局保險部長回答)

香川健康保險署長宛

二發給第一七一號

昭和二年七月二十五日

香川健康保險署長

社會局保險部長殿

住所ノ意義ニ關スル件伺

一、政府ト日本醫師會トノ契約第三條及昭和元年內務省令第一號ノ第二條ノ「住所」ハ主旨トシテハ府縣ノ隣接地ニ住所ヲ有シ他隣接府縣ノ工場又ハ事業場ニ勤務スル者ニ對シテ住所地ヲ管轄スル保險署長ノ指定シタル保險醫ニ就キ療養ノ給付ヲ受ケ得ヘキ規定ト解スヘキモ被保險者及保險醫ノ側ヨリ見レハ單ニ「住所」ナル語ヲ使用シアルヲ以テ生活ノ本據ト解スヘキヲ至當トセサルヤ卽チ家庭ヲ離シテ單獨ニ出稼ヲナシ工場寄宿舍又ハ工場附近ニ居住シ居ル被保險者カ盆、正月其ノ他休暇ヲ得テ家庭ニ歸リタル時ニ傷病ニ罹リタル場合ニ豫メ承認ヲ受ケ置カストモ保險醫ノ治療ヲ受ケ得ルモノト解シ可然哉

二、被保險者證第一面ノ住所氏名ノ住所ハ生活ノ本據ヲ記入スヘキヤ又ハ居所ヲ記入スヘキヤ

三、本伺第一號ノ住所ハ被保險者證第一面ノ住所ヲ指スモノニシテ該住所所管保險署長ノ指定シタル保險醫ヲ指スノ意ナルヤ

保理第二九九一號

昭和二年八月九日

社會局保險部長

香川健康保險署長殿

住所ノ意義ニ關スル件

昭和二年七月二十五日附二發給第一七一號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件左ノ通ニ有之

記

一、政府ト日本醫師會トノ間ニ於ケル契約書第三條及昭和元年內務省令第一號第二條ノ「住所」トアルハ執レモ生活ノ本據地ヲ謂フモノトス而シテ伺出ニ係ル所謂單獨出稼者ノ如キハ出稼先ニ於ケル在住場所(寄宿舍ニ在ルト下宿屋ニ在ルト將又他人ノ家ニ在ルトヲ問ハス)ヲ以テ住所ト認ムヘキモノニシテ是等ノ者カ盆暮ニ本來ノ家庭ニ一時歸ルモ斯ノ如キハ其ノ家庭ヲ以テ住所ト見ルヘキモノニ非ス隨テ家庭ニ歸ル際ニ療養ノ給付ヲ受ケムトセハ昭和元年內務省令第一號第三條ニ依ルヘキモノトス尙住所ハ事實ニ基キ決スヘキモノナルカ故

ニ本籍ト何等關係ナキハ勿論又寄留法ニ基キテ屆出テアル寄留場所ト必スシモ一致スヘキモノニ非ス

二、被保險者證第一面ノ「住所」ノ意義モ亦前項ニ同シ

三、前二項ノ解釋ニ依リ了知セラレタシ

（昭和二年八月二十四日保理第二九九一號社會局保險部長回答）

香川健康保險署長宛

二發給第一八八號

昭和二年八月十三日

香川健康保險署長

社會局保險部長殿

住所ノ意義ニ關スル件伺

標記ノ件ニ關シ本月八日附保理第二九九一號ヲ以テ御回答有之候處尙左記ノ通リ疑義相生候條何分ノ御指示相煩度候

記

政府ト日本醫師會トノ契約第三條及昭和元年內務省令第一號第二條ノ「住所」ニ付テハ了承仕候モ單獨出稼者ノ如キ出稼先ノ在住場所ヲ以テ住所所謂生活ノ本據地トハ云ヒ難ク存候例ヘハ一青年一少女カ家庭ヲ離レテ工場寄宿舍又ハ工場附近ニ居住シテ單獨稼ヲナシ居ルモ父兄ノ補助ヲ得テ生計ヲ營メルモノアリ又是等ハ短日月ニシテ歸鄉スルモノ多シ斯ル場合之カ在住場所ハ住所ト認メ難ク居所ト被存候其ノ邊如何ニ解シ可然候哉尙之カ在住場所ヲ住所ト看做シテ第三者ニ對抗シ得ルモノニ候哉

保理第二九九一號

昭和二年八月二十四日

香川健康保險署長

社會局保險部長殿

住所ノ意義ニ關スル件伺

昭和二年八月十三日附二發給第一八八號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件ハ所謂單獨出稼者カ父兄等ヨリ生活費ノ補助ヲ受クル場合ト雖工場等ニ勤ムルコトカ本人ノ職業ナルカ故ニ此ノ職業ニ從事スル爲ニ居住スル場所ハ其ノ滯在期間ノ長短ヲ問ハス之ヲ生活ノ本據地ト認ムヘキヲ以テ此ノ地ハ卽チ本人ノ住所ト見ルヘキモノニ有之右ノ次第ナルヲ以テ本人ハ右ノ住所ニ付テハ第三者ニ對抗シ得ルモノト認メラレ候（但シ寄留法ニ基キテ屆出アル住所寄留場所タルコトヲ要件トスル旨法令ニ規定アルカ如キ場合ハ此ノ限ニ在ラス）

●療養證明書ニ關スル件

（昭和二年十一月十日發第二六一九號社會局保險部大阪出張所長回答）

岡山健康保險署長宛

台本

二給第一二一九七號

昭和二年十一月二日

岡山健康保險署長　岡崎　讓

社會局保險部大阪出張所長守屋磨瑳夫殿

療養證明書ニ關スル件

健康保險法施行規則第四十七條ニ依リ保險醫ヨリ交付シタル療養證明書ヲ紛失又ハ毀損シタル場合ニ於テ被保險者ヨリ該證明書ヲ發行シタル保險醫ニ對シ其ノ申出アリタルトキハ事實精査ノ上再交付ヲ爲サシムルモ別段差支ナキ樣思料セラレ候得共或ハ被保險者證ニ代ルヘキモノナルヲ以テ昭和二年二月九日付保理第一〇五號ノ內通牒ニ準シ取扱フヘキモノナリヤ聊疑義相生候條折返何分ノ御回示相仰度

發第二六一九號

昭和二年十一月十日

社會局保險部大阪出張所長

岡山健康保險署長殿

療養證明書ニ關スル件

本月二日附二給第一二一七號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件ニ關シテハ後段御見込ノ通御取扱相成度及通牒候也

●移送ノ場合ニ於ケル附添醫師ノ旅費等ニ關スル件

（昭和二年十二月十七日保理第三一七號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合（但シ岐阜健康保險署長ヲ除ク）宛

台本

昭和二年三月五日附保理第三一七號ヲ以テ通牒致置候療養ノ給付中看護及移送ノ取扱ニ關スル件中標記ノ件ニ付別紙寫ノ通岐阜健康保險署長ニ通牒致置候

（別紙）

保理第三一七號

昭和二年十二月十七日

社會局保險部長

岐阜健康保險署長殿

移送ノ場合ニ於ケル附添醫師ノ旅費等ニ關スル件

昭和二年一月十二日附ニ庶祕第三號ヲ以テ伺出相成候療養ノ給付ニ關スル疑義ノ件ノ「二」ノ「二」ノ事項ニ付テハ同年三月五日附保理第三一七號ヲ以テ附添者タル看護婦ノ旅費ハ看護ニ要スル費用ニ醫師ノ旅費及日當ハ診療ニ要スル費用ニ、且該費用ハ政府ヨリ日本醫師會ニ支拂フヘキモノナル旨回答致置候處

右ハ看護婦ノ旅費竝醫師ノ旅費及日當共ニ移送ニ要スル費用ノ中ヨリ支出スルモノニシテ且醫師ノ旅費及日當ハ日本醫師會ニ對シ支拂フヘキモノニ非ス卽チ附添ヒタル醫師ニ對シ支拂フヘキモノニ有之尙醫師ノ旅費及日當ノ金額ハ地方醫師會ニ於テ協定セル最低額ヲ標準トシテ決定シ若シ協定セル額ナシトセハ適宜決定セラルル樣致度

（參照）

二庶祕第三號

昭和二年一月十二日

岐阜健康保險署長　川村享一

社會局保險部醫療課長殿

療養給付ニ關シ疑義ノ件

標記ノ件ニ關シ左記ノ點至急御回示相成度候

記（抄）

二、移送

（イ）移送ヲ行フ場合ハ步行不可能等ノ場合吊臺、人力車等ニ依リ移送スル場合ノ外本人步行シ能フ限リハ支給セサル義ト解シ差支ナキヤ

（ロ）步行不自由ノ爲自宅ヨリ每日醫院ニ人力車ニテ通フ場合ハ移送ト看做スヘキヤ

（ハ）移送ノ爲必要ナル附添人ノ旅費等ハ移送費ニ含ムヤ家族ナル場合如何（本縣ニ於テ警察共濟組合ニ於テハ家族ノ附添タル場合ハ移送費ヲ支給セサルモノ、如シ）

（ニ）移送ノ場合附添看護婦又ハ醫師ノ附添ヲ必要トスル場合ハ是等ノモノヽ旅費日當等ハ移送ニ含ミ差支ナキヤ

保理第三一七號

昭和二年三月五日

社會局保險部長

岐阜健康保險署長殿

療養ノ給付中看護及移送ノ取扱ニ關スル件

昭和二年一月十二日附二庶祕第三號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件左ノ通ニ有之

記（抄）

二、移送ノ取扱

（イ）御見解ノ通

（ロ）看做スヘキノ限ニ在ラス

（ハ）移送ノ爲使役シタル者ノ賃金、手當等卽チ吊臺ノ運搬夫人力車ノ車夫等ノ賃金手當等ハ移送ニ要シタル費用ノ範圍ニ屬スルモ單ナル附添人ノ旅費ノ如キハ之カ範圍ニ屬セサルモノトス

（ニ）附添者タル看護婦ノ旅費ハ看護ニ要スル費用ニ醫師ノ旅費及日當ハ診療ニ要スル費用ニ屬スルモノトス（診療ニ要スル費用ハ政府ヨリ日本醫師會ニ支拂フ）

●齒科補綴承認申請中ニ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニ關スル件

（昭和二年十二月二十日保理第四〇八一號社會局保險部長回答）

岐阜健康保險署長宛

二給第一〇七六六號

昭和二年十二月十四日

岐阜健康保險署長　川村享一

社會局保險部醫療課長殿

齒科補綴承認ニ關スル件

齒科補綴承認申請手續中被保險者資格ヲ喪失セリ此場合若シ初診ハ資格取得中ニ受ケタルモ承認手續中診療ヲ中止シツツアルカ如キ場合ハ法第五十五條ニ該當セサルモノトシ取扱差支ナキヤ

保理第四〇八一號

昭和二年十二月二十日

岐阜健康保險署長殿

社會局保險部長

齒科補綴承認申請中ニ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニ關スル件

台本

昭和二年十二月十四日附二給第一〇、七六六號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件

右ハ承認アリタル場合ハ健康保險法第五十五條ニ該當スルモノトシテ取扱相成可然

●官立大學病院トノ診療協定ニヨル事務取扱ニ關スル件

（昭和三年四月二十日保發第二九一號社會局保險部長通牒）

健康保險署長宛

官立大學病院トノ診療協定成立ニ關シテハ其ノ都度及通知置候處之カ事務取扱ニ關シ左記事項了知相成度

記

一、（省略）

二、被保險者勅令第二百六十八號健康保險ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院等ニ關スル件及昭和二年內務文部省令健康保險ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院等ニ關スル件ニ依リ大學醫院等ニ付キ診療ヲ受クル場合ハ昭和元年內務省令第一號政府ノ管掌スル健康保險ノ被保險者カ療養ノ給付ヲ受クルコトヲ得ヘキ醫師及齒科醫師竝ニ藥劑師ニ關スル件ノ適用ヲ受ケサルモノニ付爲念（昭和三年三月健康保險時報揭載大學病院ニ

於ケル被保險者ノ診療開始記事參照）

●保險醫ニ就キ療養ノ給付ヲ受クル被保險者官公立大學附屬醫院ニ就キ療養ノ給付ヲ受ケムトスル場合ノ取扱方ノ件

（昭和三年四月二十三日保理第八三七號社會局保險部長回答）

三給第七四七號
昭和三年四月十一日　千葉健康保險署長
社會局保險部長殿

保險醫ノ療養ヲ受クル被保險者大學醫院ヘ變更療養ヲ受ケムトスル場合ノ取扱方ノ件伺

現ニ保險醫ノ療養ヲ受クル被保險者ニシテ大學醫院ニ變更シテ療養ヲ受ケ度旨申出ヲ爲ス者有之候處右ニ就テハ健康保險法施行令第七十五條ノ規定ヲ廣義ニ解シテ承認方取計支障無之哉聊カ疑義相生シ候條至急何分ノ御指示相成度相伺候也

昭和三年四月二十三日　社會局保險部長
千葉健康保險署長殿

標記ノ件ニ付福岡健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）
（甲號）
三給甲第二五二三號
昭和三年四月十四日　福岡健康保險署長　長山秀介
社會局保險部長　湯澤三千男殿

健康保險法施行規則第五十六條ノ二第一項但書ノ取扱ニ關スル件

保險醫ニ就キ療養ノ給付ヲ受クル被保險者官公立大學附屬醫院ニ就キ療養ノ給付ヲ受ケムトスル場合ノ取扱方ニ關スル件

昭和三年四月十一日附三給第七四七號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件御見込ノ通取扱相成可然

●施行規則第五十六條ノ二第一項但書ノ場合ニ於ケル取扱ニ關スル件

（昭和三年四月二十六日保理第八八六號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合（但シ福岡健康保險署長ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ付福岡健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）
（甲號）
三給甲第二五二三號
昭和三年四月十四日　福岡健康保險署長　長山秀介
社會局保險部長　湯澤三千男殿

健康保險法施行規則第五十六條ノ二第一項但書ノ取扱ニ關スル件

吉本

健康保險法施行令第七十四條第一項第三號乃至第五號ノ場合ノ取扱方ニ關シ本月七日內務省令第十二號ヲ以テ改正相成候處右規則第五十六條ノ二第一項但書ニ依レハ已ムヲ得サル事由アル場合ハ屆書ヲ以テ屆出ツルコトニ規定セラレ居候然ルニ本屆ニ對シテモ之カ取締上相當審査ノ要可有之隨ツテ承認ノ形式ニヨリ事由如何ニ依テハ事後ナリト雖モ不承認ノ決定ヲナシ差支ナキモノナリヤ將又如此事後ニ屬スルモノニ對シテハ絕對ニ不承認ヲ與ヘサルノ趣旨ニ出タルモノニ候哉疑義有之候條取扱方至急御指示相仰度及伺候也

（乙號）
保理第八八六號
昭和三年四月二十六日　社會局保險部長
福岡健康保險署長殿

施行規則中第五十六條ノ二第一項但書ノ場合ニ於ケル取扱ニ關スル件

昭和三年四月十四日付三給甲第二、五二三號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ妥當ナラサルモノニ付テハ給付セサルコトニ決定シ支障無之尙此ノ場合ニ於テハ屆出者ニ對シ通知セラルル樣致度又妥當ナルモノニ付テハ特ニ承認ノ旨ヲ屆出者ニ通知スルノ必要無之ト被存

●酸素吸入ニ關スル件

（昭和三年五月十六日保理第一三〇七號社會局保險部長回答）

神奈川健康保險署長宛

三給發第三六四三號
昭和三年五月三日　神奈川健康保險署長
社會局保險部長殿

酸素吸入ニ關スル件

標記ノ件ハ療養給付ノ範圍ニ屬セサルモノト思料セラレ候得共聊カ疑義相生候ニ付何分ノ御指示相煩度

追テ若シ給付ノ範圍ニ屬スルモノトセハ日本醫師會診療報酬點數計算規程及公立病院健康保險診療料金表ノ何レニ該當スルモノナルヤ併セテ相伺候

保理第一三〇七號
昭和三年五月十六日　社會局保險部長
神奈川健康保險署長殿

酸素吸入ニ關スル件

昭和三年五月三日附三給發第三、六四三號ヲ以テ伺出相候標

吉本

記ノ件ハ健康保険法施行令第七十四條第一項第三號ノ「處置」ニ該當スルモノニシテ療養ノ給付ノ範圍ニ屬スルモノニ有之追テ料金ハ日本醫師會ニ於テ診療ヲ引受クルモノニ在リテハ日本醫師會健康保険診療報酬點數計算規程ノ規定ニ依リ道府縣醫師會及日本醫師會ニ於テ可然措置セラルヘキモノト認メラレ候又公立病院ニ於テ診療ヲ引受クルモノニ在リテハ當該公立病院ト所轄健康保険署長トノ間ニ於テ其ノ都度協定セラルル樣致度

●被保険者ノ移送費用ニ關スル件

（昭和三年五月二十一日　保理第一三九〇號社會局保険部長回答）

山口三給受第一〇五二號
昭和三年五月十二日

山口健康保険署長　副島次郎

社會局保険部長　湯澤三千男殿

移送費ニ關スル件

移送費支給ニ關シ左記ノ通疑義相生シ候條至急何分ノ御指示被下度及稟伺候也

記

被保険者ノ症狀重態ニシテ横臥ノマヽ移送ヲ必要トスルタメ鐵道ニ等車ニ乘車シタル場合二等車賃ニ依リ支給差支ヘナキモノナリヤ

保理第一、三九〇號
昭和三年五月二十一日

社會局保険部長

山口健康保険署長殿

被保険者ノ移送費用ニ關スル件

昭和三年五月十二日附山口三給受第一、〇五二號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件ハ御見込ノ通取扱相成可然

●標準料金ニ關スル件

（昭和三年六月四日　保醫第三九〇號社會局保険部長通牒）

健康保険署長宛

齒科補綴上齒間ニ間隙ヲ生シタル場合ノゴム補足ハ之ヲ日本齒科醫師會トノ協定書第二條ニ依ル齒科診療料金表以外ノ診療トシテ取扱ヒ之カ料金ハ五十錢以內トシ其ノ都度協定相成度

●療養ノ給付ノ範圍ニ關スル件

（昭和三年六月八日　庶發第六〇四號社會局保険部大阪出張所長回答）

福岡健康保険署長宛

三給丙第一七三九號
昭和三年五月十八日

福岡健康保険署長　長山秀介

社會局保険部大阪出張長殿

療養ノ給付ノ範圍ニ關スル件

瘢痕除去、整形手術ノ如キハ療養ノ給付ノ範圍ニ屬セサルモノニ有之候處火傷ノ爲火傷其ノモノハ治癒シタルモ之カ爲筋肉ノ癒著屈伸不能トナリタル場合ニ於ケル整形手術又ハ植皮術ノ如キモ療養ノ給付ノ範圍ニ屬セサルモノニ有之候哉聊カ疑義有之何分ノ儀御指示相成度相伺候也

庶發第六〇四號
昭和三年六月八日

社會局保険部大阪出張所長

福岡健康保険署長殿

療養ノ給付ノ範圍ニ關スル件

客月十八日附三給第一七三九號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件後段該當ノ場合ニ於テ筋肉ノ癒著屈伸不能等甚敷治療未タ完成セサルモノト認メラルルモノニ付テハ給付ノ範圍ニ屬スルモノトシテ御取扱相成可然經伺ノ上此段及回答候也

●療養費支給ノ場合ニ於ケル入院、手術等ノ申請竝助産ノ手當ニ關スル件

（昭和三年十月二十九日　保理第二六八三號社會局保険部長通牒）

健康保険署長及健康保険組合（但シ福井健康保険署長ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ付福井健康保険署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）
（甲號）

福井健給發第四七七號
昭和三年九月二十九日

福井健康保険署長　並木敏

社會局保険部長殿

療養費支給ト入院手術ノ關係及分娩給付ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ左記疑義相生候條御指示相仰度伺上候

左記

一、令第七十七條第一項第二號ニ依リ指定セサル醫師ノ診療ヲ受クルコトヲ承認シタル場合又ハ同第三號ニ依リ緊急ヲ要シ指定セサル醫師ノ診療ヲ受ケタル場合ニ於テ指定外ノ醫師、齒科醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受クル場合ニ於テモ健康保險法施行規則第五十六條ノ二ノ規定ハ適用アルモノトス

二、御見込ノ通取扱可然

三、伺出ノ場合カ傷病治療上ノ必要ニ依リ人工流產術ヲ施シタルカ如キ場合ナラハ御見解ノ通取扱相成支障ナキモ單ニ人工流產ノ手術ヲ受クル爲ニ入院スルカ如キ場合ナリトセハ療養費ヲ支給スヘキ場合ニ非ス又施行規則第五十六條ノ二ノ規定ニ依ル手續ハ不必要ニシテ分娩費又ハ出產手當金全額支給スヘキモノトス

●狂犬病豫防注射ニ關スル件

（昭和三年十一月二十六日　事發第二〇五八號社會局保險部大阪出張所長回答）

東健保第六三號

昭和三年十一月十九日

東陶健康保險組合

社會局保險部大阪出張所長殿

台本

候標記ノ件左記ノ通ニ有之

記

一、被保險者カ保險者ノ承認ヲ受ケ指定外ノ醫師若ハ齒科醫師ノ診療ヲ受クル場合又ハ同第三號ニ依リ緊急ヲ要シ指定セサル醫師ノ診療ヲ受ケタル場合ニ於テ指定外ノ醫師、齒科醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受クル場合ニ於テモ健康保險法施行規則第五十六條ノ二ノ規定ハ適用アルモノトス

二、御見込ノ通取扱可然

三、伺出ノ場合カ傷病治療上ノ必要ニ依リ人工流產術ヲ施シタルカ如キ場合ナラハ御見解ノ通取扱相成支障ナキモ單ニ人工流產ノ手術ヲ受クル爲ニ入院スルカ如キ場合ナリトセハ療養費ヲ支給スヘキ場合ニ非ス又施行規則第五十六條ノ二ノ規定ニ依ル手續ハ不必要ニシテ分娩費又ハ出產手當金全額支給スヘキモノトス

●狂犬病豫防注射ニ關スル件

（昭和三年十一月二十六日　事發第二〇五八號社會局保險部大阪出張所長回答）

東健保第六三號

昭和三年十一月十九日

東陶健康保險組合

社會局保險部大阪出張所長殿

台本

標記ノ件ニ關シ左記ノ通聊カ疑義相生候條何分ノ御指示相仰度此段及伺出候

記

一、被保險者現時身體ニ異和ヲ感セス就業中ノモノナルモ保險給付トシテ爲ニ既往三回早流產ヲ爲シタル事實アリ右ニ對シ保險給付トシテ驅黴療法ヲ爲シ差支ナキヤ

保理第四四八號

昭和四年二月十八日

愛媛健康保險組合御中

社會局保險部大阪出張所長

●保險事故タル疾病ノ範圍ニ關スル件

（昭和四年二月十八日　保理第四四八號社會局保險部長回答）

狂犬病豫防注射ニ關スル件

本月九日東健保第六三號ヲ以テ御伺出相成候標記ノ件ハ御申出ノ如キ場合ニ於テハ療養ノ給付トシテ御措置相成可然ト存候

愛媛健康保險署長宛

四給發第二六七號

昭和四年二月一日

愛媛健康保險署長　澤渡五郎

社會局保險部長山口安憲殿

保險事故タル疾病ノ範圍ニ關スル件

被保險者カ犬ニ咬マレソレカ狂犬ナリヤ否ヤ犬ヲ檢定セサレハ確定致シ難ク右檢定ニハ時日ヲ要シ其ノ時日ヲ經過スレハ豫防注射ノ時期ヲ失スル恐レアルトキ之カ豫防注射ヲ被保險者ヨリ組合ニ申請セシ場合組合ハ如何ニ取扱可然哉何分ノ御指示相仰候慶事發第二〇五八號

昭和三年十一月二十六日

東陶健康組合御中

社會局保險部大阪出張所長

狂犬病豫防注射ニ關スル件

本月九日東健保第六三號ヲ以テ御伺出相成候標記ノ件ハ御申出ノ如キ場合ニ於テハ療養ノ給付トシテ御措置相成可然ト存候

保理第四四八號

昭和四年二月十八日

愛媛健康保險署長殿

社會局保險部長

保險事故タル疾病ノ範圍ニ關スル件

昭和四年二月一日附四給發第二六七號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件ハ醫師ニ於テ診察ノ結果現ニ黴毒患者ト證明セラルヘキモノトセハ治療上必要ナル療養ノ給付ヲ爲スヘキモノトス

●療養給付期間等ノ改正ニ關スル件

（昭和四年五月二十九日　保發第二九六號社會局保險部長通牒）

健康保險署及健康保險組合宛

標記ノ件ニ付別紙寫ノ通日本醫師會長、日本齒科醫師會長、日本藥劑師會長竝政府ト診療契約ヲ締結セル官公立病院ニ對シ通

牒致置候

保發第二九六號
昭和四年五月二十九日

社會局保險部長

宛

療養給付期間等ノ改正ニ關スル件

昭和四年三月二十八日法律第二十號ヲ以テ公布セラレタル健康保險法中改正法律ハ來ル六月一日ヨリ施行セラルルコトト相成尙之ニ伴ヒ施行命令ノ一部ヲモ改正シ同時ニ施行セラルルコトト相成候ニ付テハ右改正法令ノ施行ニ當リ特ニ左記事項留意ノ上取扱フヘキ樣可然御取計相成度

追而參考迄ニ改正法令添付致置候

記

第一、療養給付ノ期間

一、改正法ニ依ル療養給付ノ期間ハ業務上ノ事由ニ因ル傷病タルト然ラサルモノタルトヲ問ハス同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付療養ノ給付ヲ開始シタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲ササルモノナリ卽チ被保險者カ其ノ疾病又ハ負傷ニ付何日間療養ノ給付ヲ受クルモ兎モ角其ノ給付開始後百八十一日目ヨリ給付ヲ爲ササルモノナリ（從來ハ療養ノ給付ヲ受ケタル實日數ノミヲ集算シ制限期間ヲ超ユルヤ否ヤヲ檢シタルモ改正法ニ依レハ此ノ實日數ハ何等關係ナキコトト爲リタルモノナリ）

二、昭和四年六月一日現ニ療養ノ給付ヲ受クル疾病又ハ負傷ニ付テモ之カ療養給付ノ期間ハ總テ改正法ニ依ルモノナリ卽チ昭和四年五月三十一日以前ニ療養ノ給付ヲ始メタルモノモ其ノ實際ニ療養ノ給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ經過シタルトキハ療養ノ給付ヲ打切ルモノナリ例ヘハ昭和四年六月一日ニ療養ノ給付ヲ爲ス或傷病ノ療養給付開始日カ昭和四年四月一日ナリシトセハ同年九月二十七日迄ハ給付ヲ爲シ得ルモ同月二十八日以後ハ給付ヲ爲ササルカ如シ又昭和四年五月三十一日以前ニ療養ノ給付ヲ爲シタル或傷病ニ付其ノ給付ヲ爲シタル日數カ昭和四年五月三十一日迄ニ百八十日ニ達セサルモ其ノ給付ヲ開殆シタル日カ昭和三年十二月三日以前ナルトキハ卽チ給付開始日以後百八十日ニ達シタルヲ以テ昭和四年六月一日以後ハ此ノ傷病ニ付テ給付ヲ爲ササルカ如シ尙昭和四年五月三十一日以前ニ療養ノ給付ヲ爲シタルモ同年六月一日ニ偶々療養ノ給付ヲ爲ササリシ疾病又ハ負傷ニ對シテ同年六月二日以後ニ於テ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ於テモ其ノ疾病又ハ負傷ニ付テノ療養給付ノ期間ハ實際ニ療養ノ給付ヲ始メタル日（卽チ改正法實施前ニ療養ノ給付ヲ始メタル日）ヨリ起算シ百八十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ打切ルコト是亦

前記ニ同シ

第二、被保險者證ノ記載方

一、被保險者證ノ樣式中第二面及第三面ハ左ノ如ク改メラルルコトト爲リタリ

（第二面）

（一ノ其）　療養給付記錄

印記	考備	由事了終	日了終	日始開	名病傷

（第三面）

右ニ準ス

改正ノ要點ハ左ノ如クニシテ主トシテ健康保險法第四十七條ノ改正ニ伴フモノナリ

（イ）從來ハ業務上ノ事由ニ因ル傷病ト然ラサル傷病トニ區別シテ記載スルモノナルモ之カ區別ヲ廢スルコト

（ロ）「始期」欄ヲ「開始日」欄ニ、「終期」欄ヲ「終了日」欄ニ改メ「日數」欄ヲ削リ「終了事由」欄ヲ加フルコト

而シテ改正樣式ノ各欄ノ記載上ノ注意ヲ擧クレハ左ノ如シ

「傷病名」欄

本欄ニハ齒ニ付療養ノ給付ヲ爲シタル場合ニ於テハ患齒ノ部位ヲモ記載スルコト

本欄ハ保險藥劑師ニ在リテハ記載スルコトヲ要セサルコト（從來ニ同シ）

「開始日」欄

本欄ニハ療養ノ給付ヲ開始シタル年月日ヲ記載スルコト從來ノ「始期」欄ノ記載事項ニ同シ）

「終了日」欄

本欄ニハ療養ヲ終リタル年月日ヲ記載スルコト卽チ傷病ノ治癒、療養給付ノ期間滿了、被保險者ノ死亡又ハ保險醫ノ變更ニ因リ保險醫ニ於テ療養ヲ爲ササルニ至リタルトキハ其ノ療

養ヲ終リタル年月日ヲ記載スルコト（從來ノ「終期」欄ノ記載事項ニ同シ）

「終了事由」欄

本欄ニハ療養ヲ終リタル事由ヲ記載スヘキモノニシテ治癒、期間滿了、死亡、保險醫變更ノ別ヲ記載スルコト

被保險者カ保險醫變更ノ手續ヲ採ラス任意ニ被保險者證ノ返還ヲ求メタル場合ニ於テハ保險醫ニ於テ治癒シタルヤ否ヤヲ調査シ治癒セサルモノトセハ之ヲ返還スヘカラサルモノナリ故ニ此ノ點ヲ特ニ注意スルコト從テ終了事由トシテ中止ノ如キコトヲ記載スルハ妥當ナラサルコト

「認印」欄

本欄ニハ本事項ノ記載ヲ爲シタル保險醫又ハ保險藥劑師ニ於テ捺印スルコト（從來ニ同シ）

尙保險醫變更ノ爲被保險者證ヲ返還スル場合ニ於テ保險醫其ノ發行シタル療養證明書ノ未タ返納ナキモノアルトキハ其ノ療養證明書ヲ發行シタル數及年月日ヲ「備考」欄ニ記載スルコトハ從來通ナリ

二、昭和四年五月三十一日以前ニ健康保險署又ハ健康保險組合ヨリ被保險者ニ交付シタル被保險者證ニ付テハ昭和四年六月一日以後ト雖モ之ヲ使用スルモ妨ケナキコトトスルヲ以テ斯カル被保險者證ニ付テハ其ノ「始期」欄ニ前記「開始日」欄ノ事項ヲ、「終期」欄ニ前記「終了日」欄ノ事項ヲ記載シ「日數」欄ハ之ヲ空欄ノ儘ト爲シ「備考」欄ニ終了事由ヲモ記載シ又業務上ノ事由ニ因ル傷病ト然ラサル傷病トハ從來通區別シ記載スルコト尤モ第二面及第三面ニ未タ記載ナキ被保險者證ニ在リテハ改正樣式ノ如クニ便宜訂正シ（卽チ「日數」ヲ「終了事由」ト訂正シ尙標題ヲ訂正スルカ如シ）使用スルモ差支ナシ

第三、療養證明書ノ記載方

一、療養證明書ノ樣式モ左ノ如ク改正セラルルコトト爲リタリ而シテ改正樣式ノ中「現ニ療養ヲ爲ス傷病名及給付開始年月日」欄ニハ療養證明書ヲ發行スル保險醫ニ於テ療養中ノ傷病名（齒ニ對スル療養ニ在リテハ患齒ノ部位ヲモ）ト之カ療養ノ給付ヲ開始シタル年月日ヲ記載スルモノナリ又「本證明書ニ依リテ爲シタル療養ノ給付」ノ各欄ハ療養ヲ爲シタル保險醫又ハ藥劑ノ支給ヲ爲シタル保險藥劑師ニ於テ其ノ療養證明書返還ノ際記載スルコトハ從來ニ同シ尙同欄中ノ各欄ノ記載方ニ付テハ前記被保險者證ノ各欄記載上ノ注意ニ準スヘキモノトス

改正ノ要點ハ左ノ如クニシテ是亦主トシテ健康保險法第四十七條ノ改正ニ伴フモノナリ

(イ)「現ニ療養ヲ爲ス傷病名」欄ヲ「現ニ療養ヲ爲ス傷病名及給付開始年月日」欄ニ改ムルコト

(ロ)「療養ヲ受ケムトスル傷病カ現ニ療養ヲ爲ス傷病ニ因リ發シタルモノナルトキハ現ニ療養ヲ爲ス傷病ニ付既ニ給付ヲ爲シタル日數」欄及「業務外ノ傷病ニ付本年內ニ於テ尙療養ノ給付ヲ受ケ得ヘキ期間ノ最終月日」欄ヲ削ルコト

(ハ)(ニ)「被保險者氏名自署」欄ヲ削ルコト

「本證明書ニ依リテ爲シタル療養ノ給付」欄ノ「始期」欄ヲ「開始日」欄ニ、「終期」欄ヲ「終了日」欄ニ改メ「日數」欄及「業務上業務外ノ別」欄ヲ削リ「終了事由」欄ヲ加フルコト

右ノ外處方箋ト共ニ交付スル療養證明書ニ在リテハ「工場又ハ事業場」欄及「現ニ療養ヲ爲ス傷病名及給付開始年月日」欄ヲ抹消スヘキモノニシテ又健康保險施行規則第四十五條第三項ノ書面ニ依リテ發行スル療養證明書ニ在リテハ「工場又ハ事業場」欄ヲ「共濟組合」欄トシテ該共濟組合ノ名稱及所在地ヲ記載スルコトハ大體從來ニ同シ

二、昭和四年五月三十一日以前ニ保險醫ヨリ被保險者又ハ被保險者タリシ者ニ交付シタル療養證明書ニ付テハ昭和四年六月一日以後ト雖之ヲ使用スルモ妨ケナキコトトスルヲ以テ斯カル療養證明書ニ付テハ「本證明書ニ依リテ爲シタル療養ノ給付」欄ノ各欄ハ改正樣式ノ如クニ便宜訂正シ（卽チ「日數」ヲ「終了事由」ト訂正シ「業務上業務外ノ別」ヲ削ルカ如シ）使用スモ差支ナシル

合本

療養證明書

被保險者證記號番號及			
被保險者	（氏名）		
	（男女別）	（生年月）	
	（住所）		
工場又ハ事業場	（名稱）		
	（所在地）		
現ニ療養ヲ爲ス傷病名及給付開始年月日			
發行年月日			
發行者	（村）何町（郡）何市（縣）何府 大字何何番地 何某㊞ 醫師（齒科醫師）何		

本證明書ニ依リテ爲シタル療養ノ給付								
傷病名	開始日	終了日	終了事由	備考	認印			

合本

●入院及一回ノ費用二十圓ヲ超ユル處置、手術其ノ他ノ治療承認申請ニ關スル件

（昭和四年七月五日　保發第三六八號社會局保險部長通牒）

健康保險署長宛

昭和三年四月十二日附保發第二七二號通牒中政府管掌被保險者ノ入院診療及一回ノ費用二十圓ヲ超ユル處置、手術其ノ他ノ治療承認申請書樣式別紙ノ通改正候條爾今右ニ依リ取扱相成度而テ從來承認書ハ申請書ノ裏面ヲ利用シタルカ今回ノ改正ニ於テハ之ヲ各別紙トナシタルニ付了知相成度尙本件改正ニ關シ日本醫師會ニハ通報致置候ヘ共公立病院ニ對シテハ當部ヨリ直接通報不致候ニ付管內ニ政府ト診療契約ヲ締結シタル公立病院アル向ハ當該病院ニ貴署ヨリ通報相成度

追テ從前ノ樣式ノ印刷餘部アル向ハ之ヲ訂正シ使用スルモ妨ケ無之

樣式第二號ノ一

入院一回ノ費用二十圓ヲ超ユル院診療承認申請書

被保險者氏名			性別及生年月		
被保險者ノ記號及番號			工場（事業場）名及所在地		
發病又ハ負傷ノ年月日及原因			業務上ト業務外ノ區別		
傷病名			療養ノ給付ヲ開始シタル年月日		
初診シタル年月日			費用見積額	入院料	
入院所要日數				手術料	
處置ノ種類				何々	
				計	
備考					

臺本

現症及診療ヲ必要トスル事由	
入院診療ヲ受ケタキ希望ノ病院名及其ノ所在地	診療所々在地 年　月　日
右ニ依リ入院一回ノ費用二十圓ヲ超ユル診療相受度候條御承認相成度及申請候	保險醫 公立病院保險醫 保險醫ニ非ル醫師　氏　名㊞
年　月　日 何健康保險署長殿	被保險者　住所　氏　名㊞

臺本

注意

一、「處置ノ種類」欄ニハ一回ノ費用二十圓ヲ超ユル處置、手術ハ勿論一回ノ費用二十圓以下ノ場合ト雖モ之ヲ記載（入院料中ニ包含サレタル處置料ハ特ニ記載スルニ及ハス）シ處置ノ場合ハ「手術」ノ文字ヲ手術ノ場合ハ「處置」ノ文字ヲ抹消スルコト

二、「費用見積額」欄ノ處置料手術料ハ其ノ種類毎ニ保險醫（公立病院ノ保險醫ヲ除ク）ニ於テ意見ヲ附スル場合ハ日本醫師會ノ定ムル診療報酬點數計算規程ニ依ル點數ヲ記載シ公立病院ノ保險醫又ハ保險醫ニ非ル醫師ニ於テ意見ヲ附スル場合ハ金額ヲ記載スルモノトス

樣式第二號ノ二　入一回ノ費用二十圓ヲ超ユル院診療承認書

入院スヘキ病院	診療所所在地		
	病院名		
入院豫定日數	入院ノ日ヨリ	日間	
一回ノ費用二十圓ヲ超ユル處置ノ種類			

年　月　日付申請ニ依ル入一回ノ費用二十圓ヲ超ユル院診療右ノ通承認候也

年　月　日

何健康保險署長

殿

注意

一、處置、手術ノ外一回ノ費用二十圓ヲ超ユル其ノ他ノ治療

ノ承認書ニ付テハ本樣式ヲ準用スルモノトス

二、入院診療若ハ一回ノ費用二十圓ヲ超ユル處置、手術其ノ他ノ治療ヲ受ケムトスル場合ハ本承認書及被保險者證又ハ療養證明書ヲ入院診療若ハ處置、手術其ノ他ノ治療ヲ受クヘキ病院ニ提出スルコトヲ要ス

三、入院豫定期間經過後仍入院診療ヲ受クルノ必要アルトキハ追加申請ヲ爲スコト

三、醫師ノ氏名ノ上部ニ在ル「保險醫」「公立病院」及「保險醫ニ非ル醫師」ハ其ノ該當スルモノヲ除キ他ハ抹消スルモノトス

四、入院診療ノ追加申請ヲ爲ス場合ニ於テモ本樣式ニ依ルモノトス此ノ場合ハ入院診療追加申請書ト記載スルコト

五、一回ノ費用二十圓ヲ超ユル處置、手術ヲ受クル場合ノ申請書モ本樣式トス此ノ場合入院ヲ必要トセサルトキハ「入院所要日數」欄及「入院診療ヲ受ケタキ希望ノ病院名及其ノ所在地」欄ヲ抹消スルコト

六、入院診療ノ承認ヲ受ケ現ニ入院中ノ者ニシテ一回ノ費用二十圓ヲ超ユル處置、手術ノ承認申請ノ場合ニハ現ニ入院中ノ病院名及入院承認ヲ受ケタル年月日ヲ「備考」欄ニ記載スルコト此ノ場合「入院所要日數」欄及「入院診療ヲ受ケタキ希望ノ病院名及其ノ所在地」欄ヲ抹消スルコト

七、處置、手術ノ外一回ノ費用二十圓ヲ超ユル其ノ他ノ治療ニ付テハ本樣式中處置、手術ニ關スル記載ニ準シテ記入スルコト

昭和四年九月二十四日

新潟縣知事　三　松　武　夫

社會局保險部長殿

●被保險者資格喪失ノ際ニ於ケル齒科診療ニ關スル件

（昭和四年十月五日保規第一八號社會局保險部長回答）

新潟縣知事宛

健第一一一六號

被保險者カ拔齒ノ給付ヲ受ケ其ノ結果咀嚼能力五〇%ニ低下シ引續キ義齒ノ給付ヲ受クル目的ヲ以テ齒齦ノ恢復ヲ待チツツア

入院日數	自年月日 至年月日	日間
處置手術シタルトキハ其ノ種類及完了年月日	年　月　日完了	
被保險者ノ署名捺印		

台本

ル間ニ資格ヲ喪失シタル場合ノ如キハ其ノ拔齒ト補綴トハ別個ノ觀念ニ於テ取扱フヘキモノト被存候ヘ共右拔齒カ義齒ノ裝著ヲ目的トシタルモノナルトキハ之ニ對シ資格喪失後ト雖補綴ノ給付ヲ爲スヘキモノナルヤニ被存疑義相生シ候ニ付何分ノ御指示相成度及照會候也

保規第一八號

昭和四年十月五日

社會局保險部長

新潟縣知事殿

●被保險者カ指定外ノ醫師ニ就キ受療セシ療養費用ニ付療養費請求權ヲ拋棄シタル場合ト療養ノ給付日數ニ關スル件

昭和四年九月二十四日附健第一一一六號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件ハ後段御見解ノ通ニ有之

（昭和四年十月十日保規第八四號社會局保險部長回答）

日淸印刷健康保險組合宛

昭和四年十月二日

日淸印刷健康保險組合

台本

社會局御中

療養給付日數ノ算定ニ關スル件

昨三年八月御發行健康保險時報第二卷第八號「健康保險法規疑義事項解釋」欄ニ御揭載ノ保險部大阪出張所長ヨリ郡是健康保險組合宛御回答（左ニ全文揭載）ハ現在ニ於テモ尙有效ノモノニ有之候哉否何分御指示煩度此段御伺申候也

記

法第四十七條及施行令第七十七條

被保險者カ指定外ノ醫師ニ就キ受療セシ療養費用ニ付療養費請求權ヲ拋棄シタル場合ト療養給付日數

被保險者カ保險者ノ指定セサル醫師ニ就キ療養ヲ受ケタル場合ニ於テ保險者ニ對シ療養費請求ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ其ノ受ケタル療養日數ハ保險給付ノ療養給付日數ニ算入スヘカラサルモノトス（昭和三年四月十九日附事發第一、〇〇二號ヲ以テ保險部大阪出張所長ヨリ郡是健康保險組合宛回答）

保規第八四號

昭和四年十月十日

社會局保險部長

日淸印刷健康保險組合御中

被保險者カ指定外ノ醫師ニ就キ受療セシ療養費用ニ付
療養費請求權ヲ拋棄シタル場合ト療養ノ給付日數ニ關
スル件

昭和四年十月二日附ヲ以テ伺出相成候標記ノ件ハ現在ニ於テモ仍效力ヲ有スルモノニ有之但シ被保險者カ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付一度療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受ケタルトキハ其ノ給付ヲ開始シタル日ヨリ起算シ百八十日ノ期間內ニ於テ療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受ケタルト否トヲ問ハス該期間經過後ハ當該疾病ニツキ給付ヲ受クルコトヲ得サルモノニ有之

●慢性疾患ニ對スル給付期間ニ關スル件

（昭和四年十月十日保理第一八五〇號社會局保險部長通牒）

鹿府縣長官（東京府ヲ除ク）及健康保險組合宛

標記ノ件ニ付製鐵所二瀨出張所健康保險組合ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（甲號）

二瀨健保第一二三號

昭和四年六月二十六日

福岡縣嘉穗郡穗波村
製鐵所二瀨出張所健康保險組合
理事長　中尾芳樹印

社會局長官長岡隆一郎殿

慢性疾患ニ對スル給付期間ニ關スル件

被保險者ニシテ從來喘息又ハ慢性胃腸炎、トラホーム等ニテ療養ノ給付ヲ受ケ居リシ者カ該病症輕快ノ爲（本人ハ全治ノ積リカ）保險醫ニ無屆ノ儘自ラ療養ヲ中止シタル後症狀增惡シ更ニ療養ノ給付ヲ求ムルモノ往々有之右ハ何レモ全然全治スヘキ疾病ニアラサルニ付法第四十七條ニ依リ同一病ノ取扱ヲ爲シ曩ニ療養ノ給付ヲ開始シタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ經過シタルモノナル場合ハ爾後幾年經過スルモ其ノ疾病ニ付キテハ療養ノ給付ヲ爲ササルハ勿論ナルヤ聊疑義相生シ候ニ付何分ノ儀至急御回示相成度此段相伺候也

（乙號）

保理第一八五〇號

昭和四年十月十日

製鐵所二瀨出張所健康保險組合御中

社會局保險部長

慢性疾患ニ對スル給付期間ニ關スル件

昭和四年六月二十六日附二瀨健保第一二三號ヲ以テ伺出ニ係ル

台本

標記ノ件右ハ御意見ノ如ク同一疾病トシテ取扱フヘキモノナルモ醫療ヲ中止シタル場合ニ於テ社會通念上治癒シタリト認メ得ヘキ狀態ニ在ルトキハ後ノ疾病ハ別個ノ疾病ト看做シ取扱フヲ妥當ト認メラレ候

●健康保險法第四十三條ト工場危害豫防及衞生規則第三十二條トノ關係ニ關スル件

（昭和四年十月二十三日保規第九六號社會局保險部長回答）

服部櫻田健康保險組合宛

發第六七號

昭和四年十月七日

服部櫻田健康保險組合理事長　小島　力

社會局長官吉田茂殿

健康保險法第四十三條ト工場危害豫防及衞生規則第三十二條トノ關係ニ關スル件

健康保險法ノ保險給付ハ被保險者カ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合ニ於テ療養ノ給付範圍ニ從ヒ夫々藥劑又ハ治療材料ヲ支給スヘキモノト解シ來リ候處本年九月一日ヨリ施行セラレタル工場危害豫防及衞生規則第三十二條ニ依リ工業主ニ於テ備ヘ付ケ支給スヘキモノト解セラル

保規第九六號

昭和四年十月二十三日

服部櫻田健康保險組合御中

社會局保險部長

康康保險法第四十三條ト工場危害豫防及衞生規則第三十二條トノ關係ニ關スル件

昭和四年十月七日附發第六七號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ御見解ノ通ニ有之

台本

●法第四十八條ニ依リ繼續療養中ノ被保險者ノ取扱ニ關スル件

（昭和四年十一月十三日保規第二二〇號社會局保險部長回答）

日醫療發第四二號
昭和四年十月二十六日

日本醫師會長　男爵　北里柴三郎

社會局保險部長石原雅二郎殿

法第四十八條ニ依リ繼續療養中ノ被保險者ノ取扱方ニ關スル件照會

健康保險法第四十八條ノ規定ニ依リ保險者ノ承認ヲ經繼續療養中ノ被保險者ニ對シ診療上必要アリト認ムル場合ハ同法第四十七條ノ規定ノ範圍內ニ於テ療養ノ給付ヲ受クル際ト同樣同法施行規則第四十九條ノ規定ニ依リ立合診療ノ承認申請ヲ爲シ得ヘキヤ若シ併發症アル場會ニ於テハ此ノ如ク被保險者證ノ提出ナキ場合ニ於テモ猶療養證明書ヲ發行シ差支無之候哉又被保險者ハ前述同樣ノ立場ニ於テ同法施行規則第四十八條ニ所謂保險醫變更ノ承認申請ヲ爲シ得ヘキヤ察スルニ當該被保險者ノ如キハ現ニ診療ヲ擔當スル保險醫ニ就キ診療ヲ受クヘキコトニ限定セラレ繼續療養ノ承認ヲ受ケタルモノト解セラルルヲ以テ上述ノ如キ取扱ハ不可然儀ト思料候得共一應貴見拜承致度候也

追而若シ卑見ノ通リトセハ前述ノ如キ場合ニ生シタル費用ニ付テハ直接被保險者側ニ其ノ支拂方ヲ求メ可然哉併セテ御回示相煩度

保規第二二〇號
昭和四年十一月十三日

社會局保險部長

日本醫師會長殿

法第四十八條ニ依リ繼續療養中ノ被保險者ノ取扱方ニ關スル件

昭和四年十月二十六日附日醫療發第四二號ヲ以テ照會相成候標記ノ件右ハ立會診療ノ承認申請ハ爲シ得ルモ其ノ他ハ貴會御見解ノ通ニ有之

●療養ノ給付ニ關スル件

（昭和四年四月二十六日保規第六一二號社會局保險部長回答）

神奈川縣醫師會健康保險部長宛

神醫健發第二六一二號
昭和四年十二月六日

神奈川縣醫師會健康保險部長　石川弘哲

台本

社會局保險部長殿

療養給付ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ左記ノ疑義有之候ニ付何分ノ御指示相仰度此段及伺候也

第一、或ル被保險者ヲ肺尖カタールニテ治療中漸次自覺症狀消滅シ他覺的ニ於テモ殆ンド病變ヲ認メサルニ至リ患者ハ新ニ就職ヲ希望シ保險醫ニ於テ就業可能ト認メラルル場合ニ之ヲ全治ト認メ差支ナキモノト思考候モ貴部ノ御意見如何

肺尖カタールノ如キ結核性疾患ハ上記ノ狀態ニテハ學理上全治ト認メ難キモ臨床的殊ニ就業上ニ支障ナキ程度ヲ目標トセルカ如キ保險給付ノ場合ニ於テハ之ヲ全治ト認メ差支ナキモノト解釋罷在候得共貴部ノ御意見如何

第二、若シ右ノ場合ニ於テ之ヲ全治ト認ムルコトヲ不得トセハ其際被保險者證ヲ返還スルニ當リ如何ナル轉歸ノ記入ヲナスヘキヤ

從來ノ轉歸ノ種類ニテハ之ニ該當スヘキモノヲ發見シ能ハス御明示ヲ乞フ

第三、若シ右ノ場合ニ於テ之ヲ全治トシテ一旦被保險者證ヲ返還シ被保險者ハ就業後一箇月或ハ三箇月乃至五箇月ノ期間後再ヒ前回ト同シク肺尖カタールノ病狀ニ就キ再ヒ醫療ノ給付ヲ受ケタル場合其ノ診療期間ノ決定ニ當リ今回ノ醫療給付ヲ新規ノモノトシ取扱フヘキモノト相認メ候得共貴部ノ御意見如何

保規第六一二號
昭和四年十二月二十六日

社會局保險部長

神奈川縣醫師會健康保險部長殿

療養ノ給付ニ關スル件

昭和四年十二月六日附神醫健發第二、六一二號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ就業上支障無之程度ノモノトセハ治癒ト認メ差支無之從テ其ノ後ニ罹レルモノハ再發ノ疾病トシテ取扱相成可然

●移送費ニ關スル件

（昭和五年一月十四日保規第八一號社會局保險部長回答）

京都府知事宛

四拾收第七三一號
昭和四年十二月二十四日

京都府知事

社會局保險部長殿

台本

移送費ニ關スル件

左記事項ニ關シ聊疑義有之候條何分ノ御回示相煩度

記

汽車ニテ移送ノ承認ヲナシタル被保險者ニシテ重症ノ爲主治醫（應急處置ヲナセル醫師）ノ注意ニ依リ仰臥ノ儘移送ノ必要アリクルモ偶々本移送區間ニハ寢臺車ナク又病客車ヲ使用セムニハ相當遠距離ヨリ取寄セヲ要スル爲臨機ノ處置トシテ驛長ノ指示ニ從ヒ患者座席ノ關係上二等車ニヨリ三名同乘シ之カ料金ヲ支拂ヒ右移送費トシテ患者料金ト併セテ四名分ヲ請求アリタル場合之カ右同乘者三名中二名ハ車ニ附添ノ爲同乘シタルモノトセハ之ニ要シタル汽車賃金ハ移送ニ要シタル費用ノ範圍ニ屬セスト雖モ他ノ一名ハ何等必要アリシモノニアラスシテ全ク驛長ノ指示ニ從ヒ座席ノ關係上特ニ同乘シタルモノトセハ此ノ者ニ要シタル汽車賃金ハ本人ノ汽車賃金ニ併セテ二人分ヲ移送ニ要シタル費用ト認メ得ルモノナルヤ又ハ患者一人ノ汽車賃金ノミ認ムヘキモノナルヤ

保規第八一號
昭和五年一月十四日

社會局保險部長

京都府知事殿
移送費ニ關スル件

昭和四年十二月二十四日附四給收第七三一號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ患者移送上附添ヲ必要ナリトセハ其ノ必要ノ限度ニ於テ移送費支給相成可然

●保險醫變更ニ關スル件

（昭和五年三月六日保規第二二〇號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官（東京府、島根縣ヲ除ク）、各健康保險組合、日本醫師會長及日本齒科醫師會長宛

標記ノ件ニ付島根縣知事ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

甲號

健第一九八號
昭和五年二月六日

島根縣知事

社會局保險部長殿

保險醫變更竝診療報酬請求方ノ件

左記ノ如キ場合保險醫變更ノ申請ヲ爲サシムルハ妥當ナラスト認メラレ候モ聊カ疑義相生候ニ付至急何分ノ義御回示相煩度此段及伺候也

記

一、被保險者カ甲乙兩保險醫共同經營ニ係ル病院ニ於テ甲保險醫ノ診療ヲ受ケツツアリシニ甲保險醫カ事故ノ爲不在ナル場合乙保險醫ノ診療ヲ受ケントスルトキハ例ヘ同一病院ト雖保險醫變更ト認ムヘキモノナルヤ

乙號

保規第二二〇號
昭和五年三月六日

社會局保險部長

島根縣知事殿

保險醫變更ノ件

昭和五年二月六日附健第一九八號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ伺出ノ如キ場合ニ於テハ便宜保險醫變更ノ手續ヲ省略スルモ支障ナシト被存候

●管轄外保險醫ノ承認ニ關スル件

（昭和五年三月二十七日保發第一〇三號社會局保健部長通牒）

廳府縣長官（但シ東京府知事ヲ除ク）宛

被保險者ニ對シ工場ノ所在地又ハ住所地ノ道府縣以外ノ保險醫ニ就キ診療ヲ受クルコトヲ承認スル場合ニ於テハ左記ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

記

一、旅行、歸鄉又ハ轉地ノ場合

（一）承認スヘキ保險醫ノ範圍

原則トシテ其ノ旅行、歸鄉又ハ轉地先道府縣ノ保險醫ニ付承認スルコト但シ保險醫ヲ特定シテ申請シタルトキハ其ノ保險醫ニ付承認スルコトハ妨ケナキモ保險醫ノ特定ヲ申請ノ要件ト爲スハ適當ナラサルコト

（二）承認期間

旅行、歸鄉又ハ轉地ノ見込期間但シ一月ヲ超ユルモノニ付テハ必要ニ應シ一月毎ニ申請セシムルモ支障ナキコト

二、傷病ノ狀況ニ依リ特定ノ保險醫ノ診療ヲ必要トスル場合

（一）承認スヘキ保險醫ノ範圍

當該保險醫

（二）承認期間

診療ノ見込期間但シ一月ヲ超ユルモノニ付テハ必要ニ應シ一月毎ニ申請セシムルモ支障ナキコト

三、工場所在地又ハ住所地ニ保險醫ナク保險醫アル近接市町村

追テ左記各項該當ノ場合ニ於テモ例ヘハ旅行中發病又ハ負傷シタルトキノ如ク緊急ノ取扱ヲ必要トスル場合アルヘク此ノ場合ニ於テハ事後追認申請ノ手續ヲ執ラシムルニ及ハサルモノニ有之爲念

記

一、旅行、歸鄉又ハ轉地ノ場合

（一）承認スヘキ保險醫ノ範圍

原則トシテ其ノ旅行、歸鄉又ハ轉地先道府縣ノ保險醫ニ付承認スルコト但シ保險醫ヲ特定シテ申請シタルトキハ其ノ保險醫ニ付承認スルコトハ妨ケナキモ保險醫ノ特定ヲ申請ノ要件ト爲スハ適當ナラサルコト

（二）承認期間

旅行、歸鄉又ハ轉地ノ見込期間但シ一月ヲ超ユルモノニ付テハ必要ニ應シ一月毎ニ申請セシムルモ支障ナキコト

二、傷病ノ狀況ニ依リ特定ノ保險醫ノ診療ヲ必要トスル場合

（一）承認スヘキ保險醫ノ範圍

當該保險醫

（二）承認期間

診療ノ見込期間但シ一月ヲ超ユルモノニ付テハ必要ニ應シ一月毎ニ申請セシムルモ支障ナキコト

三、工場所在地又ハ住所地ニ保險醫ナク保險醫アル近接市町村

カ他道府縣ナル場合

(一)　承認スヘキ保險醫ノ範圍

當該近接市町村ノ保險醫

(二)　承認期間

適宜

四、工場所在地又ハ被保險者ノ住所地ニ專門醫ナク其ノ專門醫アル近接市町村カ他道府縣ナル場合

(一)　承認スヘキ保險醫ノ範圍

近接市町村ノ當該專門醫

(二)　承認期間

適宜

五、前二項ノ場合ニ於テハ土地ノ事情申請ノ實情等ニ依リ豫メ公示ヲ以テ包括的ニ承認ヲ爲スモ妨ケナシ

●齒科診療範圍ニ關スル件

（昭和五年五月十七日　保規第二九五號社會局保險部長回答）

辻紡健康保險組合宛

昭和五年四月二十八日

辻紡健康保險組合

社會局保險部長殿

齒科診療範圍ニ關スル件

被保險者業務上前齒ニ負傷シ健康保險醫ニツキ治療ヲ受ケシメタルニソノ後ニ至リ固定裝置ヲナスニ非レハ維持困難ノ旨申出候ニツキ若シ組合ノ負擔ス可キ保險事故ニ屬スルナラハ組合之レヲ負擔シ保險事故ニ屬セサル時ハ事業主ノ負擔ト相定メ治療ヲ受ケシメタルニ京都府齒科醫師會ニテハ意見ヲ附シ難キ由ニヨリ右事故カ保險給付ノ範圍ニ屬スルヤ否ヤニ關シ疑義有之候間御指示相成度齒科醫師ノ補綴承認申請書相添及御伺候也

保規第二九五號

昭和五年五月十七日

社會局保險部長

辻紡健康保險組合御中

齒科診療範圍ニ關スル件

昭和五年四月二十八日附ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ固定裝置ヲ爲スニ非サレハ維持困難ナル場合ニ於テハ保險給付トシテ支給相成可然

●被保險者ノ住所ノ意義ニ關スル件

（昭和五年六月五日　保規第三一〇號社會局保險部長通牒）

警視總監宛

標記ノ件ニ付貴管下代々幡町幡ケ谷九百二十七番地株式會社電業社原動機製造所杉內某ヨリ別紙ノ通伺出有之候處右ハ左ノ通ニ有之候ニ付テハ可然本人ニ御示達相煩度

記

住所トハ生活ノ本據タル場所即チ一般生活ノ中心點タル一定ノ場所ヲ謂フモノナルカ故ニ本件ハ出張又ハ出稼ト言フ事實ニ拘泥セス生活ノ本據ヲ移シタルヤ否ヤニ依リ個々具體的ノ問題トシテ決定スヘキモノト思料ス從テ昭和二年八月二十四日附保理第二九九一號回答ニ於ケル單獨出稼者ト必スシモ同一ニ取扱難シ

（別紙）

左記事項疑義有之候ニ付御煩多中恐縮ニ存候ヘ共何分御教示相煩度此段及御照會申上候

一　甲工場ニ勤務ノ被保險者業務上管轄外ノ乙地ニ出張ヲ命セラレ乙地ニ於テ作業ニ從事スル場合又ハ甲工場カ業務上或期間休業スル時該被保險者カ乙地ニ出稼スル場合昭和二年八月二十四日附保理第二九九一號ヲ以テ保險部長ヨリ香川健康保險習長宛ノ回答ニ於ケル單獨出稼者ト同樣ニ解シテ可ナルヤ

二　若シ單獨出稼ト解スルヲ得ハ單獨又ハ家族同伴シ旅館、下宿他ニ同居若ハ一戶ヲ構フル時又ハ期間ノ長短ニ拘ラス此ノ間ニ於ケル該被保險者ノ住所ヲ乙地ト解シテ可ナルヤ

昭和五年五月十五日

杉內某

社會局保險部長殿

●移送費ニ關スル件

（昭和五年九月四日　保規第四二三號社會局保險部長回答）

警視總監宛

五健給發第六一五號

昭和五年七月二十四日

社會局保險部長殿

移送ノ給付ニ關スル件

健康保險法施行令第七十四條第一項第五號ノ移送ノ給付ニ關シ左記ノ通疑義相生候條至急何分ノ御指示相仰度此段及伺出候也

左記

一、左ノ如キ場合ニ於テハ醫師ノ診療所ニ至ルニハ非ラスト雖モ診療ヲ受クル必要アルモノト被認場合疾病又ハ負傷ノ狀態ニ依リ歩行スルコト能ハス又ハ歩行スルコト著シク困難ナルトキハ移送ノ給付ヲ爲シ支障ナキヤ

(イ)　負傷又ハ疾病ニ罹リタル場所ニ於テ醫師ノ診療ヲ受クルコトナク自宅若ハ其ノ他ノ場所ニ至リ直ニ醫師ノ往診ヲ求メ診療ヲ爲ス場合

(ロ)　負傷又ハ疾病ニ罹リタル場所ニ於テ醫師ノ應急手當ヲ受ケタル後自宅若ハ其ノ他ノ場所ニ至リ直ニ醫師ノ往診ヲ求メ診療ヲ爲ス場合

(ハ)　前二號ノ場合ニ於テ其ノ他ノ場所ニテ醫師ノ診療ヲ求メタル後更ニ自宅ニ至ル場合

二、左ノ如キ場合ニ於テハ醫師ノ診療所ニ至ルニハ非ラスト雖モ疾病又ハ負傷ノ狀態ニ依リ歩行スルコト能ハス又ハ歩行スルコト著シク困難ニシテ車馬乘用ヲ必要トスル場合アルヘク斯ノ如キ場合ハ移送ノ給付ヲ爲シ支障ナキヤ

(イ)　負傷又ハ疾病ニ罹リタル場所ニ於テ醫師ノ診療ヲ受ケタル後靜養ノ爲自宅若ハ其ノ他ノ場所ニ至ル場合

(ロ)　前號ノ場合ニ於テ其ノ他ノ場所ヨリ更ニ靜養ノ爲自宅ニ至ル場合

三、管轄區域外ニ於テ保險醫ノ診療ヲ受ケタル被保險者ニシテ傷病ノ診療上營轄區域內ノ自宅ニ至リ保險醫ノ診療ヲ受クルヲ最モ適當トシ管轄外療養地ヨリ自宅ニ至リタル場合ハ移送ノ給付ヲ爲シ支障ナキヤ

四、被保險者就業中又ハ工場及附屬建設物內ニ於テ負傷シ疾病ニ罹リタル場合醫師ノ診療所又ハ自宅若ハ其ノ他ノ場所ニ至リ醫師ノ診療ヲ受ケタル場合ニ於ケル移送ハ工場法施行規則第十四條ニ依リ事業主ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ健康保險ニ於テ移送ノ給付ヲ爲ササルモノト解シ可然哉

保規第四二三號
昭和五年九月四日

社會局保險部長

警視總監殿

移送費ニ關スル件

昭和五年七月二十四日附五健給發第六一五號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ左記ノ通ニ有之

記

一、二、三、給付スヘキモノト被認但シ證ニ失セサル樣注意相成度

四、健康保險ニ於テ移送ノ給付ヲ爲スノ要ナシト思料ス

●人工流產手術料金ノ件

（昭和五年十月二十九日保規第五〇九號社會局保險部長回答）

伊丹製絨所健康保險組合理事長宛

保發第五二號
昭和五年十月十二日

伊丹製絨所健康保險組合

社會局保險部長殿

人工流產手術料金ノ件

姙娠中ノ被保險者某突然出血アリ休養中ノ處其出血止ラサルニ付人工流產ノ手術ヲ行ヒ娩出シタリ姙娠四箇月未滿（姙娠八十五日未滿）ニシテ手術料四拾圓ヲ要シタリ

右ノ場合ハ疾病トシテ取扱フヘキヤ何分ノ御指示賜リ度此段伺出候也

保規第五〇九號
昭和五年十月二十九日

社會局保險部長

伊丹製絨所健康保險組合理事長殿

人工流產手術料金ニ關スル件

昭和五年十月十二日附保發第五二號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ疾病トシテ取扱相成可然

●精神病患者取扱ニ關スル件

（昭和五年十二月六日保規第四六八號社會局保險部長回答）

岸和田紡績健康保險組合理事長宛

五發第六四號
昭和五年八月二十七日

岸和田紡績健康保險組合

社會局保險部長殿

精神病患者取扱ニ關スル件

左記ノ場合ニ於テ取扱上聊カ疑義相生候ニ付何分ノ儀御回示相煩度此段及御伺候也

記

精神病患者（躁鬱症又ハ躁狂症）ニシテ監禁ヲ要スル程度ノモノナルニ付精神病院ニ隔離收容シタルトキ又ハ自宅ニ於テ監禁收容シタルトキハ健康保險法施行令第七十四條規定ノ療養ノ給付ノ範圍トシテ認ムヘキモノナリヤ否ヤ

保規第四六八號
昭和五年十二月六日

社會局保險部長

岸和田紡績健康保險組合理事長殿

精神病患者取扱ニ關スル件

昭和五年八月二十七日附五發第六四號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ療養ノ趣旨ニ出ツル範圍ニ於テ健康保險ノ療養ノ給付ノ範圍內ト被認候

追而健康保險法第六十二條第二項該當者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲ササルハ勿論ニ有之爲念

●血液檢査ノ結果黴毒反應陽性ナルモノノ處置ニ關スル件

（昭和六年五月六日保規第四〇號社會局保險部長回答）

東京電燈健康保險組合理事長宛

東電健發第六八七號

昭和六年三月三日

東京電燈健康保險組合理事長　新田宗雄

社會局保險部長殿

血液檢査ノ結果黴毒反應陽性ナルモノノ處置ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ左記ノ通リ疑義相生シ候ニ付テハ至急何分ノ御指示相仰度此段及稟伺候也

記

一、組合カ保健施設トシテ被保險者ノ血液檢査ヲ爲セル結果單ニ黴毒反應陽性ナル場合ハ之ヲ以テ保險事故タル疾病ト認メラルヘキヤ否ヤ若シ認メラレストスレハ法律的意義ニ於テ然ルヤ或ハ單ニ醫師會ノ引請クル診療範圍等ヲ考慮スル意味ニ於テ然ルヤ

二、右ノ場合何レニスルモ疾病ト認メラレス從テ療養ノ給付ヲ爲シ得ストスレハ黴毒菌ヲ保有スルコトニ因ル醫學的竝心理的影響ニ鑑ミ組合ハ被保險者ノ健康ヲ保持スル爲保健施設トシテ驅黴療法ヲ施行シテ可ナルヤ

保規第四〇號

昭和六年五月六日

社會局保險部長

東京電燈健康保險組合理事長宛

血液檢査ノ結果黴毒反應陽性ナルモノノ處置ニ關スル件

昭和六年三月三日附東電健發第六八七號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ左記ノ通ニ有之

記

一、黴毒血清反應陽性ナルモ何等疾病トシテノ徵候ヲ認メサル場合ニハ健康保險法ニ於テハ保險事故タル疾病ノ範圍ニ屬セサルモノトス

二、前項ノ場合ニ於テハ保健施設トシテ適宜驅黴方法ヲ爲スハ差支ナシト思料セラル但シ黴毒血清反應陽性ナルモ必スシモ黴毒ニ基因スルト謂フヲ得ス他ノ疾病其ノ他ノ原因ニ基キ同樣ノ反應アルコトヲ以テ其ノ原因ニ關シテハ愼重ニ調査スルヲ要スルハ勿論トス爲念

●健康保險ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院等ニ關スル勅令施行ニ關スル件中改正ノ件

（昭和六年五月二十六日保發第三四七號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官（但シ東京府ヲ除ク）宛

官公立ノ大學附屬醫院其ノ他之ニ準スヘキ病院ニ於テ爲ス一回ノ費用二十圓ヲ超ユル處置、手術等ノ給付又ハ病室收容ニ關スル手續ノ改正ニ付テハ這般健康保險課長會議ノ際指示ノ次第モ有之候ニ付右ニ關シ昭和六年五月二十一日附ヲ以テ昭和二年十二月八日內務、文部省令中改正省令公布相成即日施行セラレ候條御諒知相成度爲念

追テ本改正省令ニ依リ被保險者ヨリ承認申請アリタル場合ニ於テハ一般ノ場合ニ付事務取扱規程ノ定ムル所ニ準シ御取扱相成度尙又官公立大學病院所在地ヲ管轄スル地方長官以外ノ地方長官ニ於テ承認ヲ與ヘタル場合ニ於テハ當該病院ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ對シ遲滯ナク其ノ旨通知相成候樣致度

●精神病患者ノ病院收容ニ關スル件

（昭和六年七月十四日保規第一四〇號社會局保險部長回答）

京都府知事宛

六健保給療收第六五一號

昭和六年六月十九日

京都府知事

社會局保險部長殿

精神病患者ノ病院收容ニ關スル件

精神病ニ對シテハ單ニ監置ノ目的ヲ以テ入院セシムルハ保險給付トシ認メ難キハ明ナル處ニシテ當府ニ於テモ醫師ノ監視ヲ要スルモノト認メタル者ニ限リ特ニ精神病院入院ヲ承認致シ來リ候處今回當管內被保險者ニシテ家庭事情ノ原因ニヨリ被害妄想狂ト爲リ殘作的暴行ノ虞レアルヲ以テ入院申請ヲナシタル者ニ對シ一定期間醫師ノ監視ヲ要スヘキ者ト認メ本府醫師會ノ意見ヲ徵シタルニ同會ニテハ公安ヲ害スル虞レアル精神病患者ハ當然精神病者監護法ヲ適用サルヘキモノニシテ他ニ疾病ノ伴フ場

合之カ治療上入院ヲ必要トスル場合以外ハ其ノ必要ヲ認メサルカ如キ意見ニ有之哉カ見解異ナリ候ニ就テハ之カ認定ノ範圍ニツキ至急何分ノ御指示相仰度此段伺出候也

保規第一四〇號
昭和六年七月十四日

社會局保險部長

京都府知事殿

精神病患者ノ病院收容ニ關スル件

昭和六年六月十九日附六健給療收第六五一號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ精神病者監護法ノ適用アル場合ト雖モ精神病療養上病院ニ收容スルコトヲ必要トスル場合ニ於テハ健康保險法ノ規定ニ依リ病院收容ヲ爲スコトヲ得ルモノニ有之候條實情調査ノ上可然措置相成度

●被保險者資格喪失後ノ補綴給付ニ關スル件

（昭和六年九月十七日保規第一八一號社會局保險部長回答）

廣島縣知事宛

廣健第六五四〇號
昭和六年八月十五日

廣島縣知事

社會局保險部長殿

被保險者資格喪失後ノ補綴給付ニ關スル件

標記ニ關シ客月十五日附廣健第六五四〇號ヲ以テ御照會相成候處左記ノ通ニ有之

記

一、被保險者カ單ニ身體ノ違和ヲ訴ヘ診察ヲ求メ診斷ノ結果姙娠ト判明セル場合ヲ診察（勿論治療行爲ヲ含マザル單ナル診察）

一、視力異狀ヲ訴ヘ眼科醫ノ診察ヲ求メ診斷ノ結果近視ト判明セル場合ノ診察

猶右ノ場合ハ視力檢査ヲモ療養給付範圍內ニ屬セシムベキ處前ノ場合ハ法第五十五條ノ適用ナク後ノ場合ハ適用アルモノニ有之

●療養給付ノ範圍ニ關スル件

（昭和六年十二月十四日保規第二五一號社會局保險部長回答）

日本醫師會長宛

日醫發第一六七號
昭和六年十二月一日

日本醫師會長　北島多一

社會局保險部長石原雅二郎殿

療養給付範圍ニ關スル件

左記ノ場合ハ當然健康保險法施行令第七十四條第一項第一號ニ該當シ標記ノ範圍內ト認メラレ候得共爲念御照會申上候也

記

一、被保險者カ單ニ身體ノ違和ヲ訴ヘ診察ヲ求メ診斷ノ結果姙娠ト判明セル場合ヲ診察（勿論治療行爲ヲ含マザル單ナル診察）

一、視力異狀ヲ訴ヘ眼科醫ノ診察ヲ求メ診斷ノ結果近視ト判明セル場合ノ診察

猶右ノ場合ハ視力檢査ヲモ療養給付範圍內ニ屬セシムベキヤ

保規第二五一號
昭和六年十二月十四日

社會局保險部長

日本醫師會長殿

療養給付範圍ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ本月一日附日醫發第一六七號ヲ以テ御照會相成候處左記ノ通ニ有之

記

一、御見込ノ通

一、御見込ノ通

●療養ノ給付期間ニ關スル件

（昭和六年十二月二十六日保規第三二號社會局保險部長回答）

警視總監宛

六健給發第七九號
昭和六年二月二十四日

警視總監

社會局保險部長殿

療養ノ給付期間ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ左記ノ通疑義相生候條至急何分ノ御回示相仰度此段及稟伺候也

記

一、被保險者カ眼疾ノ自覺疾狀アリ保險醫ノ診療ヲ需メタルニ診察ノ結果白內障ト診斷セラレタルモ未タ成熟セサルヲ以テ治療スヘキ時期ニ至ラサル旨申渡サレ何等ノ治療ヲ受ケス其ノ後甚シク視力障碍ヲ來セルヲ俟テ改メテ診察ヲ受ケントシタルニ初メ診察ヲ受ケタル日ヨリ起算セハ百八十日ヲ經過セル後ナリシ事實アリ如斯場合ニ於テ之ヲ法第四十七條ノ給付期間滿了セルモノトシテ診療ヲ拒否スルハ酷ニ失スルモノト思料セラルルヲ以テ本件ノ如キ事例ニ於テハ診察ノ當日以後再度診療ヲ需ムル迄ノ期間ハ給付期間ノ進行ヲ停止スルモノトシテ取扱フコトニ心得支障ナキヤ

保健第三二號
昭和六年十二月二十六日

社會局保險部長

警視總監殿

●健康保險法第四十八條第一項療養給付ニ關スル件

療養ノ給付期間ニ關スル件

昭和六年二月二十四日附六健給發第七九號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ伺出ノ場合ニ於テハ保險給付ハ一旦終了シタルモノト看做シ後ノ給付ニ付テハ別ニ期間ノ計算ヲ爲スヲ妥當ト被認

（昭和六年十二月二十六日保規第二六一號社會局保險部長回答）

岐阜縣知事殿

健康保險法第四十八條第一項療養給付ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ本月十七日附六健第二七七一號ヲ以テ伺出相成候處右ハ被保險者所屬ノ府縣ニ於テ徵收スヘキモノニ有之

保規第二六一號
昭和六年十二月二十六日

社會局保險部長

岐阜縣知事殿

健康保險法第四十八條第一項療養給付ニ關スル件

當管內被保險者電擊火傷ノ爲療養給付期間滿了後標記ニ依リ繼續療養給付ノ申請有之候ニ保險醫ハ他府縣管內官立大學病院ニ有之依ツテ政府ト該官立大學病院トノ診療契約書ニ基キ右費用ハ官立大學病院所在地ノ縣ニ於テ支拂致スヘキモノト被存候就テハ法第四十八條第二項ノ規定ニ依リ該所要費用ハ被保險者所屬ノ縣ニ於テ徵收スヘキモノナリヤ將又官立大學病院所在地ノ縣ニ於テ徵收スヘキモノナリヤ卿カ疑義有之候條何分ノ御指示相成度此段及御伺候也

●療養ノ給付斷續ノ場合ニ於ケル「同一疾病治癒」ノ社會通念ニ關スル件

（昭和七年三月九日保規第八九號社會局保險部長回答）

日光電氣精銅所健康保險組合理事長宛

日電保第五二號
昭和七年二月二十五日

日光電氣精銅所健康保險組合理事長　金子　智

社會局保險部長殿

療養給付斷續ノ場合ニ於ケル「同一疾病治癒」ノ社會通念ニ關スル件

法第四十七條ノ療養給付ヲ斷續シテ行フトキ同一疾病ナリヤ否ヤヲ定ムヘキ標準ハ社會通念上治癒セルヤ否ヤニ依リ決定スヘシトナスモ左記ノ如ク醫學上ハ全治ニ至ラサルモ療養中斷續期間種々アル場合何日以上ヲ以テ又如何ナル標準ヲ以テ社會通念上治癒セルモノト看做スヘキヤ、或者ハ療養中斷二百日以上及ブモノハ之ヲ一旦治癒シタルモノトナシ又或者ハ五十日以上療養給付ヲ中斷シ得ル程度ノモノハ一旦治癒セルモノト看做スヘシトナス兩者何レヲ可トスヘキヤ

右御敎示相煩度及御照會候也

保規第八九號
昭和七年三月九日

社會局保險部長

日光電氣精銅所健康保險組合理事長殿

療養ノ給付斷續ノ場合ニ於ケル「同一疾病治癒」ノ社會通念ニ關スル件

昭和七年二月二十五日附日電保第五二號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ療養中止後相當期間繼續シテ業務ニ服シ治癒シタリト認メ得ヘキ狀態ニ在リシヤ否ヤニ依リテ決スヘキモノニシテ何日間ヲ以テ相當期間トナスヘキヤハ各個々ノ場合ニ付決定スヘキモノニ有之

●看護ノ取扱ニ關スル件

（昭和七年三月三十日保規第一〇五號社會局保險部長通牒）

兵庫縣知事宛

標記ノ件ニ關シ貴縣神戸市平野馬場町一七八ノ三八淵野某ヨリ別紙寫ノ通伺出相成候處右ハ保險者カ被保險者ノ傷病ノ療養上看護婦ヲ附スルノ必要アリト認メタル場合ニ於テ看護婦ノ無キ場合等ヲ謂フ義ニ有之候條可然本人ヘ御示達相煩度

（別紙寫）

昭和七年三月十日

社會局保險部御中

淵野某

昭和二年三月十日附保發第二五八號御通牒ニ係ル看護ノ取扱ニ關スル件中ノ「特別ノ事情」トハ大體如何ナル場合ヲ謂フ義ニ候哉拜承致度御伺申上候

●外科手術後ノ整形手術ニ關スル件

（昭和七年五月十四日保規第一五五號社會局保險部長回答）

警視總監宛

七健給發第一五一號

昭和七年五月三日

警視總監

社會局保險部長殿

外科手術後ノ整形手術ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ左記ノ通疑義相生シ候ニ付テハ至急何分ノ御指示相仰度此段及稟伺候也

記

外科手術後ノ形態整形手術ニ就テハ昭和三年十二月四日附保險部長ヨリノ通牒「診療方針ニ關スル件」第九號ニ依リ療養ノ給付ヲ爲ササルモノト有之候處當廳管內被保險者ニシテ工場ニ於テ作業中轉倒竈ニ觸レ右手ニ火傷ヲ負ヒ傷病ハ全治シタルモ右指ハ拇指ヲ除キ四指高度ノ瘢痕攣縮アリ四指ノ使用全然不可能ニ陷リ業務ニモ支障ヲ來セル者アリ

右ノ場合機能ヲ障害セルモノナルヲ以テ單ナル美容ヲ目的トセル整形手術ト同一視スルハ酷ニ失スル樣被認整形手術ニ依リ瘢痕攣縮ヲ除去ナサシメ差支ナキヤ否ヤ

保規第一五五號

昭和七年五月十四日

社會局保險部長

警視總監殿

外科手術後ノ整形手術ニ關スル件

台本

●被保險者ノ移送ノ給付ニ關スル件

（昭和七年七月十九日保規第二三一號社會局保險部長回答）

神奈川縣知事宛

七健發第九四四二號

昭和七年六月二十七日

神奈川縣知事

社會局保險部長殿

被保險者ノ移送給付ニ關スル件

健康保險ノ被保險者ニ對スル移送給付ハ被保險者ヲ手術又ハ重態ノ爲病院ニ移送スル場合、負傷若ハ罹病ノ場所ヨリ自宅ニ移送スル場合、轉居先ニ移送スル場合等ニシテ保險者ニ於テ必要アリト認ムル場合ニ限リ支給スルモノニシテ通院ノ爲ノ移送ハ特別ノ事情ナキ限リ原則トシテ之ヲ認メサル法意ナリト解シ處理相成可然哉取扱上疑義相生シ候條此段相伺候也

保規第二三一號

昭和七年七月十九日

第二編　健康保險　第二款　健康保險關係例規及通牒

昭和七年五月三日附七健給發第一五一號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件右ハ治療未タ完成セサルモノト認メラルルモノニ付テハ療養ノ給付ヲ爲スヘキノト被思料候

神奈川縣知事宛

被保險者ノ移送ノ給付ニ關スル件

昭和七年六月二十七日附七健發第九四四二號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件右ハ大體御見込ノ通ナルモ病院ニ收容ノ爲移送スル場合ハ被保險者カ重態ナルトキノミニ限ラス疾病又ハ負傷ノ狀態ニ依リ病院迄步行スルコト能ハス又ハ步行スルコト著シク困難ナルトキハ移送ノ給付ヲ爲スヘキモノトス病院ニ收容不可能ノ場合、病院ニ收容セサルヘカラサル程度ノモノニ非スト認メタル場合又ハ醫師ニ於テ外科治療ノ爲据付アル機械器具ノ關係等ノ爲往診ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テ而モ治療ノ必要上通院ヲ要スル場合ニ於テ被保險者カ傷病ノ狀態ニ依リ診療所迄步行スルコト能ハス又ハ步行スルコト著シク困難ナル場合亦同シ

台本

社會局保險部長

●傳染病患者ノ取扱ニ關スル件

（昭和七年八月二十五日保規第二六七號社會局保險部長回答）

岡山縣知事宛

健第二八四四號

昭和七年八月二日

岡山縣知事　篠原英太郎

社會局保險部長代理　富田愛次郎殿

傳染病患者ノ取扱方ニ關スル件

標記ニ關シ左記事項ニ付卿カ疑義有之候處右ハ差懸リ處理ヲ要スル事項モ有之候條至急何分ノ御回示相仰度

左記

一、被保險者法定傳染病ニ罹リタル場合傳染病豫防法ニ依リ公共團體ノ病舍ニ收容セラルルヨリハ設備ノ完全ナル官立大學附屬醫院ノ隔離病舍ニ健康保險患者トシテ收容セラルルコトヲ希望シ又ハ被保險者自身ニハ傳染病豫防法ニ依リ公共團體ノ隔離病舍ニ收容セラルルコトヲ嫌忌セサルモ市町村自體ニ於テ其ノ費用ノ負擔ヲ免レンカ爲事業主等ト相謀リ官立醫科大學附屬醫院隔離病舍又ハ保險醫ノ經營スル隔離病舍ニ患者ヲ送リ同時ニ入院承認申請アリタルトキハ入院ノ承認ヲ拒否スル擬ヒハ已ムヲ得サルモノト認メラル如何

二、被保險者外科ノ疾病ニテ承認ヲ受ケ官立醫科大學附屬醫院ニ入院中法定傳染病ヲ併發シ其ノ後外科ノ疾病ハ入院ヲ要セサル程度ニ治癒シタルモ尙法定傳染病ハ隔離ヲ要スル場合ハ外科ノ疾病ニテ入院ヲ承認セシ期間ノ費用ハ健康保險ノ費用ニテ之ヲ支拂ヒ其ノ後ハ該患者ヲ市町村ニ引渡キ而シテ其ノ費用ヲ傳染病豫防法ニ依リ當該市町村ノ負擔ニ歸セシムヘキヤ

三、被保險者「高熱」等ノ主訴ノ下ニ官立大學附屬醫院ノ診察ヲ受ケタル場合ニ於テ同醫院ニ於テハ當時ノ症狀已ムヲ得サルモノトシテ直ニ入院セシメタリ而シテ檢查ノ結果玆數日後ニ至リ法定傳染病(チブス)ト診定セリコノ場合ニ於テ被保險者ヨリ其ノ後ニ至リ「昭和二年十二月八日附內務文部省令第八條ノ二」ニ依ル入院ノ屆書ヲ提出シタルトキハ傳染病ト診定セサル以前ノ期間ニ對スル入院ハ之ヲ追認シ傳染病ト診定後ノ期間ハ傳染病豫防法ニ依リ當該市町村ヲシテ其ノ費用ヲ負擔セシムヘキモノナリヤ或ハ全期間ニ對スル分ヲモ當該市町村ノ負擔タラシムヘキモノナリヤ

四、被保險者法定傳染病ニテ官立大學附屬醫院ニ私費ニテ入院シタルトキ同大學長ヨリ療養ニ要シタル費用中入院セサル場合ニ要スヘカリシ費用ヲ後日請求シ來リタル場合ハ「昭和二年四月九日附保第五五九號社會局保險部長ヨリ山口健康保險署長宛回答等」ニ依リ其ノ費用ヲ支拂フヘキカ或ハ傳染病豫防法ニ依リ其ノ費用ハ當該市町村ニ負擔セシムヘキヤ將又療養ニ要セシ費用ハ全部被保險者ノ負擔ニ屬セシムヘキヤ

五、社會局長官ト官立大學長トノ健康保險ニ關スル診療協定書ニ依レハ官立大學附屬醫院ハ已ムヲ得サル事由アルトキハ

台本

セシムヘキヤ

台本

知事ノ承認ヲ經ス被保險者ヲ直ニ同醫院ニ收容セシメ得ラルルコトニ規定セラレ居リ又一方被保險者ハ斯ル場合ハ直ニ入院シテ已ムヲ得サル事由止ミタル後届書ヲ提出スルコトニ規定セラレ居レリ右ノ如キ規定ナルヲ以テ官立大學附屬醫院ニ於テ已ムヲ得サル事由アリト認メ收容シタルトキハ假令知事ニ於テ入院ノ必要ヲ認メサルヲ至當トスル場合ニ於テモ（被保險者ヨリ最初入院承認申請書ヲ提出シ來リ之ニ對シ不承認ノ決定書ヲ交付シタルニ後日ニ至リ右ハ大學附屬醫院ニ於テ已ムヲ得ス直ニ入院セシメタルモノナリト主張シ被保險者ヨリ入院ノ屆書ヲ改メテ提出シタル場合ヲモ含ム）後日同大學長ヨリ入院料ヲ請求シ來リタル場合ハ之ヲ追認シテ支拂ハサルヘカラサルモノナリヤ或ハ被保險者ヨリ入院屆等ノ提出アリタル場合ニ知事ニ於テ其ノ全部又ハ一部ヲ追認シ若ハ追認セサル文書ヲ交付シ而シテ追認シタル部分ノ入院料ノミヲ支拂モ差支ナキモノナリヤ

保規第二六七號

昭和七年八月二十五日

社會局保險部長

岡山縣知事殿

傳染病患者ノ取扱ニ關スル件

昭和七年八月二日附健第二、八四四號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件ハ左記ノ通ニ有之

一　入院ノ承認ヲ拒否シ得サルモノト思料ス

二　保險者ニ於テ之カ費用ハ全部負擔スヘキモノトス但シ傳染病ノ病原體保有者ノ隔離ハ健康保險ノ療養ノ給付ノ範圍ニ屬セサルモノトス

三　前號同斷

四　被保險者證ヲ提示シ入院ノ承認ヲ得スシテ入院料ノミ被保險者ニ於テ負擔シタルトキハ前段御見込ノ通ナルモ被保險者證ヲ提示セスシテ私費ニテ入院シタルトキハ保險者ハ之カ費用ヲ負擔スルコトヲ要セサルモノトス

五　前段御見込ノ通尙協定書第三條第二項但書ノ病室收容ニ關シテハ大學當局ト篤ト協調セラルル樣致度

●正規分娩ノ際會陰裂創ヲ惹起シタル場合ノ處置ニ關スル件

（昭和七年九月三日保規第二八一號社會局保險部長通牒）

日本醫師會長宛

標記ノ件ニ關シ兵庫縣知事ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ乙號ノ通回答致置候

（別紙）

甲號

兵健給第五四六六號

昭和七年八月十九日

兵庫縣知事

社會局保險部長殿

助產手當ノ範圍ニ關スル件

被保險者カ正規分娩ノ際會陰裂創ヲ惹起シタル場合其ノ括約筋縫合ハ分娩ノ直接介助ニ非ス裂創ノ處置ハ分娩ニ對スル手當ト全然別個ナルヲ以テ療養給付ノ範圍ニ屬スヘキモノト解セラレ候得共一面健康保險產婆ノ手ニ依リ助產ノ手當ヲ受ケツツ分娩ノ同時ニ會陰裂創ヲ起シ其ノ縫合ハ分娩ニ對スル後處置ニ屬シテ兩者ハ之ヲ分離スヘカラサルモノナルヲ以テ助產手當トシテ給付スヘキモノトモ解セラレ何レニ從フヘキヤ聊カ疑義相生候ニ付何分ノ御回示相仰度此段稟申候也

乙號

保規第二八一號

昭和七年九月三日

兵庫縣知事

社會局保險部長殿

昭和七年十月十一日

鹿兒島縣知事殿

社會局保險部長

療養ノ給付ノ範圍ニ關スル件

昭和七年九月六日附健給第一、五九四號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件右ハ瘢痕强直カ醫師ニ於テ診斷ノ結果疾病ト認ムル程度ノモノトセハ療養ノ給付ヲ爲スヘキモノニ有之

●正規分娩ノ際會陰裂創ヲ惹起シタル場合ノ處置ニ關スル件

（昭和七年十月十三日保規第三三二號社會局保險部長回答）

日本醫師會長宛

日醫受第五二七七號

昭和七年十月四日

日本醫師會長　北島多一

社會保險部長　川西實三殿

正規分娩ノ際會陰裂創ヲ惹起シタル場合ノ處置ニ關スル件

客月三日附保規第二八一號ヲ以テ標記ノ件ニ關スル兵庫縣知事ト貴局トノ照覆御回附有之候處右ノ內兵庫縣知事照會文內容中

正規分娩ノ際會陰裂創ヲ惹起シタル場合ノ處置ニ關スル件

昭和七年八月十九日附兵健給第五四六六號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件右ハ前段御見込ノ通ニ有之

●療養ノ給付ニ關スル件

（昭和七年十月十一日保規第二九八號社會局保險部長回答）

鹿兒島縣知事宛

健給第一五九四號

昭和七年九月六日

鹿兒島縣知事　市村慶三

社會局保險部長　川西實三殿

保險給付ノ範圍ニ關スル件

左足第五趾足背中央部ヨリ高度瘢痕强直ヲ起シ（凍傷ニ原因セル瘢痕强直）步行座位等ニ疼痛アルヲ以テ植皮術及强制法施療ノ爲入院承認願出ノ處右ハ凍傷ニ原因セス瘢痕强直ナルカ故ニ步行座位ニ疼痛ヲ感スルト雖被保險者本來ノ業務ニ支障ヲ來サザル場合ニ於テハ保險給付ノ範圍外ト思料セラレ候モ聊疑義相生シ候條何分ノ義御指示相煩度此段相伺候也

保規第二九八號

昭和七年十月十一日

鹿兒島縣知事殿

社會局保險部長

療養ノ給付ノ範圍ニ關スル件

昭和七年九月六日附健給第一、五九四號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件右ハ瘢痕强直カ醫師ニ於テ診斷ノ結果疾病ト認ムル程度ノモノトセハ療養ノ給付ヲ爲スヘキモノニ有之

●正規分娩ノ際會陰裂創ヲ惹起シタル場合ノ處置ニ關スル件

（昭和七年十月十三日保規第三三二號社會局保險部長回答）

日本醫師會長宛

日醫受第五二七七號

昭和七年十月四日

日本醫師會長　北島多一

社會保險部長　川西實三殿

正規分娩ノ際會陰裂創ヲ惹起シタル場合ノ處置ニ關スル件

客月三日附保規第二八一號ヲ以テ標記ノ件ニ關スル兵庫縣知事ト貴局トノ照覆御回附有之候處右ノ內兵庫縣知事照會文內容中

「會陰裂創ヲ惹起シタル場合其ノ括約筋縫合ハ如何ナル場合ニ於テモ醫師ニ於テ之ヲ爲スヘキモノニシテ產婆ノ業務ノ範圍ニ屬セサルハ勿論ノ儀ト被存候處右照會後段ノ內容ハ恰モ之ヲ產婆ニ於テモ爲シ得ルモノノ如ク誤斷セラレ易キ文體ニ有之候間或ハ疑義ヲ生スル虞無之ヲ保シ難キヤウ被思料候條爲念一應及伺出候也

保規第三三二號

昭和七年十月十三日

社會局保險部長

日本醫師會長殿

正規分娩ノ際會陰裂創ヲ惹起シタル場合ノ處置ニ關スル件

昭和七年十月四日附日醫受第五二七七號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件右ハ分娩ノ際會陰裂創ヲ惹起シタル場合ノ括約筋縫合ハ醫師ニ於テ之ヲ爲スヘキ義ニ有之

追テ本件ニ關シテハ左記產婆規則有之候條爲念

記

產婆規則（明治三十三年勅令第三四五號）拔萃

第七條　產婆ハ姙婦產婦褥婦又ハ胎兒ニ異常アリト認ムルトキハ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時緊急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　産婆ハ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ産科器械ヲ用ヒ藥品ヲ投與シ又ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切リ灌腸ヲ施スノ類ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　左ニ揭クル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一乃至四（省略）

五　第七條乃至第九條ノ二ニ違背シタル者

●移送ノ給付ニ關スル件

（昭和八年五月四日保規第一五〇號社會局保險部長回答）

高知縣知事宛

健發第八〇八號

昭和八年四月七日

高知縣知事

社會局保險部長殿

移送ノ給付ニ關スル件

健康保險法施行令第七十四條第一項第五號ノ移送ノ給付ニ關シ左記ノ通リ疑義相生候條至急何分ノ御指示相成度此段及伺出候也

追而本件ハ目下差迫リタル事件有之候條特ニ至急御回示相成度申添候

記

被保險者就業中又ハ工場及附屬建設物内ニ於テ負傷シ疾病ニ罹リタル場合醫師ノ診療所又ハ自宅若ハ其ノ他ノ場所ニ至リ醫師ノ診療ヲ受ケタル場合ニ於ケル移送ハ工場法施行規則第十四條ニ依リ事業主ニ於テ之ヲ爲スベキモノナルコトハ昭和五年七月二十四日附五健給發第六一五號警視總監照會ニ對スル貴官ノ回答（昭和五年九月四日附保規第四一三號）ニ依リ明ナル處ナルモ右ハ大正五年八月三日農商務省令第二十一號鑛夫勞役扶助規則第三十四條ノ場合ニ於テモ同樣ノ性質ノモノト認メ事業主ニ於テ之ヲ爲スベキモノト解シ可然哉

保規第一五〇號

昭和八年五月四日

社會局保險部長

高知縣知事宛

移送ノ給付ニ關スル件

昭和八年四月七日附健發第八〇八號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件ハ御見解ノ通ニ有之

參照

鑛夫勞役扶助規則（抄）

第三十四條　鑛夫就業中又ハ事業場内ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遲滯ナク醫師ノ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

●法第五十五條ノ規定ニ依リ被保險者資格喪失後引續キ療養ノ給付ヲ受クル者ノ取扱方ニ關スル件

（昭和八年五月二十六日保發第三六〇號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官（東京府ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ關シテハ健康保險法第五十五條該當者ガ被保險者證ヲ所持セル關係上往々不都合ナル結果ヲ生スルコト有之哉ニ及閉候條爾今左記ニ依リ取扱相成樣致度此段及通牒候也

記

一、被保險者資格喪失後健康保險法第五十五條ノ規定ニ依リ引續キ療養ノ給付ヲ受クル者ニ付テハ被保險者ヨリ直チニ其ノ保險醫ニ其ノ資格喪失ノ年月日ヲ申出テシムルコト

二、事業主ヲシテ被保險者資格喪失屆ノ備考欄ニ法第五十五條該當者カ現在診療ヲ受ケツツアル保險醫ノ住所氏名ヲ記入セシムルコト

三、前項ノ屆出アリタルトキハ地方長官ハ直チニ當該法第五十五條該當者ニ付左ノ事項ヲ擔當保險醫ニ通知スルコト

一、法第五十五條該當者ノ氏名

二、被保險者資格喪失年月日

三、療養ノ給付ヲ受ケ得ル傷病名明瞭ナルトキハ其ノ傷病名

四、法第五十五條該當者ノ現ニ診療ヲ受ケツツアル保險醫ガ數人アル場合ニ於テハ各保險醫ニ付前三項ノ取扱ヲ爲スコト

（昭和八年五月二十六日保發第三六〇號社會局保險部長通牒）

健康保險組合理事長宛

標記ノ件ニ關シテハ健康保險法第五十五條該當者ガ被保險者證ヲ所持セル關係上往々不都合ナル結果ヲ生スルコト有之哉ニ及閉候條爾今左記ニ依リ取扱相成樣致度此段及御通牒候也

記

一、被保險者資格喪失後健康保險法第五十五條ノ規定ニ依リ引續キ療養ノ給付ヲ受クル者ニ付テハ被保險者ヨリ直チニ其ノ保險醫ニ其ノ資格喪失ノ年月日ヲ申出テシムルコト

二、事業主ヲシテ被保險者資格喪失屆ノ備考欄ニ法第五十五條該當者ノ現在診療ヲ受ケツツアル保險醫ノ住所氏名ヲ記入セシムルコト、但シ組合ノ事務取扱方法ニ依リ被保險者又

ハ被保險者タリシモノノ現ニ診療ヲ受ケツツアル保險醫ノ住所氏名ガ常ニ判明シ特ニ法第五十五條該當者ニ付事業主ノ報告ヲ必要トセサル場合ニ於テハ右ノ手續ハ之ヲ省略スルコトヲ得

三、前項ノ屆出アリタルトキハ組合ハ直チニ當該法第五十五條該當者ニ付左ノ事項ヲ擔當保險醫ニ通知スルコト

一、法第五十五條該當者ノ氏名

二、被保險者資格喪失年月日

三、療養ノ給付ヲ受ケ得ル傷病名明瞭ナルトキハ其ノ傷病名

四、法第五十五條該當者ノ現ニ診療ヲ受ケツツアル保險醫ガ數人アル場合ニ於テハ各保險醫ニ付前三項ノ取扱ヲ爲スコト

●看護ノ承認方針ニ關スル件

（昭和八年五月二十九日）
（保規第二四一號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官（東京府ニ在リテハ警視總監）
健康保險組合理事長宛

標記ノ件ニ付淺野造船所健康保險組合ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ乙號ノ通回答致置候

甲號

昭和七年六月十六日

淺野造船所健康保險組合

內務省社會局保險部長殿

一、入院患者附添看護婦承認方針ニ關スル御伺ノ件

今般神奈川縣警察部ヨリ神奈川縣醫師會健康保險部ニ對シ今後入院患者ニ對スル附添看護承認ノ場合ハ左記三項ニ據ル方針ノ旨通牒アリタル趣ヲ以テ神奈川縣醫師會ニテハ昨今現實ニ自用ヲ辨シ難ク而モ他ニ附添人ナキ重症患者ト雖尙附添看護ヲ認メサル爲當組合トシテハ同會ノ認定ニ戻リ附添看護ノ承認モナシカネ不承認續出ノ現狀ニ御座候而シテ右ハ元ヨリ受持保險醫カ附添看護ヲ必要トシタルモノヲ同會ニ於テ不承認ノ場合ニ有之候斯カル狀勢ヲ持續ノ結果ハ被保險者トノ紛糾ヲ滋カラシムルハ勿論果シテ治療上ノ萬全ヲ期シ得ルヤ否疑ナキ能ハサル儀ニ御座候

元來當組合ニハ診療上ノ智識ナク一ニ同會ノ意見ヲ尊重シ事務處理ノ關係上斯カル場合ニ於テ多少共危惧ノ念ヲ抱キ候儘何分ノ御指示ヲ相仰キ安シテ當組合ノ使命ヲ遂行致度候

右奉伺候也

入院患者看護婦附添ニ關スル件

（神奈川縣警察部長ヨリ神奈川縣醫師會ヘノ通牒）

一、看護婦附添ヲ承認スヘキ場合ハ症狀重篤ニシテ而モ不絕其

ノ經過ヲ監視シ又ハ隨時適當ナル處置ヲ執ル必要アル場合等ニシテ看護ニ關スル相當ノ智識技能ヲ有スル者ヲ附添ハシムルニ非サレハ療養困難ナル場合ニ限ルコト

二、病院ニ收容シタル場合ハ當該病院ノ人的設備トシテ醫師及看護婦ノ適當人員ヲ有スル筈ナルヲ以テ之等ノ看護婦ニ依リ療養上必要ノ處置ヲ得ヘシト思慮セラルル場合ハ承認セサルコト

三、獨身ニテ家庭ニ看護人無キ爲メ又ハ自用ヲ辨シ難キ爲メ等ノ理由ニ依ルモノハ承認セサルコト

乙號

保規第二四一號

昭和八年五月二十九日

社會局保險部長

淺野造船所健康保險組合理事長殿

看護ノ承認方針ニ關スル件

昭和七年六月十六日附ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ被保險者ニ對シ看護ノ給付ヲ爲ス場合ニ於テハ保險者ハ獨自ノ權能ニ依リ之カ給付ヲ爲スコトヲ得ル義ニ有之

追而看護ノ承認ヲ爲スヘキ場合ハ被保險者ノ症狀重篤ニシテ常時監視ヲ要シ又ハ隨時適當ナル處置ヲ講スル必要アル場合等ニ限ルモノト御了知相成度

●看護ノ承認方針ニ關スル件

（昭和八年五月二十九日）
（保發第三六二號社會局保險部監査課長通牒）

健康保險組合理事長宛

標記ノ件ニ關シ昭和八年五月二十九日附保規第二四一號ヲ以テ別途通牒相成候處右乙號追書ニ揭クル場合ニ準スル場合トシテハ全身的ニハ必スシモ重篤ナラストモ食藥飼ノ攝取、兩便等全ク自用ヲ辨ジ難キ症狀ニシテ且四圍ノ生活事情ガ全ク孤獨ナル患者ナルトキ是等療養上直接必要ナル附添ヲ爲ス場合ノ如キヲ考慮シ得ルモノト被存候

●病院ノ意義ニ關スル件

（昭和九年三月二十八日）
（發保第二二號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官（東京府ヲ除ク）
健康保險組合理事長宛

健康保險法第四十三條及第四十六條ニ所謂病院トハ原則トシテ昭和八年十月四日內務省令第三十號診療所取締規則第一條ノ病院ヲ謂フ義ニ有之但シ療養ノ必要上已ムヲ得スト認メラルル場合ニ於テハ醫師、看護婦等ノ配置、設備、構造等カ入院診療ニ支障ナキモノト認メタル診療所ニ限リ健康保險法第四十三條ノ病院トシテ取扱相成候樣致度

●保險醫變更承認ノ件

（昭和九年七月十一日
保醫第二六八號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官（東京府知事ヲ除ク及
健康保險組合理事長宛

標記ノ件ニ關シ別紙甲號九州鑛業木屋瀨健康保險組合ヨリノ伺出ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候條御了知相成度

（別紙）

甲號

ホ保發第五三號
昭和九年五月七日

福岡縣鞍手郡木屋瀨町大字金剛八九八番地
九州鑛業木屋瀨健康保險組合

社會局保險部長殿

保險醫變更承認ノ件伺

首題ノ件ニ付テハ昭和二年二月二日付保醫第六〇號ヲ以テ部長殿ヨリ通牒ニ接シ其ノ一ヨリ五ハ明ラカニ御教示有之候ヘ共六ノ其ノ他特別ノ事由アル場合ノ件ニ付其ノ內容及實例ヲ御教示相煩度此段及相伺候也尙事業場ニ於テ局部骨折、外傷患者ノ場合ニ於テ取敢ス附近ノ保險醫ニ應急手當ヲ受ケ然ル後專門保險醫ノ療養ヲ受クルヲ通常ト致シ居リ候斯如キ場合ハ如何ナル手續ヲナスカ妥當ナルヤ重ネテ御教示被下度御願申上候

乙號

保醫第二六八號
昭和九年七月十一日

社會局保險部長

九州鑛業木屋瀨健康保險組合御中

保險醫變更承認ノ件

標記ノ件ニ關シ五月七日附ホ保發第五三號ヲ以テ伺出相成候處右質疑ニ係ル特別ノ事由アル場合ハ大體左記事例ニ依リ御了知相成度尙伺出後段ノ場合ハ患者ノ症狀カ專門醫ノ診療ヲ必要トスル場合ニ於テハ保險醫變更ノ手續ヲ執ラシムル樣取計ラハレ度

記

一、症狀ニ依リ專門醫ノ診療カ必要又ハ不必要トナリタル場合
二、從來ノ保險醫辭任シ又ハ其ノ指定ヲ取消サレタル場合
三、受診者ニシテ入院又ハ手術カ必要トナリ從來ノ保險醫ニ其ノ設備ナキ場合
四、受診者ニシテ勤務時間變更ノ關係ヨリ又ハ積雪其ノ他交通上ノ事故ニヨリ或ハ病勢亢進シ特ニ從來ノ保險醫ニ通院スルコト困難トナリタル場合

以上

五、從來ノ保險醫カ醫師變更ヲ萬メタル場合
六、受診者歸鄉シ又ハ轉地療養ヲ爲ス場合
七、從來ノ保險醫ニ依ル治療經過良好ナラサル場合

●藥劑又ハ治療材料ニ關スル件

（昭和十年一月九日
保規第三四二號社會局保險部長回答）

愛知縣知事宛

健第六五二二號
昭和九年十二月十一日

社會局保險部長殿

愛知縣知事

藥劑又ハ治療材料ニ關スル件

植皮術又ハ輸血術施行ノ場合ニ於ケル標記ノ件ニ關シ昭和三年六月二十六日附保理第一四〇號ヲ以テ東京健康保險署長ニ對シ及昭和八年七月二十二日附保規第二九一號ヲ以テ本縣宛御回示相成居候處尙左記ノ點取扱上疑義有之候ニ付何分ノ御指示相仰度此段及伺出候也

記

一、健康保險法施行令第七十四條第二項ノ費用中ニハ處置手術其ノ他ノ治療ニ要スル同條第一項第二號ノ藥劑又ハ治療材料ヲ合算スヘキモノト解スヘキヤ

二、（省略）

三、（省略）

保規第三四二號
昭和十年一月九日

愛知縣知事殿

藥劑又ハ治療材料ニ關スル件

昭和九年十二月十一日附健第六五二二號ヲ以テ照會相成候標記ノ件ハ左記ノ通有之

記

一　御見込ノ通

二　（省略）

三　（省略）

●法第五十五條該當者ノ保險醫變更及管轄外保險醫ノ承認ニ關スル件

（昭和十年一月十日
保發第八號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官（東京府知事ヲ除ク）宛

療養ノ給付ヲ受クル被保險者其ノ資格喪失後歸鄉シテ法第五十

五條ノ規定ニ依リ引續キ療養ノ給付ヲ受クルニハ保險醫變更ノ承認ヲ要スルモ昭和元年十二月內務省令第一號「政府ノ管掌スル健康保險ノ被保險者カ療養ノ給付ヲ受クルコトヲ得ヘキ醫師及齒科醫師竝藥劑師ニ關スル件」第二條ノ規定ニ依リ管轄外保險醫診療ノ承認ハ之ヲ要セサル義ニ有之爲念

●被保險者移送ノ場合ニ於ケル附添人日ノ當ニ關スル件

（昭和十年四月十八日保規第一〇三號社會局保險部長回答）

三重縣知事宛

健給收乙第一〇一八號

昭和十年四月六日

三重縣知事

社會局保險部長殿

被保險者移送ノ場合ニ於ケル附添人ノ日當ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ左記ノ通リ疑義相生候條至急何分ノ御指示相仰度此段及稟伺候也

記

一、被保險者神經衰弱ニテ療養中發狂シタルヲ以テ歸鄉療養ノタメ自動車ニ依リ移送セシメタル際疾病ノ性質上不絕監視ヲ必要トスル場合ニ於ケル附添人ノ日當ハ移送費トシテ給付シ差支ナキヤ

一　右ノ場合被保險者ノ家族或ハ親族ノ如キ者附添シタル場合モ同樣日當給付シ差支ナキヤ

一、右兩者支給支障ナキモノトセハ附添人ノ日當料金算出基準保規第一〇三號

昭和十年四月十八日

社會局保險部長

三重縣知事宛

被保險者移送ノ場合ニ於ケル附添人ノ日當ニ關スル件

昭和十年四月六日附健給收乙第一〇一八號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ原則トシテ附添人ニ要シタル旅費ノミヲ支給スヘキモ特別ノ事情ニ由リ附添人ヲ傭入レタル場合ニ於テハ之ニ要スル費用ヲモ支給相成可然

●保險醫ノ診療ヲ受クル被保險者入院診療ノ必要上病院ニ收容スル場合ノ手續ニ關スル件

（昭和十年五月六日保發第三〇七號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官宛

標記ノ件ニ關シ三重縣知事ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）

甲號

健給收乙第一一六一號

昭和十年四月十八日

三重縣知事

社會局保險部長殿

保險醫ノ診療ヲ受クル被保險者入院診療ノ必要上病院ニ收容スル場合ノ手續ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ左記ノ通リ疑義相生候條至急何分ノ御指示相仰度此段及稟伺候也

記

一、現ニ保險醫（入院設備ナキ醫院）ノ治療ヲ受クル被保險者ニシテ症狀增惡ノタメ外科的手術ノ必要上擔當醫ノ意見書ヲ添ヘ入院診療ノ設備アル病院ニ入院診療承認方申請アリタルヲ以テ之カ承認ヲ爲シタリ而シテ此場合ハ健康保險法施行令第七十五條第二項ニヨル保險醫變更ノ手續ヲ省略シ得ルモノノ如ク認メラルヽモ其ノ樣取扱差支ナキヤ

一、右ノ入院承認期間經過後ハ保險醫變更ノ手續ナクシテ再ヒ前保險醫（入院設備ナキ）ノ診療ヲ受ケシムヘキモノナリヤ或ハ引續キ入院中ノ診療ヲ爲シタル保險醫ノ診療ヲ受ケシムヘキモノナリヤ

乙號

保發第三〇七號

昭和十年五月六日

社會局保險部長

三重縣知事殿

保險醫ノ診療ヲ受クル被保險者入院診療ノ必要上病院ニ收容スル場合ノ手續ニ關スル件

昭和十年四月十八日付健給收乙第一、一六一號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件左ノ通ニ有之

記

一、貴見ノ通

一、入院前ノ診療ヲ受ケタル保險醫ニ就キ診療ヲ受クル必要ア

ル場合ニ於テハ保險醫變更ノ手續ヲ要スルモノニ有之

●入院診療承認ニ關スル件

（昭和十年六月三日保規第一六八號社會局保險部長通牒）

京都府知事宛

保規第一六八號
昭和十年六月三日

社會局保險部長

京都府知事宛

入院診療承認ニ關スル件

昭和十年五月七日附十健保給發第二一號ヲ以テ照會相成候標記ノ件右ハ前段御見込ノ通取扱相成可然

十健給發第二一號
昭和十年五月七日

京都府知事　鈴木信太郎

社會局保險部長殿

入院診療承認ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ別記ノ通卿カ疑義有之候ニ付何分ノ御指示相仰度此段及稟伺候也

記

一、被保險者嘗テ數回盲腸炎ニ罹病當時腹膜炎ヲ併發シ手術不可能ニシテ蟲樣突起切除術ヲ行フコト能ハサリシ爲內科的療法ニ依リ右疾病ハ治癒シ勞務可能ノ狀態トナリタルモ被保險者ハ將來從前ノ過激ナル勞務ニ服スルトキハ再發ノ怖レ多分ニアルトノ主治醫ノ意見ニ從ヒ間歇時ニ於テ蟲樣突起切除術ヲ行ハムトスル入院手術ハ承認可然モノト思料セラルルモ其ノ適否

若シ右入院手術ヲ認メサルトキハ被保險者自費ニテ右手術ヲ行ヒタル場合ニ於テ手術後療養ヲ目的トスル入院診療ハ昭和四年六月二十九日附保理第一七〇四號通牒ノ趣旨ニ基キ不承認可然モノト思料セラルルモ之カ承認ノ適否

●蟲樣突起切除術ノ承認ニ關スル件

（昭和十年九月二十五日保規第一六八號社會局保險部長通牒）

日本醫師會長宛

保規第一六八號
昭和十年九月二十五日

社會局保險部長

日本醫師會長宛

蟲樣突起切除術ノ承認ニ關スル件

台本

翼ニ電話ヲ以テ照會相成候昭和十年六月三日附保規第一六八號京都府知事宛回答入院診療承認ニ關スル件右ハ京都府知事ヨリ伺出（被保險者盲腸炎ニ罹リ其ノ罹病當時蟲樣突起切除術ヲ爲スヘカリシ狀態ナリシモ腹膜炎ヲ併發シタル爲之カ手術不可能）ノ如キ特殊ナル場合ニ限リ之ヲ認メタル趣旨ニ有之候條御了知相成度

●處方箋ニ關スル件

（昭和十一年一月二十一日發保第三號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官、日本醫師會長、日本齒科醫師會長宛
日本藥劑師會長

發保第三號
昭和十一年一月二十一日

社會局保險部長

廳府縣長官
日本醫師會長
日本齒科醫師會長　殿
日本藥劑師會長

處方箋ニ關スル件

保險醫被保險者ニ對シ處方箋ヲ交付スル場合ニ於テハ健康保險法施行規則樣式第十四號所定ノ記載事項ヲ具備セハ足リ必スシモ同樣式ニ依ラサルモ差支ナキモノトシテ御取扱相成候樣致度

●保險者變更ノ場合ニ於ケル法第五十五條該當者ノ費用ニ關スル件

（昭和十一年二月三日保規第一三號社會局保險部長通牒）

倉紡健康保險組合理事長宛

保規第一三號
昭和十一年二月三日

社會局保險部長

倉紡健康保險組合理事長宛

保險者變更ノ場合ニ於ケル法第五十五條該當者ノ費用ニ關スル件

昭和十一年一月二十二日附ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ事業ノ編入ノ日前ニ健康保險法第五十五條ニ該當シタル者ノ保險給付ハ其ノ事業編入ノ日前ノ保險者之ヲ爲スヘキモノニ有之

昭和十一年一月二十二日

倉敷市元町四九七ノ四
倉紡健康保險組合
理事長　林　桂二郎

社會保險部長　川西實三殿

保險者變更ノ場合ニ於ケル法第五十五條該當者ノ費用ノ負擔ニ關スル件伺

台本

拜啓　政府管掌タリシ被保險者ヲ今回編入ニ依リ當組合ノ管掌ニ移動シタル結果ニ於テ政府管掌タリシ當時既ニ被保險者ノ資格ヲ喪失シ引續キ給付中ノ所謂法第五十五條該當者ノ費用ノ負擔ニ關シ左記ノ通リ甲乙二說有之當組合ニ於テハ甲說ヲ正當ナリト認メ候得共聊カ疑義有之候ニ付テハ事情差迫リ居候次第モ有之至急何分ノ御垂示賜リ度此段伺上候也

追テ乙說ヲ是ナリト御認メ相成候場合ハ御面倒ナカラ詳細其ノ理由並ニ法第五十六條及同五十七條ニ言フ最後ノ保險者トハ何レヲ指スモノニ候哉併テ御教示相願度申添候

記

甲說　被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際受ケツツアル保險給付ニ付テハ同一保險者カ引續キ給付ヲ爲スヘキコトハ法第五十五條ニ依リ明カニシテ假令編入ニ依リ保險者ニ變更アリタリト雖モ右原則ニ例外規定ナキ限リ不勤ノ錢則ナリトス從ツテ引繼以前ノ保險事故ニ對シテハ組合ノ勿論關知セサル事項ナルヲ以テ右ハ當然前保險者ノ負擔タルヘキモノトス

乙說　引繼後ハ全部ノ事項カ組合ニ移行シタルモノナルヲ以テ法第五十五條該當者ノ保險給付ト雖モ當然變更後ノ保險者即チ組合ノ負擔タルヘキモノトス

以上

●業務上ノ負傷トシテ取扱フヘキヤ否ヤニ關スル件

（昭和十一年三月二十三日）
（保規第四〇號社會局保險部長通牒）
磐城炭礦健康保險組合理事長宛

保規第四〇號
昭和十一年三月二十三日

社會局保險部長

磐城炭礦健康保險組合理事長殿

業務上ノ負傷トシテ取扱フヘキヤ否ヤニ關スル件

昭和十一年三月十四日附磐保給第三二號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ業務上ノ事由ニ因ル負傷トシテ取扱相成可然

磐保給第三二號
昭和十一年三月十四日

福島縣石城郡內鄉村大字綴字榎下十二番地
磐城炭礦健康保險組合
理事長　濱崎善三郎

社會局長官　膚瀨久忠殿

業務上ノ負傷トシテ取扱フヘキヤ否ヤニ關スル伺ノ件

左記事故ニ關シ業務上ノ負傷トシテ取扱フヘキヤ否ヤニ關シ疑義相生シ候ニ付何分ノ義御指示相仰度此段及御伺候也

台本

追テ本件ハ差迫リタル都合有之候條特ニ至急御指示方御願申上候

記

一、被保險者カ出勤ノタメ又ハ作業ヲ終リ歸宅ノタメ其ノ途中事業主經營ノ礦業專用電車（從業員及其ノ家族以外ノ乘車ヲ禁止ス）ニ乘車シ各自目的地ニ向ヒツツアリタルニ上リ下リノ電車カ正面衝突ヲナシ數名ノ負傷者ヲ出シタリ斯カル場合電車從業員ニシテ被保險者タル者ノ負傷ニ對シテハ當然業務上ニ因スル事故トシテ取扱フ可キモノナルモ便乘シタル被保險者ニシテ負傷シタル者ニ就テハ業務上ニ因セサル事故トシテ取扱フヲ妥當ト被認候モ聊カ疑義相生シタル次第ニ御座候

●同一ノ疾病ナリヤ否ヤ等ニ關スル件

（昭和十一年五月三十日）
（保規第一二四號社會局保險部長通牒）
播磨造船所健康組合理事長殿

保規第一二四號
昭和十一年五月三十日

社會局保險部長

播磨造船所健康組合理事長殿

同一ノ疾病ナリヤ否ヤ等ニ關スル件

昭和十一年五月八日附播保發第一一ノ一七號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ左記ノ通ニ有之

記

一、三月三日ヨリ新ナル疾病トシテ給付スヘク此ノ場合康保險ニ於テハ業務上ノ事由ニ因ラサル疾病トシテ取扱フヘキモノトス

二、最後ノ發作後相當期間ヲ經過シ症狀モナク治療ノ要モナク且又勞務ニ服スルコトヲ得ル狀態ニ在リシトキハ後ノ發作ハ再發シタルモノトシテ取扱フヲ妥當ト思料セラル

播保發第一一ノ一七號
昭和十一年五月八日

播磨造船所健康保險組合
理事長　橫尾籠

社會局保險部長　清水玄殿

拜啓　新綠ノ砌益御清穆ノ段奉大賀候陳者今般下記ノ通リ疑義相生シ候間御多忙中乍恐縮至急御回示ヲ得度此段及御願候也

敬具

記

一、當組合被保險者某昨年九月二十三日作業中約一・八米ノ高所ヨリ山形鋼（一二粁×一〇〇粁×一五〇粁×二三八〇粁、

台本

重量五三瓩）落下シ同人頭部ニ當リタル爲腦震盪症ヲ起シ且ツ左上膊挫傷アリ業務上トシテ速時入院加療中ノ處經過良好ニテ十一日目ニハ退院シ引續キ自宅ニテ十一月九日迄休業療養ノ後同月十日ヨリ出勤シ十二月二十日全治ノ診定ヲ受ケタリ此ノ間十一月十一日迄ハ投藥ヲ受ケタルモソノ後ハ單ニ經過診斷ノ爲通院シタルニ止マリテ服藥セス專ラ滋養物ノ攝取ヲナシタルノミナリキ然シテ本年一月ヨリハ全ク健康回復シタルヲ以テ殘業ニ加ハリ日々午後九時或ハ十時迄殘業ヲ續ケ時折頭痛ヲ感シタル事アリタルモ大シタル事モナク打過クル內三月三日輕度ノ癲癇樣狀態ヲ發作シタルモ五分間程ニテ常態ニ服スル事ヲ得タリ然シ乍ラ醫師ノ奬メニヨリ同日ヨリ二十日迄休業ナシタリ二十一日ヨリ出勤相變ラス多忙ニ終始スル內四月三日又々同樣症狀發作シ（目ヲ塞ギ或ハ目ヲ釣リ上ケテ倒レタママ手足ヲ打振リテ暴レ廻リ身體ヲ反ラシテ絕エス動キ爲ニ手足ヲ縛シテソノ靜マルヲ待チタルモソノ時ハ此ノ狀態二日ニモ及ヘリ普通癲癇ト異リ泡ヲ吹カス）診斷ノ結果外傷性癲癇トシテ前記腦震盪ニ起因セルモノト診定セラレタリ、以上ノ經過ニシテ之カ保險給付ニ關シテハ一ニハ九月二十三日ヲ起日トセハ三月二十一日期間滿了トナルヲ以テ保險給付ナシ得サル樣解セラレ他ニハ原因ハ前者ニ誘發セラレタリト雖モ前者ト後者トノ全然別種ノモノト思考セラルルニ依リ四月三日ヨリ新ナル疾病トシテ給付スヘキ樣ニモ解セラレ候右ニ關シテハ果シテ何レヲ採リテ宜敷ヤ御敎示煩度尙此ノ場合若シ新ナル疾病トシテ取扱フ場合ハ業務外疾病ト致スヘキヤ

二、癲癇ノ場合保險給付日數ノ算定ハ第一回ノ發作ノ時ヲ起算日トスヘキヤ或ハ發作アリタル都度新ナル疾病トシテ取扱フヘキヤ

以上

●傳染病患者ノ取扱ニ關スル件

（昭和十一年六月十七日保規第九九號社會局保險部長通牒）

日本醫師會長宛

保規第九九號

昭和十一年六月十七日

社會局保險部長

日本醫師會長宛

傳染病患者ノ取扱ニ關スル件

昭和十一年四月二十三日附日醫發第三六號ヲ以テ照會ニ係ル標記ノ件右ハ被保險者カ傳染病ニ罹リ法定傳染病ト診定セラレタル場合ニ於テ市町村ノ經營スル傳染病院等又ハ醫師ノ經營スル傳染病院等ヲ選擇シテ入院シ得ルモノニ有之

日醫發第三六號

昭和十一年四月二十三日

日本醫師會長　北島多一

社會局長官　廣瀨久忠殿

傳染病患者ノ取扱ニ關スル件

標記ノ件ニ關スル昭和七年八月二日及同二十五日附ノ貴局對岡山縣知事照覆中左記ノ疑義相生シ申居候處爾後ノ取扱上遺憾ノ點不尠仍テ此際何分ノ御回示方相煩度此段得貴意候也

記

岡山縣知事照會左記第一項並右ニ對スル貴局ノ回答ハ被保險者カ公共團體ノ病舍ヲ嫌忌シ之ニ收容セラルルコトヲ拒否スルカ如キ事實並ニ市町村自體ニ於テ其ノ費用ノ負擔ヲ免レムカ爲メ事業主等ト相謀リ健康保險ノ負擔ニ於テ入院セシムルカ如キ明ニ不純ナル意慾ニ發スル事實ヲ公認シ寧ロ之ヲ助長スル結果ト相成猶如斯保險者ノ意思ナクシテ入院セントスルモノニ對シ單ニ入院ヲ拒否シ得サルモノトシテ取扱ハサルヘカラサルモノト

傳染病院等ヲ選擇シテ入院シ得ルヤハ一ニ傳染病豫防法令ニ依ルヘキモノニシテ市町村長又ハ傳染病豫防委員ニ於テ認容シタルトキハ被保險者ノ健康保險ノ被保險者ノ診療ヲ擔當スル官公立病院若ハ保險醫ノ經營スル傳染病院等ヲ選擇シテ入院シ得ルモノニ有之

日醫發第三六號

昭和十一年四月二十三日

日本醫師會長　北島多一

社會局長官　廣瀨久忠殿

傳染病患者ノ取扱ニ關スル件

標記ノ件ニ關スル昭和七年八月二日及同二十五日附ノ貴局對岡山縣知事照覆中左記ノ疑義相生シ申居候處爾後ノ取扱上遺憾ノ點不尠仍テ此際何分ノ御回示方相煩度此段得貴意候也

記

岡山縣知事照會左記第一項並右ニ對スル貴局ノ回答ハ被保險者カ公共團體ノ病舍ヲ嫌忌シ之ニ收容セラルルコトヲ拒否スルカ如キ事實並ニ市町村自體ニ於テ其ノ費用ノ負擔ヲ免レムカ爲メ事業主等ト相謀リ健康保險ノ負擔ニ於テ入院セシムルカ如キ明ニ不純ナル意慾ニ發スル事實ヲ公認シ寧ロ之ヲ助長スル結果ト相成猶如斯保險者ノ意思ナクシテ入院セントスルモノニ對シ單ニ入院ヲ拒否シ得サルモノトシテ取扱ハサルヘカラサルモノト

セハ被保險者ニ對スル入院承認ノ限度ハ甚シク曖昧トナリ健康保險ノ運用上種々支障ヲ來スノミナラス他日被保險者ヲシテ傳染病豫防法ノ當該吏員ノ指示ヲ輕視セシムルノ風ヲ馴致シ同法施行上ニモ憂慮スヘキ結果ヲ招來セサルヘキヲ保シ難キ樣被思料候得共貴見如何

台本

●白內障治癒後ノ視力檢査ニ關スル件

（昭和十一年七月三十一日保規第一八二號社會局保險部長通牒）

日本製布健康保險組合理事長宛

保規第一八二號

昭和十一年七月三十一日

社會局保險部長

日本製布健康保險組合理事長宛

白內障治癒後ノ視力檢査ニ關スル件

昭和十一年六月二十四日附ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ健康保險ノ療養ノ給付ノ範圍ニ屬セサルモノニ有之

追テ保健施設トシテ一般的ニ視力檢査ヲ爲スコトハ差支無之モノト被思料候爲念

昭和十一年六月二十四日

台本

京都市伏見區向島與五郎町壹番地
日本製布健康保險組合
理事長　鹿藥楢太郎

社會局保險部長　清水玄殿

一、白內障治療ニ關スル件

白內障ノ手術ヲ承認シ昭和十年十一月二十四日ヨリ醫師ノ治療ヲ受ケ手術ニ依リ全治ス、然ル處本年五月十七日眼鏡ニ依ル視力矯正ノ爲メ更ニ醫師ノ診察ヲ受ケタリ此場合ノ診察ハ白內障治療ノ繼續トシ檢度ヲ治療ノ範圍ト見做シ取扱ヒ可然哉疑義有之候條此段及御伺候也

●入院ノ取扱ニ關スル件

（昭和十一年十月二日　保發第四九六號社會局保險部長通牒）

鹿府縣長官、各健康保險組合理事長宛

保發第四九六號
昭和十一年十月二日

社會局保險部長

鹿府縣長官
各健康保險組合理事長）宛

入院ノ取扱ニ關スル件

被保險者カ任意ニ自費ヲ以テ入院シ又ハ健康保險ニテ病院ニ收容セラレタル場合ニ於テ室料ノ差額ヲ自費ニテ負擔スヘキコトヲ其ノ病院ト約シテ上等ノ病室ニ轉室セントスルコトヲ往々保險者ニ於テ阻止スルコト有之哉ニ候處昭和二年三月十六日保理第九六八號宮城健康保險署長宛回答昭和二年四月九日保經第五五九號山口健康保險署長宛回答及昭和八年七月十一日保規第一一八號兵庫縣知事宛通牒ノ次第モ有之斯ノ如キハ被保險者ノ任意タルヘキモノニシテ保險者ニ於テ之ヲ阻止スヘカラサルモノニ付御了知相成度尤モ斯ノ如キコトヲ保險醫ニ於テ濫ニ慫慂スルカ如キコト有リテハ弊害モ不尠ニ付之カ監督ニ付充分御留意相成度

●業務上ノ事由ニ因ル傷病ナリヤ否ヤノ判定ニ關スル件

（昭和十二年五月二十八日　保發第二四九號社會局保險部長通牒）

鹿府縣長官宛（東京府ニ在リテハ警視總監）

保發第二四九號
昭和十二年五月二十八日

社會局保險部長

鹿府縣長官宛（東京府ニ在リテハ警視總監）

吉本

業務上ノ事由ニ因ル傷病ナリヤ否ヤノ判定ニ關スル件標記ノ件ニ關シテハ從來ヨリ健康保險以外ノ他ノ法令トノ關係モ考慮ノ上諸種ノ事情ヲ酌酌シテ適切ナル決定ヲ爲シツツアルモノトハ被存候得共今後共業務上ノ事由ニ因ルモノナリヤ否ヤノ判定ニ關シ疑義アル場合ニ於テハ他ノ法令ニ於ケル取扱ヲ酌酌シ關係廳ト篤ト協議ノ上一層適切ナル取扱ヲ爲ス樣致度右及通牒候也

●入院中ノ注射料金ニ關スル件

（昭和十二年七月二十日　社會局保險部醫療課長通牒）

日本醫師會健康保險部長宛

昭和十二年七月二十日

醫療課長

日本醫師會健康保險部長宛

入院中ノ注射料金ニ關スル件

本月十三日附日醫發第三、六六七號ヲ以テ御照會相成候首標ノ件ニ關シ入院中ノ注射料ハ原則トシテ入院料中ニ包含セラルヘキ儀ニ有之候處右注射料ニシテ特ニ高額ヲ要スル場合其ノ事由ヲ附シ特ニ請求アルトキハ日本醫師會健康保險診療報酬點數計算規程第三條第一項ノ規定ニ依リ處理スヘキ儀ニ有之過般ノ健康保險ノ保健施設並ニ醫療給付事務打合會ノ際ニモ右ノ通指示致置候ニ付御了知相成度

日醫發第三六六七號
昭和十二年七月十三日

日本醫師會健康保險部長　北島多一

社會局保險部醫療課長古瀨安俊殿

入院中ノ注射料金ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ別紙寫ノ通リ北海道醫師會ヨリ照會有之候處右ハ該會議ニ於テ注射料ハ入院料中ニ包含セシメサル旨打合決定セラレタルモノナリヤ否ヤ一應得貴意度此段伺上候也

道醫第二、五八七號
昭和十二年六月九日

北海道醫師會印

日本醫師會御中

入院中ノ注射料金ニ關スル件

健康保險被保險者入院中ニ於ケル注射料金ハ總テ入院料中ニ包含セシムヘキモノト承知致居候處過般內務省當局ハ其ノ技術官會議ノ席上、注射料金ハ入院料中ニ包含セシメサルヲ妥當ナリトスル意見發表セラレタル由從ツテ北海道廳ニ於テハ之ニ關スル本會ノ所見ニ疑義アルニ非ラサルヤト思惟セラルル節見受ケラレ候ニ付テハ此ノ儀何分ノ御指示相煩度此段及稟伺候也

吉本

二伸　特殊事情（入院中）ノ爲高價藥ヲ施シタルカ故ニ規定入院料金ニテハ處理シ得ストナシ事由ヲ附シ特ニ請求ヲナス保險醫アリタル場合ハ點數計算規程第三條ニヨリ處理シ得サルモノニ候哉此儀併セテ御指示相成度申添置候

●入院ノ取扱ニ關スル件

（昭和十三年三月二十二日社發第二四九號保險院社會保險局長）

廳府縣長官、健康保險組合理事長宛

社發第二四九號

昭和十三年三月二十二日

保險院社會保險局長

廳府縣長官
健康保險組合理事長　宛

入院ノ取扱ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテハ昭和十一年十月二日附保發第四九六號ヲ以テ通牒致置候處今回日本醫師會ト協議ヲ了シ左記ノ通決定致候條御了知相成度尤モ保險醫ニ於テ之ヲ濫ニ慫慂スルカ如キコトアリテハ弊害モ不尠ニ付之カ監督ニ付充分御留意相成度

記

一、入院承認ヲ得タル場合ニシテ被保險者又ハ第三者ニ於テ上級室使用ヲ必要トシ之ヲ希望スルトキハ上級室ニ收容スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ入院料ヨリ健康保險ノ入院料額ヲ控除シタル額ハ當該被保險者又ハ第三者ノ負擔トス

二、療養上入院ヲ要セサルモ（入院不承認トナリタル場合ヲモ含ム）往診ヲ受クルコト困難ナル事由或ハ通院困難ノ事由、其ノ他ノ事由アル場合ニシテ被保險者又ハ第三者ヨリ自費入院ヲ希望シタルトキハ入院ノ爲要シタル費用（療養ニ要シタル費用中入院セサル場合ニ要スヘカリシ費用ヲ控除シタル額）ハ當該被保險者又ハ第三者ノ負擔トス

三、入院差額負擔ニ關スル手續トシテハ保險醫ハ被保險者又ハ第三者ヨリ前記申出ヲ表示スル書面ヲ提出セシメ之ヲ保存スルト共ニ道府縣醫師會宛其ノ旨屆出ツルコト尙診療報告書備考欄ニ其ノ旨記入ススルコト

●入院ノ取扱ニ關スル件

（昭和十三年五月二日社發第四三一號保險院社會保險局長通牒）

警視總監、廳府縣長官、健康保險組合理事長宛

社發第四三一號

昭和十三年五月二日

保險院社會保險局長

台本

警視總監
廳府縣長官
健康保險組合理事長　宛

入院ノ取扱ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ昭和十三年三月二十二日附保發第二四九號ヲ以テ通牒致置候處之カ取扱ニ關シ日本醫師會ト協議ヲ了シ左記ノ通決　致候條御了知相成度

記

一、入院料日額ハ成ルヘク健康保險入院料日額ニ依ルコト但シ特ニ上級室ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラサルコト

一、「療養ニ要シタル費用中入院セサル場合ニ要スヘカリシ費用」ノ算定ニ付テハ最近判明セル政府管掌單價ニ請求點數ヲ乘シテ得タル額ニ依ルコト

追而三月二十二日附保發第二四九號通牒左記三「入院差額負擔」トアルハ「同通牒前二項」ノ場合ト御了知相成度

台本

第二節　療養費

●療養ノ給付ニ關スル件

（昭和二年二月二日　保理第四四三號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合宛

標記ノ件ニ付福島健康保險署長ヨリノ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ乙號ノ通回答致置候

（別　紙）

（甲　號）

二給第四九八號

昭和二年一月十八日

福島健康保險署長

社會局保險部長殿

保險給付ニ關スル疑義ノ件伺

保險給付上差當疑義相生候條左記事項至急何分ノ御指示相煩度

記

一、打撲、骨折等ノ傷害治療ニ關スル件

炭礦業ニ於テハ打撲、骨折等ノ傷害ヲ蒙ルモノ多數アリテ之カ治療ハ整骨醫ノ治療ヲ受クル必要アルヲ以テ普通醫以外右整骨ニ從事スルモノヲモ保險醫ニ指定方事業主ヨリ申出アル爲調査スルニ右整骨醫ト稱スルハ柔道整復師ト稱シ本縣ニ於テハ柔道整復術ノ免許狀ヲ有シ且道場ノ設備アルモノニ限リ骨折、脫臼等ノ施術營業ヲ許可シアルモノニシテ醫師ニアラサルヲ以テ保險醫ニ指定スルコト能ハサルニ依リ右柔道整復師ノ治療ヲ受クル必要アル場合ハ施行令第七十七條第一項第一號ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給シ支障ナキモノナリヤ、若シ支障ナキ場合ハ令第七十八條ニ依ル療養費額及其ノ決定方法

二、健康保險醫竝健康保險藥劑師投藥ノ際容器代請求ノ件

所轄健康保險醫中被保險者ニ投藥ノ際容器（藥瓶等）ハ藥價以外ト稱シ被保險者ニ對シ代價請求ノ向アリ右ハ政府ト日本醫師會、日本齒科醫師會、日本藥劑師會ノ契約ニ依ル診療竝藥劑ノ支給範圍ニ包含セサルモノナリヤ

若シ包含セサルモノトセハ其ノ容器代價ハ被保險者負擔トスヘキモノナリヤ

三、病院ニ收容シタル場合ノ費用負擔ノ件

1、法第四十三條第三項及政府ト日本醫師會契約書第十六條ニ依リ被保險者ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ之ニ對シ更ニ看護婦ヲ付スル必要アル旨保險醫ノ申出アリタル場合ハ承認スヘキモノナリヤ

假リニ承認スヘキモノトスレハ之レカ費用ハ保險署ニ於テ支辨スヘキモノナルヤ

2、入院ノ際患者移送ニ要シタル費用ハ保險署ニ於テ負擔スヘキモノナルヤ

3、尙入院中ニ要シタル特殊費用（例ヘハ高熱ノ場合多額ニ要シタル氷代ノ如キモノ）モ同樣保險署ニ於テ負擔スヘキモノナルヤ或ハ入院料ノ內ニ包含スルモノナルヤ

四、傳染病患者收容ノ件

被保險者傳染病ニ罹リタル場合ハ傳染病豫防法第七條及同法施行規則第二十八條後段ニ依リ市町村ニ於テ之カ適當ノ處置ヲ爲サヽルヘカラサルモノト思料セラルルモ若シ被保險者中市町村設置ニ係ル隔離病舍其ノ他ヲ嫌惡シ保險醫經營ノ病院ニ入院方申出タル際ハ保險署長ハ之ヲ承認セサルヘカラサルモノナリヤ

五、分娩前ニ於ケル出產手當金ニ關スル件

新ニ被保險者タル資格ヲ取得シタルモノ豫定分娩日カ被保險者ノ資格取得後百八十一日目ナルトキハ令第八十條ニ依リ分娩前ニ於ケル出產手當金ノ給付ヲ受クルコトヲ得ヘキモノト解セラルヽヲ以テ被保險者ノ請求ニ依リ相當ノ出產手當金ヲ支給シタル後豫定分娩日迄至ラスシテ分娩シタル場合（例ヘハ豫定分娩日ヨリ數日前ニ分娩シ資格取得後百八十日ニ達セサル場合）ハ出產手當金ヲ受クル資格ナキモノト解スルモ斯ル際ニ於テ既ニ給付シタル出產手當金ハ如何ニ處理スヘキモノナルヤ

（乙　號）

保理第四四三號

昭和二年二月二日

社會局保險部長

福島健康保險署長殿

療養ノ給付ニ關スル件

昭和二年一月十八日附二給第四九八號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件左ノ通ニ有之

記

一、打撲骨折等ノ傷害治療關スル件

療養費ヲ支給スルコトニ取扱相成可然尙此ノ場合ニ於ケル療養費ノ支給額ハ被保險者ヨリ提出セル證憑書類ニ就キ個々ノ場合ニ於テ適當ニ決定スルノ外ナキモノト認ム

二、保險醫又ハ保險藥劑師投藥ノ場合ノ藥劑容器代價ノ件

藥劑ノ容器卽チ藥瓶ノ如キハ藥劑又ハ治療材料ノ支給ノ範圍ニ屬スルモノトス

三、病院ニ收容シタル場合ニ於ケル費用負擔ノ件

1及2ハ御見解ノ通ナルモ3ハ入院料ノ中ニ包含スルモノト

台本

ス

四、傳染病患者收容ノ件

市町村設置ノ隔離病舍等ニ收容セラレ得ヘキニ拘ラス之ヲ嫌忌スルカ如キ者ト雖保險醫ヨリ申出アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ健康保險ノ療養ノ給付トシテ入院ヲ承認シ可然

五、分娩前ニ於ケル出產手當金ニ關スル件

返還セシムルモノトス

●マツサージ術營業者等ニ依リテ療養ヲ爲ス者ニ對スル療養費支給ニ關スル件

（昭和二年二月二十六日）
（保發第七三〇號社會局保險部長通牒）

健康保險署長　健康保險組合宛

標記ノ件ニ付神奈川健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（甲　號）

二給發第五〇九號

昭和二年二月四日

神奈川健康保險署長　佐藤新

社會局保險部長　湯澤三千男殿

健康保險法施行令第七十七條ニ關スル疑義ノ件伺

標記ノ件ニ關シ左記ノ通疑義有之候條何分ノ御回示相煩度此段及伺候也

記

（一）健康保險法施行令第七十七條第一項第二號中ノ所謂醫師ハ醫師法ニヨリ內務大臣ノ免許ヲ受ケタル醫師ニ限ル狹義ノ意ナルヤ又ハ明治四十四年八月內務省令第十號按摩術營業取締規則ニ依ル「マツサージ」術等ヲ營業トスル者、同年同月內務省令第十一號鍼灸術營業取締規則ニ依ル鍼術又ハ灸術ヲ營業トスル者又ハ接骨等ヲ業トスル者ヲモ包含スル義ナルヤ

（二）「（一）」ノ場合醫師ヲ前段ノ意義ニ解ストセハ被保險者カ傷病ノ性質上「（一）」ノ後段ノ療養ヲ受ケントスルトキハ同令第一項第一號ニ該當スルモノトシテ取扱フヘキモノナリヤ否ヤ若シ積極ニ解シタル場合被保險者カ療養費ノ支給ヲ受ケントスルトキハ健康保險法施行規則第五十三條ノ規定ニ依リ請求書ヲ兼ネタル屆書ヲ提出スル義ナルモ右屆出事項各號中ニハ療養ノ內容ヲ知ルヘキ參照書類ノ添附ナキ爲施行令第七十八條適用ノ場合　療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額」ノ標準ヲ求メ難ク如何ナル方法ニ依リ知リ得ヘキヤ

台本

（乙號）

保理第七三〇號

昭和二年二月二十六日

社會局保險部長

神奈川健康保險署長殿

マツサージ術營業者等ニ依リテ療養ヲ爲ス者ニ對スル療養費支給ニ關スル件

昭和二年二月四日附二給發第五〇九號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件左ノ通ニ有之

記

一、マツサージ術、鍼術、灸術又ハ接骨ノ營業者ノ如キハ醫師又ハ齒科醫師ニ非サルヲ以テ健康保險法施行令第七十七條第一項第二號ニ規定スル醫師中ニ包含セサルモノトス

二、保險者ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合ニ於テ被保險者カ右ノ者ニ依リテ診療ヲ受クルトキハ健康保險法施行令第七十七第一項第一號ニ依リ療養費ヲ支給シ可然尚健康保險法施行規則第五十三條第一項ノ規定ニ依ル屆出ハ療養費支給ノ請求ヲ兼ヌルモノニ非スシテ保險給付決定方申出ノ性質ニ屬スルモノナリ故ニ保險署長ニ於テ之カ屆出ヲ受ケタル場合ニ於テハ果シテ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナルヤ否ヤヲ考察シ困難ナルモノト認定シタル場合ニ於テハ療養費ノ支給ヲ決定シ之ヲ屆出者ニ通知スヘキモノトス而シテ右ノ場合ニ於テ屆出者ニ於テ爲サムトスル療養ノ內容ハ右規則第五十三條第一項ノ規定ニ依リ疾病又ハ負傷ノ經過ヲモ屆出ツヘキヲ以テ之ニ由リ判定スルコトヲ得ヘシ尙右屆出事項ノミニテ判定シ難キ場合ニ於テハ專門家ノ意見ヲ徵シ又ハ本人ニ就キ調査スル等ノ方法ニ依リ判定スルコトヲ要ス斯クシテ判定シタル療養ノ內容ニ由リ保險者ニ於テ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル費用額ヲ假定シ之ヲ標準トシテ療養費ノ支給額ヲ決定セラレタシ

●療養費ノ支給額ニ關スル件

（昭和三年一月二十四日　保發第一號社會局保險部長通牒）

健康保險署長宛

療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スル場合ニ於ケル支給額ハ政府ノ管掌スル保險ニ付テ道府縣醫師會ニ於テ査定シタル最近ノ一點當リ診療報酬額ノ全國平均額ヲ標準トシテ決定セラルル樣爾今御取扱相成度但シ右ノ標準ニ依レハ著シク不當ナル結果ヲ來タス場合ハ被保險者カ療養ノ爲實際ニ費シタル額ヲ斟酌シテ適當ニ決定相成度

台本

●事業主カ被保險者資格取得屆ヲ怠リタル場合ト療養費ノ支給ニ關スル件

（昭和三年四月三十日　保理第一〇八九號社會局保險部長回答）

山口健康保險署長宛

山口三給發第二一一六號

昭和三年四月十八日

山口健康保險署長

社會局保險部長殿

事業主カ被保險者資格取得屆ヲ怠リタル場合ト療養費ノ支給ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテハ昭和二年八月二十九日附保理第三、一六九號ヲ以テ保險部長ヨリ岐阜健康保險署長ニ對シ「事業主カ被保險者資格取得屆ノ提出ヲ怠リタル爲被保險者カ傷病ノ事故發生スルモ療養ノ給付ヲ受ケ得サル場合ニ於テ施行令第七十七條第一項第一號ノ規定ニ依リ療養費ノ支給ヲ受クヘキモノナルコトヲ正規ノ手續ヲ履ミテ屆出タルモノトセハ療養費ヲ支給スヘキモノトス」ト御回答相成居候處ニ依レハ施行令第七十七條第一項第一號ノ規定ニ依リ療養費ノ支給ヲ受クヘキモノナルコトヲ正規ノ手續ヲ履ミテ屆出タルモノトセハトアリ而シテ從來施行令第七十七條第一項第一號ニ規定スル醫師中ニ包含セサルモノトス

二、保險者ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合、保險者ト保險醫トノ間ニ契約成立セス保險醫カ診療ヲ爲ササル場合、保險者ノ指定シタル保險醫ナキ場合等」ト解シ居候從テ事業主ニ於テ資格取得屆ノ提出ヲ怠リ居ル中被保險者カ傷病ノ事故發生シ診療ヲ受ケタル場合ト雖モ其ノ醫師保險醫ナリシ場合ハ御回答ノ要旨ニ該當セサルモノト存候即チ療養費トシテ支給スヘカラサリシモノト存候ヘ共聊カ疑義有之候ノミナラス療養ノ給付ト保險料トハ自ラ區分有之候得共而モ此ノ場合保險料ハ遡リ徵收スル關係モ有之保險醫トシテハ勿論此ノ場合被保險者證ノ提出モナク一般人トシテ診療シタル關係モ有之療養費トシテ支出ヲ得サルモノトセハ被保險者ニ對シテハ同情スヘキ點ナシトセサル次第ニ有之何分御指示被下度御意見相伺候

保理第一〇八九號

昭和三年四月三十日

社會局保險部長

山口健康保險署長殿

事業主カ被保險者資格取得屆ヲ怠リタル場合ト療養費ノ支給ニ關スル件

昭和三年四月十八日附山口三給發第二一一六號ヲ以テ伺出相成候

台本

標記ノ件右ハ被保險者ハ醫師ニ就キ診療ヲ受ケタル場合該醫師カ保險醫ナル場合ト雖其ノ被保險者ニ付テハ當時事業主ノ屆出懈怠ニ由リ被保險者タルノ身分ヲ證明シ得サル狀態ニ在リシヲ以テ健康保險法施行令第七十七條第一項第一號ニ該當スルモノト認メラレ候

●療養費請求ノ場合ニ於ケル證明書ニ關スル件

（昭和三年九月十四日保理第二二七〇號社會局保險部長通牒）

釧路健康保險署長宛

保理第二二七〇號
昭和三年九月十四日

社會局保險部長

釧路健康保險署長殿

療養費支給ノ場合ニ於ケル證明書ニ關スル件

標記ノ件ニ付北海道釧路市西幣舞町畑二番地北海道木材防腐株式會社釧路防腐工場武隈秀次ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）

（甲號）

昭和三年九月七日

武隈秀次

社會局保險部長御中

拜啓左記御照會申上候

施行令第七十七條第一項ノ理由ニ依リ療養費請求ノ場合ニ保險醫ノ證明書ヲ要スル場合ト要セヌ場合トアリ何レカ正當カ否ヤ御回答ヲ御願申上候

先ハ右御照會迄申上度如斯ニ御座候　敬具

（乙號）

保理第二二七〇號
昭和三年九月十四日

社會局保險部長

武隈秀次殿

療養費請求ノ場合ニ於ケル證明書ニ關スル件

昭和三年九月七日附ヲ以テ問合セニ係ル標記ノ件右ハ左記ノ通ニ有之

記

「證明書」カ診療ニ要シタル費用額ノ證憑書類ノ意ナリヤ然リトセハ被保險者カ醫師又ハ齒科醫師ニ就キ診療ヲ受ケタル場合ニ於テハ診療ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證憑書類ヲ要シ然ラサル場合ニ於テハ醫師又ハ齒科醫師ノ證憑書類ハ之ヲ要セサルモノトス但シ醫師又ハ齒科醫師以外ノ者例ヘハ接骨業者等ノ手當ヲ受ケタルトキハ其ノ費用ニ關スル接骨業者ノ證憑書類ヲ添附シ、賣藥等ニ依リ手當ヲ爲シタルトキハ賣藥ニ關スル證憑書類ヲ添附スヘキモノトス尙右ノ證憑書類ノ外證明書ヲ要セス

●接骨業者ニ就キ診療ヲ受ケタル者ニ對シ療養費支給ニ關スル件

（昭和三年十一月二十二日保理第二八七八號社會局保險部長通牒）

健康保險署長（但シ兵庫署長ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ付兵庫健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙甲號）

三兵保給發第七四六三號
昭和三年十一月四日

兵庫健康保險署長㊞

社會局保險部長殿

療養費給付ニ關スル件伺

標記ノ件ニ關シ左記ノ通リ疑義相生シ候ニ付至急何分ノ御指示相仰キ度候也

記

被保險者カ業務上ノ事由ニ依リ胸部ニ打撲傷ヲ蒙リ卽時保險醫ノ診療ヲ受ケタル處保險醫ニ於テ當時ノ症狀ニ依リアンマ及マツサージ療法ヲ適當ト認メシカ手許ニ其ノ設備ナカリシ爲メ同保險醫ノ指示ニ基キ接骨師ノ治療ヲ受クルコト十九回ニ亙リ治療費トシテ金拾參圓九拾錢ヲ徵收セラレタルノ故ヲ以テ保險醫ノ意見書及領收書其ノ他ノ關係書類ヲ具シ療養費ノ支給方ヲ請求セルモノ有之固ヨリマツサージハ保險給付ノ範圍內ニ屬シ保險醫ニ於テ施行スヘキモノナルコト日本醫師會健康保險診療報酬計算規程ニ徵シ疑ナキ所ニシテ保險醫自ラ之ヲ施行スルコト能ハサル場合ハ當該術者ヲシテ之ヲ施行セシメ其ノ報酬ハ保險醫カ醫師會ヨリ支拂ヲ受クヘキ金額ヲ以テ之ニ充ツヘク施行令第七十七條第三號ニ所謂緊急ノ必要ニ依リ接骨醫ノ治療ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外接骨醫ヨリ受ケタル治療ニ對スル費用ハ療養費トシテ支給セラルヘキモノニ非サルコトハ施行令第七十七條ノ法旨ニ照シ明ナル所ナルモ現今ノ實狀ニ於テハ保險醫ニシテマツサージヲ施スノ設備ト技倆ヲ有スル者尠ク偶々有之トスルモ可ナリノ手數ト時間ヲ要スルニ比シ其ノ報酬餘リニ寡少ナル爲之ヲ回避スルノ傾向アリ從テ斯ノ種ノ患者ハ擧テ接骨醫ニ振向ケラレツツアルモ其ノ費用ハ殆ト被保險者ノ自辨ニ歸シ居ル狀況ニシテ之ヲ醫師會ノ支辨トナサシムルコト實際ニ於テ甚

タ困難ニ有之候ニ付テハ本件ノ如キ事例ニ對シテハ嚴重ナル制限ヲ前提トシテ療養費トシテ支給ノ途ヲ拓カルルヲ妥當ト思惟セラルルモ果シテ療養費トシテ支給差支無之候哉何分ノ御指示ヲ仰ク次第ニ有之候

（別紙乙號）

保理第二八七八號

昭和三年十一月二十二日

社會局保險部長

兵庫健康保險署長殿

●海軍病院等ノ診療ヲ受クル被保險者ニ對シ療養費支給ノ件

接骨業者ニ就キ診療ヲ受ケタル者ニ對シ療養費支給ニ關スル件

（昭和三年十一月三十日保理第二八七五號社會局保險部長通牒）

昭和三年十一月四日附三兵保發第七、四三六號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ諸般ノ狀況上療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メラルルニ於テハ健康保險法施行令第七十七條第一項第一號ニ該當スルモノトシテ療養費ヲ支給相成可然尙濫給ニ失セサル樣充分ニ御配慮相成度

追テ保險醫ハ其ノ技能竝設備ニ依リ可能ナル範圍內ノ診療ヲ爲セハ足ルモノニシテマツサージ等ヲ自ラ施行スルコト能ハサル場合ニ於テハ必スシモ之ヲ自己ノ計算ニ於テ當該術者ヲシテ施行セシムルノ要ナシ日本醫師會健康保險診療報酬點數計算規程ハ保險醫ニ於テ診療ヲ爲シタル場合ノ點數ヲ定メタルモノニ過キサルモノニ有之爲念

神奈川　廣島　長崎　京都　青森　山口

東京　健康保險署長宛

海軍工廠等ニ使用セラルル者ニシテ健康保險署ニ屬スル被保險者ハ業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シ海軍病院又ハ海軍診療所ニ於テ診療ヲ受ケタル場合ニ於テ（昭和三年六月勅令第百三十三號參照）相當緊急ヲ要シタル事實アリト認ムルトキハ健康保險法施行令第七十七條第一項第三號ニ依リ療養費ヲ支給スルコトヲ得ル儀ト承知相成度爲念及通牒候也

●處方箋ヲ交付シ得ヘキ醫師等ニ關スル件

（昭和四年一月二十五日保理第一九五號社會局保險部長回答）

豐田織機健康保險組合宛

豐健發第一八〇號

昭和四年一月十五日

名古屋市西區島崎町壹番地

豐田織機健康保險組合㊞

社會局保險部長殿

令第七十六條ニ關スル件

左記ニ付聊カ疑義有之何分ノ御指示相煩度此段相伺候也

記

健康保險醫又ハ健康保險齒科醫ニ非サル他ノ醫師又ハ齒科醫師ノ交付シタル處方箋ニヨリ藥劑ノ支給ヲ受ケタキ旨被保險者ヨリ請求アリタル場合保險者ハ之レヲ承認可然哉

保理第一九五號

昭和四年一月二十五日

社會局保險部長

豐田織機健康保險組合宛

處方箋ヲ交付シ得ヘキ醫師等ニ關スル件

昭和四年一月十五日附豐健發第一八〇號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ承認スルコトヲ得サルモノナルモ健康保險法施行令第七十七條第一項第一號又ハ第三號ニ該當スルモノナル場合ハ療養費支給相成可然

●療養費支給ノ件

（昭和五年七月三十一日保規第三八八號社會局保險部長回答）

大辻炭礦健康保險組合理事長宛

五發第一九〇號

昭和五年七月十五日

大辻炭礦健康保險組合㊞

社會局保險部御中

疾養費支給ノ件

左記記療養費支給上聊カ疑義有之候ニ付御回示相煩度

記

一、ベツトノ上ニ布ク防水布、油紙

二、下劑ヲ呑ム時ノコツプ　瀉法用ノ土鍋

一ハ甲某が乙病院ニ二ハ丙某カ丁病院ニ入院シ請求シタル療養費ノ一部ナルカ右ハ處置ニ要スル消耗品乃至治療材料ト認メ療養費トシテ支給差支ナキヤ

保規第三八八號

昭和五年七月三十一日

社會局保險部長㊞

大辻炭礦健康保險組合理事長殿

●療養費ノ支給ニ關スル件

（昭和八年七月十一日　保康第二五五號社會局保險部長回答）

小倉石油健康保險組合理事長宛

昭和八年六月十日

小倉石油健康保險組合
理事長　高草　朴介

社會局保險部長殿

療養費支給ノ件

左記ニ付聊カ疑義有之候ニ付何分ノ御指示相煩度此段相伺候也

記

健康保險法施行令第七十七條第一項第一號ノ規定ニ依リ療養費ヲ支給スル場合ニ於テ被保險者カ接骨師ノ宅ニ滯在シテ手當ヲ受ケタル場合ニ要シタル食費以外ノ寢具料及室代等ハ之ヲ療養費中ニ含メテ支給シ可然モノナルヤ

保規第一二五五號

社會局保險部長殿

療養費支給ノ件

昭和八年六月十五日附五發第一九〇號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ療養費トシテ支給スルヲ要セサルモノト被認候

小倉石油健康保險組合理事長宛

昭和八年七月十一日

社會局保險部長

（昭和八年七月十一日　保康第二五五號社會局保險部長回答）

小倉石油健康保險組合理事長宛

昭和八年六月十日

小倉石油健康保險組合
理事長　高草　朴介

社會局保險部長殿

療養費支給ノ件

左記ニ付聊カ疑義有之候ニ付何分ノ御指示相煩度此段相伺候也

記

健康保險法施行令第七十七條第一項第一號ノ規定ニ依リ療養費ヲ支給スル場合ニ於テ被保險者カ接骨師ノ宅ニ滯在シテ手當ヲ受ケタル場合ニ要シタル食費以外ノ寢具料及室代等ハ之ヲ療養費中ニ含メテ支給シ可然モノナルヤ

保規第一二五五號

●傷病カ重症ニシテ施行規則第四十五條ノ手續ヲ爲シ得スシテ死亡シタル被保險者ニ對スル給付ニ關スル件

（昭和十年七月十六日　保規第二四四號）

福井縣知事殿

社會局保險部長

傷病カ重症ニシテ施行規則第四十五條ノ手續ヲ爲シ得スシテ死亡シタル被保險者ニ對スル給付ニ關スル件

昭和十年七月十日附健發第四五〇號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件

台本

八施行規則第四十五條第二項但書及第五十六條ノ二第一項但書ニ依リ取扱相成可然

○健發第四五〇號

昭和十年七月十日

福井縣知事

社會局保險部長殿

傷病カ重症ニシテ施行規則第四十五條規定ノ手續ヲ爲シ得スシテ死亡シタル被保險者ニ對スル給付ニ關スル件

當管被保險者ニシケ硅石採取所ニ勤務セル者作業中落石ニヨリ顱頂骨々折ヲ爲シ人事不省ニ陷リ直ニ甲醫ニヨリテ應急手當ヲ受ケ乙病院ニ收容セラレ看護附添ヲ爲セルモ經過不良意識不明ノ儘五日間ノ後死亡セリ

甲乙共ニ保險醫ナルモ被保險者タルコトノ申立ナキ爲之ヲ知ラス一般患者トシテ取扱ヒタル趣ヲ以テ之カ診療費ヲ療養費トシテ支給ヵ遺族ヨリ申請有之候ニ就テハ左記一ニヨルヲ妥當ト認メラレ候モ聊カ疑義相生シ候條至急何分ノ御指示相仰度此段及稟伺候也

記

一、令第七十七條第一項第一號療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合ニ該當ト認メ療養費支給スヘキモノ

卽チ本人ハ始終成識不明ノ爲ニ被保險者健保診療ヲ受クルコトヲ申出ツルコト能ハス醫師モ之カ申出並ニ被保險者證ノ提出ナキニ依リ被保險者タルコトヲ知ラス爲ニ實際上療養ノ給付困難ナリシモノト云フヘク施行規則第四十五條ニモ自ラ申出ツルコト並ニ被保險者證ノ提出ヲ規定シアリ政府ト日本醫師會トノ契約書第六條第一號第二號ノ規定モアリテ此ノ場合ノ醫師ノ取扱モ至當ト認メラルルニ就テハ昭和三年四月三十日附保理第一〇八九號ヲ以テ山口健康保險署長宛御回答ノ趣旨ニ準スヘキモノトスル理由ニヨル

二、一時診療ニ就テハ施行規則第四十五條第二項ノ事由アリタルモノトシ入院看護ニ就テハ施行規則第五十六條ノ二第一項但書ニヨリ相續人ヨリ夫々手續ヲ爲サシメ事後承認ノ形式ニヨリテ健康診療ヲ遡及シテ爲スヘキモノトスルモノ

卽チ施行規則第四十五條及第五十六條ノ二ニハ本人カ夫々手續ヲ爲スヘキ樣規定シアリテ第三者ニヨリテ之ヲ爲スヘキモノニアラサルヤニ解釋セラレ候處實際上ノ慣例ニ於テハ本人又ハ家族若クハ事業主カ之ヲ爲ス場合多ク（然ラサレハ精神病ノ如キ場合ハ給付ヲ受ケ得サルヘク）本事例ノ如キモ經過良好トセハ本　カ申立得ヘカリシモ〻幸ニシテ死亡シタル爲療養ノ給付ヲ受クノ手續ヲ缺除セルモノニシテ如斯特別ノ場合ハ爾後判明ト當時ニ當然療養ノ給付トシテ之カ診療費用ハ日

台本

本醫師會ノ請負金額ノ內トスルモ亦不當ト認メ難シトスル理由ニヨル

三、自費診療ノ場合ト看做シ給付スヘカラサルモノ

即チ被保險者ハ爲スヘキ手續ヲ爲ササリシモノ（爲シ得スシテ死亡シタルモノナルモ結果ヨリ見レハ）行使スヘキ權利ヲ行使セサリシモノナレハ自費受療ト異ナラストスル理由ニヨル

●被保險者カ柔道整復師ニ就キ手當ヲ受ケントスル場合ノ取扱ニ關スル件

保發第三五號
昭和十一年一月二十二日

社會局保險部長

廳府縣長官殿

被保險者カ柔道整復師ニ就キ手當ヲ受ケントスル場合ノ取扱ニ關スル件

被保險者打撲、捻挫、脫臼及骨折ノ爲柔道整復術營業者（明治四十四年內務省令第十號參照）ノ手當ヲ受クル場合ニ於テ之ヲ必要トスル事情アルトキハ健康保險法施行令第七十七條第一項第一號又ハ第三號ニ依リ之ヲ認メ療養費ヲ支給スル樣取扱相成度尙傷病手當金ニ付テモ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサリシモノト認メラルル限リ柔道整復術營業者ノ意見ニ基キ支給相成可然

追テ右ノ場合ニ於テハ緊急ノ場合ヲ除クノ外左ニ揭クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出セシメ尙療養費ノ額ハ豫メ柔道整復術營業者ノ團體ト協定シ置キ（看護ノ協定ト同樣ニ取扱ヒ）其ノ金額ヲ標準トシテ支給スル樣取扱致度爲念

記

一、被保險者證ノ記號及番號
二、負傷ノ年月日及原因
三、負傷カ業務上ノ事由ニ因ルモノナリヤ否ヤノ別
四、手當ヲ受ケントスル柔道整復術營業者ノ住所及氏名
五、現ニ保險醫ノ診療ヲ受クルモノニ在リテハ其ノ保險醫ノ診療所所在地及氏名
六、負傷ノ程度及柔道整復術營業者ノ手當ヲ受ケントスル事由

台本

●療養費支給ニ關スル件

保規第一四六號
昭和十一年六月二十二日

警視總監宛

社會局保險部長

療養費支給ニ關スル件

標記ノ件ニ付王子健康保險出張所長ヨリ別紙寫ノ通伺出有之候處右ハ左記ノ通ニ有之候條可然御示達相煩度

記

被保險者カ管轄區域外ノ柔道整復術營業者ノ手當ヲ受ケタル場合之カ療養費ノ支給額ニ關シテハ當該柔道整復術營業者ノ營業地ヲ管轄スル地方長官ト柔道整復術師會ト施術料金ニ關シ協定（他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スル被保險者ノ施術ニ關シ協定アル場合ト否トヲ問ハス）アル場合ニ於テハ其ノ施術料金ヲ標準トシテ決定スルヲ妥當トスヘク又被保險者ノ施術料金ニ關シ協定ナキ場合ニ於テハ被保險者ノ所屬スル地方長官ノ協定料金ヲ斟酌シ施行令第七十八條ノ規定ニ依リ決定スルヲ妥當ト被思料候（別紙寫）

○十一給發第四七號
昭和十一年五月三十日

警視廳王子健康保險出張所長

社會局保險部長殿

療養費支給ニ關スル件

被保險者カ打撲、捻挫、脫臼及骨折ノ爲柔道整復師ノ手當ヲ受ケタル場合ノ療養費ノ支給額ニ關シテハ曩ニ警視總監ト東京府柔道整復師會長ト協定シタル施術料金表ニ依リ支給致居候處被保險者カ管轄區域外ノ柔道整復師ノ手當ヲ受ケタル場合ノ取扱ニ關シ左記ノ通リ疑義有之候條至急御指示相仰度此段及伺候也

追テ東京府柔道整復師會トノ協定書寫一部爲御參考添付候也

記

被保險者カ管轄區域外ノ柔道整復師ノ施術ヲ受ケタル場合ノ療養費ノ支給額ハ保險產婆ノ助產手當報酬ノ如ク當該柔道整復師ノ住所地（營業所）ヲ管轄スル地方長官ト柔道整復師會トノ間ニ於テ協定シタル施術料金ニ依ルヘキヲ妥當ト思料スルモ協定成立シ居ルモ當該協定書中柔道整復師カ施術ヲ爲ス被保險者ノ範圍ニ就キ他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スル被保險者ニ關シ規定ヲ缺ク場合等ニ於テ支給決定上支障アルヲ以テ被保險者ノ所屬スル廳府縣ノ協定料金ニ依リ支給スルヲ便利トスルモ斯ク取扱フハ不都合ナリヤ

尙本件ハ各府縣取扱區々ニテハ不便尠ナカラサルヲ以テ之ヲ統

台本

一スル必要アルモノト被認
（協定書省略）

●輸血ノ場合ニ於ケル血液料ニ關スル件

保規第二七九號
昭和十一年十二月九日

社會局保險部長

佐賀縣知事宛

輸血ノ場合ニ於ケル血液料ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ貴管下唐津市北九州鐵道株式會社ヨリ別紙寫ノ通伺出有之候處右ハ療養費トシテ支給相成難ク元來輸血ノ場合ニ於ケル血液ニ付テハ患者ノ親戚知友等ニ於テ無償ニテ之ヲ提供スルヲ常トスルモ其ノ他ノ場合ニ於テ料金ノ支拂ヲ必要トスル場合ニハ保險醫ノ請求ニ基キ醫師會ニ於テ之ヲ當該保險醫ニ支拂フヘキモノニ有之候條可然御示達相煩度

昭和十一年十月二十三日

佐賀縣唐津市　北九州鐵道株式會社

被保險者療養費受給ニ關スル件

左記擧例ノ場合ニ於テハ健康保險法第四十四條ニ準據シ被保險者ヨリ療養費受給申請相成可然モノナルヤ此段相伺候也

記

被保險者業務上ニ依リ重傷ヲ負ヒ直ニ保險醫ノ診療ヲ受ケタルニ保療醫ニ於テ輸血ノ必要アリト診療シタルニヨリ其ノ場ニ居合セタル同一事業場勞務者ヨリ輸血シ一命ヲ取止ムルコトヲ得タリ

被保險者ハ血液提供者ニ對シ血液料ヲ支拂ヒタル爲メ之レヲ療養費ト看做シ保險者ヘ請求シ得ヘキモノニ有之哉

●隔離病舍ニ收容セラレタル被保險者ニ對スル療養費ニ關スル通牒

○昭和十二年八月十一日

社會局保險部規畫課長

愛媛縣健康保險課長宛

隔離舍ニ收容セラレタル被保險者ニ對スル療養費ニ關スル件

客年九月一日附健第四七九二號ヲ以テ御問合有之候標記ノ件右ハ傳染病患者ヲ隔離病舍ニ收容シタル場合ニ於テ之カ食費及藥價ヲ徵收セントスルニハ當該市町村ニ於テ徵收ニ關スル規定ヲ定ムルコトヲ要スルモノニ有之之カ規定ナキ場合ニ於テハ食費及藥價ハ治療費中ニ包含セラルルモノナルヲ以テ當然市町村ノ負擔タルヘク隨テ健康保險ニ於テハ法第六十二條第二項ノ規定ニ依リ給付ハ爲スヘカラサルモノニ有之候　第二ノ問題ハ御問合ノ意味判然セサルモ若甲町村ニ在住ノ被保險者カ傳染病豫防法ニ依リ乙町村ノ隔離病舍ニ收容セラレタル場合ニ於ケル食費、藥價ニ付テノ問題ナリトセハ前段ト同樣ニ有之候

尙以上ハ法令ノ解釋ニ付テノ御答ニテ實際ノ運用ニ際シテハ種々複雜ナル問題モ生スヘキニ付廳內關係課トモ打合ノ上遺憾ナキ樣措置セラレ度候

○健四、七九二號
昭和十一年九月一日

愛媛縣警察部健康保險課長

社會局保險部規畫課長宛

健康保險患者ヲ市町村設置ノ傳染病隔離病舍ニ收容シタル場合ノ諸費ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ左記ノ通リ實際問題トシテ疑義相生シ候條乍御手數至急何分ノ御回示相仰度候

記

法定傳染病患者ヲ市町村設置ノ隔離病舍ニ收容シタル場合ノ諸費ニ關シテハ同豫防法第二十一條第四號ノ規程ニヨリ、原則トシテ之カ費用ハ總テ當該市町村ノ負擔タルヘキハ明ナルトコロナルモ、若シ市町村ニ於テ本人ヨリ其ノ費用額ヲ徵收スルトセハ、市町村制ニ基キ當該市町村カ別ニ徵收條例ヲ設クルコトヲ要シ、此ノ場合患者ヨリ食費藥價分ニ付テノミ徵收シ得ルコトト相成居リ、從テ健康保險ニ於テハ其ノ被保險者ノ負擔部分ニ付療養費トシテ別途支給スヘキモノニ有之

一、然ルニ管內新居濱町ニ於テハ

(1)　本年二月健康保險患者三名ヲ同町立隔離病舍ニ收容シ藥價トシテ百餘圓ヲ徵收セリ

(2)　同町ニ於テハ一般患者ヨリモ（貧困者ニ限リ町ノ負擔）同樣從來藥價ハ總テ町ノ負擔トセス主治醫（町主治醫）ニ對シ患者ヨリ直接支拂ハシメツツアリ

(3)　之カ理由トシテハ別紙（寫）ノ通リ同町ニ於テハ食費藥價ハ傳染病患者治療諸費中ニ包含セストノ見解ヲトレリ

(4)　縣當局ニ於テハ諸費中ニハ食費藥價ヲ包含スルヲ以テ患家ニ負擔セシムヘカラサルモノトシテ豫テ警察部長名ヲ以テ管內市町村長ニ對シ別紙寫ノ如キ通牒ヲ發セルヲ以テ(3)ノ問題ハ自然解決セラルヘキニ拘ラス飽迄自己ノ見解正シキモノトシテ主張セリ

依テ被保險者ヨリ當廳ニ對シ其ノ負擔部分ニ付療養費トシテ請求シ來リタリ、然レトモ同町ハ何等ノ視程ナクシテ徵收シタル

ヲ以テ正シク違法徴收ナルコトハ明ナリ、此ノ場合尙被保險者ニ對シ療養費トシテ支拂ヲ要スヘキモノナリヤ

二、第二ノ問題ハ

(1) 當該市町村カ單ニ財政關係ヲ考慮シ徴收規程ヲ設ケ患者カ他ノ市町村ノ住民等ノ場合勝手ニ被保險者ヨリ右食費藥價以外ノ費用ヲ徴收シタル如キ場合ニ於テモ、保險者ハ其ノ負擔部分ニ對シ療養費トシテ支拂フヘキ義務アリヤ

(2) 若シ支給スヘキモノトセハ、法規違反ヲ認容シタル結果トモナリ甚タ不合理ナラスヤトモ思料セラル

(3) 依テ療養費トシテ支給スヘキ場合ハ其ノ徴收カ單ニ事實問題ノミニヨラスシテ、合法的手段ニヨルヤ否ニヨリ決スヘキモノト思料セラル

(4) 從テ右ノ場合療養費トシテハ支給スヘカラサルモノトモ思料セラル

斯ル事例ハ、將來モ起リ得ル問題ニ付、此際事業主ニ對シテモ確固タル態度ヲ決メ置キ度ニ付、詳細何分ノ御回示相仰度

嘉　傳染病患者諸費ニ關スル件（昭、五、四、三〇衞第二二二二五號）

安原警察部長

各市町村長宛

傳染病院離隔病舍其ノ他適當ナル場所ニ收容シタル患者ノ食費藥價ハ勿論左記ノ如キ總テ法第二十一條第四號ニ依リ當然市町村ニ於テ負擔スヘキモノナルニ拘ラス今尙往々之ヲ患家ニ負擔セシムル向有之有哉ノ聞エ有之候處斯ル違法取扱ハ將來相改メ候樣致度依命及通牒候也

追而患者ノ藥價食費ニ限リ施行規則第十九條ノ定限內ニ於テ規則第三十條ニ依リ患家ヨリ徴收シ得ルモノニ有之爲念

記

一、醫師雇上給　往診料　手當

●法第六十二條第二項療養ノ給付ニ關スル件

保規第一八七號

昭和十二年十月十九日

社會局保險部長

福井縣知事殿

法第六十二條第二項療養ノ給付ニ關スル件回答

昭和十二年九月七日健發第六四二號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ傳染病豫防法ニ基キ町ノ隔離病舍トシテ之ヲ收容シタルモノナルトキハ療養費トシテ支給スヘキモノニ有之（昭和二年一月二十五日附保醫第一一〇號參照）

吉本

○健發第六四二號

昭和十二年九月七日

福井縣知事　羽生雅則

社會局保險部長殿

法第六十二條第二項療養ノ給付ニ關スル疑義伺ノ件

腸チブス患者ニシテ隔離病舍ニ收容セラレタル被保險者ニ對シ別紙條例ニ基キ食費、寢具、氷代、藥價、診療等ノ診療費全部ヲ被保險者ヨリ、徴收スルモノアリ、醫師ハ隔離前ヨリ引續キ同一保險醫ニヨリ療セシメ居リ（患者ノ隨意選擇セルモノヲ以テス）斯ノ如キ殆ント全費用ヲ被保險者ノ負擔トナス規定ニヨリ取扱ハル場合診療費ノミハ保險醫ハ縣醫師會ヘ請求スヘキモノニシテ療養費トシテ被保險者ニ支給シ得ルモノニアラスト一應思料セラレ些カ疑義相生シ候條何レニ據ルヘキカ至急何分ノ御指示相仰度此段及稟伺候也

（別　紙）

大正八年八月郡指令一收第一〇四〇二號認可

勝山町傳染病患者食費藥價徴收規定

第一條　傳染病ニ罹リ勝山町隔離病舍ニ收容シタル患者ノ食費、藥價ハ本規定ノ定ムル所ニヨリ之レヲ徴收ス

第二條　食費、藥價ハ左ノ範圍內ニ於テ町長之レヲ定メ本人又ハ扶養義務者ヨリ徴收スルモノトス

一、食費一人一日ニ付金五拾錢以內

但シ特別滋養物ヲ要スルモノハ其實費ヲ徴收ス

一、藥價（內服藥、外用藥）實費ヲ徴收ス

一、注射料及手術料實費ヲ徴收ス

一、其ノ他治療ニ要スル諸費實費ヲ徴收ス

第三條　患者ヨリ賄ニ要スル原料ヲ供給シ又ハ直接ニ醫師ヨリ藥品ヲ受クルモノニ對シテハ徴收スルノ限リニアラス

第四條　本町住民ニシテ現ニ公費ノ救助ヲ受クル者及町長ニ於テ貧困ノタメ辨納スルノ資力ナキ者ト認メタル者ニ對シテハ徴收ヲ半減又ハ免除スルコトヲ得

第五條　患者ニ付添人アルトキハ其ノ付添人ノ食費ハ第二條第一號ノ食費ヲ徴收ス

附　則

第六條　本規定ハ大正八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

吉本

●療養費ニ關スル件

○社庶第一六二九號

昭和十三年八月二十日

保險院社會保險局長

栃外縣知事宛

療養費ニ關スル件

昭和十三年六月二十九日附健第三、九八六號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件左記ノ通ニ有之

記

一、無醫村ニシテ諸般ノ狀況上療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メラルル場合ニ於テハ療養費ヲ支給相成可然

後段緊急ノ場合ノ例示ハ健康保險法施行令第七十七條第一項第三號ニハ該當セス但令第七十七條第一項第一號ニ該當スル場合ニ於テハ前段ニ依ル

二、御見込ノ通支給相成度

○健第三九八六號

昭和十三年六月二十九日

栃木縣知事　足立收

保險局長官　淵藤誠一殿

療養費ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ左記ノ點聊疑義相生候條何分ノ御指示相仰度此段及伺候也

記

一、無醫村ニ居住スル健康保險被保險者ニシテ醫療ヲ受ケ得ス賣藥療治ヲナシタル場合又ハ緊急ノ場合ニ於テ被保險者賣藥ヲ服用シクルトキハ右賣藥料ヲ療養費トシテ支給支障ナキヤ

二、右支障ナシトスレハ其ノ支給額決定ハ昭和二年二月二十六日保理第七三〇號社會局保險部長回答（神奈川縣健康保險署長宛）ニ據リ支障ナキヤ

（第一項　後段緊急ノ場合ニ於ケル例示）

(1)　無醫村或ヒハ醫師アリト雖モ相當ノ距離アリテ交通ノ利便モ思フニ委セヌトキ疾病ノ狀況如何ニヨリテ數日間通院不可能ナル場合

(2)　又ハ醫師ノ往診ヲ得ルマテニ同樣數日ヲ要スルトキ應急處置トシテ賣藥ヲ服用セル場合

第三節　傷病手當金

●保險給付請求書等ニ添附スヘキ事業主ノ證明書記載事項ニ關スル件

（昭和二年二月一日保理第四八〇號社會局保險部長通牒）

健康保險署長（但シ富山健康保險署長ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ付富山健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ乙號ノ通回答致候間候

（別紙）

（甲號）

二富發庶第二三七號

昭和二年一月十九日

富山健康保險署長　舟木傳次

社會局保險部長　湯澤三千男殿

傷病手當金及出產手當金請求書ニ添附スヘキ事業主ノ證明書ニ關スル件

標記證明書ニ記載スヘキ事業主名ニ付左記疑義有之候ニ付何分ノ御指示相仰度此段及御伺候也

左記

事業主法人ナル場合

1、是非代表者ノ名義ヲ以テ證明ヲ爲スノ要アリヤ又大正十五年十一月十日保發第一七九號通牒ノ資格取得屆等ノ記載例ニ準シ法人ノ名稱（ゴム印ニテ足ル）及大正十五年十一日二日付大阪出張所長通牒ノ資格取得屆ノ記載例ニ準シ其ノ會社若クハ何々會社何々工場（鑛山）印ノ形式ニ依リ取扱差支ナキヤ

2、前項前段ノ如クナリトセハ工場又ハ事業場カ遠隔ノ地ニアリテ工場又ハ事業主印ノ押捺方急速ニ取運ヒ難キ場合ハ不得止工場長又ハ管理人名義ニテモ差支ナキヤ

（乙號）保理第四八〇號

昭和二年二月一日　社會局保險部長

富山健康保險署長宛

保險給付請求書等ニ添附スヘキ事業主ノ證明書記載事項ニ關スル件

昭和二年一月十九日附二富發庶第二三七號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件ハ「1」ノ後段御見込ノ通取扱相成可然但シ印章ノ押捺ヲ省略セルセノハ不可然儀ニ有之尙本件ハ健康保險法施行規則第六十四條ノ規定ニ依リ事業主ニ於テ保險給付請求書ニ記載ヲ爲ス場合ニ於テモ同樣ノ趣旨ト御了知相成度

●法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者及被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニ對スル傷病手當金及出產手當金ニ關スル件

（昭和二年二月十五日保理第六五八號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合宛

標記ノ件ニ付旭川健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ乙號ノ通回答致置候

（別紙）

（甲號）

旭給第一八四號

昭和二年一月二十九日

旭川健康保險署長

社會局保險部長殿

保險法第二十條及令第八十四條ニ關スル件伺

標記ノ件ニ關シ左ノ通疑義相生候條何分ノ御回示相煩度

一　健康保險法第二十條ニヨル任意繼續被保險者ニ對シテハ強制被保險者ト同樣業務外ノ傷病ニ對シテハ療養ノ給付セラルヘキハ可然義ト存セラレ候モ斯ノ如キ場合ニ於テハ傷病手當金ハ之ヲ支給スヘキ義ニ候哉果シテ然リトセハ規則第五十七條第二項第一號事業主ノ證明ハ是ヲ得ルニ由ナキモノト相成ヘクト存セラレ候モ如何ノモノニ候哉

二　施行令第八十四條ニヨリ被保險者資格喪失後百八十日以內ニ分娩シタル場合ニ出產手當金請求書ニ關シ規則第六十二條第二項第一號事業主ノ證明云々トアルハ喪失前ノ事業主ノ證明ト解シ可然哉

（乙號）

保理第六五八號

昭和二年二月十日

社會局保險部長

旭川健康保險署長殿

法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者及被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニ對スル傷病手當金及出產手當金ニ關スル件

昭和二年一月二十九日附旭給第一八四號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件左ノ通ニ有之

記

健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ對シテハ傷病手當金ヲ支給スヘキモノトス而シテ健康保險法施行規則第五十七條

第二項ノ規定ニ依リ添附スヘキ事業主ノ證明書ハ從來ノ事業ニ使用セラレサル被保險者ニ在リテハ添附スルノ必要ナキモノトス尙被保險者ノ資格喪失後傷病ニ關スル給付ヲ受クル者ニ付テモ右ノ證明書ハ添附スルノ必要ナキモノトス又被保險者ノ資格喪失後分娩ニ關スル給付ヲ受クル者カ健康保險法施行規則第六十二條第二項ノ規定ニ依リ添附スヘキ事業主ノ證明書ニ付テモ亦同樣ノ義トス

●保險給付ヲ受クル權利ノ承繼者ニ於テ爲ス保險給付ノ請求ニ關スル件

（昭和二年二月十八日保理第七一九號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合（但シ釧路健康保險署長ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ付釧路健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通リ回答致置候

（別紙）

（甲號）

二釧給第一〇一號

昭和二年二月一日

釧路健康保險署長

社會局保險部長殿

被保險者死亡ノ場合ニ於ケル其被保險者ノ有スル保險給付請求ニ關スル件

被保險者死亡後ニ於テ其被保險者カ請求權ヲ有スル傷病手當金又ハ療養ノ給付ニ代ヘテ支給セラルヽ療養費等（分娩費、出產手當金モ同シ）ハ公法上ノ債權ナルモ金錢債權ナルヲ以テ其ノ相續權者カ當然請求權ヲ有スルモノト被思惟候處此ノ場合ニ於ケル請求方法ニ關シテハ何等具體的規定ナキモ被保險者ヨリ請求スヘキ施行規則所定ノ各事項ノ外尙ホ相續權者ナルコトヲ立證スルニ足ル戶籍抄本ノ類ヲ添附セシムルノ方法ニテ請求セシメ支障無之候哉之カ取扱方ニ關シ至急何分ノ御回示相煩度及伺申候也

（乙號）

保理第七一九號

昭和二年二月十八日

社會局保險部長

釧路健康保險署長殿

保險給付ヲ受クル權利ノ承繼者ニ於テ爲ス保險給付ノ請求ニ關スル件

昭和二年二月一日附二釧給第一〇一號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件御見込ノ通取扱相成可然

追テ本件ノ場合ニ於ケル相續人トハ民法ノ規定ニ依リテ爲リタル相續人ニ有之爲念

●法第四十五條ノ「療養ノ爲」ノ意義ニ關スル件

（昭和二年二月二十六日）
（保發第三四五號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合宛

健康保險法第四十五條ノ「療養ノ爲」トアルハ保險給付トシテ受クル（療養療養費ノ支給ヲ受クルコトヲ含ム）ノ爲ヲ謂フモノト解シ來リ候處（健康保險法規疑義事項解釋第一輯健康保險法第四十五條ノ部參照）保險事業實施後ノ實情ニ徵スルニ斯クノ如キ解釋ニ依ル場合ニ於テハ種々不都合ノ點有之故ニ本件ハ之ヲ廣義ニ解シ即チ保險給付トシテ受クル療養ノ爲ニノミニ限ラス然ラサル療養ノ爲ヲモ含ムモノト御了知相成度

追テ健康保險法施行規則第五十七條第二項第一號ノ醫師又ハ齒科醫師トアルハ必スシモ保險醫タルコトヲ要セサル義ニ有之尙醫師又ハ齒科醫師ニ就キ診療ヲ受ケサリシ場合ニ於テハ右規定ニ依ル意見書ノ添附ハ之ヲ要セサルモノニ有之

（參照）

健康保險法規疑義事項解釋（第一輯）抄

法第四十五條ノ療養ノ爲ノ意義

法第四十五條ノ「療養ノ爲」トハ保險給付トシテ受クル療養（療養費ノ支給ヲ受クルコトヲ含ム）ノ爲ヲ謂フモノトス

●保險給付請求書類ノ記載事項訂正ニ關スル件

（昭和二年二月二十六日）
（保理第八一四號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合（但シ札幌健康保險署長ヲ除ク）宛

保險給付請求書類ノ記載事項訂正ニ關スル件

標記ノ件ニ付札幌健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）

（甲號）

二給第一二六號
昭和二年二月十日

札幌健康保險署長　山本重晴

社會局保險部長　湯澤三千男殿

台本

保險給付費支出ニ係ル證憑書類ニ關スル件

保險給付費諸手當金請求書提出方ニ關シテハ管下事業主ニ對シ通牒致置候得共尙之カ請求ニ際シテハ不備ノ箇所尠カラサル現狀ニ有之斯ノ如キ場合ニ於テハ訂正ノ上捺印セシメ再提出セシムヘキ筋合ノモノト被認候得共一々返付シ訂正ナサシムルトキハ北海道ノ如キ冬季交通不便ナル土地ニ於テハ照復ニ相當ノ日子ヲ要シ延テ保險給付ノ敏活ヲ期シ難ク候條同證憑書類ニ對スル整理ニ付テハ便宜當署ニテ訂正ノ上處理致シ可然哉何分ノ御指示相仰度此段及經伺候也

（乙號）

保理第八一四號ノ內
昭和二年二月二十六日

社會局保險部長

札幌健康保險署長殿

保險給付請求書類ノ記載事項訂正ニ關スル件伺

昭和二年二月十日附二給第一二六號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件、右ハ健康保險法施行規則第五十七條第一項、第五十九條乃至第六十一條、第六十二條第一項等ノ規定ニ依ル請求書ノ意ナリトセハ該書類ノ記載事項中輕微ナル誤謬ニシテ直ニ訂正シ得ヘキモノニ限リ保險署ニ於テ便宜訂正相成可然（健康保險事務取扱規程第五條參照）又本件ハ右ノ請求書ノ附屬書類タル證憑書類ノ意ナリトセハ該書類ノ記載事項ヲ保險署ニ於テ妄ニ訂正ヲ爲スカ如キハ不可然儀ニ有之

（註「舊健康保險事務取扱規程第五條」ハ昭和六年二月二十七日內務省訓第二四一號健康保險事務取扱規程第四條ノ規定ト同一ナリ）

台本

●法第四十七條但書ノ待期ニ關スル件

（昭和二年三月十一日）
（保理第一〇八五號社會局保險部長回答）

旭川健康保險署長宛

旭給發第二七二號
昭和二年二月二十五日

旭川健康保險署長

社會局保險部長殿

法第四十五條但書ノ待期ノ適用ニ關スル件伺

業務外ノ疾病負傷ノ療養中被保險者カ診療醫ノ宣告ヲ俟タスシテ勞務ニ堪ヘ得ルモノト誤信シ診療ヲ中斷スルコトナク勞務ニ服シ休業ヲ中斷シ給料ノ支給ヲ受ケタル場合ニ於テハ傷病手當金ノ支給ハ其ノ更新中斷ノ都度待期ヲ計算シ支給スヘキ筋ト存セラレ候ヘ共御意見承ハリ度此段伺上候

保理第一〇八五號

昭和二年三月十一日

旭川健康保險署長殿　　社會局保險部長

法第四十五條但書ノ待期ニ關スル件

昭和二年二月二十五日附旭給第二七二號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ疾病又ハ負傷ニ付最初ニ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テノミ待期ノ適用アルモノニシテ其ノ後勞務ニ服シ（醫師ノ指示ノ有無ヲ問ハス）其ノ疾病又ハ負傷ニ付更ニ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テハ待期ノ適用ナキモノニ有之

●接骨師ノ如キ者ニ依リテ爲シタル療養ニ關スル傷病手當金支給ニ關スル件

（昭和二年三月二十六日保理第一一八號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合（但シ岐阜健康保險署長ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ付岐阜健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）

（甲號）

二給第五六九號

昭和二年三月三日

岐阜健康保險署長　　社會局保險部長殿

療養費支給ノ場合ニ於ケル手當金請求ニ關スル件

緊急等ノ爲メ不止得保險醫以外ノ接骨師又ハ整復術師等ニ診療ヲ受ケタル場合施行令第七十七條第三項ニ依リ療養費ヲ支給スルモ其ノ期間勞務ニ服セサル場合前記接骨師又ハ整復術師等醫師ニ非サル者ノ勞務ニ服セサル證明ニテハ傷病手當金ヲ支給シ得サルモノトセハ甚タ公平ヲ缺キ候ニ付此ノ場合如何ニ取扱フヘキヤ

右御教示相成度候

（乙號）

保理第一、一八一號

昭和二年三月二十六日

岐阜健康保險署長殿　　社會局保險部長

接骨師ノ如キ者ニ依リテ爲シタル療養ニ關スル傷病手當金支給ニ關スル件

昭和二年三月三日附二給第五六九號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件

右ハ接骨師、整復術師等ノ意見書ニテモ差支ナキモノトシテ傷病手當金ヲ支給相成可然

●法第四十五條ノ「療養ノ爲」ノ意義ニ關スル件

（昭和二年四月二十七日保發第三四五號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合（但シ鳥取健康保險署長ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ付鳥取健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）

（甲號）

二鳥受給第一、二九六號

昭和二年四月六日

鳥取健康保險署長　岡　潤次郎　　社會局保險部長殿

法第四十五條ノ「療養ノ爲」ノ意義ニ關スル件

客月二十六日附保發第三四五號ヲ以テ御通牒ニ係ル首標ノ件中追書後段ノ「尚醫師又ハ齒科醫師ニ就キ療養ヲ受ケサリシ場合トハ病後離養シタル期間及負傷疾病シ醫師ニ就キ診療ヲ受クヘク中途ニ費シタル期間（例ヘハ僻阪ノ地ニ於テ傷病ニ罹リ醫師ノ許ニ赴クニ要シタル期間又ハ指定醫師偶々不在ノ爲メニ要シタル期間）等ヲ指スモノナリト思料セラルルモ若シ然ラサル場合モ一般ニ包含スルトセハ例ヘハ傷病ニ罹リタルモ醫師又ハ齒科醫師ノ診療ヲ受ケス而モ勞務ニ服スルコト能ハサルヲ以テ單ニ休養シタル場合ノ如キニ於テモ本文ノ趣旨ニ依リ取扱フモノナリヤ然リトセハ被保險者中ノ懈怠者ノ怠業ヲ助長セシメ或ハ家事ノ都合上休業シタルモノモ名ヲ藉リテ不正ニ傷病手當金ヲ騙取スルカ如キコトヲ保シ難ク從テ取扱上不便ヲ來スヘク疑義相生シ候條至急何分ノ御回示相仰度候

（乙號）

保發第三四五號ノ內

昭和二年四月二十七日

鳥取健康保險署長殿　　社會局保險部長

法第四十五條ノ療養ノ爲ノ意義ニ關スル件

昭和二年四月六日附二鳥受給第一、二九六號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件ハ例示ノ場合ヲモ含ム義ニ有之而シテ例示ノ場合ニ於テハ傷病手當金支給請求書ニ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサリシ期間ニ關スル醫師ノ意見書及事業主ノ證明書ヲ添附シアルヲ以テ是等ノ書類等ヲ資料トシテ正否ヲ判定スルノ外無之但シ

醫師若ハ齒科醫師ニ就キ診療ヲ受ケサリシ場合又ハ任意繼續被保險者ニシテ從來ノ事業ニ使用セラレサル者若ハ被保險者ノ資格喪失後ノ者ニ對スル給付ノ場合ニ於テハ傷病手當金支給請求書ニ右ノ意見書又ハ證明書ノ添附ナキヲ以テ此ノ場合ニ於テハ適宜ノ方法ニ依リ正否ヲ判定スルノ外無之

●傷病手當金ノ支給ニ關スル件

（昭和二年五月十日保理第二二一一號社會局保險部長通牒）

健康保險組合宛

標記ノ件ニ付靜岡健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）

（甲號）

給發第二七號

昭和二年五月三日

靜岡健康保險署長　三井正雄

社會局保險部長　湯澤三千男殿

傷病手當金支給可否ノ件

標記ノ件ニ關シ左記ノ通リ疑義有之候條何分ノ御回示相煩度此段及伺候也

記

被保險者療養ノ給付ヲ受クル場合保險醫ハ其ノ傷病ハ休業ヲ要スル程度ノモノニアラスト認定セルモ被保險者ノ住所診療所ト遠隔ノ地ニアリ通院ノ爲事實上勞務ノ廢止ヲ必要トスル場合右休業ハ之ヲ廣義ニ解シ法第四十五條ノ所謂療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルモノトシ傷病手當金ハ之ヲ支給シ可然モノナルヤ

（乙號）

保理第二二一一號

昭和二年五月十日

社會局保險部長

靜岡健康保險署長殿

傷病手當金ノ支給ニ關スル件

昭和二年五月三日附給發第二七號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件御見解ノ通ニ有之

●同盟罷業ノ場合ニ於ケル保險給付ニ關スル件

（昭和二年九月十九日保發第八一八號社會局保險部長通牒）

台本

健康保險署長及健康保險組合（但シ保險部大阪出張所分掌區域內ノ署長及組合ヲ除ク）宛

工場又ハ事業場ニ於テ同盟罷業アル場合ニ於テハ被保險者カ健康保險ヲ濫用スルノ傾向有之殊ニ不德ナル者ハ事實ヲ詐リテ傷病手當金等ノ支給ヲ受ケ之ヲ同盟罷業ノ運動費用ニ充ツル趣ノ風聞モ有之候ニ付テハ斯カル場合ニ於ケル保險給付ハ嚴重事態ヲ調査ノ上執行相成候樣致度又罷業中明ニ此等ノ傾向ヲ認メ得ヘキ場合ニハ詳細御報告相成度但シ之カ爲メ保險給付ヲ受クル正當ナル權利ヲ阻ムカ如キコトハ無之樣是亦充分注意相成度

●傷病手當金ノ支給ヲ受クル者代人ヲシテ勞務ニ服セシメタル場合ニ關スル件

（昭和三年七月十九日保理第一八三三號社會局保險部長回答）

東京健康保險署長宛

三給發第一六一號

昭和三年七月十一日

東京健康保險署長

社會局保險部長殿

傷病手當金請求ニ關スル件

台本

被保險者甲業務上ノ事由ニ因ラサル疾病ニヨリ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサル狀態ニ至リタルヲ以テ其期間傷病手當金ノ支給ヲ受ケタルモ年末賞與等ヲ減額サルルヲ慮レ代人乙ヲシテ本人甲ノ名ヲ以テ勞務ニ服セシメ且報酬ヲ受領セシメタリ右ノ場合ニ於テ甲ニ對シテハ健康保險法施行令第八十五條ニ該當スルモノトシ傷病手當金ヲ返還セシムヘキモノナリヤ或ハ勞務供給ニ關シテハ甲乙ヲ別個ノモノトシ甲ノ手當金受領ハ正當ニシテ乙ニ對シテハ施行令第九條ニ依リ資格取得ノ有無ヲ考慮スヘキモノナリヤ聊カ疑義相生候ニ付何分ノ御回示相煩度此段及稟伺候

保理第一八三三號

昭和三年七月十九日

社會局保險部長

東京健康保險署長殿

傷病手當金ノ支給ヲ受クル者代人ヲシテ勞務ニ服セシメタル場合ニ關スル件

昭和三年七月十一日附三給發第一六一號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ後段御見解ノ通

●勞務不能期間ノ醫師ノ意見書ト施行規則第六十六條ノ三トノ關係ニ關スル件

（昭和三年十月九日保理第二六七七號社會局保險部長回答）

富士瓦斯紡績岐阜工場健康保險組合宛

富岐發第一四〇號
昭和三年九月二十八日

富士瓦斯紡績岐阜工場健康保險組合

社會局保險部長殿

拜啓左記ノ件ニ就キ疑義相生シ申候ニ付御敎示ニ預リ度此段及御伺候也

記

改正施行規則第六十六條ノ三ニ關スル件

昭和三年四月七日附內務省令第十二號健康保險法施行規則改正分中第六十六條ノ三ノ內「療養給付ニ關シ云々、、、、ト有之候處左ノ如キ場合ハ之ヲ如何ニ解釋取扱フヘキヤ

一、被保險者病氣ノ爲保險醫ノ診療ヲ受ケ休業中ノモノ傷病手當金ノ交付ヲ受ケンカ爲保險醫ニ對シ健康保險法施行規則第五十七條第一項第四號ニ關スル意見書ヲ請求セシ處記載事項簡單ニ過キ組合ニテハ右ノ意見書ノミニテハ果シテ休業ヲ必要トスル程度ナリヤ否ヤヲ判斷スルニ困難ナルカ如キ場合保險者ハ改正規則第六十六條ノ三ヲ適用シテ保險醫ニ對シ勞務ニ服シ得サル理由トナルヘキ自覺症狀及他覺症狀ノ概略ヲ當該意見書ニ記入ヲ求ムルコトヲ得ルモノナリヤ

以上

保理第二六七七號
昭和三年十月九日

社會局保險部長

富士瓦斯紡績岐阜工場健康保險組合御中

勞務不能期間ノ醫師ノ意見書ト施行規則第六十六條ノ三トノ關係ニ關スル件

昭和三年九月二十八日附ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ疾病又ハ負傷ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサリシ期間ニ關スル保險醫ノ意見書ノ內容不確實ト認ムルモノニ在リテハ之カ內容ニ付キ一方ノ療養ノ給付ニ關スル事項トシテ健康保險組合ニ於テ同規則第六十六條ノ三ノ規定ニ依リ治療ヲ爲シタル保險醫ニ對シ說明ヲ求メ又ハ報告ヲ徵スルコトヲ得ルモ保險醫ノ意ニ反シ意見書ニ必要事項ヲ記入スヘキ樣命スルコトヲ得サルモノニ有之候

追而傷病手當金請求書ノ內容不明確ニシテ手當金ヲ支給スヘキヤ否ヤ決定シ難キ場合ニ於テ被保險者ヲシテ該請求書ヲ可然補充セシムルハ勿論支障無之從テ本件ノ如キ場合ニ不明確ナル點ヲ指示シ被保險ヲシテ當該醫師ニ就キ意見ノ書キ換ヲ受ケシムル樣取扱フモ支障無之爲念

●前組合所屬當時ニ於ケル業務上ノ疾病ニ付療養ノ給付ヲ受クル場合ニ關スル件

（昭和三年十一月二日保理第二七九一號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合（北鐵ヲ除ク）
日本醫師會長及日本齒科醫師會長宛

標記ノ件ニ付北鐵健康保險組合ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）

甲號

庶第一二八號
昭和三年十月五日

社會局保險部長殿

北鐵健康保險組合

保險給付ニ付事業主ノ證明ノ件

甲健康保險組合ニ於テ業務上ノ傷病ニ依リ給付ヲ受ケタルモノ乙組合ノ被保險者トナリタル後傷病再發シ保險給付ヲ請求シタル場合乙組合ハ被保險者ニ對シ施行規則第四十五條第四項ニ依リ前事業主ノ證明書ヲ提出セシムヘキモノニ候哉或ハ又甲組合ノ證明シタル被保險者臺帳寫ヲ以テ事業主ノ證明書ニ替ユヘキモノニ候哉御伺申上候

乙號

保理第二七九一號
昭和四年十一月二日

北鐵健康保險組合御中

社會局保險部長

前組合所屬當時ニ於ケル業務上ノ疾病ニ付療養ノ給付ヲ受クル場合ニ關スル件

昭和三年十月五日附庶第一二八號ヲ以テ伺出相ノ候標記ノ件右ハ甲健康保險組合所屬當時ノ疾病カ一時輕快トナリ其ノ後乙健康保險組合所屬後更ニ療養ヲ要スル程度ニ至リタルモノトセハ健康保險法施行規則第四十五條第四項ノ規定ニ依リ保險醫ニ提出スヘキ證明書ハ甲健康保險組合所屬當時ノ事業主ノ證明書タ

ルコトヲ要スルモノニ有之候ヘ共便宜伺出後段ノ方法ニ依ルモ差支無之ト認メラレ候

●醫師又ハ齒科醫師ノ意見書ニ關スル件

（昭和三年十二月二十七日保理第三一六三號社會局保險部長回答）

神奈川健康保險署長宛

三給發第八六九三號
昭和十三年十二月十九日

社會局保險部長　山口安憲殿

神奈川縣健康保險署長　佐藤新

醫師又ハ齒科醫師ノ意見書ニ關スル件

健康保險法施行規則第五十七條第二項第一號ノ醫師又ハ齒科醫師ノ意見書ニ代フルニ病院又ハ醫院ノ意見書ニテモ差支無之候哉疑義相生候條至急何分ノ御指示相煩度

保理第三一六三號
昭和三年十二月二十七日

社會局保險部長

神奈川健康保險署長殿

醫師又ハ齒科醫師ノ意見書ニ關スル件

昭和三年十二月十九日附三給發第八六九三號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件ハ病院又ハ醫院ノ名ヲ以テ發セル意見書ハ不可然義ニ有之

●傷病手當金支給ニ關スル件

（昭和三年十二月二十七日保理第三一七六號社會局保險部長回答）

明治館健康保險組合宛

明健保發第三八號
昭和三年十二月二十三日

社會保險部長殿

明治館健康保險組合

傷病手當金支給ニ關スル左記ノ點伺

病氣ノ性質ニヨリ「例ヘハ眼病、腫物」ニテ歸鄉療養中家事ノ副業ヲ手傳ツツアル者ニ對シ醫師ノ證明アレハ法ニ依ル傷病手當金ノ全額ヲ支給スヘキモノナルヤ又ハ減額ノ方法可有之哉何分ノ御敎示願上候

保規第三一七六號
昭和三年十二月二十七日

社會局保險部長

明治館健康保險組合御中

傷病手當金支給ニ關スル件

右本

昭和三年十二月二十三日附明保健第三八號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件ハ傷病ノ狀態カ工場ニ於ケル勞務ニ服シ得サル程度ノモノナリトセハ家事ノ副業ニ從事シタル場合ト雖モ傷病手當金ヲ支給スヘキモノニシテ然ラサルモノトセハ傷病手當金ヲ支給スヘカラサルモノニ有之而シテ本件ノ如キ場合ニ於テハ傷病手當金ヲ減額シテ支給スルコトヲ得サルモノニ有之

●被保險者資格喪失後ノ傷病手當金ニ關スル件

（昭和四年二月二十日保理第四八九號社會局保險部長回答）

足尾銅山健康保險組合宛

足發第一五號
昭和四年二月八日

社會局保險部長殿

足尾銅山健康保險組合

法第五十五條ニ關スル疑義伺ノ件

標記ノ件ニ關シ左記事實ニ付疑義相生シ候ニ付至急何分ノ御指示相煩度此段及伺出候

記

一　昨年八月五日發病（胃加答兒、後胃癌ニ變症）同月十日ヨリ療養ノ爲勞務ニ服セサルニ至リ其ノ後同十二月四日ニ資格喪失爾來繼續シテ給付ヲ受ケ居タル者同月十九日指定醫師ヨリ二十日分（一月七日マテ）ノ投藥ヲ受ケ保險者タル組合ノ承認ヲ得ス歸鄉シ指定醫外ノ醫師ノ診療ヲ受ケ本年一月十四日死亡シタルヲ以テ相續人ヨリ同醫師ノ作成セル一月一日ヨリ同十四日迄ノ診療證明書ヲ添附シ一月分（第六回目）ノ病手當金トシテ右十四日分ヲ請求シ來レリ

右事實ニ對シ十九日組合ノ承認ヲ得ス無斷歸鄉シタルハ曩ニ御配布ノ疑義事項解釋第十輯ニ所載ノ昭和三年三月十五日附保理第五三三號ヲ以テ保險部長ヨリ神奈川縣川崎市堀ノ內富士紡病院內菊池政三宛御回答ノ趣旨ニ依リ同一保險者ヨリノ保險給付ヲ相當期間廢シタルモノト看做シ法第五十五條ノ適用ナキモノトシテ傷病手當金ノ支給ヲ拒止スヘキ哉或ハ二十日分ノ投藥ヲ受ケタルヲ以テ繼續給付ヲ受ケ得ルモノト見做シ引續キ一月十四日迄ノ傷病手當金支給可然哉將又出發ノ際ニ投藥ヲ受ケシ日數ノ滿了日（二十日間ノ）タル一月七日迄支給可然哉

保理第四八九號
昭和四年二月二十日

社會局保險部長

足尾銅山健康保險組合御中

右本

被保險者資格喪失後ノ傷病手當金ニ關スル件

昭和四年二月八日附足發第一五號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ傷病手當金ハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサル場合ニ支給スルモノニシテ此ノ「療養」ハ必スシモ保險醫ニ就キ診療ヲ受ケタル場合ニ限ラサルモノニ有之故ニ伺出ニ係ル被保險者カ資格喪失後本年一月十四日迄勞務ニ服スルコト能ハサリシモノトセハ本年一月十四日迄ノ傷病手當金ヲ支給スヘキモノニ有之

●傷病手當金支給請求中醫師ノ意見ニ關スル件

（昭和四年二月二十一日保理第三八八號社會局保險部長回答）

大林製絲所健康保險組合宛

大林健保第六號

昭和四年一月三十一日

大林製絲所健康保險組合理事長　大林功

社會局保險部長殿

傷病手當金請求書中醫師ノ意見書ニ關スル件

傷病手當金請求書中醫師ノ意見書ニ關シ疑義相生シ候ニツキ甚御手數ノ義ニ候ヘ共左記ノ點何分ノ御回示相煩度及御依賴候也

記

傷病手當金請求書中醫師ノ意見書ニ假令被保險者病名（神經衰弱）ト稱シテ十二月六日ヨリ十二月末日迄歸鄉休業シ此ノ間醫師ノ治療ヲ受ケス（被保險者ハ賣藥ニテ療養シタルト稱ス）然シテ一月二十五日ニ至リ初メテ醫師ノ診斷ヲ受ケ十二月六日ヨリ十二月三十一日迄ノ手當金請求アリタリ（醫師竝ニ事業主ニツキ事實ヲ調査シタルトコロ）即チ醫師ハ診斷セサル前期間ニ對シテ推測ニヨリ證明シタルモノニシテカカル場合ニ於テノ推測證明ハ常識ヨリ考フルトキハ醫師ハ診斷治療セサル期間ニ對シテハ確實ニ何日間勞務ニ服セサルト云フ事ハ證明出來サルト共ニカカルモノヲ證明スルトキハ限リナキモノト被存候カ事實カカル傷病手當金請求書ニ對シテハ取扱如何ニ候ヤ此段御伺申上候

保理第三八八號

昭和四年二月二十一日

社會局保險部長

大林製絲所健康保險組合御中

傷病手當金請求書中醫師ノ意見ニ關スル件

昭和四年一月三十一日附大林健保第六號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ傷病手當金支給請求書ニハ勞務ニ服スルコト能ハサリシ期間ニ關スル醫師ノ證明書ヲ添附スヘキモノニ非スシテ意見書ヲ添附スヘキモノニ有之故ニ醫師ニ於テ被保險者ノ既往ノ狀態ヲ推測シテ表示シタル意見書ハ差支無之但シ貴組合ニ於テ被保險者カ勞務ニ服スルコト能ハサリシ狀態ニ在リシコトヲ認ムルニ非サレハ傷病手當金ヲ支給スヘキモノニ非ス

●子宮後屈傾ノ療養ト傷病手當金ニ關スル件

（昭和四年三月十三日保理第四二五號社會局保險部長回答）

新潟健康保險署長宛

四給發第九〇八號

昭和四年二月三日

新潟健康保險署長

社會局保險部長殿

子宮後屈傾ノ療養ト傷病手當金ニ關スル件伺

診療方針ニ於テ療養ノ給付ヲ爲ササルモノト定メラレタル疾病ニ對シテハ之カ療養（自費）ノ爲假令勞務ニ服スルコト能ハサル場合ト雖傷病手當金ハ之ヲ支給シ得サル義ト解セラレ候得共子宮屈傾ノ如キニ於テ其ノ症狀缺如スルモノハ格別トスルモ子宮內膜炎、附屬器炎其ノ他ノ併存症アルトキ其ノ療養ニ當リテ子宮屈傾ニ對スル「アレキサンダー氏」ノ手術ヲ施ス必要アル場合ノ如キハ當然勞務不能ニ陷ルヘク又同症ニ對シ之等ノ手術ヲ爲スハ診療上特異ナラサルモノト被認候ニ就テハ如斯場合ト雖仍傷病手當金ハ之ヲ支給シ得サル義ニ候哉何分ノ御指示相煩度此段及伺出候也

保理第四二五號

昭和四年三月十三日

社會局保險部長

新潟健康保險署長殿

子宮後屈傾ノ療養ト傷病手當金ニ關スル件

昭和四年二月三日附四給發第九〇八號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ伺出ノ如キ場合ニ於テハ傷病手當金ヲ支給相成可然

●傷病手當金及出產手當金ノ支給期日ニ關スル件

（昭和四年五月二十九日保發第二九三號社會局保險部長通牒）

健康保險署長宛

來ル六月一日ヨリ施行セラルル豫定ノ健康保險法施行規則中改正省令ニハ現行第六十八條ヲ削除スルコトニ相成候仍テ政府ノ

管掌スル保險ノ傷病手當金及出產手當金ノ支給期日ニ付テハ各健康保險署長ニ於テ便宜ト認ムル一定ノ期日（毎月二回以上タルコト）ヲ豫メ決定シ右改正省令ノ施行後直ニ告示セラルル樣致度尙告示シタル場合ニ於テハ告示文ヲ添ヘ漏滯ナク報告相成度右依命通牒候也

追テ本件ノ支給期日ハ請求アリタル都度支給スルコトト爲スモ差支無之又支給期日ヲ將來變更シタル場合ニ於テモ遲滯ナク其ノ告示文ヲ添ヘ報告セラレ度尙告示ニ付テハ左記例ヲ參考ニ資セラレ度

記

何健康保險署告示第何號

傷出手當金及出產手當金ハ毎月何日、何日及何日ニ之ヲ支給ス（請求アリタル都度之ヲ支給ス）

前項ノ期日休日ニ當ルトキハ之ヲ繰下ク（繰上ク）

毎支給期日ニ於テ支給スル傷病手當金及出產手當金ハ其ノ支給期日ノ五日前迄（七日前迄）ニ請求アリタル分トス

何健康保險署長

年　月　日　官　氏　名

注意

請求アリタル都度支給スルコトト爲ス場合ニ於テハ右告示文ノ第二項及第三項ヲ記載セサルコト勿論トス

●保險事故タル疾病ノ範圍ニ屬セサル疾病ノ手術ヲ爲シタル爲勞務ニ服シ能ハサリシ者ニ對スル傷病手當金ニ關スル件

（昭和四年六月二十九日保理第一七〇四號社會局保險部長回答）

東京健康保險署長宛

四給發第一五九號

昭和四年五月十五日

社會局保險部長殿

東京健康保險署長

診療方針ニヨリ療養給付ヲ爲ササルコトトシタル疾病若ハ先天的障碍ト傷病手當金ニ關スル件伺

診療方針ニヨリ療養給付ヲ爲ササルコトトシタル疾病若ハ先天的障碍ニ對シ被保險者カ自己ノ費用ヲ以テ手術ヲ施シ爲ニ勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テハ之ニ對シ傷病手當金ハ支給スヘカラサル儀ニ有之候哉或ハ療養給付ハナスヘカラサルモ傷病手當金ハ之ヲ支給シ可然哉聊カ疑義相生シ候ニ付何分ノ御指示相仰度此段及稟伺候也

保理第一七〇四號

昭和四年六月二十九日

東京健康保險署長殿

社會局保險部長

保險事故タル疾病ノ範圍ニ屬セサル疾病ノ手術ヲ爲シタル爲勞務ニ服シ能ハサリシ者ニ對スル傷病手當金ニ關スル件

昭和四年五月十五日附四給發第一五九號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件ハ前段ニ依リ取扱相成可然

●傷病手當金支給ニ關スル件

（昭和四年八月二十三日保監第四七號社會局保險部長回答）

住友坂炭礦健康保險組合宛

庶第一三八號

昭和四年八月十一日

住友坂炭礦健康保險組合

社會局保險部長殿

傷病手當金支給ニ關スル件

當組合被保險者ノ標準報酬ハ毎年六月一日現在ニ依リ決定シ八月一日ヨリ效力ヲ生スル規定ニ有之候處八月一日前後繼續シテ同一傷病ニ付傷病手當金ノ支給ヲ要スル場合ニ於テ八月一日以降ハ改定標準報酬ニ依リ支給スヘキモノニ候哉或ハ又該傷病手當金ノ支給ヲ始メタル當時ノ標準報酬ニ依リ引續キ支給スヘキモノニ候哉本件ノ如キ場合ノ支給ニ付テハ既ニ御通牒有之タルコトト被存候得共疑義解釋中見當ラス候間乍御手數御指示相煩度御照會申上候

保監第四七號

昭和四年八月二十三日

住友坂炭礦健康保險組合御中

社會局保險部長

傷病手當金支給ニ關スル件

本月十一日附庶第一三八號ヲ以テ照會ニ係ル標記ノ件ハ前段御見解ノ通ニ有之

●勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ノ起算日ニ關スル件

（昭和四年十二月七日
保規第四八八號社會局保險部長回答）

富士製紙健康保險組合宛

保第四一六號
昭和四年十一月二十九日

社會局保險部長殿

富士製紙健康保險組合

法第四十五條ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ノ疑義伺出ノ件

標記ノ件ハ曆日ニ依ルモノナルヤ否ヤ些疑義相生シ候ニ付御指示賜度此段及伺出候也

保第四一六號ノ伺出ニ關シ當方ノ疑義ノ點御參考迄ニ申添置申上候

○甲說　根本ハ曆日ニ依ルモ場合ニ依リ勤務時間ヲ以テ曆日ニ準スルノ說

當組合ノ設立アル會社工場ニ於テハ晝夜交替シテ作業ヲ續行シ居ル爲メ夜勤ノモノハ午後六時ヨリ翌日午前六時迄勤務シ從テ一日ノ勤務カ曆日ニ依レハ二日間ニ跨ルコトトナリ傷病等ノ場合一日ノ作業中ナルニ拘ラス時間ニヨリ一日ノ相違ヲ來タスコト有之畫勤者ニ對シ些カ不合理ノ結果ヲ生シ候ニ付甲日ヨリ乙日ニ跨ル夜勤者ニ對シテハ曆日ニ拘泥セス翌日作業ヲ終了スル迄ヲ甲日ト見做ス

○乙說　曆日ニ依ルトナス說

二交替制ニ於テ夜勤者カ甲日ノ午後六時ニ始マリ乙日ノ午前六時ニ終リ勤務時間トナリ給料カ晝勤ノ場合ト同額支給サレタトシテモ勤務時間モ給料モ第一日ト第二日トニ半々ツツ屬シ從テ勤務時間モ給料モ共ニ合算シテ一日分ニ相當スル時間全額トナリタルノミ勤務時間給料支拂ノ形式共ニ給料反對給付ノ一條件ニ過キス此ノ如キヲ以テ日ヲ決定スルハ妥當ナラストナス

保規第四八八號
昭和四年十二月七日

社會局保險部長

富士製紙健康保險組合御中

勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ノ起算日ニ關スル件

昭和四年十一月二十九日附保第四一六號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ曆日ニ依ルモノニ有之

●業務上ノ事故カ再發シタル場合ノ取扱ニ關スル件

（昭和五年三月三十一日
保規第二一七號社會局保險部長回答）

明治鑛業赤池健康保險組合

五第二十三號
昭和五年二月十日

社會局保險部長殿

健康保險法規疑義ニ關スル件

昭和五年二月八日附保規第二二八號ヲ以テ御回示相成候件中別紙ノ通リ聊疑義相生シ候條御垂示相煩度此段及伺上候也

（別紙）

一、業務上ノ保險事故カ治癒又ハ社會通念上治癒ノ狀態トナリ其ノ後從事スル業務ニ何等基因セス再發ノ場合ハ保規第二二八號第一ノ御回示ニ基キ業務外ノ事由ニ因ル事故トシ取扱ヒ差支ナキヤ

（參照）

昭和五年二月八日附保規第二二八號回答梳萃

明治鑛業赤池健康保險組合昭和四年十二月二十八日附外第一一七號照會

業務上ノ事由ニ因ル保險事故カ再發シタルトキハ昭和二年九月二十一日附保理第三、三二六號ヲ以テ三菱佐渡健康保險組合モ御回答ノ如ク前ニ罹リタル同病ノ疾病ト異ル疾病トシテ取扱ヒタル場合ハ同病ハ業務上ノ事由ニ因ル保險事故トナス可キヤ又ハ業務外ノ事由ニ因ル保險事故トシテ取扱ヒヲナス可キヤ前段ノ場合ハ該事故ハ一件トス可キヤ二件トシテ取扱ヲナス可キヤ

社會局保險部長昭和五年二月八日附保規第二二八號回答

一、業務上ノ事由ニ因ル疾病カ再發シタル場合ニ於テ該疾病カ業務上ノ事由ニ因ルモノナリヤ否ヤハ再發ノ際從事スル業務ニ基因スルモノナリヤ否ヤニ依リ決スヘキモノニシテ件數ハ二件トスルモノトス

保規第二一七號
昭和五年二月十八日

明治鑛業赤池健康保險組合御中

社會局保險部長

健康保險法規疑義ニ關スル件

昭和五年二月十日附五　二三號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ健康保險ニ於テハ業務上ノ事由ニ因ラサル疾病トシテ取扱フヘキモノト被存候尙爲念具體的事例詳細承知致度候ニ付御回報相成度

五第三號
昭和五年三月十二日

社會局保險部長殿

明治鑛業赤池健康保險組合

業務上ノ事故カ再發シタル場合ノ取扱ニ關スル件

昭和四年十月二十八日附外第一一七號及昭和五年二月十日附五第二三號ヲ以テ伺上仕候標記ノ件ニ付テ昭和五年二月二十八日附保規第二一七號ヲ以テ御回示相成候具體的事例及健康保險法ニ於ケル業務上ノ事故決定ニ關シ別紙ノ如キ質疑相生シ候條此段事例報告併質疑伺上仕候

（別紙）

鑛夫勞役扶助規則ニ依ル業務上ノ事由ニ因リ骨折及之ニヨリ發シタル疾患併捻挫及之ニ因リ發シタル疾患等カ治癒シ又ハ社會通念上治癒ノ狀態ニナリ業務ニ服シ其ノ後ニ至リ其ノ從事セル業務ニハ基因セス再發シタル場合ヲ指シタルモノニシテ事業主ハ鑛夫勞役扶助規則ニ依リ再發ノ原因カ再發ノ際ニ於ケル業務ニ基因ノ有無ニ不拘業務上ノ事故トシテ取扱フヘキヲ以テ從來當組合ハ業務上トシテ取扱ヲ爲シ來リタルモ法ノ異ナル毎ニ（例健康保險法ト鑛業法）取扱ヲ變更セサルヘカラサルモノトセハ健康保險法ノ業務上及外ノ保險事故決定ハ何ヲ以テ基調トナス可テヤ伺上候

保規第二一七號
昭和五年三月三十一日

社會局保險部長

明治鑛業赤池健康保險組合御中

業務上ノ事故カ再發シタル場合ノ取扱ニ關スル件

昭和五年三月十二日附ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ業務上ノ事由ニ因ル傷病ト然ラサル傷病トノ區別ノ標準ハ原則トシテ工場法令、鑛夫勞役扶助規則、健康保險法ニ於テ其ノ軌ヲ一ニスルモノナリト雖モ一ハ事業單獨ノ扶助法令ニシテ一ハ保險法令ナル關係上其ノ取扱ヲ異ニスルノ必要アルハ止ムヲ得サルモノト被認候而シテ例示ノ場合ニ於テ業務上ノ事由ニ因ル疾病又ハ負傷カ一旦治癒シタル後再發シタルトキハ健康保險ニ於テハ之ヲ別個ノ疾病トシテ取扱ヒ法第四十七條ノ規定ニ依リ更ニ百八十日間保險給付ヲ受ケ得ルコトトナル關係上業務上ノ事由ニ因ル疾病又ハ負傷カ一旦治癒シタル後再發シタル疾病ハ業務上ノ事由ニ因ラサル疾病トシテ取扱フヘキモノニ有之

●傷病手當金請求書ニ添附スヘキ醫師又ハ齒科醫師ノ意見ニ關スル件

（昭和五年四月十七日保規第二四四號社會局保險部長回答）

長紡堺工場健康保險組合宛

長紡堺
健保發第二六六號
昭和五年三月十二日

社會局保險部長殿

長紡堺工場健康保險組合
理事長　丸山辰雄

傷病手當金請求書ニ添附スヘキ醫師又ハ齒科醫師ノ意見ニ關スル件

被保險者カ保險者ノ承認ヲ受ケ其指定セサル診療ヲ受ケ其ノ期間勞務ニ服スルコト能ハサリシ期間ニ關スル同醫師ノ意見ヲ添付セス傷病手當金ノ請求ヲナシタル場合之ヲ受理シ差支ナキヤ

醫師ノ意見ヲ添付セサル理由

被保險者○病ノ爲メ市內公立病院ノ診療ヲ受ケ其ノ期間勞務ニ服スルコト能ハサリシ期間ニ關スル擔當醫師ノ意見ヲ需メタルニ健康保險組合トハ診療上及其他ニ付テモ何等ノ契約モナク因ツテ健康保險法施行規則第五十七條第二項ニ依リ意見書ヲ交付スル必要ナシト主張シタルヲ以テ再三其ノ不合理ヲ訴ヘタルモ之ヲ拒絕シタリト云フ

註　××公立病院ハ政府管掌ノ被保險者ニ對シテハ意見書ヲ發行シツヽアリ

保規第二四四號
昭和五年四月十七日

社會局保險部長

長紡堺工場健康保險組合御中

傷病手當金請求ニ添附スヘキ醫師又ハ齒科醫師ノ意見ニ關スル件

昭和五年三月十二日附長紡堺收健保發第二六六號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ伺出ノ如キ場合當該醫師ハ意見書交付ノ義務ナキヲ以テ請求書ニ意見書ノ添附ナキモ之ヲ受理スルノ外ナシ而テ保險者ニ於テ該疾病ニ付醫療ノ爲勞務ニ服セサリシコトヲ認定シ得ヘキ事實アラハ醫師ノ意見ナキ場合ト雖傷病手當金支給相成可然

●資格喪失後ノ傷病手當金支給ニ關スル件

（昭和五年四月二十四日保規第二七〇號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官（東京府ヲ除ク）及健康保險組合（磐城炭礦健康保險組合除ク）宛

標記ノ件ニ付磐城炭鑛健康保險組合ヨリ伺出ニ係ル別紙「甲號」ニ對シ「乙號」ノ通回答致置候

甲號

磐保庶第四五號
昭和五年四月八日

磐城炭鑛健康保險組合

社會局保險部長殿

資格喪失後ノ傷病手當金支給ニ關スル件

左記ノ如キ場合ニ於テハ法第五十五條ニ該當シ傷病手當金ヲ支給セサルカ妥當ト認ラレ候モ聊カ疑義相生候ニ付至急何分ノ義御回示相煩度此段及御伺候也

一、被保險者タル職員及其ニ準スル者（月俸或ハ月手當ヲ給與スル者ニシテ休業ノ場合ニ於テモ平素ノ報酬ニ變リ無キ者）疾病又ハ負傷ニヨリ休業治療中ノ者ナル處括孤內ノ事由ニ依リ傷病手當金ヲ支給セス療養ノミ給付シ來リタルニ事業主ノ都合ニ依リ被保險者ノ資格ヲ喪失シタリ此ノ場合ニ於テハ法第五十五條ニ該當シ資格喪失當時受クル給付ノミニ限リ傷病手當金ヲ支給セサルカ妥當ナルヤ否ヤ

乙號

保規第二七〇號
昭和五年四月二十四日

磐城炭鑛健康保險組合御中

社會局保險部長

資格喪失後ノ傷病手當金支給ニ關スル件

昭和五年四月八日附磐保庶第四五號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ當該被保險者ハ事業主ヨリ報酬ヲ受ケタルニ依リ傷病手當金ノ支給ヲ受ケサリシ者ナルヲ以テ資格喪失ノ際尚其ノ傷病カ未治癒ナルトキハ療養ノ給付ヲ爲スノ外該傷病療養ノ爲勞務不能トナリシ日（私傷病ノ場合ハ勞務不能ノ第四日目）ヨリ起算シ百八十日間傷病手當金ヲ支給スヘキモノニ有之尚該傷病カ私傷病ナル場合ハ資格喪失ノ日前四日間以上當該傷病ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサリシコトヲ要スルモノニ有之爲念

●癩病ニ罹リ工場法ニ依リ就業ヲ禁止セラレタルモノノ傷病手當金ニ關スル件

（昭和五年五月十七日保規第三〇一號社會局保險部長回答）

岐阜縣知事宛

五健第六二號

昭和五年五月七日

岐阜縣知事

社會局保險部長殿

癩病（斑紋ヲ生シタルモノ）ニ罹リ工場法ニ依リ就業ヲ禁止セラレタルモノノ傷病手當金ニ關スル件

癩病（斑紋ヲ生シタルモノ）ニ罹リ工場法施行規則第八條ニ依リ其ノ工場ニ於テ就業ヲ禁止セラレタル場合其ノ症狀カ勞務ニ服スルコトヲ得ル狀態ニアルモノニ對シテモ傷病手當金ヲ支給スヘキモノニ候ヤ何分ノ御指示相煩度

保規第三〇一號
昭和五年五月十七日

岐阜縣知事殿

社會局保險部長

癩病ニ罹リ工場法ニ依リ就業ヲ禁止セラレタルモノノ傷病手當金ニ關スル件

昭和五年五月七日附五健六二號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ不可然儀ニ有之

●保險給付等ニ關スル件

（昭和五年六月十七日保規第三一八號社會局保險部長通牒）

福岡縣知事宛

標記ノ件ニ關シ貴縣糟屋郡志免村字野田北崎某ヨリ別紙ノ通伺出有之候處右ハ左ノ通ニ有之候ニ付テハ可然本人ニ御示達相煩度

記

一、事業主ノ指揮ニ依リ又ハ消防ニ關シ工場ニ於テ定ムル所ニ從ヒ工場ノ爲ニ消防ニ從事シ負傷シタルモノナルトキハ勤務時間中ナルト否トヲ問ハス又工場ノ內外ヲ論セス業務上ノ事由ニ因ル負傷トス

二、右ニ依リ了知相成度

三
四　（省略）
五

（別紙）

拜啓御職務御多忙ノ折柄誠ニ恐縮ノ至リニ候ヘ共健康保險法ニ於ケル左記ノ如キ場合ノ解釋ニ付何卒御敎示願上候

記

法第四十五條但書ニ所謂業務上トハ「業務遂行中又ハ業務ノ爲メ」ト負傷又ハ疾病ト業務トノ間ニ因果關係アルコトヲ要スヘク故ニ傷病ノ發生ガ工場外ニ於テ生ジタル場合ニテモ工場主ノ爲ニナスヘキ業務ニ屬スル限リ業務上トシテ取扱ふヲ妥當ノ樣思料セラレルモ左記ノ如キ場合ハ聊カ疑義ノ存スル如ク何レニ

屬するものなりや

(1) 職工自宅に居りたる時（即ち非勤務時間中）自己が稼働し居れる工場内に火災ありたるに付消防に従事中負傷したるは業務上なるや否や

(2) 右の如き場名消防に従事して負傷したる事が

(イ) 事業主の指揮命令ありたる場合と否と

(ロ) 勤務時間なりしと否と

(ハ) 工場内に於ける出來事と全然工場主と關係なき工場外の火災の如き場合等に依りて業務上、業務外に區別せらるる事あり得るや

(3)(4)(5) （省略）

社會局保險部長殿　　北崎某

●傷病手當金ノ支給ニ關スル件

（昭和五年十月十三日發保第五二號社會局保險部長通牒）
廳府縣長官（東京府ヲ除ク）及健康保險組合理事長宛

從來健康保險法第四十五條ノ規定ノ適用ニ付被保險者カ勞務ニ服シタルモ就業時間中ニ傷病ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルコトナリタル場合ニ於テハ其ノ日ノ報全ノ酬部又ハ一部ヲ受ケタルト否トヲ問ハス其ノ傷病カ業務上ノ事由ニ依ル傷病ニ在リテハ其ノ日ハ傷病手當金ヲ支給シ業務上ノ事由ニ因ラサル傷病ニ在リテハ其ノ日ハ傷病手當金支給待期三日ノ中ニ包含セラルルモノト解シ居候右ハ理論上竝實際上ノ理由ニ依リ今般左記ノ如ク解釋ヲ一部變更致候條爲念之ニ依リ取扱相成度

追而傷病ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサリシ者カ其ノ後勞務ニ服シ其ノ後更ニ右ノ傷病ノ爲ニ勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル場合及公休日ニ報酬ヲ受ケタル場合モ左記第一ノ二ニ準シ傷相手當金ヲ支給相成度又出產手當金ノ支給ニ付テモ同樣ニ有之

記

第一　業務上ノ事由ニ因ル傷病ノ場合

一、其ノ日ハ傷病手當金支給期間ノ開始日トスルコト但シ傷病手當金ノ額以上ノ報酬ヲ受ケタルトキハ翌日ヲ開始日トスルコト

二、其ノ日ニ受ケタル報酬カ傷病手當金ニ等シキカ又ハ之ヨリ大ナルトキハ傷病手當金ヲ支給セス小ナルトキハ其ノ差額ヲ傷病手當金トシテ支給スルコト

台本

第二　業務上ノ事由ニ因ラサル傷病ノ場合　從前ニ同シ（註）

（註）療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサル期間ノ從前ノ取扱ヒ、法第四十五條ノ勞務ニ服スルコト能ハサル期間ハ勞務ニ服スルコト能ハサル狀態ニ置カレタル日ヨリ之ヲ起算スルモノトス但シ其ノ狀態ニ置カレタル時カ業務終了後ナル場合ニ於テハ翌日ヨリ之ヲ起算スルモノトス

●健康保險ノ疑義ニ關スル件

（昭和六年一月九日保規第五六九號社會局保險部長通牒）
廳府縣長官（警視廳及東京府ヲ除ク）及健康保險組合理事長宛

標記ノ件ニ付警視總監ヨリ照會ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）

甲　號

五健給發第九三二號
昭和五年十二月五日

警視總監

社會局保險部長殿

傷病手當金支給ニ關スル件伺

被保險者カ勞務ニ服シタルモ就業中ニ業務上ノ事由ニ因ル傷病療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサル期間ノ從前ノ取扱ヒ、法第四十五條ノ勞務ニ服スルコト能ハサル期間ハ勞務ニ服スルコト能ハサル狀態ニ置カレタル日ヨリ之ヲ起算スルモノトス但シ其ノ狀態ニ置カレタル時カ業務終了後ナル場合ニ於テハ翌日ヨリ之ヲ起算スルモノトス

傷病手當金トシテ支給スルコト相成候處稼高又ハ請負ニ依リ報酬ノ支給ヲ受クル被保險者ニ付キテハ當日受クヘキ報酬額ノ算定ニ關シ當日ノ稼高明瞭ナル場合若クハ當日請負仕事完了セカ如キ場合ハ疑義ナキモ其他ノ場合ニ於テ之カ算定困難ナルコト有之例之同時ニ相當長期間ヲ要スヘキ數箇ノ製品ノ加工ニ著手セル場合又ハ數人共同シテ或製品ノ加工ニ著手セルカ　如キ場合ニ於テハ當日分ノ報酬ヲ算出スルハ困難且煩瑣ナルノミナラス其製品完成後ナラテハ確定セサルカ如キ事情モ有之而シテ假令後日ニ至リ其者ノ仕事量ト勤務時間トヲ較量シ當日分ノ報酬額決定可能ナリトスルモ斯ル算出方法ニ依リ當日分ノ報酬額ヲ決定シ之ニ據リテ傷病手當金ノ給否若クハ支給額ヲ決定スルハ時ニ嚴ニ失シ時ニ緩ニ流レ妥當ヲ缺クヤニ思料被致候ニ付斯クノ如キ場合ニ於テハ其者ノ當日勤務セル時間ノ當該工場所定ノ勤務時間ニ對スル割合ヲ其者ノ標準報酬日額ニ乘シテ得タル金額ヲ以テ當日分ノ報酬ト認定スルコトニ取計可然哉聊カ疑義有之候條何分ノ御指示相仰度此段及禀伺候也

台本

追而本件ハ差迫レル事實問題モ有之至急御回示相仰度申添候

乙　號
保規第五六九號
昭和六年一月九日

社會局保險部長

警視總監殿

傷病手當金支給ニ關スル件

昭和五年十二月五日附五健給發第九三二號ヲ以テ照會相成候標記ノ件右ハ御見込ノ通取扱相成可然

●健康保險ノ疑義ニ關スル件

（昭和六年三月十一日保規第三一號社會局保險部回答）

栃木縣齒科醫師會健康保險部宛

栃齒保政發第四六二號
昭和六年二月二十日

栃木縣齒科醫師會健康保險部

內務省社會局健康保險部御中

疑義ノ件

左記事項ニ疑義相生シ候ニ付乍御手數至急何分ノ御教示相煩度此段及御照會候也

記

一、被保險者カ齲齒ノ治療ヲ受ケントスルニ際シ其附近（其距離約四、五里）ニ健康保險齒科醫ナク遠隔ノ地ニ行カサレハ治療ヲ受クルコト能ハス之カ爲メ休業ヲナササレハ其目的ヲ達セス斯ル場合ニ療養ノ爲メ勞務不能ト見做シ傷病手當金ノ給付ヲ受クルコトヲ得ルヤ　早々

追テ病症ハ勞務ノ機能喪失ノ程度ニ達セサルモノナリ

保規第三一號
昭和六年三月十一日

社會局保險部

栃木縣齒科醫師會健康保險部御中

健康保險ノ疑義ニ關スル件

昭和六年二月二十日附栃齒保政發第四六二號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ病狀カ缺勤シテモ齒科醫師ノ診療ヲ受クルコトヲ要スル場合ニ於テハ前段御見解ノ通ニ有之

●保險給付ニ關スル件

（昭和六年七月二十五日保規第一五八號社會局保險部長回答）

埼玉縣知事宛

健發第一二八號

台本

昭和六年七月十五日

埼玉縣知事

社會局保險部長殿

保險給付ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ左ニ列記シタル場合ニ於テ健康保險法施行規則第五十七條第二項第一號及第二號ノ規定ニ依ル醫師又ハ齒科醫師ノ意見書及事業主ノ證明書添附不能ノ事由ニ因リ保險給付ヲ爲スコトヲ得サルモノトセハ事實勞務不能ノ狀態ニ在リタル被保險者ノ權利ヲ阻止シ立法ノ本旨ニ副ハサル嫌アルヲ以テ如斯場合ニ在リテハ請求書ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附セシメ醫師、事業主其ノ他ノ關係者ニ就キ又ハ醫師ノ診療報告ニ基キ嚴密調査ヲ遂ケタル結果或期間勞務不能ノ事實ヲ確認シ得タル者ニ對シテハ傷病手當金ノ支給ヲ爲スヲ妥當ト認メ候得共新例ニ屬スル儀ニ付一應御意見承知致度此段及照會候也

追テ本件ニ關シテハ差懸リ處理ヲ要スル儀有之候條至急何分ノ御回示相煩度申添ヘ候

記

一、事業主所在不明トナリ又ハ勞働爭議ニ依リ罷業繼續中事業主ニ於テ被保險者ノ動靜ヲ知悉スルコト能ハサル理由ニ依リ證明ヲ拒ミ勞務不能期間ニ關スル證明書添附不能ノ場合

二、診療ヲ受ケタル醫師又ハ齒科醫師ノ死亡後ニ於テ傷病手當金ノ請求ヲ爲スニ際シ勞務不能期間ニ關スル其ノ醫師ノ意見書ヲ添附スルコト能ハサル場合

保規第一五八號
昭和六年七月二十五日

社會局保險部長

埼玉縣知事殿

保險給付ニ關スル件

標記ニ關シ本月十五日附健發第一二八號ヲ以テ得照會相成候處左記ノ通ニ有之候條御了知相成度

記

一、二、御見込ノ通リ但シ「左記一」後段ノ勞働爭議等ニヨリ被保險者ノ動靜ヲ事業主カ知悉スルコト能ハサル場合ト雖モ勞務ニ服スルコト能ハサリシ期間ニ對スル證明ハ之ヲ拒ミ得サルモノトス

●傷病手當金ノ支給ニ關スル件

（昭和七年八月五日保規第二五九號社會局保險部長回答）

三井砂川健康保險組合理事長宛

砂保第四四號
昭和七年七月二十日

三井砂川健康保險組合理事長殿

社會局保險部長

傷病手當金ノ支給ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ左記疑義相生シ候條御指示相煩度伺上候也

記

業務上ノ事由ニ因ル傷病ノ場合勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ノ傷病手當金ノ支給ニ關シテハ昭和五年十月十三日附發保第五二號ヲ以テ御通牒有之候モ坑內作業ニ從事スル被保險者三交替ナルトキ例ヘハ二十五日ノ三番方ニ出役シ二十六日ノ午前一時ニ負傷シ直ニ病院ヘ收容シタル場合ニ本人ノ其ノ日ノ報酬ハ事實二十五日ノ分ナルカ故ニ其ノ報酬カ標準日額ノ百分ノ六十（又ハ四十）ヨリ小ナルトキハ其ノ差額ヲ二十五日ノ傷病手當金トシテ支給シ二十六日ハ傷病手當金ノ全額ヲ支給スルヲ至當ト存候モ健康保險法第四十五條ノ期間ノ意義ニ基キ之ヲ二十六日ノ傷病手當金トシテ支給スルヤ

以上

（註）

三番方作業時間ハ午後十時ヨリ翌日午前七時マテニ有之

保規第二五九號

昭和七年八月五日

社會局保險部長

●保健施設トシテ爲シタル寄生蟲驅除施行ノ結果齎セル疾病ノ取扱ニ關スル件

（昭和七年九月二十九日　保發第七一四號社會局保險部長通牒）

驅府縣長官（但シ東京府ヲ除ク）宛

保險者カ保健施設トシテ被保險者ノ寄生蟲驅除ヲ施行シタル結果疾病ト認ムヘキ程度ノ症狀ヲ呈シタルモノニ付テハ業務上ノ事由ニ因ラサル疾病トシテ取扱相成度爲念

追テ疾病ト認ムヘキ程度ノ症狀ヲ呈シ勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタルトキハ其ノ勞務不能ノ日ヨリ起算シ第四日ヨ

リ傷病手當金ヲ支給相成可然

●事業主ノ給與スル食事ニヨリ中毒症ヲ起シタル場合ノ取扱ニ關スル件

（昭和七年十一月十四日　保規第三六七號社會局保險部長回答）

郡是健康保險組合理事長宛

保公發第二二七號

昭和七年十月十八日

郡是健康保險組合理事長　波多野林一

社會局保險部長殿

事業主ノ給與スル食事ニヨリ中毒症ヲ起シタル場合ノ取扱ニ關スル件

事業主カ其ノ使用スル從業員ニ對シ工場管理ノ必要上食事ヲ給與スル工場ニ於テ偶々食中毒症ヲ起シ勞務ニ服スルコト能ハスシテ休業シタル場合ハ昭和七年七月十一日海軍艦政本部長宛御回答（コレラ豫防注射ヲ原因トシ死亡シタル者ノ取扱ニ關スル件）ニ徵シ業務上トシテ取扱フモノノ如クニ解釋セラレ候得共未タ本件ニ關スル御通牒無之ニ付何分ノ御指示煩シ度此段相伺候也

追テ本件ノ場合ハ法第六十七條適用ノ可否併セテ御指示被下度申添候

保規第三六七號

昭和七年十一月十四日

社會局保險部長

郡是健康保險組合理事長殿

事業主ノ給與スル食事ニヨリ中毒症ヲ起シタル場合ノ取扱ニ關スル件

昭和七年十月十八日附保公發第二二七號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ業務上ノ事由ニ因ラサル疾病トシテ御取扱相成度

追而本件ノ場合ニ於テ當該事故カ（第三者事業主ヲモ含ム）ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタルモノトセハ健康保險法第六十七條ヲ適用相成可然

●傷病手當金ノ支給ニ關スル件

（昭和八年二月十八日　保規第三五號社局會保險部長回答）

神戸製鋼所健康保險組合理事長宛

神鋼健八第八號

昭和八年一月二十六日

神戸製鋼所健康保險組合理事長　天野榮吉

社會局保險部長川西實三殿

健康保險傷病手當金給付ニ關スル件御伺

左記二件ニ對シ傷病手當金給付上ノ疑義相生シ候間何分ノ御敎示仰キ度御伺申上候

左記

一、專業主工場ニアル保險醫ナル工場醫カ將來ノ病狀惡化ヲ懼レテ現在勞務ニ差支ナキ者ヲ休業セシメタル時健康保險者ハ傷病手當金ヲ給付スル義務有　候哉

一、甲ナル保險醫カ勞務ニ差支ナシトシテ取扱ヒタル被保險者ニ對シ乙ナル保險醫タル工場醫カ尙休業ヲ要スト診斷シタル時健康保險者ハ傷病手當金ヲ給付スル義務有之候哉

保規第三五號

昭和八年二月十八日

社會局保險部長

神戶製鋼所健康保險組合理事長殿

傷病手當金ノ支給ニ關スル件

昭和八年一月二十六日附神鋼健八第八號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件ハ左ノ通ニ有之

記

一、現在勞務ニ服スルコト差支ナキ者ト雖モ療養上其ノ症狀カ休業ヲ要スル場合ニ於テハ勞務不能ト看做シ傷病手當金ヲ支給相成可然

二、貴組合ニ於テ被保險者カ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサリシコトヲ認ムルニ非サレハ傷病手當金ヲ支給スヘキモノニ非ス

●學術研究等ノ爲官立醫科大學附屬醫院ニ收容セラレタル者ノ傷病手當金ニ關スル件

（昭和八年五月二十六日保規第二二四號社會局保險部長回答）

石川縣知事宛

健保給發第二三六號

昭和八年五月十八日

社會局保險部長

石川縣知事殿

學術研究等ノタメ官立醫科大學附屬醫院ニ收容セラレタル者ノ傷病手當金ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ左記事項ニ付聊カ疑義相生シ候處右ハ差懸リ處理ヲ要スル事項モ有之候條至急何分ノ御回示相仰度

記

健康保險ノ被保險者タル患者ヲ官立醫科大學ニ於テ學術研究等ノ爲メ研究費ヲ以テ附屬醫院ニ收容セル場合右被保險者ノ官費入院期間ニ對スル傷病手當金ハ健康保險法第六十二條第二項及第三項ヲ適用シ減額支給スヘキモノニ有之哉

保規第二二四號

昭和八年五月二十六日

社會局保險部長

石川縣知事殿

學術研究等ノ爲官立醫科大學附屬醫院ニ收容セラレタル者ノ傷病手當金支給ニ關スル件

昭和八年五月十八日附健保給發第二三六號ヲ以テ照會相成候標記ノ件右ハ健康保險法第六十二條ノ規定ニ該當セサルモノニ有之

●健康保險法施行規則第五十七條第二項第一號ノ事業主ノ證明書ニ關スル件

（昭和九年十月四日保發第四九八號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官及健康保險組合理事長宛

康保險法施行規則第五十七條第二項第一號ノ規定ニ依ル事業主ノ證明ニ付テ往々誤解ノ向有之候處右ハ勞務ニ服スルコト能ハサリシ期間ノ義ニ非スシテ勞務ニ服セサリシ期間（休業期間）ノ義ニ有之候條爾今取扱上過誤ナキヲ期セラルル樣致度爲念

保規第一七八號

昭和十一年九月十日

社會局保險部長

日高紡織健康保險組合理事長宛

傳染病ノ病原體保有者タル被保險者傳染病豫防法第七條ノ規定ニ依リ隔離セラレタル場合ニ於ケル傷病手當金ニ關スル件

昭和十一年七月八日附日保發第一四六號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ發病ヲ認メラレザル限リ保險事故タル疾病ノ範圍ニ屬セズ隨テ傷病手當金ハ支給スヘカラサルモノニ有之

日保發第一四六號

●傳染病ノ病原體保有者タル被保險者傳染病豫防法第七條ノ規定ニ依リ隔離セラレタル場合ニ於ケル傷病手當金ニ關スル件

（昭和十一年九月十日保規第一七八號）

昭和十一年七月八日

和歌山縣日高郡御坊町大字島五八四番地
日高紡織健康保險組合

社會局保險部長殿

傳染病保菌者隔離中ノ手當金支給ノ件伺

標記ノ件ニ關シ當組合被保險者ヨリ赤痢病發生他ノ被保險者ノ檢便ヲ和歌山縣衛生課ニ於テ施行ノ結果健康體（醫師ハ病人ト見ナサス）ニ候得共二名ノ保菌者ヲ出シ和歌山縣衛生課ヨリノ下令ニ依リ社內寄宿舍別室ニ於テ隔離休養セシメ候處醫師ニ於テ發病ヲ認メストモ他ノ法令ニ依ツテノ隔離中ハ疾病者ト見ナシ傷　手當金ヲ支給致スヘキヤ否ヤ聊カ疑義有之候條何分ノ御教示相仰度此段相伺候也

●傷病手當金支給決定ニ關スル通牒

（昭和十三年二月十六日　社發第一一七號）

社發第一一七號
昭和十三年二月十六日

社會保險局長

警視總監宛

傷病手當金支給決定ニ關スル件

貴管下新宿健康保險出張所長ヨリ昭和十二年十一月十九日附十二健給發第二四號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件ハ防空演習ニ際シ事業主ノ指揮ニ依ル工場ノ防護訓練行爲ハ包括的ニ現場作業ニ關係アルモノト解スヘク從テ本件ノ如キ場合ハ業務上ノ事由ニ因ル負傷トシテ取扱相成樣可然御示達相煩度

十二健監受第二〇〇號
昭和十二年十二月七日

警視總監

社會保險局長殿

傷病手當金支給決定ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ管下新宿健康保險出張所長ヨリ別紙ノ通伺出有之候ニ付此段及進達候也

十二健險發第二四號
昭和十二年十一月十九日

警視廳新宿健康保險出張所長

社會局保險部長殿

傷病手當支給決定ニ關スル件

被保險者防空演習中事業主ノ指揮ニ依リ本工場內特殊防護團員トシテ一般防護團トノ連絡ヲ取ル爲メ自轉車ニテ通行中過リテ疾走セル歩行者ニ觸レ自轉車諸共顚倒シ顏面打撲切傷ニ對シ業務上ノ負傷トシテ傷病手當金ノ請求有之候處右ハ昭和五年七月十七日附保規第二、五一號ヲ以テ保險部長ヨリ大阪府知事宛御通牒ノ次第モ有之右ニ則リ本件ハ業務外トシテ取扱フヲ妥當ト被存候得共從業員ノ工場防備作業ノ萬全ヲ期スル爲メ併セテ防空思想涵養上事業主ニ於テ防護訓練ヲ施行シタル結果右負傷ヲ惹起シタルモノニシテ旁々昭和五年六月十七日附保規第三一八號ヲ以テ保險部長ヨリ福岡縣知事宛ノ御通牒ト對比シ聊カ疑義相生シ候條何分ノ御指示相仰度此段及稟伺候也

追而本件ハ差迫レル事情モ有之候ニ付至急御回示相仰度申添候

第二目　死亡ニ關スル給付

●埋葬料支給請求書ニ添附スヘキ埋火葬認許證寫ニ關スル件

（昭和二年三月三十一日保理第九三四號社會局保險部長通牒）
健康保險署長及健康保險組合（但シ東京健康保險署長ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ付東京健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）

（甲號）

二庶發第三四號
昭和二年二月十七日

東京健康保險署長

社會局保險部長殿

埋葬料支給請求書ニ關スル件

標記ノ請求書ニ市町村長ノ埋火葬認許證交付證明書ヲ添附シタル時ハ認許證寫ノ添附有之場合ト同樣請求有效ト認メ埋葬料支給致シ支障ナキモノト思料イタサレ候カ何分ノ御指示相成度此段及稟伺候也

（乙號）

保理第九三四號
昭和二年二月二十二日

社會局保險部長

東京健康保險署長殿

埋葬料支給請求書ニ關スル件

昭和二年二月十七日附二庶發第三四號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件御見込ノ通取扱相成可然

追テ本件ハ埋葬費ノ請求ノ場合ニ於テモ同樣ノ儀ト了知相成度

合本

●埋葬料ノ支給ニ關スル件

（昭和二一年八月五日
保理第二九六八號社會局保險部長同答）

福岡健康保險署長宛

二給第五、一〇四號
昭和二年七月二十三日

福岡健康保險署長　長山秀介

社會局保險部長湯澤三千男殿

埋葬料支給ニ關シ疑義ノ件伺

一、被保險者料亭ニ登樓シ泥醉ノ餘リ其ノ隣室ニ亂入シ酒宴中ノ他客ノ頬ヲ平手ニテ毆打セリ毆打セラレシ相手方ハ憤怒シ直ニ炊事場ヨリ出刃庖丁ヲ持チ來リ此ノ時同輩ノ組伏セ居リシ被保險者ノ背部ヨリ突刺シ即死セシメタリ斯ノ如キ場合ハ被保險者自ラ招キタル保險事故ニシテ本人ノ死ハ因果關係アリ法第六十條自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ云々ニ該當スルモノト思料セラレタルモ聊カ疑義有之候條何分ノ御指示相仰度

保理第二、九六八號
昭和二年八月五日

福岡健康保險署長殿

社會局保險部長

●埋火葬認許證ヲ受クル者ト埋葬ヲ行フ者トノ關係ニ關スル件

（昭和三年四月二十日
保理第八〇四號社會局保險部長同答）

北鐵健康保險組合宛

庶第九號
昭和三年四月五日

北鐵健康保險組合

社會局保險部長殿

埋葬料又ハ埋葬費支給ノ件

被保險者死亡シタルトキ埋葬ヲ行フモノト市町村長ヘ死亡屆ヲ爲シ埋火葬認許證ヲ受クルモノトハ往々異ナル場合有之候處之カ埋葬料又ハ埋葬費ヲ支給スルニ當リ埋火葬認許證ハ單ニ埋火葬ノ事實ヲ證明スルモノト解シ埋葬料又ハ埋葬費ハ埋葬ヲ行フモノニ支給スヘキモノニ候哉或又埋火葬認許證ハ埋葬ヲ行フヘキ者ヲ證明スルモノト解シ埋葬料又ハ埋葬費ハ埋火葬認許證ヲ受ケタル者ニ支給スヘキモノニ候哉

右御伺申上候也

保理八〇四號
昭和三年四月二十日

北鐵健康保險組合御中

社會局保險部長

埋火葬認許證ヲ受クル者ト埋葬ヲ行フ者トノ關係ニ關スル件

昭和三年四月五日附庶第九號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ埋火葬認許證ハ埋葬ヲ行フヘキ者ヲ證明スルモノニ非スシテ埋火葬ヲ爲シ差支ナキ旨ノ證書ニ有之而シテ該證書ヲ受クル者ト健康保險法第四十九條及第五十六條ニ所謂埋葬ヲ行フ者又ハ埋葬ヲ行ヒタル者トハ多クノ場合ニ於テ一致スルモノト被存候ヘ共異ル場合モ可有之ニ付事實ニ依リ調査シ埋葬ヲ行フヘキ者又ハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ埋葬料又ハ埋葬費ヲ支給セラレ度

●埋葬料ノ支給請求ニ關スル件

（昭和四年五月二十二日
保理第一七〇五號社會局保險部長同答）

愛媛健康保險署長宛

四給發第一一二五號
昭和四年五月十日

愛媛健康保險署長　澤渡五郎

社會局保險部長　山口安憲殿

埋葬料ノ請求ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ管內ニ左記ノ實例有之右ハ疑義事項解釋第一輯中「死體ヲ埋火葬スルコト能ハサル場合ニ於ケル埋葬料又ハ埋葬費ノ支給請求」ノ場合ニ該當シ埋火葬認許證ノ寫ヲ添附セサルモ埋葬料又ハ埋葬費ヲ支給シ差支ナキヤニ思料セラレ候ヘ共右ハ死亡ノ事實確實ナリト認メラルルモ死體發見セサル場合ノミヲ指ス意味ナラスヤトモ解セラレ聊カ疑義相生候條至急何分ノ御指示相仰度此段及伺出候

記

一、被保險者カ工場ヨリ引率セラレ宮島詣ノ途中發動船ノ甲板ヨリ轉落シテ行衞不明トナリ今日尙死體發見ニ至ラサルモ當時ノ狀況ヨリ推シテ死亡シタルモノト認メ既ニ其ノ家族ハ空埋葬ヲ爲シタル如キ事實アリ斯ル場合同行者ノ證明書等ニヨリ死亡シタルモノト認メ差支ナキヤ

保理第一七〇五號
昭和四年五月二十二日

社會局保險部長

台本

愛媛健康保險署長殿

埋葬料ノ支給請求ニ關スル件

昭和四年五月十日附四給發第一一二五號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件ハ御見解ノ通ニ有之

●埋葬料受給資格ノ範圍ニ關スル件

（昭和六年六月二十六日保規第一三三號社會局保險部長回答）

岩健第二、二四二號
昭和六年六月十七日

岩手縣知事　久保譽四郎

社會局保險部長石原雅二郎殿

埋葬料受給資格ノ範圍ニ關スル件

健康保險法第四十九條第一項同法第五十六條第一項ニ依リ埋葬料ヲ支給スヘキ場合ニ於テ「被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者」トアルハ被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者」トハ被保險者ニ依リ生計ノ全部又ハ一部若クハ主タル部分（生計ノ半以上位）ヲ維持シタル者ノ三者ヲ包含スルモノト解セラレ候處實施上生計ノ全部若クハ主タル部分ヲ維持シタル者ニ限ルヘキヤ又ハ生計ノ一部分タリトモ負擔シタルモノナルトキハ同條第一項ニ依リ埋葬料トシテ支給スヘキモノナリヤ聊カ疑義相生候ニ付何分ノ御敎示相煩度此段及經伺候也

保規第一三三號
昭和六年六月二十六日

岩手縣知事殿

社會局保險部長

埋葬料受給資格ノ範圍ニ關スル件

昭和六年六月十七日附岩健第二二四二號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ後段御見解ノ通

●被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ノ意義ニ關スル件

（昭和七年四月二十五日保規第一二九號社會局保險部長回答）

健第三四七三號
昭和七年四月九日

新潟縣知事

社會局保險部長殿

被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者」ノ意義ニ關スル件

台本

健康保險法第四十九　第一項ニ「被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者」トアルハ被保險者ニ依リ生計ノ全部若ハ大部分ヲ維持スル者ヲ謂フ儀ト被承知度

台本

●健康保險法第四十九條ノ「被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者」ノ意義ニ關スル件

（昭和八年八月七日保發第五〇二號社會局保險部長通牒）

新潟縣知事殿

被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ノ意義ニ關スル件

昭和七年四月九日附健第三四七三號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ指スモノニシテ死亡者ノ收入ニ依リ生計ヲ維持セルノ事實アルヲ以テ足リ必ズシモ民法上ノ親族又ハ遺族タル事ヲ要セス且被保險者ノ世帶主タルト被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者カ被保險者ト同一世帶內ニアリタルト否トハ之ニ關セサルモノト解スルヲ以テ至當ト被認候

追而健康保險法施行令第七十九條中「主トシテ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者」トアルハ被保險者ニ依リ生計ノ全部若ハ大部分ヲ維持スル者ヲ謂フ儀ト被存候

保規第一二九號
昭和七年四月二十五日

新潟縣知事殿

社會局保險部長

被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ノ意義ニ關スル件

昭和七年四月九日附健第三四七三號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ指スモノニシテ死亡者ノ收入ニ依リ生計ヲ維持セルノ事實アルヲ以テ足リ必ズシモ民法上ノ親族又ハ遺族タル事ヲ要セス且被保險者ノ世帶主タルト被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者カ被保險者ト同一世帶內ニアリタルト否トハ之ニ關セサルモノト解スルヲ以テ至當ト被認候

追而健康保險法施行令第七十九條中「主トシテ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者」トアルハ被保險者ニ依リ生計ノ全部若ハ大部分ヲ維持スル者ヲ謂フ儀ト被承知度

台本

第三目分娩ニ關スル給付

●分娩ノ給付ニ關スル件

（昭和二年二月十七日保理第七九二號社會局保險部長回答）

片倉姫路工場健康保險組合宛

健保第三九號

昭和二年二月十日

社會局保險部長殿

健康保險法適用ニ關スル件

左記事實ハ健康保險法第六十條ノ適用ヲ受クルモノナルヤ至急御回答相成度

記

出産又ハ分娩ニ際シ其ノ原因ノ一カ法律上ノ夫婦又ハ內緣關係ニアルモノモ保險給付ヲナスハ正當ナルモ其ノ分娩又ハ出産ノ原因不明ニシテ相手方ヲ確認シ難キモノハ社會政策上及社會風規上又ハ道德上保險給付ヲナスノ必要ナキモノト認ム如何

保理第七九二號

昭和二年二月十七日

社會局保險部長

片倉姫路工場健康保險組合御中

分娩ノ給付ニ關スル件

昭和二年二月十日附健保第三九號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ健康保險ニ於テハ分娩ニ關スル給付ヲ爲スノ目的ハ主トシテ母體ヲ保護スルニ在ルヲ以テ父ノ不明ナル私生兒ノ分娩ノ場合ト雖モ給付ヲ爲ササル可カラサル義ニ有之即チ健康保險ハ勞働者ノ保健ヲ主トスル制度ナルコトニ御留意相成度

●分娩ニ關スス保險給付費用分擔額ノ算定及支拂ニ關スル件

（昭和二年三月八日發保三七號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合宛

分娩ノ前後ニ保險者ニ變更アリタル場合ニ於ケル分娩ニ關スル保險給付ニ要スル費用ノ分擔額ノ算定及支拂ニ關シテハ左記ニ依ラレ度依命及通牒候也

追テ健康保險組合ノ被保險者又ハ被保險者タリシモノニシテ組合ノ設立前被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ハ組合設立前ニ於テハ政府ノ管掌スル保險ノ被保險者タリシモノニ有之候條本件ノ分擔ニ付テハ此ノ點御留意相成度爲念尙保險者政府ナル場合ニ於テハ健康保險署相互ノ間ニ分擔ノ關係ヲ生セサル

モノニ有之

記

一、分娩ニ關スル保險給付ノ費用（事務費ヲ含マサルモノナリ）ノ分擔額ハ其ノ給付ヲ爲シタル保險者ニ於テ之ヲ算定スルコト但シ給付ヲ爲シタル保險者二以上アル場合ニ於テハ最後ニ給付ヲ爲シタル保險者ニ於テ算定スルコト

二、分娩ニ關スル保險給付費用ノ分擔額ノ算出ハ左ノ式ニ依ルコト

（給付ヲ爲シタル保險者ノ被保險者ヲ甲保險者ト稱シ其ノ分娩ノ期日ヲ甲分娩ノ期日ト稱シ其ノ分娩ノ期日ヲ乙分娩ノ期日ト稱シ甲分娩ノ期日前280日目ヨリ乙分娩ノ期日迄ノ日數ヲ丙日數ト稱ス）

甲保險者分擔額＝（乙保險者給付費額＋丙保險者給付費額）×

分娩ノ期日前280日目ヨリ分娩ノ日以後42日迄ノ間ニ於テ甲保險者ノ被保險者タリシ日數

分娩ノ期日前280日目ヨリ分娩ノ日以後42日迄ノ間ニ於テ甲保險者ノ被保險者タリシ日數＋同

丙保險者ノ被保險者タリシ日數

乙保險者分擔額＝（乙保險者給付費額＋丙保險者給付費額）×

分娩ノ期日前280日目ヨリ分娩ノ日以後42日迄ノ間ニ於テ乙保險者ノ被保險者タリシ日數

分娩ノ期日前280日目ヨリ分娩ノ日以後42日迄ノ間ニ於テ甲保險者ノ被保險者タリシ日數＋同

丙保險者ノ被保險者タリシ日數

丙保險者分擔額＝（乙保險者給付費額＋丙保險者給付費額）×

分娩ノ期日前280日目ヨリ分娩ノ日以後42日迄ノ間ニ於テ丙保險者ノ被保險者タリシ日數

三、分娩ニ關スル給付ヲ爲シタル保險者二以上アル場合ニ於テハ分擔額ヲ算定スル健康保險署長又ハ健康保險組合ハ給付ヲ爲シタル他ノ關係健康保險署長又ハ健康保險組合ニ對シ左ノ事項ヲ照會スルコト

四、前項ノ照會ヲ受ケタル健康保險署長又ハ健康保險組合ハ遲滯ナク回答スルコト

イ　給付ノ種別及費用額

ロ　被保險者ノ標準報酬等級

ハ　分娩ノ豫定年月日

五、健康保險署長又ハ健康保險組合分擔額ヲ算定シタルトキハ他ノ保險者ニ對シテ各保險者ノ分擔額ヲ別記樣式ニ依リ通知スルコト

分擔額ヲ算定シタル者カ健康保險組合ニシテ分擔スル保險者カ政府ナル場合ニ於テ給付ヲ掌リタル健康保險署カ二以上アルトキハ右ノ通知ハ最後ニ給付ヲ掌リタル健康保險署長ニ對シテ之ヲ爲スコト

六、分擔額ノ通知ヲ受ケタル健康保險署長又ハ健康保險組合ハ分擔額ヲ算定シタル健康保險署長又ハ健康保險組合ニ對シテ分擔金ヲ支拂フコト但シ分擔スル保險者ニ於テモ給付ヲ爲シタルモノナルトキハ左ニ依ルコト

イ　分擔額カ之ヲ分擔スル保險者ニ於ケル給付費用額ヨリモ少キトキ又ハ費用額ト同シキトキハ其ノ分擔金ハ支拂ヲ要セサルコト

ロ　分擔額カ之ヲ分擔スル保險者ニ於ケル給付費用額ヨリモ多キトキハ其ノ差額ノ部分ノ分擔金ノミヲ支拂フコト

（樣式）

右本

七、前項イノ前段ニ該當スルモノニ付テハ分擔額ヲ超過スル部分ノ費用額ハ之ヲ分擔額ヲ算定シタル健康保險署長又ハ健康保險組合ニ於テ其ノ保險者ニ對シ支拂フコト但シ分擔額ヲ算定シタル健康保險署長又ハ健康保險組合カ前項本文又ハ同項ロニ依リ分擔金ノ支拂ヲ受クルモノナルトキハ其ノ支拂ヲ受ケタル後ニ於テ右ノ支拂ヲ爲スコト

分擔額ヲ算定シタル者カ健康保險組合ニシテ分擔スル保險者カ政府ナル場合ニ於テ給付ヲ掌リタル健康保險署カ二以上アルトキハ分擔額ヲ算定シタル健康保險組合ニ於テ爲ス右ノ支拂ハ最後ニ給付ヲ掌リタル健康保險署長ニ對シテ之ヲ爲スコト

八、關係健康保險署長及健康保險組合ノ協定ニ依リ以上ノ方法ニ依ラスシテ他ノ適當ナル方法ニ依ルモ妨ケナキコト（但シ二ノ事項ハ此ノ限ニ在ラス）

九、本件ノ分娩ニ關スル給付費用額ハ給付決定後未支出ノモノヲ含ムコト

分娩ニ關スル保險給付費用分擔額算定通知書

被保險者（被保險者タリシ者）ノ氏名及標準報酬等級

何某　第何級

分娩ノ豫定年月日

昭和何年何月何日

分娩アリタル年月日

昭和何年何月何日

給付費用額

種別	費用額	備考
分娩費	圓	
産院收容費（助産手當費）	、、	
出産手當金	、、、、分娩ノ日前何日分 分娩ノ日以後何日分	
計	、、、、	

各保險者分擔額

保險者	被保險者タリシ又ハ被保險者タル期間	使用セラレタル又ハ使用セラルル工場又ハ事業場	費用額	分擔額	分擔額ニ對スル費用額ノ過不足	
					過	不足
何組合	自昭和何年何月何日 至昭和何年何月何日	何工場（何々）	圓	圓	圓	圓
何組合	自昭和何年何月何日 至昭和何年何月何日	何工場（何々）	、、、	、、、	、、、	、、、

右謄本

政府	何健康保險署所屬	自昭和何年何月何日 至昭和何年何月何日	何工場（何々）	、、、
	何健康保險署所屬	自昭和何年何月何日 至昭和何年何月何日	何工場（何々）	、、、

何健康保險組合宛
（何健康保險署長宛）

右及通知候也

昭和何年何月何日

何健康保險署長　何　某㊞
何府縣何市郡何町村何番地
何健康保險組合
理事長　何　某㊞

右謄本

●朝鮮工女分娩ニ關スル件

（昭和二年三月三十一日發第六四四號社會局保險部大阪出張所長回答）

岸和田紡績健康保險組合號

昭和二年三月十六日

岸和田紡績健康保險組合

社會局保險部大阪出張所長殿

朝鮮工女分娩ニ關スル疑義ノ件

標記ノ件ニ關シ左記ノ疑義有之候條何分ノ御指示仰度此段御願申上候

記

一、朝鮮工女分娩ノ際ハ習慣上（現實ニ之ヲ認ム）產婆ニ依ラシテ分娩スルモノニ付產婆ニ罹リタルモノト同樣ノ取扱ヲ爲スヘキモノナリヤ

發第六四四號

昭和二年三月三十一日

社會局保險部大阪出張所

岸和田紡績健康保險組合御中

朝鮮工女分娩ニ關スル件

三月十六日附ヲ以テ御問合相成標記ノ件分娩費支給ノ御取扱相成度

追テ産婆ニカカラサル場合ニ於ケル書類上ノ取扱ニ付テハ産婆ノ意見書ニ代ヘ適宜相當ノ御取扱相成可然モノト存ス

●葡萄狀鬼胎分娩ニ關スル件

（昭和二一年五月四日保理第一八八〇號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合（但シ秋田健康保險署長ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ付秋田健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）

（甲號）

二給發第三二四號

昭和二年四月十二日

秋田健康保險署長

社會局保險部長殿

葡萄狀鬼胎分娩ニ關スル件

葡萄狀鬼胎分娩ニ關シ分娩費及出産手當ノ請求有之分娩トシテ取扱フヘキモノカ疾病トシテ取扱フヘキモノカニ關シ囑託醫ノ意見ヲ徵スルニ別紙寫ノ通リ意見回答有之候モ明瞭ナラス如何取扱可然哉御指示相成度此段伺上候也

（別紙寫省略）

（乙號）

保理第一八八〇號

昭和二年五月四日

社會局保險部長

秋田健康保險署長殿

葡萄狀鬼胎分娩ニ關スル件

昭和二年四月十二日附二給發第三二四號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件ハ疾病トシテ取扱ハレ度

●雙兒分娩ノ場合ニ於ケル分娩費ニ關スル件

（昭和二一年五月四日保理第一九〇三號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合（但シ東洋モスリン龜戸工場健康保險組合ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ付東洋モスリン龜戸工場健康保險組合ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

吉本

（別紙）

（甲號）

昭和二年四月十五日

東洋モスリン龜戸工場健康保險組合

社會局保險部長殿

分娩費支給ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ左記ノ點至急御回示被下度此段及御依頼候

記

一、雙兒分娩ノ場合ノ分娩費支給額如何

一兒ニツキ分娩ト認ムルヲ適當ト存候カ御意見如何

（乙號）

保理第一九〇三號

昭和二年五月四日

社會局保險部長

東洋モスリン龜戸工場健康保險組合御中

雙兒分娩ノ場合ニ於ケル分娩費ニ關スル件

昭和二年四月十五日附ヲ以テ伺出相成候標記ノ件ハ産兒ノ數ノ如何ニ拘ラス保險事故タル分娩ハ一ナルヲ以テ分娩費ハ二十圓（産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタルモノハ十圓）ヲ支給スヘキモノニ有之但シ胎兒毎ニ胎盤ヲ有シ一産兒ヲ排出シ次テ其ノ後産ヲ排出シ更ニ次ノ一産兒ヲ排出シ次テ其ノ後産ヲ排出スルカ如キハ産兒毎ニ分娩ヲ異ニスルモノナルヲ以テ斯カル場合ニ於テハ産兒毎ニ分娩費ヲ支給スヘキモノニ有之

吉本

●被保險者ノ資格喪失ノ際分娩ニ關スル給付ヲ受クル者ニ關スル件

（昭和二一年五月三十日保理第二二二三號社會局保險部長通牒）

健康保險署長（高知健康保險署長ヲ除ク）健康保險組合宛

標記ノ件ニ付高知健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）

（甲號）

二給第一八三七號

昭和二年五月四日

高知健康保險署長　鎌田英夫

社會局保險部長殿

健康保險法中疑義ノ件

健康保險法中左記事項ニ付疑義相生シ候條至急何分ノ御指示相煩度此段及照會候也

記

一、法第五十五條中「分娩ニ關シ保險給付ヲ受クル者」トアルハ現實ニ保險給付ヲ受ケ居ル者ノミノ意ナルヤ現實ニ保險給付ヲ受ケ居ラサルモ受クヘキ權利ヲ有スル者例ヘハ手當金ノ請求ヲ爲ス以前ニ於テ解雇セラレ而モ資格喪失後數日ニテ分娩セシカ如キ者モ含ムヤ將又施行令第八十四條ノ規定ニ依リ資格喪失後百八十日以內ニ分娩セシ者ナレハ總テ現實ノ給付如何ニ拘ラス法第五十五條ノ所謂保險給付ヲ受クル者ニ包含セラルルヤ

（乙號）

保理第二二二三號

昭和二年五月三十日

社會局保險部長

高　健康保險署長殿

被保險者ノ資格喪失ノ際分娩ニ關スル給付ヲ受クル者ニ關スル件

昭和二年五月四日附二給第一、八三七號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件ハ左ノ通ニ有之

記

健康保險法第五十五條ノ場合ニ於ケル被保險者ノ資格喪失ノ際分娩ニ關シ保險給付ヲ受クル者トハ分娩ノ日前二十八日（又ハ三十五日）ヨリ分娩ノ日以後四十二日ノ間ニ資格ヲ喪失シ其ノ際出產手當ノ支給ヲ受ケ得ル狀態ニ在ル者ヲ指ス義ニ有之

●分娩給付費用分擔額端數算定ニ關スル件

（昭和二年九月九日發第二一三六號社會局保險部大阪出張所長回答）

和歌山健康保險署長宛

二給第九、一九八號

昭和二年九月三日

和歌山健康保險署長

社會局保險部大阪出張所長殿

分娩給付費用分擔額端數算定ニ關スル件

施行令第八十三條ニ依ル標記分擔額算定ニ關シ厘以下ノ端數ヲ生シタル揚合ハ國庫出納金端數計算法第一條ニ依リ計算スヘキモノナリヤ將又四捨五人ノ算法ニヨルヘキモノナリヤ若シ前段ニ依ルモノトセハ實際費用額ト合致セサル結果（實際費用額ヨリ少シ）ヲ來スヘクモ此ノ場合ニ於ケル不足額ハ給付ヲ爲シタル最後ノ保險者ニ負擔スヘキモノナリヤ聊カ疑義相生候條至急何分ノ御回示相仰度及伺出候也

台本

發第二、一三六號

昭和二年九月九日

社會局保險部大阪出張所長

和歌山健康保險署長殿

分娩給付費用分擔額端數算定ニ關スル件

本月三日二給第九一九八號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件前段御見込ノ通御取扱相成可然猶此ノ場合ニ於ケル不足額ノ負擔ニ付テモ御見解ノ通御取扱相成差支ナキ儀ト被存候

●出產手當金ノ請求ニ關スル件

（昭和二年九月三十日保理第三三五九號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合（但シ香川健康保險署長ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ付香川健康保險署長ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）

（甲號）

二發給第二二八號

昭和二年九月九日

香川縣健康保險署長　細田正行

社會局保險部長殿

分娩ニ關スル保險給付ノ成

標記ノ件ニ關シ疑義相生候條何分ノ御教示相煩度候

記

一、保險法施行規則第六十二條ノ出產手當金ノ請求書ニ記載事項中第二號「分娩前ノ場合ニ於テハ」トアル分娩前ノ意義ハ分娩ノ日前ニ請求スルノ意ナルヤ又分娩ノ日前ノ出產手當金ノ請求ノ意ナルヤ

二、總テ出產手當金ノ請求書ニハ同條第二項第二號ノ意見書ヲ必要トスルヤ

醫師又ハ產婆ニ罹ラス家庭ニ於テ助產ヲナスモノ多シ斯ル場合分娩ノ日前二十八日以內ノ請求ニシテ出產ノ日以後ノ請求ナレハ之ヲ要セサルモノト解シ可ナルヤ又此場合意見書無キ場合ハ二十八日以上ニ及ヒタル場合モ二十八日ニ限定支給決定シ可然哉

三、二後段ヲ可ナリトセハ同條第二項第二號ノ分娩豫定日ニ關スル醫師又ハ產婆ノ意見書ハ分娩前ノ出產手當金及之ヲ含ム請求書而已ニ添付ヲ要スルモノトシ分娩ノ日以後ノ出產手當金ノ請求ハ分娩費ノ請求アリタル場合ニハ分娩ノ事實（豫定日ハ不明ナルモ）明白ナルヲ以テ同條第三項ノ適用アルモノト見ルヲ得ルモノナルヤ

台本

（乙號）
保理第三三五九號
昭和二年九月二十六日

社會局保險部長

香川健康保險署長殿

出產手當金ノ請求ニ關スル件

昭和二年九月九日附二發給第二二八號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件左ノ通ニ有之

記

一、前段御見解ノ通

二、後段御見解ノ通此ノ場合ニ於テハ大體ニ於テ御見込ノ通決定相成可然、

三、御見込ノ通取扱相成可然

●分娩ニ關スル保險給付費用分擔額算定通知ニ關スル件

（昭和二年十二月十四日保理第三九八三號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合宛

分娩ニ關スル保險給付費用分擔額算定ノ件ニ付テハ昭和二年三月八日附發保第三七號ヲ以テ通牒致置候次第モ有之候處該分擔額算定通知ノ場合ニ於テハ給付費用ノ支拂ヲ爲シタル證憑書類ノ寫（卽チ分娩費、出產手當金等ノ領收證寫）ヲ算定通知書ニ添仰セラルル樣致度

●姙娠四箇月ヲ超ユル分娩ノ意義ニ關スル件

（昭和三年三月十六日發保第一一號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合宛

健康保險ニ於テ分娩ニ關スル給付ヲ爲スハ姙娠四箇月ヲ超ユル分娩ニ限ル（姙娠一箇月ハ二十八日間トス）儀ニ有之候處意義聊カ不明確ニ付爾今右ノ姙娠四箇月ヲ超ユル分娩トハ姙娠八十五日以上ノ分娩ヲ謂フ義ト承知セラレ度爲念

●健康保險法施行令第八十二條中「分娩前一年內」ノ意義ニ關スル件

（昭和三年四月四日保理第七三一號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合宛

追而

健康保險法施行令第八十二條中「分娩前一年內」トアルハ「分娩ノ分日ヨリ遡リテ一年內」ト解スヘキモノニ有之

●姙娠四箇月ヲ超ユル分娩ノ意義ニ關スル件

（昭和三年四月十日保理第六四四號社會局保險部長回答）

磐城炭礦健康保險組合宛

磐健第一四九號
昭和三年三月十九日

社會局保險部長殿

磐城炭礦健康保險組合

姙娠四箇月ヲ超ユル分娩ノ意義ニ關スル件

發保第十一號ノ首題ノ件ニ付了解ニ苦シムモノ有之候間至急御示教相煩度及御伺候也

記

前略頭今右ノ姙娠四箇月ヲ超ユル分娩トハ姙娠八十五日以上ノ分娩ヲ謂フ義ト有之候得共四箇月トハ（一箇月二十八日トス）百十二日ニシテ四箇月ヲ超ユルトキハ分娩ノ範圍ニ屬スル意義ナルヲ以テ百十三日以上ヲ指スモノト信シ候故ニ八十五日以上ナル解釋ハ矛盾スルモノニアラサルカト被思考候ニ付此點明確ニ御示教相成度重ネテ申添候

保理第六四四號
昭和三年四月十日

磐城炭礦健康保險組合御中

姙娠四箇月ヲ超ユル分娩ノ意義ニ關スル件

昭和三年三月十九日附磐健第一四九號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ健康保險ニ於テ分娩ニ關スル給付ニ爲スハ姙娠四箇月ヲ超ユル分娩ニ限ルト定メタルハ明治三十九年內務省令第二十七號醫師法施行規則第九條ノ標準ニ依リタルモノニ有之故ニ前記解釋ノ四箇月ヲ超ユルトハ右ノ醫師法施行規則第九條ノ四箇月以上ト同意義卽チ姙娠八十五日以上ノ分娩ト解釋相成度

（參照）

明治三十九年內務省令第二十七號醫師法施行規則抜萃

第九條　醫師死體又ハ四箇月以上ノ死產兒ヲ檢案シ異常アリト認ムルトキハ二十四時間以內ニ所轄警察官署ニ屆出ヘシ

●分娩ノ場合ニ於ケル人工的處置ニ關スル件

（昭和三年五月九日保理第一〇一三號社會局保險部長回答）

秋田健康保險署長宛

三給發第三九五號

昭和三年四月十八日

秋田健康保險署長

社會局保險部長殿

分娩ノ場合ニ於ケル人工的處置ト療養ニ關スル件

健康保險法規疑義事項解釋（第四輯）掲載ノ昭和二年二月二日附保醫第五七號ヲ以テ首題ノ件旭川健康保險署長宛回答ニ依レハ「分娩ノ場合ニ於ケル人工的處置ハ疾病又ハ負傷ノ療養ニ非サルヲ以テ療養ノ給付ヲ爲スヘキモノニ非サルモノトス」ト有之候處秋田縣醫師會長ヨリ分娩ノ場合ニ於ケル（疾病又ハ負傷ニ依ル場合ヲ除ク）人工的處置トハ如何ナル程度ノモノヲ謂フヤ具體的例示回答相成度旨伺出有之候條斯ル場合ノ人工的處置（保險給付ノ範圍外ノ場合）ノ例ヲ御指示相成度此段伺上候也

追而縣醫師會幹事會ニ於テ人工的處置ノ程度ノ見解區々ナルカ故ニ當署ノ意見承度旨ヲ以テ照會越シタルモノニ付申添候也

保理第一〇一三號

昭和三年五月九日

社會局保險部長

秋田健康保險署長殿

分娩ノ場合ニ於ケル人工的處置ニ關スル件

昭和三年四月十八日附給發第三九五號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件ハ左記ノ如キモノヲ指ス義ニ有之

追テ伺出書ニ記載アル「昭和二年二月二月附保醫第五七號」ハ「昭和二年二月一日附保理第五四八號」ノ誤ト認メラレ候

記

一、軟部產道擴張處置

即チ子宮頸管及子宮口ノ擴張處置、腟及外陰部ノ擴張　置等ナリ

二、骨部產道又ハ骨盤ノ擴大處置

即チ恥骨ノ縫合又ハ切開處置等ナリ

三、人工破水處置

台本

●分娩ニ關スル保險給付費用分擔額算定ニ關スル件

（昭和四年二月二十一日保理第四九五號社會局保險部長回答）

長崎健康保險署長宛

四給第一五四號ノ一

昭和四年二月八日

長崎健康保險署長　金久保次郎

社會局保險部長山口安憲殿

分娩ニ關スル保險給付費用分擔額算定ニ關シ疑義ノ件伺

昭和二年三月發保第三七號ヲ以テ御指示有之標記ノ件ニ關シ左記ノ通疑義有之候條何分ノ御回示相願度候

記

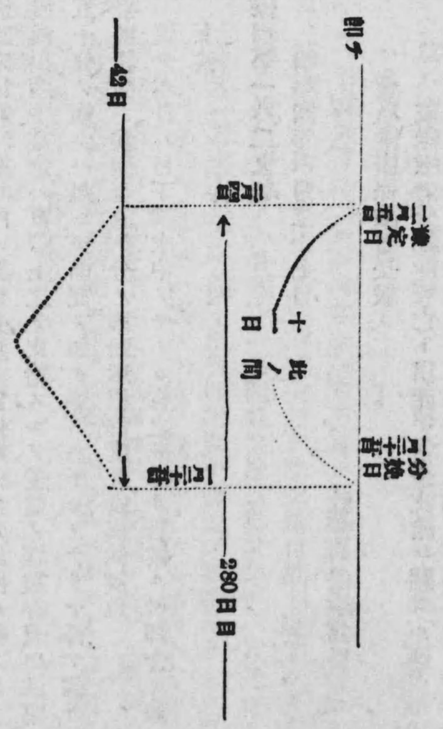
一、施行令第八十三條及御指示ノ方式ニハ分娩ノ豫定日前二百八十日目ヨリ分娩ノ日以後四十二日迄ノ間トアリ

一、故ニ分娩日カ豫定日ヨリ遲レタル場合ハ何等支障ナキモ若干豫定日ヨリ早ク分娩シタル場合即チ

イ、分娩豫定日二月五日

ロ、分娩日　一月二十五日

右ノ場合分娩ノ日ヨリ遡リテ前二十八日ノ出產手當金支給濟ナリ此ノ場合分擔額ヲ御指示方式ニ依リ算出スルトキハ左ノ不都合ヲ生ス



右ノ如キ場合ハ分娩日ヲ本トシテ左ノ通リ算定スヘキモノト思料セラルルモ如何

台本

保理第四九五號
昭和四年二月二十一日

社會局保險部長

長崎健康保險署長殿

分娩ニ關スル保險給付費用分擔額算定ニ關スル件

昭和四年二月八日附四給第一五四號ヲ以テ伺出相成候條標記ノ件ハ健康保險法施行令第八十三條中ニ「分娩ノ豫定日前二百八十日目ヨリ分娩ノ日以後四十二日迄ノ期間」ト規定セルハ受胎ノ日ヨリ分娩ノ日以後四十二日迄ノ間ニ於テ保險者タリシ日數ニ應シ費用ヲ分擔セシムル趣旨ナルヲ以テ當局指示ノ方式ニ從ヒ計算スヘキモノトス

●被保險者分娩前死亡ト出産手當金支給ニ關スル件

（昭和四年六月二十七日　保理第一八二九號社會局保險部長回答）

廣島健康保險署長宛

四廣健給第二八一〇號
昭和四年六月二十日

廣島健康保險署長

社會局保險部長

廣島健康保險署長殿

被保險者分娩前死亡ト出産手當金支給ニ關スル件

昭和四年六月二十日附四廣健給第二八一〇號ヲ以テ四出ニ係ル標記ノ件右ハ出産手當金ヲ支給相成可然

（本）

●雙兒分娩ノ場合ニ於ケル出産手當金及健康保險法第五十四條適用ニ關スル件

（昭和五年一月十四日　保規第六八六號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官（東京府及長崎縣ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ付長崎縣知事ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（甲號）

四健第五五七五號
昭和四年十二月十八日

長崎縣知事　伊藤喜八郎

社會局保險部長　石原雅二郎殿

雙兒分娩ノ場合ニ於ケル出産手當金及健康保險法第五十四條適用ニ關スル件

標記ノ件ニ付左記ノ通リ疑義相生シ候條何分ノ御指示相成度此段相伺候也

記

一、出産手當金ハ被保險者カ分娩前二十八日分娩ノ日以後四十二日以內ニ於テ勞務ニ服セサリシ期間支給スル規定ニ有之候處管下被保險者ニ一兒ハ本年九月二十四日午前六時分娩シ他ノ一兒ハ三日ヲ經過シテ二十七日午前八時死亡分娩セリ斯ル場合分娩日ヲ何レニ定メ出産前後ノ日數ヲ算定スヘキヤ及令第八十條第二項ノ適用アリヤ適用アリトセハ其算定方ヲ如何ニスヘキヤ

二、脊椎カリエスニテ客年十一月三日ヨリ傷病手當金ノ支給ヲ開始シ引續キ本年五月一日迄支給ヲ受ケ給付期間滿了シタル處右疾病中同人ハ客年十一月四日分娩シ從ツテ十一月三日ヨリ十二月十五日マテ四十三日間出産手當金ヲ支給シタルヲ以テ五月三十一日マテハ舊法ニ依リ療養ノ給付及傷病手當金ヲ支給シタルモ六月一日ヨリ十二日マテノ期間ニ於ケル傷病手當金ハ新法及經過規定ニ依リ支給ヲ打切ルヘキモノト思考スルモ果シテ支障ナキヤ

（乙號）

保規第六八六號
昭和五年一月十四日

社會局保險部長

長崎縣知事殿

雙兒分娩ノ場合ニ於ケル出産手當金及健康保險法第五十四條適用ニ關スル件

昭和四年十二月十八日附四健第五、五七五號ヲ以テ伺出相成候

（本）

標記ノ件右ハ左ノ通ニ有之

記

一、イ、出産手當金ハ九月二十四日前二十八日。九月二十七日以後四十二日以内ニ於テ勞務ニ服セサリシ期間ニ對シ支給スヘク尚九月二十日乃至同月二十六日ノ期間ヲモ支給スヘキモノトス

ロ、分娩費ハ分娩カ二回ノ分娩ナリト認メラルル場合ハ四十圓ヲ支給スヘキモノトス

追テ雙兒分娩ノ場合ニ於テ分娩カ一ナリヤ二ナリヤニ付テハ昭和二年五月四日附保理第一、九〇三號ヲ以テ東洋モスリン龜戸工場健康保險組合宛回答ニ依リ御了知相成度

二、御見解ノ通

●療養ノ給付及助産ノ手當ニ關スル件

（昭和五年六月十六日保規第三二四號通牒）

昭和五年五月二十二日

九州鑛業起業小松健康保險組合

社會局保險部長　湯澤三千男殿

療養ノ給付及助産ノ手當ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ左記ノ場合ハ何レノ範圍ニ該當ス可キ哉疑義相生シ候條至急何分ノ御指示相仰度此段及照會候也

記

一、胎盤ノ早期剝離ノ場合

イ、止血或ハ强心ヲ目的トスル處置

ロ、帝王切開術ヲ以テ胎兒挽出ノ處置

二、陳痛微弱ニ之ヲ催進スル目的ヲ以テスル處置

保規第三二四號

昭和五年六月十六日

社會局保險部長

九州鑛業起業小松健康保險組合理事長殿

療養ノ給付及助産ノ手當範圍ニ關スル件

昭和五年五月二十二日附ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ孰モ助産ノ範圍ニ有之

●被保險者ノ資格喪失セルモノニシテ出産手當金ヲ受クル者ニ付勞務ニ服セサルコトノ證明ノ件

（昭和五年九月十九日保規第四五八號社會局保險部長回答）

仁丹工場健康保險組合理事長宛

（台本）

組合文書第二六八號

昭和五年八月十六日

仁丹工場健康保險組合

社會局保險部長殿

被保險者ノ資格ヲ喪失セルモノニシテ出産手當金ヲ受クル者ニ付勞務ニ服セサルコトノ證明ノ件

被保險者ノ資格ヲ喪失セルモノニシテ出産手當金ヲ受ケ得ル者ニ付テハ昭和二年五月三十日附保理第二、二二三號高知健康保險署長宛御回答ヲ以テ明瞭ナルモ斯ル場合分娩後勞務ニ服セサルコトノ證明ヲ如何ニスヘキ　相伺候也

保規第四五八號

昭和五年九月十九日

社會局保險部長

仁丹工場健康保險組合理事長殿

被保險者ノ資格喪失セルモノニシテ出産手當金ヲ受クル者ニ付勞務ニ服セサルコトノ證明ノ件

昭和五年八月十六日附組合文書第二六八號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ個々ノ場合ニ於テ適宜ノ方法ニ依リ從前ノ勞務ト同程度ノ勞務ニ服シツツアルヤ否ヤヲ認定スルノ外ナカルヘシト被思料候

●分娩給付ニ關スル件

（昭和六年四月八日發保第五〇號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官（東京府ヲ除ク）及健康保險組合理事長宛

（台本）

從來官業共濟組合ノ組合員タル又ハ組合員タリシ被保險者ニ對スル分娩給付ニ關スル取扱正確ヲ缺キタルモノ有之悟ニ認メラレ候ニ付今般左記ノ通之カ取扱ヲ一定スルコトニ相成候條昭和六年四月一日以降ハ凡テ之ニ依リ處理相成度

記

一、政府ト官業共濟組合、健康保險組合ト官業共濟組合トノ間ニ於ヲモ政府ト健康保險組合トノ間ニ於ケルト同樣ニ分娩給付費用ノ分擔ヲ爲スコト

二、分娩給付ヲ受ケ得ヘキ資格要件タル期間ノ計算ニ付テハ他ノ保險者又ハ官業共濟組合ノ被保險者タリシ期間ヲ通算スルコト

●療養ノ給付及分娩ノ給付競合ノ場合ノ取扱ニ關スル件

（昭和六年十一月二十七日保規第三六四號社會局保險部長通牒）

今般日本醫師會ト打合ノ結果保險醫ニ於テ被保險者ニ對スル助産ノ手當ニ相當スル行爲ヲ爲シタル時ハ診療報告書備考欄ニ當該手術名」及「手術施行ノ日」ヲ附記セシムルコトト相成候ニ付御了知相成度

追テ貴管下醫師會トモ協議シ保險醫ニ對シ右ノ旨周知方可然御取計相成度爲念

●助産ノ手當ニ關スル産婆會等トノ契約ニ關スル件

（昭和七年五月六日　保發第二八三號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官（東京府ヲ除ク）宛

健康保險ノ被保險者ノ助産ノ手當ニ關シ産婆會等ト契約ヲ爲シタルトキ（契約ヲ改定シタルトキ亦同シ）ハ遲滯ナク其ノ協定書ノ寫送付相成度

追テ昭和七年度ニ於ケル協定書ノ寫未提出ノモノハ此ノ際至急提出相成度

●保險醫ノ擔當スヘキ助産ノ手當ニ關スル件

（昭和七年八月三十一日　保發第六四二號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官（但シ東京府及岐阜縣ヲ除ク）宛

標記ノ件ニ關シ岐阜縣知事ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

甲　號

七健第一八一〇號

昭和七年八月四日

社會局保險部長殿

岐阜縣知事

保險醫ノ擔當スヘキ助産手當ニ關スル件

六月二十日附保發第四七三號ヲ以テ御通牒相成候助産ノ手當ニ關スル件中緊急ノ場合保險醫ニ助産ノ手當ヲ受クルコトニ關シ左記ノ疑義相生シ候條此段及伺候也

記

（一）緊急ノ場合知事ノ承認ヲ受ケスシテ保險醫ニ助産ノ手當ヲ受クル場合トハ昭和六年十月二十七日發保第五一號「九」及同年十一月二十五日保發第七五一號「十一乃至十三」ノ御通牒ノ趣旨ニ依リ骨盤狹窄、胎位異狀等特ニ醫師ニ就キ助産ノ手當ヲ必要トスル場合ニ限ルモノト解シ宜敷ヤ

（二）或ハ通常分娩ノ場合ニ於テモ其ノ分娩カ緊急ノ場合ハ保險醫ニ就キ助産ノ手當ヲ受ケ得ヘキ樣規定スル趣旨ナルヤ

（三）若シ（二）ノ如ク解スルモノトスレハ保險醫カ助産ノ手當ヲ爲シタル場合其ノ報酬額ハ當分ノ內日本醫師會診療報酬點數計算規程ニ據ルトアルモ通常分娩ノ場合ニ於ケル點數ハ同規程「産科婦人科處置料（一―五點」以外ノ該當スヘキ項目ノ無キカ如キモ右ニ據ルトスレハ産婆ニ對スル料金ニ比シ著シク低廉ナルカ差支ナキヤ

（四）尙又（一）ノ如ク解シタル場合骨盤狹窄、胎位異狀等トノ診斷ノ下ニ保險醫ノ助産ノ手當ヲ受ケタル處偶々通常分娩ニシテ何等ノ手術ヲ要セサリシ場合ニ於ケル分娩處置ノ報酬ハ如何ニスヘキカ

附記

以上ハ六月二十日保發第四七三號ノ緊急ノ場合ニ於ケル取扱ニ關スル質疑ナルモ外ニ縣內及縣外ヲ問ハス承認ヲ與ヘ保險醫ヲシテ助産ノ手當ヲ行ハシムル場合ニ於テモ其ノ根本ノ趣旨カ産婆タルト保險醫タルトヲ問ハス等シク助産手當ノ擔當者ト認ムヘキ御趣意ナルヤ或ハ骨盤狹窄、胎位異狀等ニシテ特ニ醫師ノ手當ヲ必要トスル場合ニ限リ保險醫ニ助産ヲ取扱ハシムヘキ御趣意ナルヤ若シ後者トスレハ縣令助産手當規則中ニ此ノ點ヲ明確ニシ置ク必要ナキヤ目下御通牒ニ基キ縣令改正ヲ急キツツアルモ此ノ點疑義ヲ生シタル爲伺出候次第ニ有之

乙　號

保發第六四二號

昭和七年八月三十一日

社會局保險部長殿

岐阜縣知事

保險醫ノ擔當スヘキ助産ノ手當ニ關スル件

昭和七年八月四日附七健第一、八一〇號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件右ハ被保險者カ保險者ノ承認ヲ得テ保險醫ニ就キ助産ノ手當ヲ受クルコトヲ得ルハ分娩ノ爲特ニ醫師ノ手當ヲ必要トスル場合ニ限ル趣旨ニ有之候得共緊急ノ場合ニ於テ産婆ニ就キ助産ノ手當ヲ受クルコト能ハサル場合ニ於テハ通常分娩ノ場合ト雖モ是亦保險醫ニ就キ助産ノ手當ヲ受クルコトヲ得ルモノト了知セラレ度

追テ何レノ場合タルヲ問ハス保險醫ニ就キ助産ノ手當ヲ受ケタル場合ノ報酬ハ日本醫師會健康保險診療報酬計算規程ニ依リ支拂フヘキモノニ有之

●保險醫ノ手ニ依リ人工的分娩ヲ爲シタル場合保險產婆ニ對スル分娩取扱料支拂ニ關スル件

（昭和七年十月十八日
保規第三一三號社會局保險部長通牒
廳府縣長官（但シ東京府和歌山縣ヲ除ク）宛）

標記ノ件ニ關シ和歌山縣知事ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ乙號ノ通回答致置候

甲　號

健給第二一二五號
昭和七年九月二十九日

和歌山縣知事

社會局保險部長

保險醫ノ手ニ依リ人工的分娩ヲ爲シタル場合保險產婆ニ對スル分娩取扱料支拂ニ關スル件

健康保險產婆被保險者ノ分娩取扱ニ際シ偶々軟部產道擴張處置骨部產道又ハ骨盤ノ擴大處置、人工的破水處置等產婆規則第八條ニ依リ產婆カ行ヒ得サル處置ヲ要シ本縣縣令健康保險助產手當取扱規程第十一條ノ規定ニ基キ保險者ノ承認ヲ受ケ保險醫ヲ迎ヘ人工的分娩ヲ爲サシメタル場合（此ノ場合產婆ノ終始醫師ノ處置ニ立會產婆トシテ爲シ得ヘキ範圍ノ分娩介助竝前後處置ヲナシ普通分娩ノ場合ヨリ以上ノ手數ヲ要ス）其ノ當日ノ產婆ニ對スル助產手當中分娩取扱料支拂ニ關シ左記ノ通疑義相生シ候ニ付何分ノ御指示相仰度此段及伺出候也

記

一　此ノ場合醫師ニ對シテハ醫師ノ爲シタル處置ノ內容ニ依リ日本醫師會健康保險診療報酬點計算規程別表ノ點ニ依リ算出シタル額ヲ支拂ヒ一方產婆ニ對シテハ其ノ分娩ニ付產婆トシテ分娩當日分娩處置ヲ完了シタルモノトシテ分娩取扱料ノ全額ヲ支拂シ差支無之モノナリヤ

二　產婆ハ分娩當日其ノ分娩ニ對シ醫師ヲ迎ヘ之レヲ爲サシメタルヲ以テ其ノ分娩處置ヲ完了シタルモノニ非ス分娩其ノモノハ主トシテ醫師ニ依リテ爲シタルモノナルヲ以テ醫師ニ對シテハ前號ニ依ル報酬ヲ支拂ヒ一方產婆ニ對シテハ當日分娩取扱料ヲ支拂ハス單ニ前後處置料ヲ支拂フヘキモノナリヤ

參照條文拔萃

產婆規則

第八條　產婆ハ姙婦產婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ產科器械ヲ用ヰ藥品ヲ授與シ又ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切リ灌腸ヲ施ス類ハ此ノ限ニ在ラス

健康保險助產手當取扱規程

第十一條　被保險者保險醫ノ助產ノ手當ヲ受ケムトスルトキハ樣式第五號ニ依ル申請書ヲ和歌山縣知事ニ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ但シ止ムヲ得サル事由アル場合ハ其ノ事由止ミタル後遲滯ナク樣式第六號ニ依リ其ノ旨和歌山縣知事ニ屆出ツヘシ

第十八條　（省略）

乙　號

保規第三一三號
昭和七年十月十八日

社會局保險部長

和歌山縣知事殿

保險醫ノ手ニ依リ人工的分娩ヲ爲シタル場合保險產婆ニ對スル分娩取扱料支拂ニ關スル件

昭和七年九月二十九日附健給第二一二五號ヲ以テ御照會相候標記ノ件ハ左記ノ通ニ有之

記

一　御見込ノ通

二　「一」ニ依リ御了知セラレタシ

●被保險者ノ分娩ト死亡トノ競合ノ場合ニ於ケル分娩費ノ支給ニ關スル件

（昭和八年三月十四日
保規第六一號社會局保險部長回答
兵庫縣知事宛）

兵健給第一〇八〇號
昭和八年二月二十三日

兵庫縣知事

社會局保險部長殿

被保險者ノ分娩ト死亡トノ競合ノ場合ニ於ケル保險給付ニ關スル疑義伺ノ件

被保險者姙娠八箇月ニシテ早產ノ場合分娩開始ト同時ニ心臟痲痺ヲ起シ死亡シタルモ醫師ハ其ノ儘胎兒ヲ娩出セシメタリトスレハ一面分娩ヲ完了シタルトキハ被保險者既ニ死亡シタルノ故ヲ以テ分娩費ノ支給ヲ爲スヘカラサルモノノ如ク思料セラルルト共ニ他面マタ分娩ハ被保險者ノ生存中ニ開始セラレ偶々其ノ分娩ノ完了前ニ被保險者ノ死亡カ競合シタルニ過キス且被保險

者ノ死亡後ト雖モ醫師ハ其ノ分娩ヲ完了セシメタルノミナラス醫ヘ被保險者死亡シタリトスルモ其ノ當日ハ依然被保險者トシテノ資格ヲ有スヘク分娩ニ關スル出費ハ生存中分娩完了シタルモノト何等選フ所ナキヲ以テスレハ分娩費ヲ支給シ之カ保護ノ任ヲ盡スコト健康保險ノ本旨トモ思考セラレ其ノ何レニ從フヘキヤ聊カ疑義相生シ候ニ付何分ノ御回示相成度此段及稟伺申候也

追而本件ハ差懸リタル事件有之候ニ付至急御指示ヲ相仰度申添候

保規第六一號
昭和八年三月十四日

社會局保險部長

兵庫縣知事殿

被保險者ノ分娩ト死亡トノ競合ニ於ケル分娩費ノ支給ニ關スル件

昭和八年二月二十三日附兵健給第一〇八〇號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件右ハ分娩費ヲ支給相成可然

●健康保險法施行令第八十條第一項ノ「勞務ニ服セサリシ期間」ノ意義ニ關スル件

（昭和八年八月二十八日保發第五三九號社會局保險部長通牒）

廳府縣長官（東京ヲ除ク）及健康保險組合理事長宛

健康保險法施行令第八十條第一項ニ所謂「勞務ニ服セサリシ期間」ノ意義ニ關シ往々健康保險法第四十五條ノ「勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ期間」ノ意義ト同樣ノ義ニ解シ誤解ノ向有之哉ニ及聞候處右ハ勞務ニ服スルコト能ハサリシ期間ノ義ニ非スシテ勞務ニ服セサリシ期間ノ義ニ有之從テ被保險者勞務可能ノ狀態ニ在リシ者ト雖モ分娩ノ日前二十八日、分娩ノ日以後四十二日以內ニ於テ勞務ニ服セサリシ期間ニ對シテハ出產手當金ヲ支給スヘキ義ニ有之候條爾今取扱上過誤ナキヲ期セラルル樣致度爲念

追テ健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニシテ事業ニ使用セラレサル者又ハ被保險者資格喪失後ノ者ニシテ事業ニ使用セラレサル者ニ在リテハ右ノ勞務ノ程度ハ工場又ハ事業場ニ於テ從事シタリシ當時ノ「勞務」ト同程度ノモノヲ謂フ義ニ有之

●健康保險法施行令第八十條ノ所謂「勞務」ノ意義

（昭和九年二月二十二日決定）

健康保險法施行令第八十條ノ規定ニ依リ被保險者カ分娩ノ前後勞務ニ服セサル場合ニ於テ一定期間出產手當金ヲ支給スルハ工場法令又ハ鑛業法令ノ規定ノ趣旨ニ對應シ被保險者ヲシテ安心シテ休養スルコトヲ得セシメントスル趣旨ニ基クモノナルヲ以テ被保險者カ工場又ハ事業場ノ勞務ニ服セサル限リ家庭ニ在リテ炊爨洗濯其ノ他ノ家事又ハ之ニ類スル勞務ニ從事スルコトアルモ出產手當金ハ支給スヘキモノトス（昭和八年八月二十八日附保發第五三九號健康保險法施行令第八十條第一項ノ「勞務ニ服セサリシ期間」ノ意義ニ關スル件追書ノ場合ハ同通牒所揭ノ通ナルコト勿論ナリ）

●法第五十五條ニ依ル出產手當金支給ニ關スル件

保規第五八號
昭和十一年四月十四日

社會局保險部長

岩崎健康保險組合理事長宛

法第五十五條ニ依ル產出手當金支給ニ關スル件

昭和十一年四月三日附岩保第二號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ分娩前一年內ニ於テ百八十日以上被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後百八十日以內ニ分娩シタルトキハ法第五十五條ノ規定ニ依ルニ非スシテ法第五十七條施行令第八十四條ノ規定ニ依ルヘキ義ニ有之從テ伺出ノ如キ場合ハ法第五十七條施行令第八十四條ノ規定ニ依リ出產手當金ヲ支給スヘキモノニ有之

追テ被保險者カ分娩ノ日前二十八日、又ハ三十五日分娩ノ日以後四十二日以內ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失シ其ノ際出產手當金ノ支給ヲ受ケ得ル狀態ニ在ル者ニ對シテハ法第五十五條ノ規定ニ依リ出產手當金ヲ支給スヘキモノニ有之爲念

昭和十一年四月三日

福岡縣遠賀郡香月町大字楠橋二八一八番地

岩崎健康保險組合

理事長　波止得比古

社會局保險部長　川西實三殿

法第五十五條ニ因ル出產手當金支給ニ關スル疑義伺ヒノ件

分娩前一年內ニ於テ被保險者ノ資格百八十日以　アルモ資格喪失後八十三日ニテ分娩シタル者施行令第八十二條令第八十四條ニ因リテ出產手當金支給スヘキモノナリヤ就テハ昭和二年五月三十日附保理第二二二三號ヲ以テ保險部長ヨリノ回答「法第五十五條ノ規定ニヨリ出產手當金ヲ受ケ得ルモノハ分娩日前二十八日又ハ三十五日ヨリ分娩ノ日以後四十二日間ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失シ其ノ際出產手當金支給ヲ受ケ得ル狀態ニ在ル者ニ限ルモノトス」トアリ此ノ回答適用スヘキモノナリヤ疑義有之此段及伺候也

島根縣知事

●分娩費支給ニ關スル件

保規第二四〇號
昭和十年七月十七日

社會局保險部長

島根縣知事宛

分娩費支給ニ關スル件

昭和十年七月六日附健給第二二二〇號ヲ以テ照會相成候標記ノ件右ハ法第五十條、第五十一條及施行令第八十一條第一項ノ規定ニ鑑ミ分娩費十圓ヲ支給スヘキモノニ有之

○健給第二二二〇號
昭和十年七月六日

島根縣知事

社會局保險部長殿

分娩費支給ニ關スル件

健康保險法施行令第八十二條但書ニ依レハ「九十日以上被保險者タリシ者ニ對シテハ分娩費ヲ支給シ又ハ助產ノ手當ヲ爲スト有之候處右該當者ニ對シ保險者ニ於テ助產ノ手當ヲ爲シタル場合ニ於テハ分娩費ハ之ヲ支給セサルモ差支無之候哉何分ノ御指示相仰度此段及御伺候也

●分娩ノ給付ニ關スル通牒

保規第一八四號
昭和十二年九月二十四日

社會局保險部長

吉見紡織健康保險組合理事長殿

分娩ノ給付ニ關スル件

昭和十二年九月一日發第六三七號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ健康保險第六十條ノ適用無キモノニ有之（昭和二年二月十日健保第三九號片倉姬路工場健保組合宛回答參照）

吉本

○發第六三七號
昭和十二年九月一日

大阪府泉南郡田尻村大字吉見一一三一

吉見紡織健康保險組合理事長　松本常雄

社會局保險部長淸水玄殿

分娩ノ給付ニ關スル件

謹啓殘暑去リ難ク且邦家非常ノ際愈々御淸祥ノ條奉賀候陳者標記ニ關シ左記分娩ニ對シ法第六十條ヲ適用スヘキヤ否ヤ疑義相生シ候ニ付至急何分ノ御敎示相仰度此段御伺申上候也

記

一、寄宿舍ニ居住セル女子被保險者社宅ニ住居セル有婦ノ男子被保險者ト醜關係ヲ結ヒタル事實アリタルニ依リ直ニ兩人共諭旨解傭ヲ爲シタリ、然ル處去ル八月十九日分娩シ被保險者ノ資格喪失後百八十日以內ナルニ付分娩ニ關スル給付ノ請求アリタリ

健康保險ハ團體ノ保護、勞働者ノ保健ヲ主トシテ給付スヘキモノトハ存ジ居リ候モ本件ノ如ク分娩若ハ男子ニ妻帶セルヲ確認シ而モ事情ヲ知悉セル社宅居住者ト密通セシ行爲ハ公序良俗ニ反シ之レヲ道德上ヨリ見ルトキハ明カニ姦通ト謂ヒ得ヘク只我カ刑法ハ男尊女卑ノ思想著シキ時代ノモノニシテ今日男子ノ童貞、女子ノ貞操ヲ同一視スヘキトノ議論モ起リツツアル時ナリ

吉本

道德的立脚點ヨリシテ姦通ニ準シ保險給付ヲ爲ササルコトカ社會公正上ヨリ至當ニアラサルヤノ感アリ

依ツテ斯クノ如キ反社會性ヲ有スル給付ニ對シテハ法第六十條ヲ廣義ニ解シ適用スヘキモノニアラサルヤ　以上

●健康保險法施行令第八十一條ニ依ル產院ニ關スル件

保規第一八九號
昭和十二年十月二十日

社會局保險部長

長野縣知事宛

健康保險法施行令第八十一條ニ依ル產院ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ貴管下岡谷市三、八八〇番地　株式會社笠原組製絲工場ヨリ別紙寫ノ通リ伺出有之候處健康保險法ニ於テ產院トハ姙娠ヲ收容シ出產セシムルニ足ル相當ノ設備ヲ有スルモノヲ謂フ義ニシテ、產婆ノ經營スル所謂姙婦預リ所ノ如キヲ含マサルモノニ有之（參照昭和二年三月二十三日附保理第一、一五四號保險部長回答）且之カ設立又ハ經營等ニ付テノ取締規則ハ

各府縣ニ於テ異ルモノト被思料候ニ付テハ貴官ヨリ可然御示達相煩度

（別紙寫）

昭和十二年九月八日

長野縣岡谷市三、八八〇番地
株式會社笠原組製絲工場

內務省社會局
健康保險部長殿

健康保險法施行令第八十一條ニヨル產院ニ關スル件

左記事ヲニ付疑義相生シ候條御多忙中誠ニ恐縮ニ候ヘ共何分ノ御示教煩度此段及照會候也

左記

一、健康保險法施行令第八十一條中ニ產院ニ收容云々トアルモ健康保險法ニヨル產院トハ如何ナルモノヲ稱スヤ法的御說明ヲ

右產院トハ私立病院ノ如ク一定ノ法規ニヨリ設立セラレタルモノナリヤ若シ法規ニヨル場合ハ其法規ヲ

二、產院ノ經營ニハ醫師及產婆ヲ必要トスルモノナルヤ又產婆ノミニテモ差支ナキヤ

以上

第四目　保險給付制限

●自殺ノ場合ニ於ケル保險給付ニ關スル件

（昭和二年一月二十八日　發保第一四號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合宛

被保險者又ハ被保險者タリシ者自殺ヲ爲シタル場合ニ於テハ健康保險法第六十條後段ニ該當スルモノト認メラルルヲ以テ此ノ者ノ死亡ニ關スル保險給付ハ之ヲ爲スコトヲ得サル義ニ有之又自殺未遂ノ場合ニ於ケル負傷及疾病ニ關スル保險給付ニ付テモ亦同樣ノ義ト御了知相成度

●傳染病院、精神病院、結核療養所等ニ收容セラレタル者ニ對スル療養ノ給付ニ關スル件

（昭和二年二月二十二日　保發第一六五號社會局保險部長通牒）

健康保險署長健康保險組合宛

傳染病豫防法ニ依リ傳染病院、隔離病舍又ハ隔離所ニ收容セラレタル者、精神病院法ニ依リ精神病院ニ收容セラレタル者及結核豫防法ニ依リ結核療養所ニ收容セラレタル者ニ付テハ其ノ療養ニ要スル費用ハ公共團體ニ於テ之ヲ負擔スヘキヲ以テ健康保險ニ於テハ健康保險法第六十二條第二項ノ規定ニ依リ療養ノ給付ヲ爲ササル義ニ有之候ヘ共此ノ場合ニ於テ右ノ病院、病舍又ハ療養所ニ收容セラレタル者又ハ其ノ扶養義務者カ當該法令ニ依リ食費若ハ藥價ヲ徵收セラレタルトキ又ハ入院費若ハ入所費ノ一部若ハ全部ヲ徵收セラレタルトキハ此ノ徵收セラレタル分ニ付テハ健康保險ニ於テ療養費トシテ本人ニ支給スヘキモノニ有之尙癩豫防ニ關スル法律ニ依リ癩療養所ニ收容セラレタル者ニ付テハ其ノ療養ニ要スル費用ハ原則トシテ公共團體ノ負擔ニ屬セサルヲ以テ右ノ費用ハ健康保險ニ於テ是亦療養費トシテ本人ニ支給スヘキモノニ有之

（昭和二年五月十二日　保理第一六五號社會局保險部長）

香川健康保險署長宛

二給發第八一號
昭和二年四月五日

香川健康保險署長

社會局保險部長殿

病院病舍ニ收容サレタル療養費支給ニ關スル件

二月二十二日附保發第一六五號ニヨリ御通牒相成候法第六十二條第二項ニ關スル件ニ關シ醫師會ニ於テハ該通牒ニヨリ總テ傳

染病、精神病等ハ醫師會ノナスヘキ範圍外ナリト主張致居リ左記ノ通疑義相生シ候條至急何分ノ御指示相煩度候

記

一　傳染病豫防法、精神病法及結核豫防法ニ依リ行政廳ノ處分ニ依リ病院、病舍ニ收容セラレタル後ノ分ハ法第六十二條第二項ニ該當スルモノトシテ取扱フヘキモノニシテ決定前ノ分ヲ除外スヘキモノト解シ可然哉

二　法第六十二條第二項ハ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舍ニ收容セラレタル場合ニ限ラルヘキモノナルモ傳染病精神病及結核ノ一部ハ一應法第六十二條第二項ノ適用アルモノト解スヘキヤ

三　精神病法ニ依ルニ原則トシテ監護義務者カ行政廳ノ許可ヲ得テ精神病者ヲ監置スルモノニシテ公共團體カ監置ヲナスハ監護義務者無キ場合又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行スル能力ナキ場合ニ有之健康保險ノ被保險者ノ監護義務ハ保護者カ負フ故精神病者ハ法第六十二條第二項ニ該當スルヲ以テ療養ノ給付ヲ爲ササルモノナリ然レトモ未タ收容セラレサル前又ハ收容後退院、退舍又ハ退所シタル後ニ於テハ御見解ノ通右規定ニ該當セサルヲ以テ療養ノ給付ヲ爲スノ要アルモノトス故ニ此ノ場合ニ於テハ政府ノ管掌スル保險ニ在リテハ保險醫ハ政府ト日本醫師會トノ契約ニ基キテ斯カル被保險者ニ付テモ診療ヲ爲ササルヘカラサルモノト

入所セシメラレタル場合ノミ法第六十二條第二項ニ該當スルモノニ非ラサル哉

保理第一六五號
昭和二年五月十二日

社會局保險部長

香川健康保險署長殿

傳染病院、精神病院、結核療養所等ニ收容セラレタル者ニ對スル療養ノ給付ニ關スル件

昭和二年四月五日附二發第八一號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ左ノ通ニ有之

記

一　傳染病、精神病又ハ結核病ノ患者タル被保險者ニ付テハ其ノ者カ傳染病豫防法、精神病院法又ハ結核豫防法ニ依リ傳染病院、隔離病舍若ハ隔離所、精神病院又ハ結核療養所ニ收容セラルル間ハ健康保險法第六十二條ノ規定ニ該當スルヲ以テ療養ノ給付ヲ爲ササルモノナリ然レトモ未タ收容セラレサル前又ハ收容後退院、退舍又ハ退所シタル後ニ於テハ御見解ノ通右規定ニ該當セサルヲ以テ療養ノ給付ヲ爲スノ要アルモノトス故ニ此ノ場合ニ於テハ政府ノ管掌スル保險ニ在リテハ保險醫ハ政府ト日本醫師會トノ契約ニ基キテ斯カル被保險者ニ付テモ診療ヲ爲ササルヘカラサルモノト

ス

二　傳染病、精神病又ハ結核病ノ患者タル被保險者カ健康保險法第六十二條第二項ニ該當スルハ前記ノ通傳染病豫防法、精神病法又ハ結核豫防法ニ依リ傳染病院、隔離病舍若ハ隔離所、精神病院又ハ結核療養所ニ收容セラルル間ノミニ限ルモノニシテ然ラサル間ハ右規定ノ適用アルコトナシ

三　精神病患者タル被保險者カ精神病者監護法第六條又ハ第八條ノ規定ニ依リ市區町村長ヨリ監護ヲ受ケ自宅ニ於テ療養ヲ爲スモ御見解ノ通健康保險法第六十二條第二項ノ規定ニ該當セサルモノトス卽チ斯カル被保險者ニ付テハ政府ノ管掌スル保險ニ在リテハ保險醫カ政府ト日本醫師會トノ契約ニ基キテ診療ヲ爲ササルヘカラサルモノトス尙保險者ハ精神病患者タル被保險者ニ對シ療養ノ給付ヲ爲ス義務アルモ監護ヲ爲スノ義務ナシ

四　結核病患者タル被保險者ニ付テハ御見解ノ通卽チ結核豫防法第七條第一項ノ規定ニ依リ結核療養所ニ入所セシメラルル間ノミ健康保險法第六十二條第二項ノ規定ニ該當スルモ其ノ他ノ場合ハ右規定ニ該當セサルモノトス尙結核豫防法第七條第一項ノ規定ニ依リ結核療養所ニ入所セシメラレタル場合ニ於テハ入所ノ費用ハ原則トシテ公共團體ノ負擔タルモノナリ

參照

精神病者監護法拔萃

第六條　精神病者ヲ監置スルノ必要アルモ監護義務者ナキ場合又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行スルコト能ハサル事由アルトキハ精神病者ノ住所地、住所地ナキトキ又ハ不明ナルトキハ其ノ所在地市區町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ監護スヘシ

第八條　精神病者監置ノ必要アルトキ又ハ監置不適當ト認ムルトキハ行政廳ハ第一條第二項ノ順位ニ拘ラス監護義務者ヲ指定シ之カ監督ヲ命スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ行政廳ハ假リニ其ノ精神病者ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

市區町村長ニ於テ監護スル精神病舍ノ監護義務者ヲ發見シ又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行シ得ルニ至リタルトキ亦前項ニ同シ

本條ニ依リ精神病者ノ監置ヲ命セラレタル監護義務者其ノ命ヲ履行セサルトキハ第六條ノ例ニ依リ市區町村長ニ於テ之ヲ監護スヘシ

本條ニ依リ監護義務者ノ監置シタル精神病者ニ關シテハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得ス

結核豫防法抜萃

第六條　主務大臣ハ結核患者ニシテ療養ノ途ナキモノヲ收容セシムル爲人口五萬以上ノ市又ハ特ニ必要ト認ムル其ノ他ノ公共團體ニ對シテ結核療養所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第七條　地方長官ハ結核患者ニシテ療養ノ途ナキモノ及豫防上特ニ必要ト認ムルモノヲ前條ノ規定ニ依リ設置スル結核療養所ニ入所セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル入所ノ費用ノ負擔及徵收ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

結核豫防法施行令抜萃

第五條　結核豫防法第七條ノ規定ニ依ル入所ノ費用ハ結核療養所ヲ設置スル公共團體ノ負擔トス

●法第五十八條ノ規定ニ依リ傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部ヲ支給セラレサル者ノ確知方法ニ關スル件

（昭和二年二月二十二日　保發第一六八號社會局保險部長通牒）

健康保險署長宛

疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ期間ニ於ケル傷病手當金又ハ出產手當金ハ健康保險法第五十八條及健康保險法施行令第八十五條本文ニ依リ支給セサル規定ニ有之而シテ此ノ場合ニ於テモ健康保險法第七十六條第一號ニ該當スルヲ以テ右ノ期間ノ保險料ハ之ヲ徵收セサル儀ニ有之然ルニ之ニ關シテハ當該被保險者等ヨリ保險者ニ對シ屆出ツヘキ規定無之爲保險者ニ於テ保險料ヲ徵收セサル期間ヲ確知スルニ差支有之候仍テ右ニ該當シタル被保險者ニ付テハ其ノ被保險者ヲ使用スル事業主ヲシテ其ノ都度左ノ事項ヲ具シ健康保險署長ニ報告スルコトニ取計ハルル方適當ト認メラレ候尙此ノ報告方ニ付テハ健康保險法第八條ノ規定ニ依リ事業主ニ對シ豫メ示達置候成度

記

一　被保險者ノ氏名竝ニ被保險者證ノ記號及番號
二　保險事故ノ種別（疾病、負傷、分娩ノ別）
三　疾病又ハ負傷ニ在リテハ勞務ニ服スルコト能ハサリシ期間
四　繼續シテ報酬ヲ受ケ得ヘキ期間又ハ受ケタル期間及其ノ報酬ノ額

●法第五十八條ノ規定ニ依リ傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部ヲ支給セラレサル者ノ確知方法ニ關スル件

（昭和二年二月二十二日　保發第一六八號社會局保險部長通牒）

健康保險組合（但シ保險部大阪出張所分掌區域內ノ組合ヲ除ク）宛

疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ期間ニ於ケル傷病手當金又ハ出產手當金ハ健康保險法第五十八條及健康保險法施行令第八十五條本文ニ依リ支給セサル規定ニ有之而シテ此ノ場合ニ於テモ健康保險法第七十六條第一號ニ該當スルヲ以テ右ノ期間ノ保險料ハ之ヲ徵收セサル儀ニ有之然ルニ之ニ關シテハ當該被保險者等ヨリ保險者ニ對シ屆出ツヘキ規定無之爲保險者ニ於テ保險料ヲ徵收セサル期間ヲ確知スルニ差支有之候仍テ右ニ該當シタル被保險者ニ付テハ其ノ被保險者ヲ使用スル事業主ヲシテ其ノ都度左ノ事項ヲ具シ組合ニ報告セシメラルルコトニ取計ハルル方適當ト認メラレ候尙此ノ報告方ニ付テハ健康保險法第八條ノ規定ニ依リ組合ニ於テ事業主ニ對シ豫メ示達シ置カルル方適當ト認メラレ候

記

一　被保險者ノ氏名竝被保險者證ノ記號及番號
二　保險事故ノ種別（疾病、負傷、分娩ノ別）
三　疾病又ハ負傷ニ在リテハ勞務ニ服スルコト能ハサリシ期間
四　繼續シテ報酬ヲ受ケ得ヘキ期間又ハ受ケタル期間及其ノ報酬ノ額

●傳染病院等ニ於ケル看護ノ費用ニ關スル件

（昭和二年二月二十四日　衞防第四二五號內務省衞生局長回答）

社會保險部長宛

保發第一七一號
昭和二年二月二十一日

內務省衞生局長殿

社會局保險部長

傳染病院等ニ於ケル看護ノ費用ニ關スル件

傳染病患者カ市町村立ノ傳染病院、隔離病舍等ニ收容セラレタル場合ニ於テハ之カ看護ニ要スル費用ハ當然市町村ノ負擔ニ屬スルモノト認メラレ候モ爲念一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

衞防第四二五號
昭和二年二月二十四日

內務省衞生局長

社會局保險部長殿

傳染病院等ニ於ケル看護ノ費用ニ關スル件回答

標記ノ件ニ付二月二十一日付保發第一七一號ヲ以テ御照會相成候處右ハ御見解ノ通ニ付御了知相成度

●法第六十二條第一號該當日數ニ關スル件

（昭和二年四月九日
保理第一三三四號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合（但シ小野田セメント本社健康保險組合ニ對シテハ保險部大阪出張所長ヨリ回答）宛

被保險者カ陸海軍ニ徵集セラレ又ハ召集セラレタルトキハ其ノ期間健康保險法第六十二條第一項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ爲サス又同法第七十六條ノ規定ニ依リ保險料ヲ徵收セサル規定ニ有之候處右ノ期間トハ徵集又ハ召集ニ應シ陸海軍ノ軍隊ニ在ル期間ノミヲ謂フ義ニシテ出發又ハ歸著ノ際ノ旅行日數ハ之ヲ含マサル義ニ有之

●鬪爭又ハ泥醉ニ因リテ生セシメタル保險事故ニ關スル件

（昭和二年四月二十七日
保理第一九五六號社會局保險部長通牒）

昭和二年四月二十七日

社會局保險部長

服部櫻田健康保險組合　御中

鬪爭又ハ泥醉ニ因リテ生セシメタル保險事故ニ關スル件

昭和二年四月十九日附發第七五號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件右ハ健康保險法第六十一條ニ規定スル鬪爭又ハ泥醉ニ因リ事故ヲ生セシメタル云々トアル事故ハ鬪爭又ハ泥醉ニ因リ其ノ際生セシメタル事故ヲ謂フ義ニ有之故ニ例示ノ場合ハ右ニ該當セサルモノト認メラレ候

●法第六十二條第一項第二號該當ニ關スル件

（昭和二年八月二十九日
保理第二七〇八號社會局保險部長回答）

神奈川健康保險署長宛

二發發第三、九六六號
昭和二年六月二十七日

神奈川健康保險署長　佐藤新

社會局保險部長　湯澤三千男殿

法第六十二條第一項第二號該當ノ件

左記設例ノ場合ニ於ケル健康保險法第六十二條第一項第二號該當ノ期間ニ付取扱上疑義相生候ニ付何分ノ御指示相受度及照會候也

記

一　上海ヘノ旅行者ニシテ橫濱ヨリ乘船途中神戶、下關ニ寄港シタル場合ニ於テ該當ノ始期如何

二　東京府小笠原島ヘノ旅行者ニシテ橫濱ヨリ出帆シタル場合ニ於テ公海航行中ハ本號ニ該當スルモノト認ムヘキヤ若シ認ムルトセハ其ノ該當ノ始期如何

保理第二、七〇八號ノ內
昭和二年八月二日

社會局保險部長

神奈川健康保險署長殿

法第六十二條第一項第二號該當ニ關スル件

昭和二年六月二十七日附二徵發第三、九六六號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件左ノ通ニ有之

記

一　日本（但シ殖民地ヲ除ク）ノ領海（陸地ヨリ三海里迄ノ水面）ヲ出テタル時以後該當スルモノトス但シ金錢給付ノ停止期間竝ニ保險料免除期間ニ付テハ領海外ヲ出テタル日ノ翌日ニ該當スルモノトス

二　前項ニ依リ承知セラレ度シ

健康保險署長及健康保險組合（但シ服部櫻田健康保險組合ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候

（別紙）

（甲號）

發第七五號
昭和二年四月十九日

服部櫻田健康保險組合理事長　小島力

社會局保險部長　湯澤三千男殿

傷病手當金支給ニ關スル件

法第六十一條ノ「被保險者鬪爭若ハ泥醉ニ因リ」トアルハ主トシテ鬪爭又ハ泥醉ノ當時ニ生シタル事故ヲ指ス意義ナルヤ實ハ當組合被保險者ニシテ數日前鬪爭シタルコトアルモ幸其ノ當時ニ於テハ何等ノ事故ヲ生セスシテ事終レリ然ルニ一方カ此ノ恚忿ヲ晴サン目的ヲ以テ數日ヲ經過シタル後ニ於テ不意ニ危害ヲ加ヘラレタルモノアリ斯ノ如キ鬪爭ニ基因シタルモノヲ鬪爭ト看做シ同法ヲ適用スヘキモノナリヤ疑義ノ點相生候條何分ノ御指示仰度實例ヲ具シ此段及伺候也

（乙號）

保理第一、九五六號

（昭和二年八月二十九日
保理第二七〇八號社會局保險部長回答）

二徵發第三、九六六號ノ內

昭和二年八月九日

神奈川健康保險署長　佐藤新

社會局保險部長　湯澤三千男殿

法第六十二條第一項第二號該當ニ關スル件

昭和二年六月二十七日附二徵發第三、九六六號ヲ以テ及照會置候首題ノ件ニ關シ本年八月二日附保理第二七〇八號ノ內ヲ以テ金錢給付ノ停止期間竝ニ保險料免除期間ノ起算ニツキ適用セラルルモノト承知致シ差支ヘ無之候哉

猶右ハ民法第百四十條適用ノ結果ニ候哉併セテ承知致度重ネテ及照會候也

保理第二、七〇八號

昭和二年八月二十九日

社會局保險部長

神奈川健康保險署長殿

法第六十二條第一項第二號該當ニ關スル件

昭和二年八月九日附二徵發第三、九六六號ノ內ヲ以テ伺出相成候標記ノ件ハ御見解ノ通ニ有之尙本件ハ日本（但シ殖民地ヲ除ク）ノ領海ヲ出ツル直前迄ハ該當セサルモノナルヲ以テ（卽チ同一ノ日ニ於テ該當スル時間ト該當セサル時間トアルモノナリ）金錢給付ノ停止及保險料ノ免除ハ當日之ヲ爲ササルヲ至當ト認ムル義ニシテ民法第百四十條ノ規定ヲ適用シタル解釋ニハ無之尙領海ヲ出テタル時カ當日ノ午前零時ナルトキハ金錢給付ノ停止及保險料ノ免除ハ當日ヨリ之ヲ爲スヘキモノニ有之又本件ニ所謂金錢給付トハ日ヲ以テ計算スヘキ金錢給付卽チ傷病手當金及出產手當金ヲ指スモノニシテ療養費、埋葬料、埋葬費及分娩費ハ之ヲ含マサル義ニ有之

追テ本件ハ日本（但シ殖民地ヲ除ク）ノ領海ニ入リタル時以後該當セサルモノナルヲ以テ此ノ場合ニ於ケル金錢給付卽チ傷病手當金又ハ出產手當金ノ支給停止ノ除外及保險料ノ負擔ハ當日ヨリ起算スヘキモノニ有之尙右ハ健康保險法第六十二條第一項第一號、第三號及第四號ノ場合ニ於テモ同樣ニ解スヘキモノニ有之（但シ領海ニ入リタル時カ當日ノ午後十二時ナルトキハ翌日ヨリ起算スヘキモノトス）

台本

●保險給付ニ關スル件

（昭和二年十一月十二日
保理第三六九二號ノ內社會局保險部長回答）

東京モスリン紡績株式會社勞務課宛

昭和二年十月二十日

東京モスリン紡織株式會社勞務課

社會局保險部　御中

保險給付ニ關スル件

拜啓御繁忙中甚タ恐縮ニ有之候ヘトモ左記ノ件ニ關シ何分ノ御回答ニ與リ度及御依賴候

一　健康保險法第六十條ニ「被保險者又ハ被保險者タリシ者自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生セシメタルトキハ保險給付ヲ爲サス」ト有之候處過般貴部通達ニヨルトキハ自殺者ニ對シテハ保險給付ヲ爲ササル旨承知仕リ候處該趣旨ハ右條文中「故意ニ事故ヲ生セシメタル云々」ノ法理的解釋ニ基クモノニ有之候哉故意ヲ結果ヲ認識スルテフ意ニ考フルトキハ精神病其ノ他ノ爲必スシモ其ノ動機原因ニ於テハ故意ナラスシテ自殺ノ結果ヲ生スル場合モ有之樣察セラレ候

（以下省略）

保理第三、六九二號ノ內

昭和二年十一月十二日

社會局保險部長

東京モスリン紡織株式會社勞務課　御中

保險給付ニ關スル件

昭和二年十月二十日

東京モスリン紡績株式會社勞務課宛

ヤノ判斷標準ハ是ヲ單ニ寄附ナル外觀的名目ニ置クヘキヤ、將タ寄附ノ內容ノ妥當性ニ求ムヘキカ取扱上疑義相生至急何分ノ裁決ヲ必要トスル關係有之候條折返シ何分ノ御指示相仰度最近發生セル具體例ニ關スル書類寫別紙ノ通リ添附ノ上此段及禀伺候也

（書類寫別紙記載省略）

保理第四、一一二號
昭和三年一月十八日

社會局保險部長

長野健康保險署長殿

傳染病患者ニ對スル療養費支給ニ關スル件

昭和二年十二月二十日附二給發第五九、六七五號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ本人ノ寄附ニ依ルモノナルヲ以テ形式上ハ傳染病豫防法ニ基キ當該市町村ノ負擔ニ於テ隔離病舍ニ收容セラレタルモノト謂フヘク從テ療養費ヲ支給スヘカラサルモノトス尙本件ノ如キ場合ハ傳染病豫防法第二十一條第一項第三號、第四號及第七號ノ規定ニ依リ當然市町村ニ於テ負擔スヘキモノニシテ本人ヲシテ寄附セシムルカ如キハ甚タ不穩當ト認メラルルニ依リ可成寄附ヲ受ケシメサル樣致度而シテ當該市町村カ傳染病豫防法施行規則第三十條ノ規定ニ基キ食費、藥價ヲ徵收シタルトキハ其ノ範圍ニ於テ療養費ヲ支給スヘキモノト被認

參照

傳染病豫防法抜萃

第二十一條　左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス

一　豫防委員ニ關スル諸費

二　市町村ニ於テ施行スル淸潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費

三　豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員竝豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費

四　傳染病院、隔離病舍、隔離所及消毒所ニ關スル諸費

五　豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、弔祭料

六　第八條ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費及交通遮斷隔離ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費

七　市町村內ニ於テ發見セル傳染病貧民患者竝死者ニ關スル諸費

八　市町村ニ於テ施行スル鼠族、昆蟲等ノ驅除及其ノ施設ニ關スル諸費

九　第十七條ノ二ニ依レル家用水ノ供給ニ關スル諸費

十　第十九條ノ二ニ依リ交付スヘキ手當金

其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

台本

●法第六十條ノ適用範圍ニ關スル件

（昭和三年二月八日保理第二七四號社會局保險部長回答）

茨城健康保險署長宛

三茨健保給發第一二號
昭和三年二月一日

茨城健康保險署長　川島順一郎

社會局保險部長　湯澤三千男殿

法第六十條ノ適用範圍ニ關スル件

首題ノ件ニ付左記ノ疑義聊カ相生シ候條何分ノ御指示相煩度此段及伺候也

記

健康保險法第六十條中ノ犯罪行爲トハ府縣令取締規則等ニ違犯シタル場合迄ヲモ包含シテ可ナリヤ

實ハ當署管內被保險者ニシテ鑛業警察規則違犯行爲ニ依リ管轄區裁判所ヨリ略式命令ノ罰金ニ處セラレタル者有之右ハ如何樣取扱相成可然哉

保理第二七四號
昭和三年二月八日

社會局保險部長

茨城健康保險署長殿

法第六十條ノ適用範圍ニ關スル件

昭和三年二月一日附三茨健保給發第一二號ヲ以テ伺出相成候標記ノ件御見解ノ通ニ有之

台本

●被保險者傳染病院ニ收容セラレタル場合ノ費用負擔ニ關スル件

（昭和三年四月二十日保理第五八六號社會局保險部長回答）

福岡健康保險署長宛

三給甲第一、六〇七號
昭和三年三月九日

福岡健康保險署長　長山秀介

社會局保險部長　湯澤三千男殿

被保險者傳染病院ニ收容セラレタル場合ノ費用負擔ニ關スル件

被保險者傳染病ニ罹リ市町村立ノ傳染病院ニ收容セラレタル場合ニシテ其ノ費用ノ一部若ハ全部ヲ徵收セラレタルトキハ健康保險法ニ依リ療養費トシテ支給シ差支無之モノト認メラレ候モ左記場合聊カ疑義有之至急御指示相成度

記

一　市町村立ノ傳染病院ニ於テ附添看護人アル場合ハ患者ノ食

事ハ供給セス醫師ノ指揮ニ依リ附添看護人ヲシテ自炊セシムル規程アリ斯カル場合ニ於テハ其ノ食費ヲ療養費トシテ支給差支ナキヤ支給スルモノトセハ其ノ額（自炊ニ付證憑書ナシ）ハ其ノ市町村等ニ於テ食費徵收ノ場合ニ於ケル額ヲ標準トシテ支給決定スルモ差支ナキヤ

二　傳染病院收容中ノ患者ニシテ其ノ症狀ニ依リ氷ヲ要シ又ハ醫師ニ於テ滋養物ノ攝取ヲ必要トシ患者ニ命シ患者ハ直接之ヲ購入シ其ノ費用ヲ負擔セシメタル場合其ノ費用ハ患者ノ負擔トスヘキヤ又ハ療養費トシテ支給スルモノナリヤ

保理第五八六號
昭和三年四月二十日

社會局保險部長

福岡健康保險署長殿

被保險者傳染病院ニ收容セラレタル場合ノ費用負擔ニ關スル件

昭和三年三月九日附三給甲第一、六〇七號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ市町村ノ規程ニ依リ患者ノ負擔ト爲ツタルモノナリトセハ療養費トシテ支給相成可然

●法第五十八條ノ適用ニ關スル件

（昭和三年五月三十一日保發第三八九號社會局保險部長通牒）

健康保險署長及健康保險組合宛

健康保險法第五十八條ニ所謂報酬トハ同法第二條ニ所謂報酬ト同義ナルコト勿論ニ有之故ニ被保險者カ疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テハ其ノ食費ヲ療養費トシテ支給スルモノトセハ其ノ額（自炊ニ付證憑書ナシ）ハ一日ニ付何程ノ如キ計算ノ下ニ金錢ヲ與フルモ該金錢ハ勞務ノ對價タラサルモノ（例ヘハ病氣見舞金ノ如シ）トセハ健康保險法第五十八條ノ規定ヲ適用スヘカラサルモノニ有之殊ニ事業主ニ於テ其ノ所定スル扶助規則中ニ賃金ノ百分ノ六十ヲ超ユル休業扶助料ヲ支給スヘキ旨ヲ規定セル向ニ在リテハ被保險者カ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル爲傷病手當金ヲ受クヘキ場合ニ於テ右ノ休業扶助料カ傷病手當金トノ差額ヲ受クルモ元來休業扶助料ハ健康保險ニ所謂報酬ニ非サルヲ以テ斯クノ如キモノニ付テハ健康保險法第五十八條ヲ適用スヘカラサルモノナルコト是亦勿論ニ有之爲念

追テ本件ノ傷病手當金ト休業扶助料トノ關係ニ付テハ別紙寫ノ通リ社會局勞働部長ヨリ地方長官及鑛山監督局長ニ對シ通牒相成居候尙法第五十八條適用ノ餘地アリト認メラルルモノニ付テモ其ノ適用ノ正當ナルコトカ簡明ナルモノノ外ハ徒ニ紛爭ヲ起スノ處アルヲ以テ寧ロ其ノ適用ヲ避クルヲ穩當ト認メラレ候條右趣旨ニ依リ御取扱相成樣留意相成度

（別紙）

發勞第一〇一號
大正十五年九月十五日

社會局勞働部長

地方長官（東京府警視總監）殿
鑛山監督局長殿

扶助ト健康保險トノ調和ニ關スル件

工場法又ハ鑛夫勞役扶助規則ニ基ク扶助規則中ニ賃金ノ百分ノ六十ヲ超ユル休業扶助料又ハ賃金二十日分若クハ二十圓ヲ超ユル葬祭料ヲ支給スヘキ旨ヲ規定セルモノ多數有之勞働者保護上適切ナル施設ト存候然ルニ右扶助義務ハ工場法施行令第十三條ノ二又ハ鑛夫勞役扶助規則第二十六條ノ二ノ規定ニ依リ勞働者健康保險法ニ依リ傷病手當金ヲ受クヘキトキハ其ノ期間中休業扶助料ノ支給義務ヲ免セラレ埋葬料ヲ受クヘキトキハ葬祭料ノ支給義務ヲ免セラルルコトト相成健康保險ノ給付ヲ受クルカ爲勞働者ハ却ツテ其ノ受クヘキ利益ヲ失ヒ且ツ健康保險法ノ被保險者タル者ト然カラサル者トノ間ニ不均衡ヲ生スル虞有之候ニ就テハ扶助規則ニ上記ノ如キ規定ヲ有スル事業主ニ對シテハ扶助規則中ニ左記主旨ノ一條ヲ挿入シ產業ノ犧牲者ニ對スル保護ノ精神ヲ貫徹スル樣貴官ニ於テ御勸奬相成度

扶助規則第　條　本則ニ依リ休業扶助料ヲ受クヘキ職工（鑛夫）健康保險法（第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク）ニ依ル傷病手當金ヲ受クヘキ場合ニ於テ本則ノ休業扶助料カ傷病手當金ヨリ多キトキハ其ノ期間中本則ノ休業扶助料ト傷病手當金トノ差額ヲ支給ス埋葬料ヲ受クヘキトキ葬祭料ノ支給ニ付亦同シ

（以下地方長官ニノミ）

尙工場法施行令第五條又ハ第六條ニ依リ扶助ヲ受クル職工歸鄉スルトキハ同第二十七條ニ依リ歸鄉旅費ヲ受クルモ健康保險法ノ被保險者トシテ同法ニ依リ療養ヲ受クル場合ニ於テハ健康保險法施行令第七十四條ニ依リ移送料トシテ歸鄉旅費ヲ受クル場合アルモ歸鄉旅費ヲ受ケサル場合モ勘カラサルヤニ被存候ニ付テハ健康保險法ニ依リ給付ヲ受クル傷病者歸鄉スル場合ニ於テ其ノ傷病カ少クトモ業務上ニ基因スルトキハ歸鄉旅費ヲ支給スル樣扶助規則又ハ就業規則中ニ記入セシムル等貴官ニ於テ適宜御勸奬相成度

參照

工場法施行令抜萃

第五條　職工負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ工業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第六條　職工療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ工業主ハ職工ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十以上ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ但シ同一ノ疾病又ハ負傷及